

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八） 該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>ト 放射性廃棄物の廃棄施設の構造及び設備</p> <p><u>ト-①放射性廃棄物の廃棄施設は、気体、液体及び固体の各廃棄設備（処理系）からなる。</u></p> <p>(1) 気体廃棄物の廃棄施設 (i) 構造</p> <p><u>ト(1)(i)-①気体廃棄物の主なものは、蒸気式空気抽出器排ガスである。気体廃棄物処理系は、蒸気式空気抽出器排ガス中の水素と酸素とを結合させる再結合器、排ガス復水器、活性炭式希ガス・ホールドアップ装置等からなる。排気は、放射性物質濃度をモニタしつつ主排気筒から放出する。</u></p> <p>なお、タービン・グランド・シールには、復水貯蔵槽水を加熱蒸発した蒸気を使用する。</p>	<p>7. 放射性廃棄物の廃棄施設 7.1 概要 <中略></p> <p>気体廃棄物の主なものは、蒸気式空気抽出器で抽出した復水器の残留ガス（空気抽出器排ガス）であり、活性炭式希ガス・ホールドアップ装置（以下7. では「ホールドアップ装置」という。）により放射能を十分減衰させた後、放射性物質濃度を監視しながら主排気筒から放出する。</p> <p><中略></p> <p>5. 原子炉冷却系統施設 5.12 蒸気タービン及び附属設備 5.12.4 主要設備 5.12.4.1 蒸気タービン (6) タービン・グランド蒸気系 タービン・グランドのシールには、復水貯蔵槽の水をタービン抽気あるいは主蒸気によりグランド蒸気発生器で蒸発させた蒸気を使用する。</p> <p><中略></p>	<p>【放射性廃棄物の廃棄施設】 (基本設計方針) 第2章 個別項目 1. 廃棄物貯蔵設備，廃棄物処理設備等 1.2 廃棄物処理設備 <中略></p> <p><u>ト(1)(i)-①気体廃棄物処理設備は、主として排ガス予熱器、蒸気式空気抽出器排ガス中の水素と酸素とを結合させる再結合器、排ガス復水器、除湿冷却器、活性炭式希ガスホールドアップ塔等で構成し、排ガスは、放射性物質の濃度を監視しながら主排気筒から放出する設計とする。</u></p> <p><中略></p> <p>気体状の放射性廃棄物は、フィルタを通し放射性物質の濃度を監視可能な主排気筒から放出する設計とする。</p> <p>また、フィルタは、放射性物質による汚染の除去又は交換に必要な空間を有するとともに、必要に応じて梯子等を設置し、取替が容易な設計とする。</p> <p><中略></p>	<p>設置変更許可申請書（本文（五号））第五号ト項において、設計及び工事の計画の内容は、以下のとおり整合している。</p> <p>設置変更許可申請書（本文（五号））<u>ト-①</u>に整合していることは、本資料にて個別に示す。</p> <p>設計及び工事の計画の<u>ト(1)(i)-①</u>は、設置変更許可申請書（本文（五号））の<u>ト(1)(i)-①</u>と同義であり、整合している。</p> <p>設置変更許可申請書（本文（五号））において許可を受けた「タービン・グランド・シール」は、設置許可のみの要求事項であ</p>	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八） 該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考																														
<p>(ii) 廃棄物の処理能力</p> <p><u>ト(1)(ii)-①活性炭式希ガス・ホールドアップ装置により、排ガス流量約 40Nm³/h において、キセノンを 30 日間以上、クリプトンを 40 時間以上保持できる。</u></p> <p>(iii) 排気口の位置</p> <p>主排気筒位置 <u>原子炉建屋屋上</u> 排気口地上高さ <u>約 73m ト(3)(iii)-①</u> (標高約 85m)...</p>	<p>7. 放射性廃棄物の廃棄施設</p> <p>7.2 気体廃棄物処理系</p> <p>7.2.4 主要設備</p> <p><中略></p> <p>なお、触媒による酸素、水素の再結合の効率を高めるため再結合器の前に排ガス予熱器を設け、排ガスを加熱する。排ガス復水器を出た排ガスは、活性炭の吸着性能を高くするために更に除湿し、<u>ホールドアップ装置でキセノンを 30 日間以上、クリプトンを 40 時間以上保持して放射能を減衰させ、フィルタを通して主排気筒から放出する。</u></p> <p><中略></p> <p>2. プラント配置</p> <p>2.5 建物及び構築物</p> <p>2.5.7 主排気筒</p> <p><u>原子炉建屋の屋上に設置する主排気筒は、地上高約 73m の銅製とする。</u></p> <p>また、主排気筒の位置は、6 号炉用は、6 号原子炉炉心中心からほぼ南約 23m であり、7 号炉用は、7 号原子炉炉心中心からほぼ南約 23m である。</p>	<p>1.2 廃棄物処理設備</p> <p><中略></p> <p>なお、<u>ト(1)(ii)-①活性炭式希ガスホールドアップ塔は、排ガス流量約 40Nm³/h において、キセノンを 30 日間以上、クリプトンを 40 時間以上保持する設計とする。</u></p> <p><中略></p> <p>【放射性廃棄物の廃棄施設】 (要目表)</p> <p>2 気体、液体又は固体廃棄物処理設備に係る次の事項</p> <p>2.4 排気筒 (16) 排気筒の名称、種類、主要寸法、材料及び個数 (内筒及び外筒の別に記載すること。)</p> <p>a. 主排気筒</p> <table border="1" data-bbox="1611 1161 2689 1818"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th>変更前</th> <th>変更後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2">名称</td> <td colspan="2">主排気筒*1</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">種類</td> <td>種</td> <td colspan="2">四角鉄塔支持形鋼管構造 (制震装置付 [減衰係数: 1.05×10⁵N・s/m]) (<u>原子炉建屋屋上設置</u>) 外筒: 換気空調系用 内筒: 非常用ガス処理系用</td> </tr> <tr> <td>類</td> <td colspan="2">—</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">主要寸法</td> <td>内径 m</td> <td colspan="2">外筒: 2.8 (出口内径: 2.5) 内筒: 0.3</td> </tr> <tr> <td>地表上の高さ m</td> <td colspan="2">外筒: <u>73</u> 内筒: <u>73</u></td> </tr> <tr> <td>材料</td> <td>材</td> <td colspan="2">外筒: SMA400AP*3 内筒: STS410*4</td> </tr> <tr> <td>個数</td> <td>数</td> <td colspan="2">外筒: 1 内筒: 1</td> </tr> </tbody> </table>			変更前	変更後	名称		主排気筒*1		種類	種	四角鉄塔支持形鋼管構造 (制震装置付 [減衰係数: 1.05×10 ⁵ N・s/m]) (<u>原子炉建屋屋上設置</u>) 外筒: 換気空調系用 内筒: 非常用ガス処理系用		類	—		主要寸法	内径 m	外筒: 2.8 (出口内径: 2.5) 内筒: 0.3		地表上の高さ m	外筒: <u>73</u> 内筒: <u>73</u>		材料	材	外筒: SMA400AP*3 内筒: STS410*4		個数	数	外筒: 1 内筒: 1		<p>り、本設工認の対象外である。</p> <p>設計及び工事の計画の <u>ト(1)(ii)-①</u> は、設置変更許可申請書（本文（五号））の <u>ト(1)(ii)-①</u> と同義であり、整合している。</p>	
		変更前	変更後																															
名称		主排気筒*1																																
種類	種	四角鉄塔支持形鋼管構造 (制震装置付 [減衰係数: 1.05×10 ⁵ N・s/m]) (<u>原子炉建屋屋上設置</u>) 外筒: 換気空調系用 内筒: 非常用ガス処理系用																																
	類	—																																
主要寸法	内径 m	外筒: 2.8 (出口内径: 2.5) 内筒: 0.3																																
	地表上の高さ m	外筒: <u>73</u> 内筒: <u>73</u>																																
材料	材	外筒: SMA400AP*3 内筒: STS410*4																																
個数	数	外筒: 1 内筒: 1																																

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八） 該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>(2) 液体廃棄物の廃棄設備 (i) 構造</p> <p><u>ト(2)(i)-①液体廃棄物処理系は、低電導度廃液系、高電導度廃液系、洗濯廃液系、シャワ・ドレン系等で構成する。</u></p>	<p>7. 放射性廃棄物の廃棄施設 7.3 液体廃棄物処理系 7.3.1 概要</p> <p>液体廃棄物処理系は、発電用原子炉施設で発生する放射性廃液及び潜在的に放射能汚染の可能性のある廃液を、その性状により分離収集し、処理、回収する。</p> <p>液体廃棄物処理系により処理した後の処理済液は、原則として再使用するが、試料採取分析を行い、放射性物質濃度の低いことを確認して放出する場合もある。</p> <p>液体廃棄物処理系は、第7.3-1図に示すように次の4系統で構成する。</p> <p><u>低電導度廃液系</u> <u>高電導度廃液系</u> <u>洗濯廃液系</u> <u>シャワ・ドレン系</u></p> <p><中略></p> <p>5. 原子炉冷却系統施設 5.11 原子炉冷却材浄化系 5.11.2 設計方針 (2) 冷却材の系外排出</p> <p>発電用原子炉の起動時、停止時及び高温待機時に冷却材を浄化して液体廃棄物処理系又はサブプレッション・チェンバへ排出が可能にようにする。</p>	<p>【放射性廃棄物の廃棄施設】 (基本設計方針) 第2章 個別項目 1. 廃棄物貯蔵設備，廃棄物処理設備等 1.2 廃棄物処理設備 <中略></p> <p><u>ト(2)(i)-①液体廃棄物処理設備は、廃液の性状により、低電導度廃液系、高電導度廃液系、洗濯廃液系、シャワードレン系等で処理する設計とする。</u></p> <p>放射性物質を含む原子炉冷却材を通常運転時において原子炉冷却系統外に排出する場合は、床ドレン及び機器ドレン系のサンプルを介して、液体廃棄物処理系へ導く設計とする。</p> <p><中略></p> <p>【原子炉冷却系統施設（蒸気タービンを除く。）】 (基本設計方針) 第1章 共通項目 5. 設備に対する要求 5.1 安全設備，設計基準対象施設及び重大事故等対処設備 5.1.1 通常運転時の一般要求 (2) 通常運転時に漏えいを許容する場合の措置</p> <p>設計基準対象施設は、通常運転時において、放射性物質を含む液体を内包する容器、配管、ポンプ、弁その他の設備から放射性物質を含む液体があふれ出た</p>	<p>設計及び工事の計画の<u>ト(2)(i)-①</u>は、設置変更許可申請書（本文（五号））の<u>ト(2)(i)-①</u>と同義であり、整合している。</p>	<p>整合性</p> <p>・設置変更許可申請書（本文（五号））の<u>ト(3)(iii)-①</u>は、設計及び工事の計画の「放射性廃棄物の廃棄施設のうち気体、液体又は固体廃棄物処理設備（排気筒）の構造図 主排気筒（その1）【平成20年8月25日付け総官発20第179号にて届出した工事計画書の添付図面第1-1図「排気筒構造図（その1）」による。】」の記載と同義であり、整合している。</p>

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八） 該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>ト(2)(i)-②主な系統は、以下のとおりである。</p> <p>a. 低電導度廃液系（6号及び7号炉共用）の主要な設備は、収集槽、ろ過装置、脱塩装置、サンプル槽である。本系統の処理済液は、復水貯蔵槽に回収して再使用する。</p> <p>b. 高電導度廃液系（5号、6号及び7号炉共用、一部既設）の主要な設備は、収集タンク、濃縮装置、脱塩装置、サンプル槽である。本系統の処理済液は、原則として再使用するが、一部については放射性物質濃度が低いことを確認して、復水器冷却水放水路に放出する。</p> <p>c. 洗濯廃液系（1号、2号、3号、4号、5号、6号及び7号炉共用、既設）の主要な設備は、ろ過装置、収集タンクである。本系統は、敷地南側及び北側にそれぞれ設置する。本系統の処理済液は、放射性物質濃度が低いことを確認して復水器冷却水放水路に放出する。</p> <p>d. シャワ・ドレン系（6号及び7号炉共用）の主要な設備は、ろ過装置、収集槽である。本系統の処理済液は、放射性物質濃度が低いことを確認して、復水器冷却水放水路に放出する。</p>	<p>7. 放射性廃棄物の廃棄施設</p> <p>7.3 液体廃棄物処理系</p> <p>7.3.4 主要設備</p> <p>(1) 低電導度廃液系 低電導度廃液は、原子炉建屋、ドライウエル、タービン建屋及び廃棄物処理建屋の各機器ドレン・サンプルにそれぞれ集めた後、あるいは、直接低電導度廃液収集槽に収集し、低電導度廃液系で処理する。</p> <p>本系統は、ろ過装置、脱塩装置、サンプル槽等で構成し、ろ過、脱塩した処理済液は復水貯蔵槽に回収する。</p> <p>本系統は、6号及び7号炉共用とする。</p> <p>(2) 高電導度廃液系 電導度が高く脱塩処理に適さない原子炉建屋、ドライウエル、タービン建屋及び廃棄物処理建屋の床ドレン・サンプルに集めた床ドレン、脱塩装置の樹脂再生などで発生する化学廃液、機器の除染廃液等の高電導度廃液は、高電導度廃液収集タンクに収集し、高電導度廃液系で処理する。</p> <p>本系統は、濃縮装置、蒸留水タンク、脱塩装置、サンプル槽等で構成する。本系統により、濃縮、脱塩した処理済液はサンプル槽に回収し、再使用するか又は放射性物質濃度が十分低いことを確認して放出する。</p> <p>高電導度廃液収集タンクは、廃液の中和用にも使用する。</p> <p>本系統は、5号、6号及び7号炉共用（一部既設）とする。</p> <p>(3) 洗濯廃液系 本系統は、敷地南側に設置する補助建屋に1系統、敷地北側に設置するランドリ建屋及び5号炉サービス建屋に1系統設け、それぞれ1号、2号、3号、4号、5号、</p>	<p>場合においては、系統外に漏えいさせることなく、各建屋等に設けられた機器ドレン又は床ドレン等のサンプル又はタンクに収集し、液体廃棄物処理設備に送水する設計とする。</p> <p>【放射性廃棄物の廃棄施設】 （基本設計方針）</p> <p>第2章 個別項目</p> <p>1. 廃棄物貯蔵設備、廃棄物処理設備等</p> <p>1.2 廃棄物処理設備</p> <p><中略></p> <p>ト(2)(i)-②液体廃棄物処理設備は、廃液の性状により、低電導度廃液系、高電導度廃液系、洗濯廃液系、シャワードレン系等で処理する設計とする。</p> <p>放射性物質を含む原子炉冷却材を通常運転時において原子炉冷却系統外に排出する場合は、床ドレン及び機器ドレン系のサンプルを介して、液体廃棄物処理系へ導く設計とする。</p> <p><中略></p>	<p>設計及び工事の計画のト(2)(i)-②は、設置変更許可申請書（本文（五号））のト(2)(i)-②と同義であり、整合している。</p>	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八） 該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>(ii) 廃棄物の処理能力</p> <p>ト(2)(ii)-①液体廃棄物処理系の各タンク類の容量及び脱塩装置、濃縮装置等の処理容量は、発電用原子炉の起動、停止の態様を考慮して発生廃液量が最大と予想される場合に対して十分対処できる大きさとする。濃縮装置、脱塩装置の除染能力は、廃液の発電所内再使用あるいは所外放出を可能とするのに十分な性能を有するものとする。</p> <p>(iii) 排水口の位置</p> <p>排水口は、北防波堤外側にある復水器冷却水放水口(5号、6号及び7号炉共用、既設)である。</p>	<p>6号及び7号炉共用とする。</p> <p>a. 敷地南側に設置する洗濯廃液系</p> <p>保護衣類のうち下着等を除染する際に発生する洗濯廃液は、収集タンクに収集し、試料採取分析を行い、放射性物質濃度が十分低いことを確認して放出する。</p> <p>本系統は、収集タンク、ろ過装置等で構成する。</p> <p>なお、上着類の洗濯は原則としてドライ・クリーニングとする。</p> <p>b. 敷地北側に設置する洗濯廃液系</p> <p>保護衣類等を除染する際に発生する洗濯廃液は、ろ過処理後、収集タンクに収集し、試料採取分析を行い、放射性物質濃度が十分低いことを確認して放出する。</p> <p>本系統は、ろ過装置、収集タンク等で構成する。</p> <p>(4) シャワ・ドレン系</p> <p>サービス建屋で発生するシャワ・ドレンは、ろ過処理後シャワ・ドレン収集槽に収集し、試料採取分析を行い、放射性物質濃度が十分低いことを確認して放出する。</p> <p>本系統は、ろ過装置、シャワ・ドレン収集槽等で構成し、6号及び7号炉共用とする。</p> <p>7.3.1 概要</p> <p>液体廃棄物処理系は、発電用原子炉施設で発生する放射性廃液及び潜在的に放射能汚染の可能性のある廃液を、その性状により分離収集し、処理、回収する。</p> <p>液体廃棄物処理系により処理した後の処理済液は、原則として再使用するが、試料採取分析を行い、放射性物質濃度の低いことを確認して放出する場合もある。</p> <p><中略></p> <p>7.3.2 設計方針</p> <p>(2)液体廃棄物処理系の系統処理容量及び系統の系列構成は、発生廃液量が最大と予想される場合に対して十分対処できるようにする。</p> <p>なお、液体廃棄物処理系の機器は、廃液の性状を考慮し、適切な材料を使用する。</p>	<p>1.2 廃棄物処理設備</p> <p>ト(2)(ii)-①放射性廃棄物を処理する設備は、周辺監視区域の外の空气中及び周辺監視区域の境界における水中の放射性物質の濃度が、それぞれ、「核原料物質又は核燃料物質の製錬の事業に関する規則等の規定に基づく線量限度等を定める告示」に定められた濃度限度以下となるように、発電用原子炉施設において発生する放射性廃棄物を処理する能力を有する設計とする。</p> <p><中略></p>	<p>設計及び工事の計画のト(2)(ii)-①は、設置変更許可申請書（本文（五号））のト(2)(ii)-①を全て含んでおり、整合している。</p> <p>設置変更許可申請書（本文（五号））において許可を受けた「排水口」は、新規規制基準対応設備</p>	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八） 該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>(3) 固体廃棄物の廃棄設備</p> <p>(i) 構造</p> <p>ト(3)(i)-①固体廃棄物の廃棄設備（固体廃棄物処理系）は、廃棄物の種類に応じて処理するため、ト(3)(i)-②a濃縮廃液タンク（5号、6号及び7号炉共用、以下(3)では「濃縮廃液タンク」という）、固化装置（5号、6号及び7号炉共用、以下(3)では「固化装置」という）、冷却材浄化系粉末樹脂沈降分離槽（6号及び7号炉共用、以下(3)では「冷却材浄化系粉末樹脂沈降分離槽」という）、使用済樹脂槽（6号及び7号炉共用、以下(3)では「使用済樹脂槽」という）、雑固体廃棄物焼却設備（1号、2号、3号、4号、5号、6号及び7号炉共用、以下(3)では「雑固体廃棄物焼却設備」という）、減容装置（5号、6号及び7号炉共用、以下(3)では「減容装置」という）、固体廃棄物貯蔵庫（1号、2号、3号、4号、5号、6号及び7号炉共用、以下(3)では「固体廃棄物貯蔵庫」という）等で構成する。</p> <p>濃縮廃液は、濃縮廃液タンクで放射能を減衰させた後、固化装置で固化材（セメント）と混合してドラム缶内に固化し貯蔵保管する。</p> <p>原子炉冷却材浄化系及び燃料プール冷却浄化系から発生する使用済樹脂並びに復水浄化系復水ろ過装置廃スラッジ及び液体廃棄物処理系ろ過装置廃スラッジは、冷却材浄化系粉末樹脂沈降分離槽に貯蔵する。</p> <p>復水浄化系復水脱塩装置及び液体廃棄物処理系脱塩装置から発生する使用済樹脂は、使用済樹脂槽に貯蔵し放射能を減衰させた後、ト(3)(i)-③a雑固体系の雑固体廃棄物焼却設備で焼却し、ト(3)(i)-②b焼却灰はドラム缶詰めし、貯蔵保管する。</p> <p>ト(3)(i)-③b雑固体廃棄物は、雑固体廃棄物焼却設備で処理可能なものは焼却処理し、減容装置でト(3)(i)-④処理可能なものは圧縮減容する。</p> <p>ト(3)(i)-②c雑固体廃棄物のうち、焼却灰については、ドラム缶に詰めて貯蔵保管する。その他の雑固体廃棄物については、ドラム缶等に詰めて貯蔵保管するか、</p>	<p>7.4 固体廃棄物処理系及び固体廃棄物貯蔵庫</p> <p>7.4.1 概要</p> <p>固体廃棄物処理系は、発電用原子炉施設で発生する濃縮装置濃縮廃液、原子炉冷却材浄化系ろ過脱塩装置使用済樹脂、燃料プール冷却浄化系ろ過脱塩装置使用済樹脂、復水浄化系復水ろ過装置廃スラッジ、液体廃棄物処理系ろ過装置廃スラッジ、復水浄化系復水脱塩装置及び液体廃棄物処理系脱塩装置使用済樹脂及び雑固体廃棄物を収集、処理し、その種類に応じて廃棄物処理系のタンクに貯蔵するか固体廃棄物貯蔵庫に貯蔵保管する。</p> <p>固体廃棄物処理系は、次の3系統で構成する。</p> <p>濃縮廃液系 使用済樹脂系 雑固体系 <中略></p> <p>7.4.4 主要設備</p> <p>(1) 濃縮廃液系</p> <p>液体廃棄物処理系の濃縮装置濃縮廃液は濃縮廃液タンクに集め、約1ヶ月間貯蔵し、放射能を減衰させた後、固化装置で固化材（セメント）と混合してドラム缶内に固化する。</p> <p>本系統は5号、6号及び7号炉共用とする。</p> <p>(2) 使用済樹脂系</p> <p>原子炉冷却材浄化系及び燃料プール冷却浄化系から発生する使用済樹脂並びに復水浄化系復水ろ過装置廃スラッジ及び液体廃棄物処理系ろ過装置廃スラッジは、発生量の10年分以上の貯蔵容量を有する冷却材浄化系沈降分離槽に貯蔵する。</p> <p>復水浄化系復水脱塩装置及び液体廃棄物処理系脱塩装置から発生する使用済樹脂は、発生量の5年分以上の貯蔵容量を有する使用済樹脂槽に貯蔵し放射能を減衰させた後、雑固体系の焼却設備で焼却する。</p> <p>排ガスは、フィルタを通し焼却設備排気筒から放出し、焼却灰はドラム缶詰めする。</p> <p>本系統は、6号及び7号炉共用とする。</p>	<p>ト(3)(i)-①固体廃棄物処理設備は、廃棄物の種類に応じて、濃縮廃液を固化材（セメント）と混合して固化する固化装置（5号機設備、5,6,7号機共用）、ト(3)(i)-③可燃性雑固体廃棄物並びに復水浄化系復水脱塩装置及び液体廃棄物処理系脱塩装置から発生する使用済樹脂を焼却する雑固体廃棄物焼却設備（「1号機設備、1,2,3,4,5,6,7号機共用」、「5号機設備、1,2,3,4,5,6,7号機共用」）、ト(3)(i)-④不燃性雑固体廃棄物を圧縮減容する減容装置（5号機設備、5,6,7号機共用）で処理する設計とする。</p> <p>放射性廃棄物を処理する設備は、放射性廃棄物以外の廃棄物を処理する設備と区別し、放射性廃棄物以外の流体状の廃棄物を流体状の放射性廃棄物を処理する設備に導かない設計とする。</p> <p>ト(3)(i)-⑥放射性廃棄物を処理する設備は、放射性廃棄物が漏えいし難い又は放射性廃棄物を処理する過程において散逸し難い構造とし、かつ、放射性廃棄物に含まれる化学薬品の影響及び不純物の影響により著しく腐食しない設計とする。</p> <p><中略></p> <p>1.3 汚染拡大防止</p> <p>1.3.2 固体状の放射性廃棄物の汚染拡大防止</p> <p>ト(3)(i)-②固体状の放射性廃棄物を貯蔵する設備が設置される発電用原子炉施設は、固体状の放射性廃棄物をドラム缶に詰める、容器に入れる又はタンク内に貯蔵することによる汚染拡大防止措置を講じることにより、放射性廃棄物による汚染が広がらない設計とする。</p>	<p>を申請範囲としている本設工認の対象外である。</p> <p>設計及び工事の計画のト(3)(i)-①は、設置変更許可申請書（本文（五号））のト(3)(i)-①と同義であり、整合している。</p> <p>設計及び工事の計画のト(3)(i)-②は、設置変更許可申請書（本文（五号））のト(3)(i)-②a～ト(3)(i)-②dと同義であり、整合している。</p> <p>設計及び工事の計画のト(3)(i)-③は、設置変更許可申請書（本文（五号））のト(3)(i)-③a及びト(3)(i)-③bを具体的に記載しており、整合している。</p> <p>設計及び工事の計画のト(3)(i)-④は、設置変更許可申請書（本文（五号））のト(3)</p>	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八） 該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>固体廃棄物処理建屋(1号, 2号, 3号, 4号, 5号, 6号及び7号炉共用, 以下(3)では「固体廃棄物処理建屋」という)内で固型化材(モルタル)を充填してドラム缶内に固型化し貯蔵保管するか, 又は放射性物質が飛散しないような措置を講じて貯蔵保管する。ト(3)(i)-⑤また, 使用済制御棒等の放射化された機器は, 使用済燃料プールに貯蔵する。ト(3)(i)-⑥固体廃棄物処理系は, 廃棄物の粉碎, 圧縮, 焼却, 固化等の処理過程における放射性物質の散逸等を防止する設計とする。</p> <p>ト(3)(i)-②d 上記, 固体廃棄物を詰めたドラム缶等は, 所要の遮蔽設計を行った発電所内の固体廃棄物貯蔵庫に貯蔵保管する。ト(3)(i)-⑦なお, 必要に応じて, 固体廃棄物を廃棄事業者の廃棄施設へ廃棄する。</p>	<p>(3) 雑固体系</p> <p>可燃性雑固体廃棄物は, 焼却設備で焼却した後, 排ガスはセラミック・フィルタ又は, バグ・フィルタ及び高性能粒子フィルタを通し焼却設備排気筒から放出し, 焼却灰はドラム缶詰めする。なお, 焼却設備の除染係数は, 系統全体で 10^5 以上である。不燃性の雑固体廃棄物は, 圧縮可能なものは圧縮減容し, ドラム缶詰めするか, 又は必要に応じて分別, 切断, 圧縮減容後, 固型化材(モルタル)を充填してドラム缶内に固型化するか, 又は放射性物質が飛散しないような措置を講じて貯蔵保管する。使用済制御棒などは, その放射能を減衰させるため, 使用済燃料プール内に貯蔵する。</p> <p>なお, 焼却設備は, 1号, 2号, 3号, 4号, 5号, 6号及び7号炉共用とし, 減容装置は, 5号, 6号及び7号炉共用とする。</p> <p>(4) 固体廃棄物貯蔵庫</p> <p>ドラム缶詰めした固体廃棄物は, 所要の遮蔽設計を行った固体廃棄物貯蔵庫に貯蔵保管する。なお, 固体廃棄物貯蔵庫は, 本発電所で発生する廃棄物を貯蔵保管する。固体廃棄物貯蔵庫は, 7号炉運転開始時において発生量の約5年分を貯蔵保管することができる。</p> <p>固体廃棄物貯蔵庫は, 1号, 2号, 3号, 4号, 5号, 6号及び7号炉共用とする。</p> <p>なお, 必要に応じて, 固体廃棄物を廃棄事業者の廃棄施設へ廃棄する。</p> <p><中略></p>	<p>【核燃料物質の取扱施設及び貯蔵施設】 (基本設計方針)</p> <p>第2章 個別項目</p> <p>2. 燃料貯蔵設備</p> <p><中略></p> <p>ト(3)(i)-⑤使用済燃料貯蔵プールは, 約390%炉心分の燃料の貯蔵が可能であり, さらに放射化された機器等の貯蔵及び取扱いができるスペースを確保した設計とする。なお, 通常運転中, 全炉心の燃料体等を貯蔵できる容量を確保できる設計とする。</p> <p><中略></p>	<p>ト(3)(i)-④を具体的に記載しており, 整合している。</p> <p>設計及び工事の計画のト(3)(i)-⑤は, 設置変更許可申請書(本文(五号))のト(3)(i)-⑤と同義であり, 整合している。</p> <p>設計及び工事の計画のト(3)(i)-⑥は, 設置変更許可申請書(本文(五号))のト(3)(i)-⑥と同義であり, 整合している。</p> <p>設置変更許可申請書(本文(五号))のト(3)(i)-⑦は, 保安規定にて対応する。</p>	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八） 該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>(ii) 廃棄物の処理能力</p> <p>ト(3)(ii)-①冷却材浄化系粉末樹脂沈降分離槽の容量は、約700m³（6号及び7号炉共用）、使用済樹脂槽の容量は、約500m³（6号及び7号炉共用）とする。</p> <p>固体廃棄物貯蔵庫は、ドラム缶約45,000本を貯蔵保管する能力があるが、必要がある場合には増設を考慮する。</p> <p>なお、固体廃棄物処理建屋では、廃棄体を収納した輸送容器を廃棄事業者の廃棄施設へ廃棄するための搬出をするまでの間、必要に応じて一時保管するが、固体廃棄物貯蔵庫とのドラム缶の合計貯蔵本数は約45,000本以下とする。</p>	<p>第7.4-1表 固体廃棄物処理系主要機器仕様</p> <p>(1) タンク類 <中略></p> <p>冷却材浄化系沈降分離槽** 基数 2 容量 約350m³/基 材料 ステンレス鋼ライニング</p> <p>使用済樹脂槽** 基数 2 容量 約250m³/基 材料 ステンレス鋼ライニング <中略></p> <p>**印の設備は、6号及び7号炉共用である。</p> <p>1. 安全設計 1.10 発電用原子炉設置変更許可申請に係る安全設計の方針 1.10.2 発電用原子炉設置変更許可申請（平成25年9月27日申請）に係る実用発電用原子炉及びその附属施設の位置、構造及び設備の基準に関する規則への適合（放射性廃棄物の貯蔵施設）</p> <p>第二十八条 適合のための設計方針 <中略></p> <p>また、ドラム缶詰めした固体廃棄物を約45,000本貯蔵保管できる能力を持つ固体廃棄物貯蔵庫（1号、2号、3号、4号、5号、6号及び7号炉共用・既設）を設けるが、必要に応じて増設する。</p>	<p>【放射性廃棄物の廃棄施設】 （基本設計方針）</p> <p>第2章 個別項目</p> <p>1. 廃棄物貯蔵設備，廃棄物処理設備等</p> <p>1.1 廃棄物貯蔵設備</p> <p>ト(3)(ii)-①放射性廃棄物を貯蔵する設備の容量は、通常運転時に発生する放射性廃棄物の発生量と放射性廃棄物処理設備の稼働率を想定した設計とする。</p> <p>放射性廃棄物を貯蔵する設備は、放射性廃棄物が漏えいし難い設計とする。また、崩壊熱及び放射線の照射により発生する熱に耐え、かつ、放射性廃棄物に含まれる化学薬品の影響及び不純物の影響により著しく腐食しない設計とする。</p>	<p>設計及び工事の計画のト(3)(ii)-①は、設置変更許可申請書（本文（五号））のト(3)(ii)-①と同義であり、整合している。</p> <p>なお、設置変更許可申請書（本文（五号））において許可を受けたト(3)(ii)-①の容量及び保管能力は、新規基準対応設備を申請範囲としている本設工認の対象外である。</p>	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八） 該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>チ 放射線管理施設の構造及び設備</p> <p>チ-① 発電所周辺の一般公衆及び放射線業務従事者等の安全管理を確実にを行うため、次の放射線管理施設を設ける。</p> <p>(1) 屋内管理用の主要な設備の種類</p> <p>(i) 出入管理関係設備（6号及び7号炉共用） 放射線業務従事者チ(1)(i)-①等の出入管理、汚染管理のためのチ(1)(i)-②チェック・ポイント、シャワールーム、退出モニタ等を設ける。</p> <p>(ii) 試料分析関係設備（6号及び7号炉共用） 各系統の試料及び放射性廃棄物の放出管理用試料チ(1)</p>	<p>8. 放射線管理施設</p> <p>8.1 放射線管理設備</p> <p>8.1.1 通常運転時等</p> <p>8.1.1.1 概要</p> <p>放射線管理設備は、発電所周辺の一般公衆及び放射線業務従事者等の放射線被ばくを管理するためのもので、出入管理関係設備、試料分析関係設備及び放射線監視設備等からなる。</p> <p>8.1.1.2 設計方針</p> <p>放射線被ばくは、合理的に達成できる限り低くすることとし、次の設計方針に基づき、放射線管理設備を設ける。</p> <p>(1) 放射線業務従事者等及び物品の搬出入に対して、出入管理、汚染管理及び各個人の被ばく管理ができるようにする。</p> <p>(3) 万一の事故に備えて、必要な放射線計測器を備え</p>	<p>【放射線管理施設】 （基本設計方針）</p> <p>第2章 個別項目</p> <p>1. 放射線管理施設</p> <p>1.1 放射線管理用計測装置</p> <p>チ-① 発電用原子炉施設には、通常運転時、運転時の異なる過渡変化時及び設計基準事故時において、当該発電用原子炉施設における各系統の放射性物質の濃度、管理区域内等の主要箇所的外部放射線に係る線量当量率等を監視、測定するために、プロセスモニタリング設備、エリアモニタリング設備及び放射線サーベイ機器を設ける設計とする。</p> <p>チ(1)(i)-②a 出入管理関係設備（7号機設備、6,7号機共用）には、放射線業務従事者チ(1)(i)-①及び一時立入者の出入管理、汚染管理のためのチ(1)(i)-②b 測定機器等を設ける設計とする。各系統の試料、放射性廃棄物の放出管理用試料及び環境試料の化学分析並びに放射能測定を行うため、試料分析関係設備（7号機設備、6,7号機共用）を設ける設計とする。</p> <p><中略></p> <p>1.1 放射線管理用計測装置</p> <p><中略></p> <p>出入管理関係設備（7号機設備、6,7号機共用）に</p>	<p>設置変更許可申請書（本文（五号））第五号チ項において、設計及び工事の計画の内容は、以下のとおり満足している。</p> <p>設計及び工事の計画のチ-①は、設置変更許可申請書（本文（五号））のチ-①を具体的に記載しており、整合している。</p> <p>設計及び工事の計画のチ(1)(i)-①は、設置変更許可申請書（本文（五号））のチ(1)(i)-①を具体的に記載しており、整合している。</p> <p>設計及び工事の計画のチ(1)(i)-②a及びチ(1)(i)-②bは、設置変更許可申請書（本文（五号））のチ(1)(i)-②と同義であり、整合している。</p> <p>設計及び工事の計画のチ(1)</p>	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八） 該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>(ii)-①等の化学分析並びに放射能測定を行うため、<u>チ(1)(ii)-②</u>分析室、放射能測定室を設け測定機器を備える。</p> <p>(iii) 放射線監視設備 各系統の放射性物質の濃度、管理区域内等の主要箇所 の外部放射線に係る線量当量率等を監視、測定するた めに、<u>チ(1)(iii)-①</u>プロセス放射線モニタリング設備、 エリア放射線モニタリング設備及び放射線サーベイ機 器<u>チ(1)(iii)-②</u>（1号、2号、3号、4号、5号、6号及 び7号炉共用、一部既設）を設ける。</p> <p><u>チ(1)(iii)-③</u>プロセス放射線モニタリング設備及び エリア放射線モニタリング設備については、設計基準事 故時における迅速な対応のために必要な情報を中央制御 室及び5号炉原子炉建屋内緊急時対策所に表示できる設 計とする。</p>	<p>る。</p> <p>(5) 通常運転時の放射性物質放出に係る放射線監視設 備は、「発電用軽水型原子炉施設における放出放射性物質 の測定に関する指針」に適合する設計とする。</p> <p>(2) 発電所内外の外部放射線に係る線量当量率及び放射 性物質濃度等を測定、監視できるようにする。</p> <p>(3) 万一の事故に備えて、必要な放射線計測器を備え る。</p> <p>(4) 中央制御室及び5号炉原子炉建屋内緊急時対策所に 必要な情報の通報が可能である設計とする。</p> <p>(6) 設計基準事故時に必要な放射線監視設備は、「発電 用軽水型原子炉施設における事故時の放射線計測に関す る審査指針」に適合する設計とする。</p>	<p>は、放射線業務従事者及び一時立入者の出入管理、汚 染管理のための測定機器等を設ける設計とする。<u>各系 統の試料、放射性廃棄物の放出管理用試料及びチ(1) (ii)-①環境試料の化学分析並びに放射能測定を行う ため、チ(1)(ii)-②試料分析関係設備（7号機設 備、6,7号機共用）を設ける設計とする。</u></p> <p><中略></p> <p>1.1 放射線管理用計測装置 発電用原子炉施設には、通常運転時、運転時の異常 な過渡変化時及び設計基準事故時において、当該発電 用原子炉施設における各系統の放射性物質の濃度、管 理区域内等の主要箇所の外部放射線に係る線量当量率 等を監視、測定するために、<u>チ(1)(iii)-①</u>プロセス モニタリング設備、エリアモニタリング設備及び放射 線サーベイ機器を設ける設計とする。</p> <p><中略></p> <p><u>チ(1)(iii)-③</u>プロセスモニタリング設備、エリア モニタリング設備及び固定式周辺モニタリング設備に ついては、設計基準事故時における迅速な対応のため に必要な情報を中央制御室（「7号機設備、6,7号機共 用」（以下同じ。））及び5号機原子炉建屋内緊急時対策 所（対策本部・高気密室）（「7号機設備、6,7号機共 用、5号機に設置」（以下同じ。））に表示できる設計と する。</p> <p><中略></p>	<p>(ii)-①は、設置変更許可 申請書（本文（五号））の<u>チ (1)(ii)-①</u>を具体的に記載 しており、整合している。</p> <p>設計及び工事の計画の<u>チ(1) (ii)-②</u>は、設置変更許可申 請書（本文（五号））の<u>チ(1) (ii)-②</u>と同義であり、整合 している。</p> <p>設計及び工事の計画の<u>チ(1) (iii)-①</u>は、設置変更許可 申請書（本文（五号））の<u>チ (1)(iii)-①</u>と同義であり、 整合している。</p> <p>設置変更許可申請書（本文 （五号））の<u>チ(1)(iii)-②</u> の「放射線サーベイ機器（1 号、2号、3号、4号、5号、 6号及び7号炉共用、一部既 設）」は、設計及び工事の計 画においては、<u>チ(1)(iii)- ②</u>の重大事故等時に使用する 放射線サーベイ機器の記載と 同義であり、整合している。 なお、設計基準事故のみに使 用する放射線サーベイ機器 は、新規制基準対応設備を申 請範囲としている本設工認の 対象外である。</p> <p>設計及び工事の計画の<u>チ(1) (iii)-③</u>は、設置変更許可申</p>	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八） 該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
		<p>【放射線管理施設】 （要目表）</p> <p>(4) 移動式周辺モニタリング設備の名称，検出器の種類，計測範囲，個数及び取付箇所</p> <p>以下の設備は，7号機設備であり，6号機及び7号機共用（7号機で申請済）である。 可搬型モニタリングポスト（7号機設備，6,7号機共用） 電離箱サーベイメータ（7号機設備，6,7号機共用） GM汚染サーベイメータ（7号機設備，6,7号機共用） ZnSシンチレーションサーベイメータ（7号機設備，6,7号機共用） NaIシンチレーションサーベイメータ（7号機設備，6,7号機共用）</p>	<p>請書（本文（五号））のチ(1) (iii)-③と同義であり，整合している。</p> <p>チ(1) (iii) -②</p>	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八） 該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
	<p>8.1.1.4 主要設備</p> <p>8.1.1.4.3 放射線監視設備</p> <p>放射線監視設備は、プロセス放射線モニタリング設備、エリア放射線モニタリング設備、環境モニタリング設備及び放射線サーベイ機器からなり、次の機能を持つ。</p> <p>(a) 各系統及び各領域における放射能異常を早期に検出し警報する。</p> <p>(b) 発電所外へ制御しながら放出する放射性物質を常時監視する。</p> <p>(c) 格納容器雰囲気放射線モニタは、事故時においても対応し得るよう多重性、独立性を有し、格納容器エリア線量当量率を監視する。</p> <p>(1) プロセス放射線モニタリング設備</p> <p>プロセス放射線モニタは、連続的に放射線を測定し、放射線レベル基準設定値を超えたときは警報を発する。主なプロセス放射線モニタとして次のものがあり、その配置図を第 8.1-1 図に示す。</p> <p>a. 格納容器雰囲気放射線モニタ</p> <p>事故時における放射性物質に対する放射能障壁の健全性を把握するため、格納容器エリア線量当量率の監視を行い、中央制御室にて指示及び記録し警報を発する。検出器には電離箱を使用する。</p> <p>c. 焼却設備排ガスモニタ（1号、2号、3号、4号、5号、6号及び7号炉共用、一部既設）</p> <p>焼却設備から放出される放射性ガスを監視し、2号又は5号炉廃棄物処理系制御室にて指示及び記録し警報を発する。検出器にはNaIシンチレータを使用する。また、よう素及び粒子用フィルタを設けて放射性よう素及び粒子状放射性物質を連続的に捕集し定期的に回収、測定する。</p> <p>d. 蒸気式空気抽出器排ガスモニタ</p> <p>蒸気式空気抽出器排ガス中の放射性ガスを監視し、中央制御室にて指示及び記録し警報を発する。検出器には電離箱を使用する。</p> <p>e. 活性炭式希ガス・ホールドアップ装置排ガスモニタ</p> <p>活性炭式希ガス・ホールドアップ装置通過後の蒸気式</p>	<p>【放射線管理施設】</p> <p>（基本設計方針）</p> <p>第2章 個別項目</p> <p>1. 放射線管理施設</p> <p>1.1 放射線管理用計測装置</p> <p>1.1.1 プロセスモニタリング設備</p> <p>通常運転時、運転時の異常な過渡変化時及び設計基準事故時において、原子炉格納容器内の放射性物質の濃度及び線量当量率、主蒸気管中及び空気抽出器その他の蒸気タービン又は復水器に接続する放射性物質を内包する設備の排ガス中の放射性物質の濃度、排気筒の出口又はこれに近接する箇所における排気中の放射性物質の濃度を計測するためのプロセスモニタリング設備を設け、計測結果を中央制御室に表示できる設計とする。また、計測結果を記録し、及び保存することができる設計とする。</p> <p>原子炉冷却材の放射性物質の濃度、排気筒の出口又はこれに近接する箇所における排気中の放射性物質の濃度及び排水口又はこれに近接する箇所における排水中の放射性物質の濃度は、試料採取設備により断続的に試料を採取し分析を行い、測定結果を記録し、及び保存する。</p> <p>放射性物質により汚染するおそれがある管理区域内に開口部がある排水路を施設しないことから、排水路の出口近傍における排水中の放射性物質の濃度を計測するための設備を設けない設計とする。</p> <p>プロセスモニタリング設備のうち、原子炉格納容器内の線量当量率を計測する格納容器内雰囲気放射線モニタ（D/W）及び格納容器内雰囲気放射線モニタ</p>		

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八） 該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
	<p>空気抽出器排ガス中の放射性ガスを監視し、中央制御室にて指示及び記録し警報を発する。検出器にはNaI シンチレータを使用する。</p> <p>f. 真空ポンプ排ガスモニタ 真空ポンプから排出される放射性ガスの監視を行い、中央制御室にて指示及び記録し警報を発する。検出器にはNaI シンチレータを使用する。</p> <p>g. 主蒸気管モニタ 燃料から漏えいする核分裂生成物を監視し、中央制御室にて指示及び記録し警報を発する。また、急激な核分裂生成物の増加を検出した場合には、原子炉スクラム信号を出す。検出器には電離箱を使用する。</p> <p>h. 原子炉・タービン区域換気空調系原子炉区域排気モニタ 原子炉・タービン区域換気空調系原子炉区域排気中の放射性ガスを監視し、中央制御室にて指示及び記録し警報を発する。また多量の放射能を検出した場合には非常用ガス処理系を起動させる。検出器には半導体検出器を使用する。</p> <p>i. 気体廃棄物処理設備エリア排気モニタ 気体廃棄物処理設備エリア排気中の放射性ガスを監視し、中央制御室にて指示及び記録し警報を発する。検出器には半導体検出器を使用する。</p> <p>j. 非常用ガス処理系排ガスモニタ 通常運転時及び事故時に非常用ガス処理系から放出される放射性ガスの監視を行い、中央制御室にて指示及び記録し警報を発する。検出器には電離箱及びNaI シンチレータを使用する。また、よう素用フィルタ、粒子用フィルタを設けて放射性よう素、粒子状放射性物質を捕集し、回収、測定する。</p> <p>l. 原子炉補機冷却水モニタ 原子炉常用機器、非常用機器及び廃棄物処理系機器の冷却水への放射能漏えいを監視し、中央制御室にて指示及び記録し警報を発する。検出器にはNaI シンチレータを使用する。</p>	<p>(S/C) は、それぞれ多重性、独立性を確保した設計とする。</p> <p><中略></p>		

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八） 該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
	<p>(2) エリア放射線モニタリング設備</p> <p>エリア放射線モニタは建屋内に設置し、外部放射線に係る線量当量率の監視を行う。エリア放射線モニタによる外部放射線に係る線量当量率は、中央制御室で記録し、放射線レベル基準設定値を超えたときは警報を発する。検出器には半導体検出器を使用する。</p> <p>エリア放射線モニタを設ける主な区域は次のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> a. 中央制御室 b. 燃料取替床 c. タービン発電機運転床 d. 固体廃棄物ドラム缶詰操作エリア e. 原子炉冷却材浄化系操作エリア f. 制御棒駆動水圧制御ユニットエリア g. タービン建屋除染エリア h. 原子炉建屋機器搬入口 <p>ただし、d. については5号炉廃棄物処理系制御室においても記録し、警報を発する。</p>	<p>1.1.2 エリアモニタリング設備</p> <p>通常運転時、運転時の異常な過渡変化時及び設計基準事故時に、管理区域内において人が常時立ち入る場所その他放射線管理を特に必要とする場所の線量当量率を計測するためのエリアモニタリング設備を設け、計測結果を中央制御室に表示できる設計とする。また、計測結果を記録し、及び保存することができる設計とする。</p> <p><中略></p>		

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八） 該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>重大事故等時の使用済燃料プール上部の空間線量率を測定するための使用済燃料貯蔵プール放射線モニタ（高レンジ・低レンジ）については、ニ、(3)、(ii)使用済燃料貯蔵プールの冷却等のための設備に記載する。</p> <p>重大事故等チ(1) (iii) -④時の原子炉格納容器内の放射線量率をチ(1) (iii) -⑤測定するための格納容器雰囲気放射線モニタを設ける。</p> <p>格納容器圧力逃がし装置及び耐圧強化ベント系の排出経路における放射性物質濃度を測定するためのフィルタ装置出口放射線モニタ及び耐圧強化ベント系放射線モニタについては、リ、(3)、(iii)d. 水素爆発による原子炉格納容器の破損を防止するための設備に記載する。</p> <p>5号炉原子炉建屋内緊急時対策所内への希ガス等の放射性物質の侵入を低減又は防止するための加圧判断ができるよう、放射線量を監視、測定するための可搬型エリアモニタ（対策本部・待機場所）(6号及び7号炉共用)については、ヌ、(3)、(vi)緊急時対策所に記載する。</p>	<p>8.1.2 重大事故等時 8.1.2.2 設計方針 <中略> (4) 使用済燃料プールの状態監視に用いる設備 重大事故等時の使用済燃料プール上部の空間線量率を測定するための使用済燃料貯蔵プール放射線モニタ（高レンジ・低レンジ）については、「4.3 使用済燃料プールの冷却等のための設備」に記載する。 (5) 原子炉格納容器内の状態監視に用いる設備 重大事故等時の原子炉格納容器内の放射線量率を測定するための格納容器雰囲気放射線モニタについては、「6.4 計装設備（重大事故等対処設備）」に記載する。 (6) 格納容器圧力逃がし装置等の状態監視に用いる設備 格納容器圧力逃がし装置及び耐圧強化ベント系の排出経路における放射性物質濃度を測定するためのフィルタ装置出口放射線モニタ及び耐圧強化ベント系放射線モニタについては、「9.5 水素爆発による原子炉格納容器の破損を防止するための設備」に記載する。 (7) 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所の放射線量の測定に用いる設備 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所内への希ガス等の放射性物質の侵入を低減又は防止するための加圧判断ができるよう、放射線量を監視、測定するための可搬型エリアモニタ（対策本部・待機場所）については、「10.9 緊急時対策所」に記載する。</p>	<p>1.1 放射線管理用計測装置 <中略> 重大事故等チ(1) (iii) -④が発生し、当該重大事故等に対処するために監視することが必要なパラメータとして、原子炉格納容器内の線量当量率、最終ヒートシンクの確保チ(1) (iii) -⑤の監視及び使用済燃料貯蔵プール（「設計基準対象施設としてのみ1,2,5,6号機共用」（以下同じ。））の監視に必要なパラメータを計測する装置を設ける設計とする。 <中略></p>	<p>設置変更許可申請書（本文（五号））「ニ、(3)、(ii)使用済燃料貯蔵プールの冷却等のための設備」に示す。</p> <p>設計及び工事の計画のチ(1) (iii) -④は、設置変更許可申請書（本文（五号））のチ(1) (iii) -④と同義であり、整合している。</p> <p>設計及び工事の計画のチ(1) (iii) -⑤は、設置変更許可申請書（本文（五号））のチ(1) (iii) -⑤を全て含んでおり、整合している。</p> <p>設置変更許可申請書（本文（五号））「リ、(3)、(iii)d. 水素爆発による原子炉格納容器の破損を防止するための設備」に示す。</p> <p>設置変更許可申請書（本文（五号））「ヌ、(3)、(vi)緊急時対策所」に示す。</p>	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八） 該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考																																																																																																																																																						
<p>チ(1) (iii) -⑥ プロセス放射線モニタリング設備</p> <p>チ(1) (iii) -⑦ 一式</p>	<p>第 8.1-1 表 放射線管理設備の主要機器仕様</p> <p>(3) 放射線監視設備 1 式</p>	<p>【放射線管理施設】</p> <p>(要目表)</p> <p>1 放射線管理用計測装置に係る次の事項（警報装置を有する場合は、その動作範囲を付記すること。）</p> <p>(1) プロセスモニタリング設備に係る次の事項</p> <p>イ 主蒸気管中の放射性物質濃度を計測する装置の名称、検出器の種類、計測範囲、取付箇所（常設及び可搬型の別を記載し、監視・記録の場所を付記すること。）及び個数</p> <p>・常設</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">変更前</th> <th colspan="5">変更後</th> </tr> <tr> <th>名称</th> <th>検出器の種類</th> <th>計測範囲</th> <th>警報動作範囲</th> <th>取付箇所</th> <th>名称</th> <th>検出器の種類</th> <th>計測範囲</th> <th>警報動作範囲</th> <th>取付箇所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>主蒸気管放射線モニタ</td> <td>電離箱*</td> <td>10⁻¹²~10⁻⁶A</td> <td>10⁻¹²~10⁻⁶A*</td> <td>原子伊建屋 T.M.S.L.23500mm (監視・記録は中央制御室にて行う。)</td> <td>チ(1) (iii) -⑦a</td> <td>電離箱*</td> <td>10⁻¹²~10⁻⁶A</td> <td>10⁻¹²~10⁻⁶A*</td> <td>原子伊建屋 T.M.S.L.23500mm (監視・記録は中央制御室にて行う。)</td> </tr> <tr> <td>格納容器内蒸気放射線モニタ (R.W.) *</td> <td>電離箱**</td> <td>10⁻²~10⁵Sv/h</td> <td>10⁻²~10⁵Sv/h**</td> <td>原子伊建屋 T.M.S.L.12300mm (監視・記録は中央制御室にて行う。)</td> <td>変更なし</td> <td>電離箱**</td> <td>10⁻²~10⁵Sv/h</td> <td>10⁻²~10⁵Sv/h**</td> <td>原子伊建屋 T.M.S.L.12300mm (監視・記録は中央制御室にて行う。記録は5号機原子伊建屋内緊急時対策所(対策本部・高気密室)にて行う。*)</td> </tr> <tr> <td>格納容器内蒸気放射線モニタ (S.V.) *</td> <td>電離箱**</td> <td>10⁻²~10⁵Sv/h</td> <td>10⁻²~10⁵Sv/h**</td> <td>原子伊建屋 T.M.S.L.4800mm (監視・記録は中央制御室にて行う。)</td> <td>変更なし</td> <td>電離箱**</td> <td>10⁻²~10⁵Sv/h</td> <td>10⁻²~10⁵Sv/h**</td> <td>原子伊建屋 T.M.S.L.4800mm (監視・記録は中央制御室にて行う。記録は5号機原子伊建屋内緊急時対策所(対策本部・高気密室)にて行う。*)</td> </tr> <tr> <td>燃料取扱エリア排気放射線モニタ</td> <td>半導体式</td> <td>10⁻³~10mSv/h</td> <td>10⁻³~10mSv/h**</td> <td>原子伊建屋 T.M.S.L.31700mm (監視・記録は中央制御室にて行う。)</td> <td>変更なし</td> <td>半導体式</td> <td>10⁻³~10mSv/h</td> <td>10⁻³~10mSv/h**</td> <td>原子伊建屋 T.M.S.L.31700mm (監視・記録は中央制御室にて行う。)</td> </tr> <tr> <td>原子伊区域換気装置排気放射線モニタ</td> <td>半導体式</td> <td>10⁻⁴~1mSv/h</td> <td>10⁻⁴~1mSv/h**</td> <td>原子伊建屋 T.M.S.L.27200mm (監視・記録は中央制御室にて行う。)</td> <td>変更なし</td> <td>半導体式</td> <td>10⁻⁴~1mSv/h</td> <td>10⁻⁴~1mSv/h**</td> <td>原子伊建屋 T.M.S.L.27200mm (監視・記録は中央制御室にて行う。)</td> </tr> </tbody> </table> <p>ロ 原子伊格納容器本体内の放射性物質濃度を計測する装置の名称、検出器の種類、計測範囲、取付箇所（常設及び可搬型の別を記載し、監視・記録の場所を付記すること。）及び個数</p> <p>・常設</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">変更前</th> <th colspan="5">変更後</th> </tr> <tr> <th>名称</th> <th>検出器の種類</th> <th>計測範囲</th> <th>警報動作範囲</th> <th>取付箇所</th> <th>名称</th> <th>検出器の種類</th> <th>計測範囲</th> <th>警報動作範囲</th> <th>取付箇所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>格納容器内蒸気放射線モニタ (R.W.) *</td> <td>電離箱**</td> <td>10⁻²~10⁵Sv/h</td> <td>10⁻²~10⁵Sv/h**</td> <td>原子伊建屋 T.M.S.L.12300mm (監視・記録は中央制御室にて行う。)</td> <td>変更なし</td> <td>電離箱**</td> <td>10⁻²~10⁵Sv/h</td> <td>10⁻²~10⁵Sv/h**</td> <td>原子伊建屋 T.M.S.L.12300mm (監視・記録は中央制御室にて行う。記録は5号機原子伊建屋内緊急時対策所(対策本部・高気密室)にて行う。*)</td> </tr> <tr> <td>格納容器内蒸気放射線モニタ (S.V.) *</td> <td>電離箱**</td> <td>10⁻²~10⁵Sv/h</td> <td>10⁻²~10⁵Sv/h**</td> <td>原子伊建屋 T.M.S.L.4800mm (監視・記録は中央制御室にて行う。)</td> <td>変更なし</td> <td>電離箱**</td> <td>10⁻²~10⁵Sv/h</td> <td>10⁻²~10⁵Sv/h**</td> <td>原子伊建屋 T.M.S.L.4800mm (監視・記録は中央制御室にて行う。記録は5号機原子伊建屋内緊急時対策所(対策本部・高気密室)にて行う。*)</td> </tr> </tbody> </table> <p>ハ 放射性物質により汚染するおそれがある管理区域から環境に放出する排水中又は排気中の放射性物質濃度を計測する装置の名称、検出器の種類、計測範囲、取付箇所（常設及び可搬型の別を記載し、監視・記録の場所を付記すること。）及び個数</p> <p>・常設</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">変更前</th> <th colspan="5">変更後</th> </tr> <tr> <th>名称</th> <th>検出器の種類</th> <th>計測範囲</th> <th>警報動作範囲</th> <th>取付箇所</th> <th>名称</th> <th>検出器の種類</th> <th>計測範囲</th> <th>警報動作範囲</th> <th>取付箇所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>燃料取扱エリア排気放射線モニタ</td> <td>半導体式</td> <td>10⁻³~10mSv/h</td> <td>10⁻³~10mSv/h**</td> <td>原子伊建屋 T.M.S.L.31700mm (監視・記録は中央制御室にて行う。)</td> <td>変更なし</td> <td>半導体式</td> <td>10⁻³~10mSv/h</td> <td>10⁻³~10mSv/h**</td> <td>原子伊建屋 T.M.S.L.31700mm (監視・記録は中央制御室にて行う。)</td> </tr> <tr> <td>原子伊区域換気装置排気放射線モニタ</td> <td>半導体式</td> <td>10⁻⁴~1mSv/h</td> <td>10⁻⁴~1mSv/h**</td> <td>原子伊建屋 T.M.S.L.27200mm (監視・記録は中央制御室にて行う。)</td> <td>変更なし</td> <td>半導体式</td> <td>10⁻⁴~1mSv/h</td> <td>10⁻⁴~1mSv/h**</td> <td>原子伊建屋 T.M.S.L.27200mm (監視・記録は中央制御室にて行う。)</td> </tr> </tbody> </table>	変更前					変更後					名称	検出器の種類	計測範囲	警報動作範囲	取付箇所	名称	検出器の種類	計測範囲	警報動作範囲	取付箇所	主蒸気管放射線モニタ	電離箱*	10 ⁻¹² ~10 ⁻⁶ A	10 ⁻¹² ~10 ⁻⁶ A*	原子伊建屋 T.M.S.L.23500mm (監視・記録は中央制御室にて行う。)	チ(1) (iii) -⑦a	電離箱*	10 ⁻¹² ~10 ⁻⁶ A	10 ⁻¹² ~10 ⁻⁶ A*	原子伊建屋 T.M.S.L.23500mm (監視・記録は中央制御室にて行う。)	格納容器内蒸気放射線モニタ (R.W.) *	電離箱**	10 ⁻² ~10 ⁵ Sv/h	10 ⁻² ~10 ⁵ Sv/h**	原子伊建屋 T.M.S.L.12300mm (監視・記録は中央制御室にて行う。)	変更なし	電離箱**	10 ⁻² ~10 ⁵ Sv/h	10 ⁻² ~10 ⁵ Sv/h**	原子伊建屋 T.M.S.L.12300mm (監視・記録は中央制御室にて行う。記録は5号機原子伊建屋内緊急時対策所(対策本部・高気密室)にて行う。*)	格納容器内蒸気放射線モニタ (S.V.) *	電離箱**	10 ⁻² ~10 ⁵ Sv/h	10 ⁻² ~10 ⁵ Sv/h**	原子伊建屋 T.M.S.L.4800mm (監視・記録は中央制御室にて行う。)	変更なし	電離箱**	10 ⁻² ~10 ⁵ Sv/h	10 ⁻² ~10 ⁵ Sv/h**	原子伊建屋 T.M.S.L.4800mm (監視・記録は中央制御室にて行う。記録は5号機原子伊建屋内緊急時対策所(対策本部・高気密室)にて行う。*)	燃料取扱エリア排気放射線モニタ	半導体式	10 ⁻³ ~10mSv/h	10 ⁻³ ~10mSv/h**	原子伊建屋 T.M.S.L.31700mm (監視・記録は中央制御室にて行う。)	変更なし	半導体式	10 ⁻³ ~10mSv/h	10 ⁻³ ~10mSv/h**	原子伊建屋 T.M.S.L.31700mm (監視・記録は中央制御室にて行う。)	原子伊区域換気装置排気放射線モニタ	半導体式	10 ⁻⁴ ~1mSv/h	10 ⁻⁴ ~1mSv/h**	原子伊建屋 T.M.S.L.27200mm (監視・記録は中央制御室にて行う。)	変更なし	半導体式	10 ⁻⁴ ~1mSv/h	10 ⁻⁴ ~1mSv/h**	原子伊建屋 T.M.S.L.27200mm (監視・記録は中央制御室にて行う。)	変更前					変更後					名称	検出器の種類	計測範囲	警報動作範囲	取付箇所	名称	検出器の種類	計測範囲	警報動作範囲	取付箇所	格納容器内蒸気放射線モニタ (R.W.) *	電離箱**	10 ⁻² ~10 ⁵ Sv/h	10 ⁻² ~10 ⁵ Sv/h**	原子伊建屋 T.M.S.L.12300mm (監視・記録は中央制御室にて行う。)	変更なし	電離箱**	10 ⁻² ~10 ⁵ Sv/h	10 ⁻² ~10 ⁵ Sv/h**	原子伊建屋 T.M.S.L.12300mm (監視・記録は中央制御室にて行う。記録は5号機原子伊建屋内緊急時対策所(対策本部・高気密室)にて行う。*)	格納容器内蒸気放射線モニタ (S.V.) *	電離箱**	10 ⁻² ~10 ⁵ Sv/h	10 ⁻² ~10 ⁵ Sv/h**	原子伊建屋 T.M.S.L.4800mm (監視・記録は中央制御室にて行う。)	変更なし	電離箱**	10 ⁻² ~10 ⁵ Sv/h	10 ⁻² ~10 ⁵ Sv/h**	原子伊建屋 T.M.S.L.4800mm (監視・記録は中央制御室にて行う。記録は5号機原子伊建屋内緊急時対策所(対策本部・高気密室)にて行う。*)	変更前					変更後					名称	検出器の種類	計測範囲	警報動作範囲	取付箇所	名称	検出器の種類	計測範囲	警報動作範囲	取付箇所	燃料取扱エリア排気放射線モニタ	半導体式	10 ⁻³ ~10mSv/h	10 ⁻³ ~10mSv/h**	原子伊建屋 T.M.S.L.31700mm (監視・記録は中央制御室にて行う。)	変更なし	半導体式	10 ⁻³ ~10mSv/h	10 ⁻³ ~10mSv/h**	原子伊建屋 T.M.S.L.31700mm (監視・記録は中央制御室にて行う。)	原子伊区域換気装置排気放射線モニタ	半導体式	10 ⁻⁴ ~1mSv/h	10 ⁻⁴ ~1mSv/h**	原子伊建屋 T.M.S.L.27200mm (監視・記録は中央制御室にて行う。)	変更なし	半導体式	10 ⁻⁴ ~1mSv/h	10 ⁻⁴ ~1mSv/h**	原子伊建屋 T.M.S.L.27200mm (監視・記録は中央制御室にて行う。)	<p>変更なし</p> <p>変更なし</p> <p>変更なし</p> <p>変更なし</p> <p>変更なし</p> <p>変更なし</p>	<p>変更なし</p> <p>変更なし</p> <p>変更なし</p> <p>変更なし</p> <p>変更なし</p> <p>変更なし</p>
変更前					変更後																																																																																																																																																					
名称	検出器の種類	計測範囲	警報動作範囲	取付箇所	名称	検出器の種類	計測範囲	警報動作範囲	取付箇所																																																																																																																																																	
主蒸気管放射線モニタ	電離箱*	10 ⁻¹² ~10 ⁻⁶ A	10 ⁻¹² ~10 ⁻⁶ A*	原子伊建屋 T.M.S.L.23500mm (監視・記録は中央制御室にて行う。)	チ(1) (iii) -⑦a	電離箱*	10 ⁻¹² ~10 ⁻⁶ A	10 ⁻¹² ~10 ⁻⁶ A*	原子伊建屋 T.M.S.L.23500mm (監視・記録は中央制御室にて行う。)																																																																																																																																																	
格納容器内蒸気放射線モニタ (R.W.) *	電離箱**	10 ⁻² ~10 ⁵ Sv/h	10 ⁻² ~10 ⁵ Sv/h**	原子伊建屋 T.M.S.L.12300mm (監視・記録は中央制御室にて行う。)	変更なし	電離箱**	10 ⁻² ~10 ⁵ Sv/h	10 ⁻² ~10 ⁵ Sv/h**	原子伊建屋 T.M.S.L.12300mm (監視・記録は中央制御室にて行う。記録は5号機原子伊建屋内緊急時対策所(対策本部・高気密室)にて行う。*)																																																																																																																																																	
格納容器内蒸気放射線モニタ (S.V.) *	電離箱**	10 ⁻² ~10 ⁵ Sv/h	10 ⁻² ~10 ⁵ Sv/h**	原子伊建屋 T.M.S.L.4800mm (監視・記録は中央制御室にて行う。)	変更なし	電離箱**	10 ⁻² ~10 ⁵ Sv/h	10 ⁻² ~10 ⁵ Sv/h**	原子伊建屋 T.M.S.L.4800mm (監視・記録は中央制御室にて行う。記録は5号機原子伊建屋内緊急時対策所(対策本部・高気密室)にて行う。*)																																																																																																																																																	
燃料取扱エリア排気放射線モニタ	半導体式	10 ⁻³ ~10mSv/h	10 ⁻³ ~10mSv/h**	原子伊建屋 T.M.S.L.31700mm (監視・記録は中央制御室にて行う。)	変更なし	半導体式	10 ⁻³ ~10mSv/h	10 ⁻³ ~10mSv/h**	原子伊建屋 T.M.S.L.31700mm (監視・記録は中央制御室にて行う。)																																																																																																																																																	
原子伊区域換気装置排気放射線モニタ	半導体式	10 ⁻⁴ ~1mSv/h	10 ⁻⁴ ~1mSv/h**	原子伊建屋 T.M.S.L.27200mm (監視・記録は中央制御室にて行う。)	変更なし	半導体式	10 ⁻⁴ ~1mSv/h	10 ⁻⁴ ~1mSv/h**	原子伊建屋 T.M.S.L.27200mm (監視・記録は中央制御室にて行う。)																																																																																																																																																	
変更前					変更後																																																																																																																																																					
名称	検出器の種類	計測範囲	警報動作範囲	取付箇所	名称	検出器の種類	計測範囲	警報動作範囲	取付箇所																																																																																																																																																	
格納容器内蒸気放射線モニタ (R.W.) *	電離箱**	10 ⁻² ~10 ⁵ Sv/h	10 ⁻² ~10 ⁵ Sv/h**	原子伊建屋 T.M.S.L.12300mm (監視・記録は中央制御室にて行う。)	変更なし	電離箱**	10 ⁻² ~10 ⁵ Sv/h	10 ⁻² ~10 ⁵ Sv/h**	原子伊建屋 T.M.S.L.12300mm (監視・記録は中央制御室にて行う。記録は5号機原子伊建屋内緊急時対策所(対策本部・高気密室)にて行う。*)																																																																																																																																																	
格納容器内蒸気放射線モニタ (S.V.) *	電離箱**	10 ⁻² ~10 ⁵ Sv/h	10 ⁻² ~10 ⁵ Sv/h**	原子伊建屋 T.M.S.L.4800mm (監視・記録は中央制御室にて行う。)	変更なし	電離箱**	10 ⁻² ~10 ⁵ Sv/h	10 ⁻² ~10 ⁵ Sv/h**	原子伊建屋 T.M.S.L.4800mm (監視・記録は中央制御室にて行う。記録は5号機原子伊建屋内緊急時対策所(対策本部・高気密室)にて行う。*)																																																																																																																																																	
変更前					変更後																																																																																																																																																					
名称	検出器の種類	計測範囲	警報動作範囲	取付箇所	名称	検出器の種類	計測範囲	警報動作範囲	取付箇所																																																																																																																																																	
燃料取扱エリア排気放射線モニタ	半導体式	10 ⁻³ ~10mSv/h	10 ⁻³ ~10mSv/h**	原子伊建屋 T.M.S.L.31700mm (監視・記録は中央制御室にて行う。)	変更なし	半導体式	10 ⁻³ ~10mSv/h	10 ⁻³ ~10mSv/h**	原子伊建屋 T.M.S.L.31700mm (監視・記録は中央制御室にて行う。)																																																																																																																																																	
原子伊区域換気装置排気放射線モニタ	半導体式	10 ⁻⁴ ~1mSv/h	10 ⁻⁴ ~1mSv/h**	原子伊建屋 T.M.S.L.27200mm (監視・記録は中央制御室にて行う。)	変更なし	半導体式	10 ⁻⁴ ~1mSv/h	10 ⁻⁴ ~1mSv/h**	原子伊建屋 T.M.S.L.27200mm (監視・記録は中央制御室にて行う。)																																																																																																																																																	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八） 該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考																																
		<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="4">変更前</th> <th colspan="4">変更後</th> </tr> <tr> <th>名称</th> <th>検出器の種類</th> <th>計測範囲</th> <th>警報動作範囲</th> <th>名称</th> <th>検出器の種類</th> <th>計測範囲</th> <th>警報動作範囲</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>チ(1)(iii)-⑥b</td> <td>半導体式</td> <td>10⁻⁴~1mSv/h</td> <td>10⁻⁴~1mSv/h*1</td> <td>タービン建屋 T.M.S.L.4900mm (監視・記録は中央制御室にて行う。)</td> <td>タービン建屋 T.M.S.L.4900mm (監視・記録は中央制御室にて行う。)</td> <td>2*2</td> <td>2*2</td> </tr> <tr> <td>チ(1)(iii)-⑦b</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>タービン建屋 T.M.S.L.4900mm (監視・記録は中央制御室にて行う。)</td> <td>タービン建屋 T.M.S.L.4900mm (監視・記録は中央制御室にて行う。)</td> <td>2*2</td> <td>2*2</td> </tr> </tbody> </table>	変更前				変更後				名称	検出器の種類	計測範囲	警報動作範囲	名称	検出器の種類	計測範囲	警報動作範囲	チ(1)(iii)-⑥b	半導体式	10 ⁻⁴ ~1mSv/h	10 ⁻⁴ ~1mSv/h*1	タービン建屋 T.M.S.L.4900mm (監視・記録は中央制御室にて行う。)	タービン建屋 T.M.S.L.4900mm (監視・記録は中央制御室にて行う。)	2*2	2*2	チ(1)(iii)-⑦b				タービン建屋 T.M.S.L.4900mm (監視・記録は中央制御室にて行う。)	タービン建屋 T.M.S.L.4900mm (監視・記録は中央制御室にて行う。)	2*2	2*2	<p>変更なし</p> <p>変更なし</p> <p>変更なし</p> <p>変更なし</p> <p>変更なし</p> <p>変更なし</p>	<p>変更なし</p> <p>変更なし</p> <p>変更なし</p> <p>変更なし</p> <p>変更なし</p> <p>変更なし</p>
変更前				変更後																																
名称	検出器の種類	計測範囲	警報動作範囲	名称	検出器の種類	計測範囲	警報動作範囲																													
チ(1)(iii)-⑥b	半導体式	10 ⁻⁴ ~1mSv/h	10 ⁻⁴ ~1mSv/h*1	タービン建屋 T.M.S.L.4900mm (監視・記録は中央制御室にて行う。)	タービン建屋 T.M.S.L.4900mm (監視・記録は中央制御室にて行う。)	2*2	2*2																													
チ(1)(iii)-⑦b				タービン建屋 T.M.S.L.4900mm (監視・記録は中央制御室にて行う。)	タービン建屋 T.M.S.L.4900mm (監視・記録は中央制御室にて行う。)	2*2	2*2																													
<p>整合性</p> <ul style="list-style-type: none"> 設計及び工事の計画のチ(1)(iii)-⑥a及びチ(1)(iii)-⑥bは、設置変更許可申請書（本文（五号））のチ(1)(iii)-⑥を具体的に記載しており、整合している。 設計及び工事の計画のチ(1)(iii)-⑦a及びチ(1)(iii)-⑦bは、設置変更許可申請書（本文（五号））のチ(1)(iii)-⑦を具体的に記載しており、整合している。 <p>なお、設置変更許可申請書（本文（五号））において許可を受けた「プロセスモニタリング設備」のうち「主蒸気管放射線モニタ」、「格納容器内雰囲気放射線モニタ（D/W）」、「格納容器内雰囲気放射線モニタ（S/C）」、「燃料取替エリア排気放射線モニタ」、「原子炉区域換気空調系排気放射線モニタ」、「気体廃棄物処理系設備エリア排気放射線モニタ」以外のプロセスモニタリング設備については、新規制基準対応設備を申請範囲としている本設工認の対象外である。</p>																																				

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八） 該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考																																																																
<p>チ(1)(iii)-⑧ エリア放射線モニタリング設備 チ(1)(iii)-⑨ 一式</p>	<p>(3) 放射線監視設備 1式</p> <p>チ(1)(iii)-⑧</p>	<p>二 使用済燃料貯蔵エリアの線量当量率を計測する装置の名称、検出器の種類、計測範囲、取付箇所（常設及び可搬型の別を記載し、装置・記録の場所を付記すること。）及び個数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="4">変更前</th> <th colspan="4">変更後</th> </tr> <tr> <th>名称</th> <th>検出器の種類</th> <th>計測範囲</th> <th>警報動作範囲</th> <th>名称</th> <th>検出器の種類</th> <th>計測範囲</th> <th>警報動作範囲</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>R/B 4F北西側 エリア放射線 モニタ*</td> <td>半導体式</td> <td>10⁻⁴~1μSv/h</td> <td>10⁻⁴~1μSv/h*</td> <td>原子炉建屋 T.M.S.L.31700mm (監視・記録は中 央制御室にて行 う。)</td> <td>半導体式</td> <td>10⁻⁴~1μSv/h</td> <td>10⁻⁴~1μSv/h*</td> </tr> <tr> <td>原子炉区域(A) 放射線モニタ*</td> <td>半導体式</td> <td>10⁻⁴~1μSv/h</td> <td>10⁻⁴~1μSv/h*</td> <td>原子炉建屋 T.M.S.L.31700mm (監視・記録は中 央制御室にて行 う。)</td> <td>半導体式</td> <td>10⁻⁴~1μSv/h</td> <td>10⁻⁴~1μSv/h*</td> </tr> <tr> <td>R/B 4F南東側 エリア放射線 モニタ*</td> <td>半導体式</td> <td>10⁻⁴~1μSv/h</td> <td>10⁻⁴~1μSv/h*</td> <td>原子炉建屋 T.M.S.L.31700mm (監視・記録は中 央制御室にて行 う。)</td> <td>半導体式</td> <td>10⁻⁴~1μSv/h</td> <td>10⁻⁴~1μSv/h*</td> </tr> <tr> <td>燃料貯蔵プール エリア(A) 放射線モニタ*</td> <td>半導体式</td> <td>1~10μSv/h</td> <td>1~10μSv/h*</td> <td>原子炉建屋 T.M.S.L.31700mm (監視・記録は中 央制御室にて行 う。)</td> <td>半導体式</td> <td>1~10μSv/h</td> <td>1~10μSv/h*</td> </tr> <tr> <td>燃料貯蔵プール エリア(B) 放射線モニタ*</td> <td>半導体式</td> <td>1~10μSv/h</td> <td>1~10μSv/h*</td> <td>原子炉建屋 T.M.S.L.31700mm (監視・記録は中 央制御室にて行 う。)</td> <td>半導体式</td> <td>1~10μSv/h</td> <td>1~10μSv/h*</td> </tr> <tr> <td>原子炉区域(B) 放射線モニタ*</td> <td>半導体式</td> <td>1~10μSv/h</td> <td>1~10μSv/h*</td> <td>原子炉建屋 T.M.S.L.31700mm (監視・記録は中 央制御室にて行 う。)</td> <td>半導体式</td> <td>1~10μSv/h</td> <td>1~10μSv/h*</td> </tr> </tbody> </table>	変更前				変更後				名称	検出器の種類	計測範囲	警報動作範囲	名称	検出器の種類	計測範囲	警報動作範囲	R/B 4F北西側 エリア放射線 モニタ*	半導体式	10 ⁻⁴ ~1μSv/h	10 ⁻⁴ ~1μSv/h*	原子炉建屋 T.M.S.L.31700mm (監視・記録は中 央制御室にて行 う。)	半導体式	10 ⁻⁴ ~1μSv/h	10 ⁻⁴ ~1μSv/h*	原子炉区域(A) 放射線モニタ*	半導体式	10 ⁻⁴ ~1μSv/h	10 ⁻⁴ ~1μSv/h*	原子炉建屋 T.M.S.L.31700mm (監視・記録は中 央制御室にて行 う。)	半導体式	10 ⁻⁴ ~1μSv/h	10 ⁻⁴ ~1μSv/h*	R/B 4F南東側 エリア放射線 モニタ*	半導体式	10 ⁻⁴ ~1μSv/h	10 ⁻⁴ ~1μSv/h*	原子炉建屋 T.M.S.L.31700mm (監視・記録は中 央制御室にて行 う。)	半導体式	10 ⁻⁴ ~1μSv/h	10 ⁻⁴ ~1μSv/h*	燃料貯蔵プール エリア(A) 放射線モニタ*	半導体式	1~10μSv/h	1~10μSv/h*	原子炉建屋 T.M.S.L.31700mm (監視・記録は中 央制御室にて行 う。)	半導体式	1~10μSv/h	1~10μSv/h*	燃料貯蔵プール エリア(B) 放射線モニタ*	半導体式	1~10μSv/h	1~10μSv/h*	原子炉建屋 T.M.S.L.31700mm (監視・記録は中 央制御室にて行 う。)	半導体式	1~10μSv/h	1~10μSv/h*	原子炉区域(B) 放射線モニタ*	半導体式	1~10μSv/h	1~10μSv/h*	原子炉建屋 T.M.S.L.31700mm (監視・記録は中 央制御室にて行 う。)	半導体式	1~10μSv/h	1~10μSv/h*	<p>チ(1)(iii)-⑨</p>	<p>変更なし</p>
変更前				変更後																																																																
名称	検出器の種類	計測範囲	警報動作範囲	名称	検出器の種類	計測範囲	警報動作範囲																																																													
R/B 4F北西側 エリア放射線 モニタ*	半導体式	10 ⁻⁴ ~1μSv/h	10 ⁻⁴ ~1μSv/h*	原子炉建屋 T.M.S.L.31700mm (監視・記録は中 央制御室にて行 う。)	半導体式	10 ⁻⁴ ~1μSv/h	10 ⁻⁴ ~1μSv/h*																																																													
原子炉区域(A) 放射線モニタ*	半導体式	10 ⁻⁴ ~1μSv/h	10 ⁻⁴ ~1μSv/h*	原子炉建屋 T.M.S.L.31700mm (監視・記録は中 央制御室にて行 う。)	半導体式	10 ⁻⁴ ~1μSv/h	10 ⁻⁴ ~1μSv/h*																																																													
R/B 4F南東側 エリア放射線 モニタ*	半導体式	10 ⁻⁴ ~1μSv/h	10 ⁻⁴ ~1μSv/h*	原子炉建屋 T.M.S.L.31700mm (監視・記録は中 央制御室にて行 う。)	半導体式	10 ⁻⁴ ~1μSv/h	10 ⁻⁴ ~1μSv/h*																																																													
燃料貯蔵プール エリア(A) 放射線モニタ*	半導体式	1~10μSv/h	1~10μSv/h*	原子炉建屋 T.M.S.L.31700mm (監視・記録は中 央制御室にて行 う。)	半導体式	1~10μSv/h	1~10μSv/h*																																																													
燃料貯蔵プール エリア(B) 放射線モニタ*	半導体式	1~10μSv/h	1~10μSv/h*	原子炉建屋 T.M.S.L.31700mm (監視・記録は中 央制御室にて行 う。)	半導体式	1~10μSv/h	1~10μSv/h*																																																													
原子炉区域(B) 放射線モニタ*	半導体式	1~10μSv/h	1~10μSv/h*	原子炉建屋 T.M.S.L.31700mm (監視・記録は中 央制御室にて行 う。)	半導体式	1~10μSv/h	1~10μSv/h*																																																													
<p>整合性</p> <ul style="list-style-type: none"> 設計及び工事の計画のチ(1)(iii)-⑧は、設置変更許可申請書（本文（五号））のチ(1)(iii)-⑧を具体的に記載しており、整合している。 設計及び工事の計画のチ(1)(iii)-⑨は、設置変更許可申請書（本文（五号））のチ(1)(iii)-⑨を具体的に記載しており、整合している。 <p>なお、設置変更許可申請書（本文（五号））において許可を受けた「エリアモニタリング設備」のうち「R/B 4F北西側エリア放射線モニタ」、 「原子炉区域（A）放射線モニタ」、「R/B 4F南東側エリア放射線モニタ」、「燃料貯蔵プールエリア（A）放射線モニタ」、「燃料貯蔵プールエリ ア（B）放射線モニタ」、「原子炉区域（B）放射線モニタ」以外のエリアモニタリング設備については、新規基準対応設備を申請範囲として いる本設工認の対象外である。</p>																																																																				

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八） 該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>チ(1)(iii)-⑩放射線サーベイ機器(1号, 2号, 3号, 4号, 5号, 6号及び7号炉共用, 一部既設) 一式</p>	<p>(3) 放射線監視設備 1式</p>	<p>(4) 移動式周辺モニタリング設備の名称, 検出器の種類, 計測範囲, 個数及び取付箇所</p> <p>以下の設備は, 7号機設備であり, 6号機及び7号機共用(7号機で申請済)である。 可搬型モニタリングポスト(7号機設備, 6,7号機共用) 電離箱サーベイメータ(7号機設備, 6,7号機共用) GM汚染サーベイメータ(7号機設備, 6,7号機共用) ZnSシンチレーションサーベイメータ(7号機設備, 6,7号機共用) NaIシンチレーションサーベイメータ(7号機設備, 6,7号機共用)</p>	<p>チ(1)(iii)-⑩</p> <p>設置変更許可申請書（本文（五号））のチ(1)(iii)-⑩の「放射線サーベイ機器(1号, 2号, 3号, 4号, 5号, 6号及び7号炉共用, 一部既設) 一式」は設計及び工事の計画ではチ(1)(iii)-⑩の重大事故等時に使用する放射線サーベイ機器の記載と同義であり, 整合している。なお, 設計基準事故のみに使用する放射線サーベイ機器は, 新規制基準対応設備を申請範囲としている本設工認の対象外である。</p>	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八） 該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考																																																
<p>[常設重大事故等対処設備]</p> <p>使用済燃料貯蔵プール放射線モニタ（高レンジ・低レンジ）<u>チ(1) (iii) -⑪</u>（「使用済燃料プールの冷却等のための設備」及び「計測制御系統施設」と兼用）</p> <p>高レンジ 個数 <u>1</u></p> <p>低レンジ 個数 <u>1</u></p> <p><u>チ(1) (iii) -⑫</u>格納容器雰囲気放射線モニタ（D/W） <u>チ(1) (iii) -⑬</u>（「計測制御系統施設」と兼用）</p> <p>個数 <u>2</u></p> <p><u>チ(1) (iii) -⑭</u>格納容器雰囲気放射線モニタ（S/C） <u>チ(1) (iii) -⑬</u>（「計測制御系統施設」と兼用）</p>	<p>第 8.1-2 表 放射線管理設備（重大事故等時）の主要機器仕様</p> <p>(3) エリア放射線モニタリング設備</p> <p>a. <u>使用済燃料貯蔵プール放射線モニタ（高レンジ・低レンジ）</u></p> <p>兼用する設備は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> 使用済燃料プールの冷却等のための設備 計装設備（重大事故等対処設備） <p>高レンジ 個数 <u>1</u> 計測範囲 $10^1 \sim 10^8 \text{mSv/h}$</p> <p>低レンジ 個数 <u>1</u> 計測範囲 7号炉 $10^{-3} \sim 10^4 \text{mSv/h}$</p> <p>(2) プロセス放射線モニタリング設備</p> <p>a. <u>格納容器雰囲気放射線モニタ（D/W）</u></p> <p>兼用する設備は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> 原子炉プラント・プロセス計装 計装設備（重大事故等対処設備） 放射線管理設備（通常運転時等） <p>個数 <u>2</u> 計測範囲 $10^{-2} \sim 10^5 \text{Sv/h}$</p> <p>b. <u>格納容器雰囲気放射線モニタ（S/C）</u></p> <p>兼用する設備は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> 原子炉プラント・プロセス計装 計装設備（重大事故等対処設備） 	<p>1 放射線管理用計測装置に係る次の事項</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-bottom: 10px;"> <thead> <tr> <th colspan="4">変更前</th> <th colspan="4">変更後</th> </tr> <tr> <th>名称</th> <th>検出器の種類</th> <th>計測範囲</th> <th>警報動作範囲</th> <th>名称</th> <th>検出器の種類</th> <th>計測範囲</th> <th>警報動作範囲</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>使用済燃料貯蔵プール放射線モニタ（低レンジ）</td> <td>電離箱</td> <td>$10^2 \sim 10^9 \text{mSv/h}$</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>使用済燃料貯蔵プール放射線モニタ（高レンジ）</td> <td>電離箱</td> <td>$10 \sim 10^6 \text{mSv/h}$</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="2">変更前</th> <th colspan="2">変更後</th> </tr> <tr> <th>名称</th> <th>検出器の種類</th> <th>計測範囲</th> <th>警報動作範囲</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>チ(1) (iii) -⑫</td> <td>電離箱*</td> <td>$10^{-2} \sim 10^5 \text{Sv/h}$</td> <td>$10^{-2} \sim 10^5 \text{Sv/h}$*</td> </tr> <tr> <td>チ(1) (iii) -⑭</td> <td>電離箱*</td> <td>$10^{-2} \sim 10^5 \text{Sv/h}$</td> <td>$10^{-2} \sim 10^5 \text{Sv/h}$*</td> </tr> </tbody> </table> <p>「使用済燃料貯蔵プール放射線モニタ（高レンジ）」及び「使用済燃料貯蔵プール放射線モニタ（低レンジ）」は、設置変更許可申請書（本文（五号））における<u>チ(1) (iii) -⑪</u>を設計及び工事の計画の「放射線管理施設」のうち「放射線管理用計測装置」に整理しており、整合している。</p> <p style="font-size: small;">* 原子炉格納容器本体内の放射性物質濃度を計測する装置の名称、検出器の種類、計測範囲、取付箇所（常設及び可搬型の別を記載し、監視・記録の場所を付記すること。）、及び個数・常設</p>	変更前				変更後				名称	検出器の種類	計測範囲	警報動作範囲	名称	検出器の種類	計測範囲	警報動作範囲					使用済燃料貯蔵プール放射線モニタ（低レンジ）	電離箱	$10^2 \sim 10^9 \text{mSv/h}$	—					使用済燃料貯蔵プール放射線モニタ（高レンジ）	電離箱	$10 \sim 10^6 \text{mSv/h}$	—	変更前		変更後		名称	検出器の種類	計測範囲	警報動作範囲	チ(1) (iii) -⑫	電離箱*	$10^{-2} \sim 10^5 \text{Sv/h}$	$10^{-2} \sim 10^5 \text{Sv/h}$ *	チ(1) (iii) -⑭	電離箱*	$10^{-2} \sim 10^5 \text{Sv/h}$	$10^{-2} \sim 10^5 \text{Sv/h}$ *	<p>整合性</p>	<p>備考</p>
変更前				変更後																																																
名称	検出器の種類	計測範囲	警報動作範囲	名称	検出器の種類	計測範囲	警報動作範囲																																													
				使用済燃料貯蔵プール放射線モニタ（低レンジ）	電離箱	$10^2 \sim 10^9 \text{mSv/h}$	—																																													
				使用済燃料貯蔵プール放射線モニタ（高レンジ）	電離箱	$10 \sim 10^6 \text{mSv/h}$	—																																													
変更前		変更後																																																		
名称	検出器の種類	計測範囲	警報動作範囲																																																	
チ(1) (iii) -⑫	電離箱*	$10^{-2} \sim 10^5 \text{Sv/h}$	$10^{-2} \sim 10^5 \text{Sv/h}$ *																																																	
チ(1) (iii) -⑭	電離箱*	$10^{-2} \sim 10^5 \text{Sv/h}$	$10^{-2} \sim 10^5 \text{Sv/h}$ *																																																	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八） 該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考																																																
<p>個数 <u>2</u></p> <p><u>フィルタ装置出口放射線モニタ</u> ④(1) (iii) -⑮a.（「計測制御系統施設」及び「水素爆発による原子炉格納容器の破損を防止するための設備」と兼用）</p> <p>個数 <u>2</u></p> <p><u>耐圧強化ベント系放射線モニタ</u> ④(1) (iii) -⑮b.（「計測制御系統施設」及び「水素爆発による原子炉格納容器の破損を防止するための設備」と兼用）</p> <p>個数 <u>2</u></p>	<p>・放射線管理設備...（通常運転時等）...</p> <p>個数 <u>2</u> 計測範囲 $10^{-2} \sim 10^5 \text{Sv/h}$</p> <p>c. <u>フィルタ装置出口放射線モニタ</u> 兼用する設備は以下のとおり。 ・計装設備...（重大事故等対処設備） ・水素爆発による原子炉格納容器の破損を防止するための設備 個数 <u>2</u> 計測範囲 $10^{-2} \sim 10^5 \text{mSv/h}$</p> <p>d. <u>耐圧強化ベント系放射線モニタ</u> 兼用する設備は以下のとおり。 ・計装設備...（重大事故等対処設備） ・水素爆発による原子炉格納容器の破損を防止するための設備 個数 <u>2</u> 計測範囲 $10^{-2} \sim 10^5 \text{mSv/h}$</p>	<p>設計及び工事の計画の④(1) (iii) -⑮は、設置変更許可申請書（本文（五号））の④(1) (iii) -⑮と同義であり、整合している。</p> <p>「格納容器内雰囲気放射線モニタ（D/W）」及び「格納容器内雰囲気放射線モニタ（S/C）」は、設置変更許可申請書（本文（五号））における④(1) (iii) -⑮を設計及び工事の計画の「放射線管理施設」のうち「放射線管理用計測装置」に整理しており、整合している。</p> <p>設計及び工事の計画の④(1) (iii) -⑮は、設置変更許可申請書（本文（五号））の④(1) (iii) -⑮と同義であり、整合している。</p> <table border="1" data-bbox="1614 1255 2813 1675"> <thead> <tr> <th colspan="6">変更前</th> <th colspan="6">変更後</th> </tr> <tr> <th>名称</th> <th>検出器の種類</th> <th>計測範囲</th> <th>警報動作範囲</th> <th>取付箇所</th> <th>個数</th> <th>名称</th> <th>検出器の種類</th> <th>計測範囲</th> <th>警報動作範囲</th> <th>取付箇所</th> <th>個数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>-</td> <td></td> <td></td> <td>フィルタ装置出口放射線モニタ</td> <td>電離箱</td> <td>$10^{-2} \sim 10^5 \text{mSv/h}$</td> <td>-</td> <td>原子炉建屋 T.M.S.L.35200mm（監視は中央制御室にて行う。記録は5号機原子炉建屋内緊急時対策所（対策本部・高気密室）にて行う。）</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>-</td> <td></td> <td></td> <td>耐圧強化ベント系放射線モニタ</td> <td>電離箱</td> <td>$10^{-2} \sim 10^5 \text{mSv/h}$</td> <td>-</td> <td>原子炉建屋 T.M.S.L.31700mm（監視は中央制御室にて行う。記録は5号機原子炉建屋内緊急時対策所（対策本部・高気密室）にて行う。）</td> <td>2</td> </tr> </tbody> </table>	変更前						変更後						名称	検出器の種類	計測範囲	警報動作範囲	取付箇所	個数	名称	検出器の種類	計測範囲	警報動作範囲	取付箇所	個数				-			フィルタ装置出口放射線モニタ	電離箱	$10^{-2} \sim 10^5 \text{mSv/h}$	-	原子炉建屋 T.M.S.L.35200mm（監視は中央制御室にて行う。記録は5号機原子炉建屋内緊急時対策所（対策本部・高気密室）にて行う。）	2				-			耐圧強化ベント系放射線モニタ	電離箱	$10^{-2} \sim 10^5 \text{mSv/h}$	-	原子炉建屋 T.M.S.L.31700mm（監視は中央制御室にて行う。記録は5号機原子炉建屋内緊急時対策所（対策本部・高気密室）にて行う。）	2	<p>設計及び工事の計画の④(1) (iii) -⑮は、設置変更許可申請書（本文（五号））の④(1) (iii) -⑮と同義であり、整合している。</p> <p>「格納容器内雰囲気放射線モニタ（D/W）」及び「格納容器内雰囲気放射線モニタ（S/C）」は、設置変更許可申請書（本文（五号））における④(1) (iii) -⑮を設計及び工事の計画の「放射線管理施設」のうち「放射線管理用計測装置」に整理しており、整合している。</p> <p>設計及び工事の計画の④(1) (iii) -⑮は、設置変更許可申請書（本文（五号））の④(1) (iii) -⑮と同義であり、整合している。</p>	<p>備考</p>
変更前						変更後																																														
名称	検出器の種類	計測範囲	警報動作範囲	取付箇所	個数	名称	検出器の種類	計測範囲	警報動作範囲	取付箇所	個数																																									
			-			フィルタ装置出口放射線モニタ	電離箱	$10^{-2} \sim 10^5 \text{mSv/h}$	-	原子炉建屋 T.M.S.L.35200mm（監視は中央制御室にて行う。記録は5号機原子炉建屋内緊急時対策所（対策本部・高気密室）にて行う。）	2																																									
			-			耐圧強化ベント系放射線モニタ	電離箱	$10^{-2} \sim 10^5 \text{mSv/h}$	-	原子炉建屋 T.M.S.L.31700mm（監視は中央制御室にて行う。記録は5号機原子炉建屋内緊急時対策所（対策本部・高気密室）にて行う。）	2																																									

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八） 該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>[可搬型重大事故等対処設備]</p> <p>チ(1)(iii)-⑩a 可搬型エリアモニタ（対策本部）（6号及び7号炉共用）</p> <p>チ(1)(iii)-⑩a（「緊急時対策所」と兼用）</p> <p>個数 チ(1)(iii)-⑩a1（予備1※）</p> <p>チ(1)(iii)-⑩b 可搬型エリアモニタ（待機場所）（6号及び7号炉共用）</p> <p>チ(1)(iii)-⑩b（「緊急時対策所」と兼用）</p> <p>個数 チ(1)(iii)-⑩b1（予備1※）</p> <p>※「対策本部」と「待機場所」で兼用</p> <p>(iv) 個人管理用測定設備及び測定機器（1号、2号、3号、4号、5号、6号及び7号炉共用、一部既設）</p> <p>放射線業務従事者等の被ばく及び内部被ばくによる線量評価のため個人管理計測器及びホール・ボディ・カウンタを設ける。</p> <p>(v) 遮蔽設備</p>	<p>(3) エリア放射線モニタリング設備</p> <p>b. 可搬型エリアモニタ（対策本部）（6号及び7号炉共用）</p> <p>兼用する設備は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・緊急時対策所（重大事故等時） <p>種類 半導体</p> <p>計測範囲 0.001～99.9mSv/h</p> <p>個数 1（予備1※1）</p> <p>※1 可搬型エリアモニタ（待機場所）と一部兼用</p> <p>c. 可搬型エリアモニタ（待機場所）（6号及び7号炉共用）</p> <p>兼用する設備は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・緊急時対策所（重大事故等時） <p>種類 半導体</p> <p>計測範囲 0.001～99.9mSv/h</p> <p>個数 1（予備1※2）</p> <p>※2 可搬型エリアモニタ（対策本部）と一部兼用</p> <p>8.1.1.4.4 個人管理用測定設備及び測定機器（1号、2号、3号、4号、5号、6号及び7号炉共用、一部既設）</p> <p>個人の線量管理のため、外部被ばくによる線量当量を測定するフィルム・バッジ、警報付デジタル線量計等と、内部被ばくを評価するためのホール・ボディ・カウンタ等を備える。</p> <p>1. 安全設計</p>	<p>(2) エリアモニタリング設備に係る次の事項</p> <p>ハ 緊急時対策所の線量当量率を計測する装置の名称、検出器の種類、計測範囲、取付箇所（常設及び可搬型の別を記載し、監視・記録の場所を付記すること。）及び個数</p> <p>・可搬型</p> <p>以下の設備は、7号機設備であり、6号機及び7号機共用（7号機で申請済）である。</p> <p>可搬型エリアモニタ（7号機設備、6、7号機共用）</p> <p>チ(1)(iii)-⑩</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>整合性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・設計及び工事の計画のチ(1)(iii)-⑩は、設置変更許可申請書（本文（五号））のチ(1)(iii)-⑩a及びチ(1)(iii)-⑩bと同義であり、整合している。 ・「可搬型エリアモニタ」は、設置変更許可申請書（本文（五号））におけるチ(1)(iii)-⑩a及びチ(1)(iii)-⑩bを設計及び工事の計画の「放射線管理施設」のうち「放射線管理用計測装置」に整理しており、整合している。 ・設計及び工事の計画のチ(1)(iii)-⑩は、6、7号機共用の設計として7号機で整理しており、この内容は整合している。 </div> <p>【放射線管理施設】</p>	<p>びチ(1)(iii)-⑩bを設計及び工事の計画の「放射線管理施設」のうち「放射線管理用計測装置」に整理しており、整合している。</p> <p>設置変更許可申請書（本文（五号））において許可を受けた「個人管理計測器」及び「ホール・ボディ・カウンタ」は、新規制基準対応設備を申請範囲としている本設工認の対象外である。</p>	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八） 該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>放射線業務従事者等の$\chi(1)(v)-①$被ばく線量を低減するため、遮蔽設備を設ける。</p> <p>a. 中央制御室遮蔽</p> <p>$\chi(1)(v)a.-①$中央制御室遮蔽は、原子炉冷却材喪失等の設計基準事故時に、中央制御室にとどまり必要な操作、措置を行う運転員が過度の被ばくを受けないよう施設する。また、運転員の勤務形態を考慮し、事故後30日間において、運転員が中央制御室に入り、とどまっても、中央制御室遮蔽を透過する放射線による線量、中央制御</p>	<p>1.10 発電用原子炉設置変更許可申請に係る安全設計の方針</p> <p>1.10.2 発電用原子炉設置変更許可申請（平成25年9月27日申請）に係る実用発電用原子炉及びその附属施設の位置、構造及び設備の基準に関する規則への適合<中略></p> <p>1. 本原子炉施設は、「実用発電用原子炉の設置、運転等に関する規則」に基づいて管理区域を定めるとともに通常運転時、定期検査時等において放射線業務従事者が受ける線量当量が「実用発電用原子炉の設置、運転等に関する規則の規定に基づく線量当量限度等を定める告示」に定められた限度を超えないようにし、不要被ばくを防止するような遮蔽及び機器の配置を行う。</p> <p>なお、遮蔽設計に当たっては、放射線業務従事者の立入り頻度、滞在時間等を考慮して外部放射線に係る基準線量当量率を設け、これを満足するようにする。</p> <p>8.3 遮蔽設備</p> <p>8.3.4 主要設備</p> <p>8.3.4.5 中央制御室遮蔽</p> <p>(1) 通常運転時等</p> <p>中央制御室遮蔽は、コントロール建屋内に設置し、原子炉冷却材喪失等の設計基準事故時に、中央制御室内にとどまり必要な操作、措置を行う運転員が過度の被ばくを受けないよう施設する。また、運転員の勤務形態を考慮し、事故後30日間において、運転員が中央制御室に入り、とどまっても、中央制御室遮蔽を透過する放射線</p>	<p>(基本設計方針)</p> <p>第2章 個別項目</p> <p>2. 換気設備、生体遮蔽装置</p> <p>2.3 生体遮蔽装置</p> <p>設計基準対象施設は、通常運転時において発電用原子炉施設からの直接ガンマ線及びスカイシャインガンマ線による発電所周辺の空間線量率が、放射線業務従事者等の$\chi(1)(v)-①$放射線障害を防止するために必要な生体遮蔽等を適切に設置すること及び発電用原子炉施設と周辺監視区域境界までの距離とあいまって、発電所周辺の空間線量率を合理的に達成できる限り低減し、周辺監視区域外における線量限度に比べ十分に下回る、空気カーマで年間$50\mu\text{Gy}$を超えないような遮蔽設計とする。</p> <p>発電所内における外部放射線による放射線障害を防止する必要がある場所には、通常運転時の放射線業務従事者の被ばく線量が適切な作業管理とあいまって、「核原料物質又は核燃料物質の製錬の事業に関する規則等の規定に基づく線量限度等を定める告示」を満足できる遮蔽設計とする。</p> <p><中略></p> <p>2.1 中央制御室及び緊急時対策所の居住性を確保するための防護措置</p> <p>$\chi(1)(v)a.-①$中央制御室及びこれに連絡する通路並びに運転員その他の従事者が中央制御室に出入りするための区域は、原子炉冷却材喪失等の設計基準事故時に、中央制御室内にとどまり必要な操作及び措置を行う運転員が過度の被ばくを受けないよう施設し、運転員の勤務形態を考慮し、事故後30日間において、運</p>	<p>設計及び工事の計画の$\chi(1)(v)-①$は、設置変更許可申請書（本文（五号））の$\chi(1)(v)-①$と同義であり、整合している。</p> <p>設計及び工事の計画の$\chi(1)(v)a.-①$は、設置変更許可申請書（本文（五号））の$\chi(1)(v)a.-①$を具体的に記載しており、整合している。</p>	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八） 該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>室に侵入した外気による線量及び入退域時の線量が、中央制御室換気空調系等の機能とあいまって、100mSvを下回るよう設計する。</p> <p>炉心の著しい損傷が発生した場合においても中央制御室に運転員がとどまる^{チ(1)(v)a. -②}ために必要な遮蔽設備として、中央制御室遮蔽を設ける。</p>	<p>による線量、中央制御室に侵入した外気による線量及び入退域時の線量が、中央制御室換気空調系等の機能とあいまって、「実用発電用原子炉及びその附属施設の技術基準に関する規則」及び「実用発電用原子炉及びその附属施設の技術基準に関する規則の解釈」に示される100mSvを下回る遮蔽とする。</p> <p>(2) 重大事故等時</p> <p>炉心の著しい損傷が発生した場合においても中央制御室に運転員がとどまるために必要な遮蔽設備として、中央制御室遮蔽を設ける。中央制御室遮蔽については、「6.10 制御室」に記載する。</p>	<p>転員が中央制御室に入り、とどまっても、中央制御室遮蔽（「7号機設備，6,7号機共用」（以下同じ。））を透過する放射線による線量、中央制御室に侵入した外気による線量及び入退域時の線量が、中央制御室の気密性並びに中央制御室換気空調系、中央制御室遮蔽、二次遮蔽壁及び補助遮蔽の機能とあいまって、「原子力発電所中央制御室の居住性に係る被ばく評価手法について（内規）」に基づく被ばく評価により、「核原料物質又は核燃料物質の製錬の事業に関する規則等の規定に基づく線量限度等を定める告示」に示される100mSvを下回る設計とする。また、運転員その他の従事者が中央制御室にとどまるため、気体状の放射性物質並びに中央制御室外の火災等により発生する燃焼ガスやばい煙、有毒ガス及び降下火砕物に対する換気設備の隔離その他の適切に防護するための設備を設ける設計とする。</p> <p><中略></p> <p>2.2 換気設備</p> <p>2.2.1 中央制御室換気空調系</p> <p><中略></p> <p>中央制御室換気空調系は、地震時及び地震後においても、中央制御室の気密性とあいまって、設計上の空気の流入率を維持でき、「2.1 中央制御室及び緊急時対策所の居住性を確保するための防護措置」に示す居住性に係る判断基準を満足する設計とする。</p> <p><中略></p> <p>2.1 中央制御室及び緊急時対策所の居住性を確保するための防護措置</p> <p><中略></p> <p>炉心の著しい損傷が発生した場合においても、中央制御室可搬型陽圧化空調機（ファン）（「7号機設備，6,7号機共用」（以下同じ。））、中央制御室可搬型陽圧化空調機（フィルタユニット）（「7号機設備，6,7号機共用」（以下同じ。））、中央制御室待避室陽圧化装置（空気ポンプ）（「7号機設備，6,7号機共用」（以下同じ。））、中央制御室遮蔽、中央制御室待避室遮蔽（常</p>	<p>設計及び工事の計画の^{チ(1)(v)a. -②}は、設置変更許可申請書（本文（五号））の^{チ(1)(v)a. -②}と同義であり、整合している。</p>	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八） 該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>炉心の著しい損傷後の格納容器圧力逃がし装置を作動させる場合に放出される放射性雲 <u>チ(1)(v)a. -③</u>による運転員の被ばくを低減するため、中央制御室内に中央制御室待避室を設け、中央制御室待避室には、遮蔽設備として、<u>チ(1)(v)a. -④</u>中央制御室待避室遮蔽を設ける。</p> <p>主要設備については、へ、(5)、(vi)中央制御室に記載する。</p> <p>[常設重大事故等対処設備]</p>	<p>8.3.4.6 中央制御室待避室遮蔽（6号及び7号炉共用）</p> <p>炉心の著しい損傷後の格納容器圧力逃がし装置を作動させる場合に放出される放射性雲による運転員の被ばくを低減するため、中央制御室内に中央制御室待避室を設け、中央制御室待避室には、遮蔽設備として、中央制御室待避室遮蔽を設ける。</p> <p>中央制御室待避室遮蔽については、「6.10 制御室」に記載する。</p> <p>第8.3-1表 遮蔽設備の主要機器仕様</p>	<p>設）（「7号機設備，6,7号機共用」（以下同じ。））及び中央制御室待避室遮蔽（可搬型）（「7号機設備，6,7号機共用」（以下同じ。））<u>チ(1)(v)a. -②</u>により、<u>運転員が中央制御室にとどまることができる設計とする。</u></p> <p><中略></p> <p>炉心の著しい損傷後に格納容器圧力逃がし装置を作動させる場合に放出される放射性雲 <u>チ(1)(v)a. -③a</u>通過時に、<u>運転員の被ばくを低減するため、中央制御室待避室には、遮蔽設備として、中央制御室遮蔽、<u>チ(1)(v)a. -④</u>中央制御室待避室遮蔽（常設）及び中央制御室待避室遮蔽（可搬型）を設ける設計とする。</u>中央制御室待避室は、中央制御室待避室陽圧化装置（空気ポンペ）で陽圧化することにより、放射性物質が中央制御室待避室に流入することを一定時間完全に防ぐことができる設計とする。</p> <p><中略></p> <p>【計測制御系統施設】 （要目表） 発電用原子炉の運転を管理するための制御装置 2 中央制御室機能及び中央制御室外原子炉停止機能 1. 中央制御室機能 1.4 居住性の確保</p> <p>炉心の著しい損傷後に格納容器圧力逃がし装置を作動させる場合に放出される放射性雲 <u>チ(1)(v)a. -③b</u>通過時に、<u>運転員の被ばくを低減するため、中央制御室内に中央制御室待避室（「7号機設備，6,7号機共用」（以下同じ。））を設ける設計とする。</u></p> <p>【放射線管理施設】 （要目表） 3 生体遮蔽装置の名称，種類，主要寸法，冷却方法</p>	<p>設計及び工事の計画の <u>チ(1)(v)a. -③a</u>及び <u>チ(1)(v)a. -③b</u>は、設置変更許可申請書（本文（五号））の <u>チ(1)(v)a. -③</u>と同義であり、整合している。</p> <p>設計及び工事の計画の <u>チ(1)(v)a. -④</u>は、設置変更許可申請書（本文（五号））の <u>チ(1)(v)a. -④</u>を具体的に記載しており、整合している。</p> <p>設置変更許可申請書（本文（五号））「へ、(5)、(vi)中央制御室」に示す。</p>	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八） 該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>中央制御室遮蔽（6号及び7号炉共用）</p> <p>チ(1)(v)a.-⑤（「中央制御室」と兼用）</p> <p>チ(1)(v)a.-⑥一式</p>	<p>(4) 中央制御室遮蔽（6号及び7号炉共用）</p> <p>兼用する設備は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中央制御室（通常運転時等） ・中央制御室（重大事故等時） <p>厚さ <input type="text"/> mm 以上</p> <p>材料 コンクリート</p> <p>8.3 遮蔽設備</p> <p>8.3.4 主要設備</p> <p>8.3.4.5 中央制御室遮蔽（6号及び7号炉共用）</p> <p>(1) 通常運転時等</p> <p>中央制御室遮蔽は、コントロール建屋内に設置し、原子炉冷却材喪失等の設計基準事故時に、中央制御室内にとどまり必要な操作、措置を行う運転員が過度の被ばくを受けないよう施設する。また、運転員の勤務形態を考</p>	<p>及び材料</p> <p>b. 中央制御室遮蔽</p> <p>以下の設備は、7号機設備であり、6号機及び7号機共用（7号機で申請済）である。</p> <p><u>中央制御室遮蔽（7号機設備, 6, 7号機共用）</u></p> <p>【放射線管理施設】</p> <p>（基本設計方針）</p> <p>第2章 個別項目</p> <p>2. 換気設備, 生体遮蔽装置</p> <p>2.3 生体遮蔽装置</p> <p><中略></p> <p>生体遮蔽は、原子炉遮蔽壁、一次遮蔽壁、二次遮蔽壁、補助遮蔽、中央制御室遮蔽、中央制御室待避室遮蔽（常設）、中央制御室待避室遮蔽（可搬型）、5号機原子炉建屋内緊急時対策所（対策本部）遮蔽、5号機</p>	<p>「中央制御室遮蔽」は、設置変更許可申請書（本文（五号））におけるチ(1)(v)a.-⑤を設計及び工事の計画の「放射線管理施設」のうち「生体遮蔽装置」に整理しており、整合している。</p> <p>設置変更許可申請書（本文（五号））のチ(1)(v)a.-⑥は、6, 7号機共用の設計として7号機で整理しており、この内容は整合している。</p>	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八） 該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>中央制御室遮蔽は、<u>チ(1)(v)a. -⑦設計基準事故時及び重大事故等時ともに使用する。</u></p>	<p>慮し、事故後 30 日間において、運転員が中央制御室に入り、とどまっても、中央制御室遮蔽を透過する放射線による線量、中央制御室に侵入した外気による線量及び入退域時の線量が、中央制御室換気空調系等の機能とあいまって、「実用発電用原子炉及びその附属施設の技術基準に関する規則」及び「実用発電用原子炉及びその附属施設の技術基準に関する規則の解釈」に示される 100mSv を下回る遮蔽とする。</p> <p>(2) 重大事故等時 炉心の著しい損傷が発生した場合においても中央制御室に運転員がとどまるために必要な遮蔽設備として、中央制御室遮蔽を設ける。中央制御室遮蔽については、「6.10 制御室」に記載する。</p>	<p>原子炉建屋内緊急時対策所（待機場所）遮蔽及び 5 号機原子炉建屋内緊急時対策所（待機場所）室内遮蔽から構成し、想定する通常運転時、運転時の異常な過渡変化時、設計基準事故時及び重大事故等時に対し、地震時及び地震後においても、発電所周辺の空間線量率の低減及び放射線業務従事者の放射線障害防止のために、遮蔽性を維持する設計とする。生体遮蔽に開口部又は配管その他の貫通部があるものにあつては、必要に応じて次の放射線漏えい防止措置を講じた設計とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開口部を設ける場合、人が容易に接近できないような場所（通路の行き止まり部、高所等）への開口部設置 ・貫通部に対する遮蔽補強（スリーブと配管との間隙への遮蔽材の充てん等） ・線源機器と貫通孔との位置関係により、貫通孔から線源機器が直視できない措置 <p>遮蔽設計は、実効線量が 1.3mSv/3 月間を超えるおそれがある区域を管理区域としたうえで、日本電気協会「原子力発電所放射線遮へい設計規程」（J E A C 4 6 1 5）の通常運転時の遮蔽設計に基づく設計とする。</p> <p><中略></p> <p>中央制御室遮蔽、中央制御室待避室遮蔽（常設）、中央制御室待避室遮蔽（可搬型）、5 号機原子炉建屋内緊急時対策所（対策本部）遮蔽、5 号機原子炉建屋内緊急時対策所（待機場所）遮蔽、5 号機原子炉建屋内緊急時対策所（待機場所）室内遮蔽、二次遮蔽壁及び補助遮蔽は、「2.1 中央制御室及び緊急時対策所の居住性を確保するための防護措置」に示す居住性に係る判断基準を満足する設計とする。</p> <p>中央制御室遮蔽は、<u>チ(1)(v)a. -⑦設計基準事故対処設備であるとともに、重大事故等時においても使用する</u>ため、重大事故等対処設備としての基本方針に示す設計方針を適用する。ただし、多様性及び独立性並びに位置的分散を考慮すべき対象の設計基準事故対処設備はないことから、重大事故等対処設備の基本方針のうち多</p>	<p>設計及び工事の計画のチ(1)(v)a. -⑦は、設置変更許可申請書（本文（五号））のチ(1)(v)a. -⑦と同義であり、整合している。</p>	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八） 該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>中央制御室待避室遮蔽（常設）（6号及び7号炉共用） ⑧（「中央制御室」と兼用） ⑨一式</p>	<p>第 8.3-1 表 遮蔽設備の主要機器仕様 (5) 中央制御室待避室遮蔽</p> <p>a. <u>中央制御室待避室遮蔽（常設）（6号及び7号炉共用）</u> 兼用する設備は以下のとおり。 ・中央制御室（重大事故等時） 厚さ コンクリート □mm 以上 鉛 □mm 以上 材料 コンクリート及び鉛</p>	<p>様性及び独立性並びに位置的分散の設計方針は適用しない。</p> <p>3. 設備の共用 3.2 換気設備，生体遮蔽装置 3.2.2 生体遮蔽装置 <中略> 中央制御室遮蔽及び中央制御室待避室遮蔽（常設）は，重大事故等時において，隣接する6号機及び7号機の事故対応を一つの中央制御室として共用することによって，プラント状態に応じた運転員の融通により安全性が向上することから，6号機及び7号機で共用する設計とする。</p> <p>【放射線管理施設】 （要目表） 3 生体遮蔽装置の名称，種類，主要寸法，冷却方法及び材料</p> <p>c. <u>中央制御室待避室遮蔽</u></p> <p>以下の設備は，7号機設備であり，6号機及び7号機共用（7号機で申請済）である。 <u>中央制御室待避室遮蔽（常設）（7号機設備，6,7号機共用）</u> <u>中央制御室待避室遮蔽（可搬型）（7号機設備，6,7号機共用）</u></p>		

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八） 該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>[可搬型重大事故等対処設備] <u>中央制御室待避室遮蔽（可搬型）（6号及び7号炉共用）</u> <u>チ(1)(v)a. -⑩</u>（「中央制御室」と兼用） <u>チ(1)(v)a. -⑩</u>一式</p>	<p>b. <u>中央制御室待避室遮蔽（可搬型）（6号及び7号炉共用）</u> 兼用する設備は以下のとおり。 ・ <u>中央制御室（重大事故等時）</u> 厚さ 鉛 <input type="checkbox"/> mm 以上 材料 鉛</p>	<p>整合性</p> <p>・「中央制御室待避室遮蔽（常設）」は、設置変更許可申請書（本文（五号））における <u>チ(1)(v)a. -⑧</u> を設計及び工事の計画の「放射線管理施設」のうち「生体遮蔽装置」に整理しており、整合している。</p> <p>・設置変更許可申請書（本文（五号））の <u>チ(1)(v)a. -⑨</u> は、6,7号機共用の設計として7号機で整理しており、この内容は整合している。</p> <p>c. <u>中央制御室待避室遮蔽</u></p> <p>以下の設備は、7号機設備であり、6号機及び7号機共用（7号機で申請済）である。 <u>中央制御室待避室遮蔽（常設）（7号機設備, 6,7号機共用）</u> <u>中央制御室待避室遮蔽（可搬型）（7号機設備, 6,7号機共用）</u></p>	<p>整合性</p> <p>・「中央制御室待避室遮蔽（可搬型）」は、設置変更許可申請書（本文（五号））における <u>チ(1)(v)a. -⑩</u> を設計及び工事の計画の「放射線管理施設」のうち「生体遮蔽装置」に整理しており、整合している。</p> <p>・設置変更許可申請書（本文（五号））の <u>チ(1)(v)a. -⑩</u> は、6,7号機共用の設計として7号機で整理しており、この内容は整合している。</p>	
<p>b. 緊急時対策所遮蔽</p> <p><u>重大事故等が発生した場合においても、5号炉原子炉建屋内緊急時対策所チ(1)(v)b. -①で当該重大事故等に対処するために必要な遮蔽設備として、5号炉原子炉建屋内緊急時対策所（対策本部）遮蔽、5号炉原子炉建屋内緊急</u></p>	<p>8.3.1 概要 <中略></p> <p><u>緊急時対策所には、重大事故等が発生した場合においても、当該事故等に対処するために必要な指示を行う要員がとどまることができるよう、緊急時対策所の居住性を確保するための遮蔽設備として、緊急時対策所遮蔽を</u></p>	<p>【放射線管理施設】 （基本設計方針） 第2章 個別項目 2. 換気設備，生体遮蔽装置 2.1 中央制御室及び緊急時対策所の居住性を確保するための防護措置 <中略> <u>重大事故等が発生した場合においても、5号機原子炉建屋内緊急時対策所チ(1)(v)b. -①の居住性を確保するための設備として、5号機原子炉建屋内緊急時対策所（対策本部）遮蔽（「7号機設備，6,7号機共用」（以</u></p>	<p>設計及び工事の計画の <u>チ(1)(v)b. -①</u> は、設置変更許可申請書（本文（五号））の <u>チ</u></p>	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八） 該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p><u>急時対策所（待機場所）遮蔽及び5号炉原子炉建屋内急時対策所（待機場所）室内遮蔽を設置する設計とする。</u></p> <p><u>チ(1)(v)b. -②</u>緊急時対策所遮蔽は、重大事故等が発生した場合において、5号炉原子炉建屋内急時対策所の気密性及び換気設備の性能とあいまって、居住性に係る判断基準である緊急時対策所にとどまる要員の実効線量が事故後7日間で100mSvを超えない設計とする。</p> <p>本設備については、ヌ.(3),(vi)緊急時対策所に記載する。</p> <p>[常設重大事故等対処設備]</p> <p><u>5号炉原子炉建屋内急時対策所（対策本部）遮蔽（6号及び7号炉共用）</u></p> <p><u>チ(1)(v)b. -③</u>（「緊急時対策所」と兼用）</p> <p><u>チ(1)(v)b. -④</u>一式</p>	<p>設置する設計とする。</p> <p>8.3.4.8 緊急時対策所遮蔽（6号及び7号炉共用）</p> <p>(1) 重大事故等対処設備</p> <p>緊急時対策所遮蔽として、<u>5号炉原子炉建屋内急時対策所（対策本部）遮蔽、5号炉原子炉建屋内急時対策所（待機場所）遮蔽及び5号炉原子炉建屋内急時対策所（待機場所）室内遮蔽を設ける。</u></p> <p><u>5号炉原子炉建屋内急時対策所（対策本部）遮蔽は、重大事故が発生した場合において、5号炉原子炉建屋内急時対策所（対策本部）高気密室の気密性及び緊急時対策所換気空調設備の機能とあいまって、対策本部にとどまる要員の実効線量が7日間で100mSvを超えない設計とする。</u></p> <p><u>5号炉原子炉建屋内急時対策所（待機場所）遮蔽及び室内遮蔽は、待機場所の気密性及び緊急時対策所換気空調設備の機能とあいまって、待機場所にとどまる要員の実効線量が7日間で100mSvを超えない設計とする。</u></p> <p>本設備については、「10.9 緊急時対策所」に記載する。</p> <p>第8.3-1表 遮蔽設備の主要機器仕様</p> <p>(6) 緊急時対策所遮蔽</p> <p>a. <u>5号炉原子炉建屋内急時対策所（対策本部）遮蔽（6号及び7号炉共用）</u></p> <p>兼用する設備は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・緊急時対策所（重大事故等時） <p>厚さ <input type="text" value=""/> mm 以上</p> <p>材料 コンクリート</p>	<p>下同じ。)、<u>5号機原子炉建屋内急時対策所（待機場所）遮蔽（7号機設備、6,7号機共用）（以下同じ。）、5号機原子炉建屋内急時対策所（待機場所）室内遮蔽（7号機設備、6,7号機共用）（以下同じ。）、二次遮蔽壁、補助遮蔽、緊急時対策所換気空調系の設備、可搬型モニタリングポスト及び可搬型エリアモニタを設置又は保管する設計とする。</u></p> <p><u>チ(1)(v)b. -②</u>5号機原子炉建屋内急時対策所（対策本部）遮蔽、5号機原子炉建屋内急時対策所（待機場所）遮蔽、5号機原子炉建屋内急時対策所（待機場所）室内遮蔽、二次遮蔽壁及び補助遮蔽は、5号機原子炉建屋内急時対策所の気密性及び緊急時対策所換気空調系の機能とあいまって、緊急時対策所にとどまる要員の実効線量が事故後7日間で100mSvを超えない設計とする。</p> <p><中略></p> <p>【放射線管理施設】</p> <p>(要目表)</p> <p>3 生体遮蔽装置の名称、種類、主要寸法、冷却方法及び材料</p> <p>d. 緊急時対策所遮蔽</p> <p>以下の設備は、7号機設備であり、6号機及び7号機共用（7号機で申請済）である。</p> <p><u>5号機原子炉建屋内 緊急時対策所（対策本部）遮蔽（7号機設備、6,7号機共用）</u></p> <p><u>5号機原子炉建屋内 緊急時対策所（待機場所）遮蔽（7号機設備、6,7号機共用）</u></p> <p><u>5号機原子炉建屋内 緊急時対策所（待機場所）室内遮蔽（7号機設備、6,7号機共用）</u></p>	<p>(1)(v)b. -①と同義であり、整合している。</p> <p>設計及び工事の計画のチ(1)(v)b. -②は、設置変更許可申請書（本文（五号））のチ(1)(v)b. -②を具体的に記載しており、整合している。</p> <p>設置変更許可申請書（本文（五号））「ヌ.(3),(vi)緊急時対策所」に示す。</p>	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八） 該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>5号炉原子炉建屋内緊急時対策所（待機場所）遮蔽（6号及び7号炉共用）</p> <p>チ(1)(v)b.-③（「緊急時対策所」と兼用）</p> <p>チ(1)(v)b.-④一式</p> <p>5号炉原子炉建屋内緊急時対策所（待機場所）室内遮蔽（6号及び7号炉共用）</p> <p>チ(1)(v)b.-③（「緊急時対策所」と兼用）</p> <p>チ(1)(v)b.-④一式</p> <p>(vi) 換気空調設備</p> <p>通常運転時、運転時の異常な過渡変化時、設計基準事故時及びチ(1)(vi)-①重大事故等時に発電所従業員に新鮮な空気を送るとともに、空気中の放射性物質の除去低減が可能なチ(1)(vi)-②換気空調設備を設ける。</p>	<p>b. 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所（待機場所）遮蔽（6号及び7号炉共用）</p> <p>兼用する設備は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・緊急時対策所（重大事故等時） <p>厚さ □mm 以上</p> <p>材料 コンクリート</p> <p>c. 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所（待機場所）室内遮蔽（6号及び7号炉共用）</p> <p>兼用する設備は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・緊急時対策所（重大事故等時） <p>厚さ コンクリート □mm 相当以上</p> <p>材料 鉄、鉛等</p>	<p>【放射線管理施設】</p> <p>（基本設計方針）</p> <p>第2章 個別項目</p> <p>2. 換気設備，生体遮蔽装置</p> <p>2.1 中央制御室及び緊急時対策所の居住性を確保するための防護措置</p> <p><中略></p> <p>チ(1)(vi)-①炉心の著しい損傷が発生した場合においても、チ(1)(vi)-②a中央制御室可搬型陽圧化空調機（ファン）（7号機設備，6,7号機共用）（以下同じ。）、中央制御室可搬型陽圧化空調機（フィルタユニ</p>	<p>整合性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「5号炉原子炉建屋内緊急時対策所（対策本部）遮蔽」，「5号炉原子炉建屋内緊急時対策所（待機場所）遮蔽」及び「5号炉原子炉建屋内緊急時対策所（待機場所）室内遮蔽」は，設置変更許可申請書（本文（五号））におけるチ(1)(v)b.-③を設計及び工事の計画の「放射線管理施設」のうち「生体遮蔽装置」に整理しており，整合している。 ・設置変更許可申請書（本文（五号））のチ(1)(v)b.-④は，6,7号機共用の設計として7号機で整理しており，この内容は整合している。 <p>設計及び工事の計画のチ(1)(vi)-①は，設置変更許可申請書（本文（五号））のチ(1)</p>	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八） 該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>チ(1)(vi)－③中央制御室には、炉心の著しい損傷が発生した場合においても運転員がとどまるために必要な重大事故等対処設備を設置及び保管する。</p> <p>a. 原子炉区域・タービン区域換気空調系</p> <p>原子炉区域・タービン区域換気空調系は、原子炉建屋原子炉区域及びタービン建屋タービン区域チ(1)(vi)a.－①に外気を供給し、その排気をフィルタを通して主排気筒から大気へ放出する。</p>	<p>8.2 換気空調設備</p> <p>8.2.1 概要</p> <p>中央制御室には、炉心の著しい損傷が発生した場合においても運転員がとどまるために必要な重大事故等対処設備を設置及び保管する。</p> <p>8.2.4 主要設備</p> <p>(1) 原子炉・タービン区域換気空調系</p> <p>原子炉・タービン区域換気空調系は、給気ファン、排気ファン、フィルタ等で構成する。</p> <p><中略></p> <p>汚染の可能性のある区域は、給・排気量を適切に設定</p>	<p>以上) (「7号機設備, 6,7号機共用」(以下同じ。)), 中央制御室待避室陽圧化装置(空気ポンプ) (「7号機設備, 6,7号機共用」(以下同じ。)), 中央制御室遮蔽, 中央制御室待避室遮蔽(常設) (「7号機設備, 6,7号機共用」(以下同じ。)) 及び中央制御室待避室遮蔽(可搬型) (「7号機設備, 6,7号機共用」(以下同じ。)) により, 運転員が中央制御室にとどまることができる設計とする。</p> <p><中略></p> <p>2.2 換気設備</p> <p>通常運転時, 運転時の異常な過渡変化時及び設計基準事故時において, 放射線障害を防止するため, 発電所従業員に新鮮な空気を送るとともに, 空気中の放射性物質の除去・低減が可能なチ(1)(vi)－②b換気設備を設ける設計とする。</p> <p><中略></p> <p>2.1 中央制御室及び緊急時対策所の居住性を確保するための防護措置</p> <p><中略></p> <p>炉心の著しい損傷が発生した場合においても, チ(1)(vi)－③中央制御室可搬型陽圧化空調機(ファン) (「7号機設備, 6,7号機共用」(以下同じ。)), 中央制御室可搬型陽圧化空調機(フィルタユニット) (「7号機設備, 6,7号機共用」(以下同じ。)), 中央制御室待避室陽圧化装置(空気ポンプ) (「7号機設備, 6,7号機共用」(以下同じ。)), 中央制御室遮蔽, 中央制御室待避室遮蔽(常設) (「7号機設備, 6,7号機共用」(以下同じ。)) 及び中央制御室待避室遮蔽(可搬型) (「7号機設備, 6,7号機共用」(以下同じ。)) により, 運転員が中央制御室にとどまることができる設計とする。</p> <p><中略></p> <p>2.2 換気設備</p> <p>2.2.2 原子炉区域・タービン区域換気空調系</p> <p>原子炉区域・タービン区域換気空調系は, 送風機及び排風機により, 発電所通常運転中, 原子炉建屋原子炉区域(二次格納施設) 及びタービン建屋タービン区域チ(1)(vi)a.－①内の換気を行い, 原子炉建屋原子炉</p>	<p>(vi)－①と同義であり, 整合している。</p> <p>設計及び工事の計画のチ(1)(vi)－②a 及びチ(1)(vi)－②b は, 設置変更許可申請書(本文(五号))のチ(1)(vi)－②を具体的に記載しており, 整合している。</p> <p>設計及び工事の計画のチ(1)(vi)－③は, 設置変更許可申請書(本文(五号))のチ(1)(vi)－③を具体的に記載しており, 整合している。</p> <p>設計及び工事の計画のチ(1)(vi)a.－①は, 設置変更許可申請書(本文(五号))のチ</p>	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八） 該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>b. 中央制御室換気空調系</p> <p><u>中央制御室等の換気及び冷暖房</u>チ(1)(vi)b. -①を行うための中央制御室換気空調系を設ける。</p> <p>中央制御室換気空調系には、通常のラインの他、チ(1)(vi)b. -②中央制御室換気空調系チャコール・フィルタ及び再循環ファンからなる非常用ラインを設け、設計基準事故時には外気との連絡口を遮断し、中央制御室換気空調系チャコール・フィルタを通る再循環方式とし、運転員を放射線被ばくから防護する設計とする。外部との遮断が長期にわたり、室内の雰囲気が悪くなった場合には、外気を中央制御室換気空調系チャコール・フィルタで浄化しながら取り入れることも可能な設計とする。</p>	<p>することによって、清浄区域より負圧に保つ。</p> <p>区域内に供給された空気は、<u>フィルタを通した後、排気ファンにより主排気筒から大気に放出する。</u></p> <p>原子炉区域の給気及び排気ダクトには、それぞれ2個の空気作動の隔離弁を設け、排気ダクトの放射能レベルが高くなった場合自動閉鎖し、本換気空調系から非常用ガス処理系に切り換えて、放射性ガスの放出を防ぐ。また、高圧炉心注水系ポンプ室、残留熱除去系ポンプ室、原子炉隔離時冷却系ポンプ室等非常時に作動を要求される機器の設置される部屋は、外部電源喪失時に非常用電源から供給を受ける空気冷却装置で冷却除熱する。</p> <p>(2) 中央制御室換気空調系</p> <p>中央制御室換気空調系は、設計基準事故時に放射線業務従事者等を内部被ばくから防護し、必要な運転操作を継続することができるようにするため、他の換気系とは独立にして、<u>外気との連絡口を遮断し、中央制御室換気空調系チャコール・フィルタを通して再循環することができる設計とする。</u></p> <p><中略></p> <p>中央制御室換気空調系は、空気調和機、チャコール・フィルタ、再循環ファン及び排気ファン等で構成する。空気調和機には給気ファン、フィルタのほか、冷却コイルを設け、循環空気の冷却によって中央制御室内の空気調節を行う。</p> <p>なお、本システムの電源は、外部電源喪失時に非常用電源に切替えることができる設計とする。</p>	<p>区域（二次格納施設）内を負圧に保ち、<u>排気空気は、フィルタを通したのち、主排気筒から放出する。</u></p> <p><中略></p> <p>2.2.1 中央制御室換気空調系</p> <p>中央制御室の換気及び冷暖房は、中央制御室送風機（6,7号機共用）、中央制御室排風機（6,7号機共用）、中央制御室再循環フィルタ装置（「6,7号機共用」（以下同じ。）、中央制御室再循環送風機（「6,7号機共用」（以下同じ。））等から構成する<u>中央制御室換気空調系</u>チ(1)(vi)b. -①により行う。</p> <p><中略></p> <p>中央制御室換気空調系は、通常のラインの他、チ(1)(vi)b. -②高性能粒子フィルタ及びチャコールフィルタを内蔵した中央制御室再循環フィルタ装置並びに中央制御室再循環送風機からなる非常用ラインを設け、<u>設計基準事故時には、中央制御室換気空調系の給気隔離弁及び排気隔離弁を閉とすることにより外気との連絡口を遮断し、中央制御室再循環フィルタ装置を通る再循環方式とし、放射性物質を含む外気が中央制御室に直接流入することを防ぐことができ、運転員を放射線被ばくから防護する設計とする。外部との遮断が長期にわたり、室内の雰囲気が悪くなった場合には、外気を中央制御室再循環フィルタ装置で浄化しながら取り入れることも可能な設計とする。</u></p> <p><中略></p> <p>中央制御室換気空調系のMCR 通常時外気取入隔離ダンパ（U41-F001A,B）（7号機設備、6,7号機共用）、MCR 排気隔離ダンパ（U41-F002A,B）（7号機設備、6,7号機共用）、MCR 非常時外気取入隔離ダンパ（U41-</p>	<p>(1)(vi)a. -①を具体的に記載しており、整合している。</p> <p>設計及び工事の計画のチ(1)(vi)b. -①は、設置変更許可申請書（本文（五号））のチ(1)(vi)b. -①と同義であり、整合している。</p> <p>設計及び工事の計画のチ(1)(vi)b. -②は、設置変更許可申請書（本文（五号））のチ(1)(vi)b. -②を具体的に記載しており、整合している。</p>	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八） 該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p><u>中央制御室外の火災等により発生するばい煙、有毒ガス及び降下火砕物に対し、中央制御室換気空調系の外気取入れを手動で遮断し、再循環方式に切り替えることが可能な設計とする。</u></p> <p>c. 中央制御室可搬型陽圧化空調機</p> <p><u>炉心の著しい損傷が発生した場合においても、中央制御室に運転員がとどまる^{チ(1)(vi)c. -①}ために必要な換気空調設備として、中央制御室可搬型陽圧化空調機を設ける。</u></p> <p>主要設備については、<u>へ、(5)、(vi)中央制御室に記載す</u></p>	<p>8.2.4 主要設備 (3) 中央制御室可搬型陽圧化空調機</p> <p><u>炉心の著しい損傷が発生した場合においても、中央制御室に運転員がとどまるために必要な換気空調設備として、中央制御室可搬型陽圧化空調機を設ける。</u></p> <p>本設備については、「6.10 制御室」に記載する。</p>	<p>F003A,B) (7号機設備, 6,7号機共用), MCR 外気取入ダンパ (U41-DAM601A, B) (6,7号機共用), MCR 非常用外気取入ダンパ (U41-DAM602A, B) (6,7号機共用) 及びMCR 排気ダンパ (U41-DAM604A, B) (6,7号機共用) を閉操作することで、中央制御室の外気との連絡口を遮断することが可能な設計とする。</p> <p>中央制御室換気空調系 (中央制御室外気取入ダクト) (7号機設備, 6,7号機共用) 及び中央制御室換気空調系 (中央制御室排気ダクト) (7号機設備, 6,7号機共用) は中央制御室とともに中央制御室換気空調系バウンダリを形成しており、重大事故等発生時において中央制御室内にとどまる運転員の被ばく線量を低減するために必要な気密性を有する設計とする。</p> <p><中略></p> <p>2.2.1 中央制御室換気空調系</p> <p><中略></p> <p><u>中央制御室外の火災等により発生する燃焼ガスやばい煙、有毒ガス及び降下火砕物に対し、中央制御室換気空調系の外気取入れを手動で遮断し、再循環方式に切り替えることが可能な設計とする。</u></p> <p><中略></p> <p>2.1 中央制御室及び緊急時対策所の居住性を確保するための防護措置</p> <p><中略></p> <p><u>炉心の著しい損傷が発生した場合においても、^{チ(1)(vi)c. -①}中央制御室可搬型陽圧化空調機 (ファン) (7号機設備, 6,7号機共用) (以下同じ。)、中央制御室可搬型陽圧化空調機 (フィルタユニット) (7号機設備, 6,7号機共用) (以下同じ。)、中央制御室待避室陽圧化装置 (空気ポンプ) (7号機設備, 6,7号機共用) (以下同じ。)、中央制御室遮蔽, 中央制御室待避室遮蔽 (常設) (7号機設備, 6,7号機共用) (以下同じ。)) 及び中央制御室待避室遮蔽 (可搬型) (7号機設備, 6,7号機共用) (以下同じ。)) により、<u>運転員が中央制御室にとどまることができる設計とする。</u></u></p> <p><中略></p>	<p>設計及び工事の計画の^{チ(1)(vi)c. -①}は、設置変更許可申請書 (本文 (五号)) の^{チ(1)(vi)c. -①}を具体的に記載しており、整合している。</p> <p>設置変更許可申請書 (本文 (五</p>	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八） 該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>る。</p> <p>[可搬型重大事故等対処設備]</p> <p>中央制御室可搬型陽圧化空調機（6号及び7号炉共用） フィルタユニット チ(1)(vi)c.-②a.（「中央制御室」と兼用） 台数 チ(1)(vi)c.-③a.2（予備1） よう素除去効率 99.9%以上</p> <p>チ(1)(vi)c.-④ブロワユニット チ(1)(vi)c.-②b.（「中央制御室」と兼用） 台数 チ(1)(vi)c.-③b.4（予備2） 容量 約1,500m³/h（1台当たり）</p>	<p>第8.2-1表 換気空調設備の主要機器仕様</p> <p>(4) 中央制御室可搬型陽圧化空調機（6号及び7号炉共用）</p> <p>a. フィルタユニット 兼用する設備は以下のとおり。 ・中央制御室（重大事故等時） 台数 2（予備1） よう素除去効率 99.9%以上 粒子除去効率 99.9%以上</p> <p>b. ブロワユニット 兼用する設備は以下のとおり。 ・中央制御室（重大事故等時） 台数 4（予備2） 容量 約1,500m³/h（1台当たり）</p>	<p>【放射線管理施設】 （要目表） 2 換気設備に係る次の事項</p> <p>(6) フィルター（公衆の放射線障害の防止及び中央制御室の従事者等の放射線防護を目的として設置するものに限る。）の名称、種類、効率、主要寸法、個数及び取付箇所（常設及び可搬型の別に記載すること。）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・可搬型 以下の設備は、7号機設備であり、6号機及び7号機共用（7号機で申請済）である。 中央制御室可搬型陽圧化空調機（フィルタユニット）（7号機設備、6,7号機共用） <p>(4) 送風機の名称、種類、容量、主要寸法、個数及び取付箇所並びに原動機の種類、出力、個数及び取付箇所（常設及び可搬型の別に記載すること。）並びに設計上の空気の流入率</p> <ul style="list-style-type: none"> ・可搬型 以下の設備は、7号機設備であり、6号機及び7号機共用（7号機で申請済）である。 中央制御室可搬型陽圧化空調機（ファン）（7号機設備、6,7号機共用） <p style="text-align: center;">チ(1)(vi)c.-④</p>	<p>号)「へ、(5)、(vi)中央制御室」に示す。</p>	
<p>整合性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「中央制御室可搬型陽圧化空調機（フィルタユニット）」及び「中央制御室可搬型陽圧化空調機（ファン）」は、設置変更許可申請書（本文（五号））におけるチ(1)(vi)c.-②a.及びチ(1)(vi)c.-②b.を設計及び工事の計画の「放射線管理施設」のうち「換気設備」に整理しており、整合している。 ・設置変更許可申請書（本文（五号））のチ(1)(vi)c.-③a.及びチ(1)(vi)c.-③b.は、6,7号機共用の設計として7号機で整理しており、この内容は整合している。 ・設計及び工事の計画のチ(1)(vi)c.-④は、設置変更許可申請書（本文（五号））のチ(1)(vi)c.-④と同義であり、整合している。 				

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八） 該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>d. 中央制御室待避室陽圧化装置（空気ポンペ）</p> <p><u>炉心の著しい損傷後の格納容器圧力逃がし装置を作動させる場合に放出される放射性雲チ(1)(vi)d. -①による運転員の被ばくを低減するため、中央制御室待避室を陽圧化し、放射性物質が中央制御室待避室に流入することを一定時間完全に防ぐために必要な換気空調設備として、中央制御室待避室陽圧化装置（空気ポンペ）を設ける。</u></p>	<p>8.2 換気空調設備</p> <p>8.2.4 主要設備</p> <p>(4) 中央制御室待避室陽圧化装置（空気ポンペ）（6号及び7号炉共用）</p> <p><u>炉心の著しい損傷後の格納容器圧力逃がし装置を作動させる場合に放出される放射性雲による運転員の被ばくを低減するため、中央制御室待避室を陽圧化し、放射性物質が中央制御室待避室に流入することを一定時間完全に防ぐために必要な換気空調設備として、中央制御室待避室陽圧化装置（空気ポンペ）を設ける。</u></p> <p>(5) 廃棄物処理建屋換気空調系（6号及び7号炉共用）</p> <p>廃棄物処理建屋換気空調系は、給気ファン、排気ファン、フィルタ等で、構成する。</p> <p>廃棄物処理建屋換気空調系の系統概要を第8.2-3図に示す。</p> <p>建屋内に供給された空気は、フィルタを通した後、排気ファンにより主排気筒から大気に放出する。</p> <p>(6) ドライウェル内ガス冷却装置</p> <p>ドライウェル内ガス冷却装置は、通常運転中ドライウェル内のガスを循環冷却するためのもので、ファン及び冷却装置を設け、通常運転中のドライウェル内の温度を約57℃以下に維持する。</p> <p>なお、本系統の電源は、外部電源喪失時に非常用電源に切替えられる。</p> <p>(7) 固体廃棄物処理建屋換気空調系</p> <p>固体廃棄物処理建屋換気空調系として、給気ファンにより外気を取り入れ、排気ファンによりフィルタを通したうえで固体廃棄物処理建屋の排気口より大気に放出す</p>	<p>【放射線管理施設】 （基本設計方針）</p> <p>第2章 個別項目</p> <p>2. 換気設備，生体遮蔽装置</p> <p>2.1 中央制御室及び緊急時対策所の居住性を確保するための防護措置</p> <p><中略></p> <p><u>炉心の著しい損傷後に格納容器圧力逃がし装置を作動させる場合に放出される放射性雲チ(1)(vi)d. -①通過時に、運転員の被ばくを低減するため、中央制御室待避室には、遮蔽設備として、中央制御室遮蔽，中央制御室待避室遮蔽（常設）及び中央制御室待避室遮蔽（可搬型）を設ける設計とする。中央制御室待避室は、中央制御室待避室陽圧化装置（空気ポンペ）で陽圧化することにより、放射性物質が中央制御室待避室に流入することを一定時間完全に防ぐことができる設計とする。</u></p> <p><中略></p> <p>2.2 換気設備</p> <p>2.2.3 廃棄物処理建屋換気空調系</p> <p>廃棄物処理建屋換気空調系は、送風機，排風機，排気処理装置等からなり，放射性希ガス及び放射性よう素による汚染の可能性のある区域の排気を排風機により高性能粒子フィルタを通して主排気筒から放出する設計とする。</p>	<p>設計及び工事の計画のチ(1)(vi)d. -①は、設置変更許可申請書（本文（五号））のチ(1)(vi)d. -①と同義であり、整合している。</p>	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八） 該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>主要設備については、へ、(5)、()中央制御室に記載する。</p> <p>[可搬型重大事故等対処設備]</p> <p>中央制御室待避室陽圧化装置（空気ポンベ）（6号及び7号炉共用） 空気ポンベ チ(1)()d. - (「中央制御室」と兼用)</p> <p>本数 チ(1)()d. - 174 (予備 20以上) 容量 約47L/本</p> <p>e. 緊急時対策所換気空調設備</p>	<p>る。</p> <p>固体廃棄物処理建屋換気空調系系統概要図を第8.2-4図に示す。</p> <p>本設備については、「6.10 制御室」に記載する。</p> <p>第8.2-1表 換気空調設備の主要機器仕様</p> <p>(5) 中央制御室待避室陽圧化装置（6号及び7号炉共用） a. 空気ポンベ 兼用する設備は以下のとおり。 ・中央制御室（重大事故等時）</p> <p>本数 174 (予備 20以上) 容量 約47L/本 充填圧力 約15MPa[gage]</p> <p>10. その他発電用原子炉の附属施設 10.9 緊急時対策所 10.9.2 重大事故等時 10.9.2.2 設計方針 (1) 居住性を確保するための設備</p>	<p>【放射線管理施設】 （要目表） 2 換気設備に係る次の事項</p> <p>2.1.3 中央制御室待避室陽圧化換気空調系 (1) 容器（中央制御室、緊急時制御室及び緊急時対策所の加圧を目的として設置するものに限る。）の名称、種類、容量、最高使用圧力、最高使用温度、主要寸法、材料、個数及び取付箇所（常設及び可搬型の別に明記すること。）</p> <p>・可搬型 以下の設備は、7号機設備であり、6号機及び7号機共用（7号機で申請済）である。 <u>中央制御室待避室陽圧化装置（空気ポンベ）（7号機設備、6,7号機共用）</u></p> <p>【放射線管理施設】 （基本設計方針） 第2章 個別項目 2. 換気設備，生体遮蔽装置 2.1 中央制御室及び緊急時対策所の居住性を確保する</p>	<p>設置変更許可申請書（本文（五号））「へ、(5)、()中央制御室」に示す。</p> <p>「中央制御室待避室陽圧化装置（空気ポンベ）」は、設置変更許可申請書（本文（五号））におけるチ(1)()d. - を設計及び工事の計画の「放射線管理施設」のうち「換気設備」に整理しており、整合している。</p> <p>設置変更許可申請書（本文（五号））のチ(1)()d. - は、6,7号機共用の設計として7号機で整理しており、この内容は整合している。</p>	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八） 該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>重大事故等が発生した場合においても、5号炉原子炉建屋内緊急時対策所^{チ(1)(vi)e.-①}で当該重大事故等に対処するために必要な換気空調設備として5号炉原子炉建屋内緊急時対策所（対策本部）に^{チ(1)(vi)e.-②}5号炉原子炉建屋内緊急時対策所（対策本部）可搬型陽圧化空調機、5号炉原子炉建屋内緊急時対策所（対策本部）可搬型外気取入送風機、5号炉原子炉建屋内緊急時対策所（対策本部）陽圧化装置（空気ポンプ）、5号炉原子炉建屋内緊急時対策所（対策本部）二酸化炭素吸収装置、酸素濃度計（対策本部）、二酸化炭素濃度計（対策本部）、差圧計（対策本部）及び可搬型エリアモニタ（対策本部）を設置及び保管する設計とする。</p> <p>また5号炉原子炉建屋内緊急時対策所（待機場所）に、5号炉原子炉建屋内緊急時対策所（待機場所）可搬型陽圧化空調機、5号炉原子炉建屋内緊急時対策所（待機場所）陽圧化装置（空気ポンプ）、酸素濃度計（待機場所）、二酸化炭素濃度計（待機場所）、差圧計（待機場所）及び可搬型エリアモニタ（待機場所）を設置及び保管する設計とする。</p>	<p>重大事故等が発生した場合においても、当該事故等に対処するために必要な指示を行う要員がとどまることができるよう、5号炉原子炉建屋内緊急時対策所の居住性を確保するための設備として、緊急時対策所遮蔽、緊急時対策所換気空調設備、5号炉原子炉建屋内緊急時対策所（対策本部）高気密室、差圧計、酸素濃度計、二酸化炭素濃度計、可搬型モニタリングポスト及び可搬型エリアモニタを設ける。</p> <p><中略></p> <p>a. 緊急時対策所遮蔽、緊急時対策所換気空調設備</p> <p><中略></p> <p>緊急時対策所換気空調設備として、対策本部には、可搬型陽圧化空調機、可搬型外気取入送風機、陽圧化装置（空気ポンプ）、二酸化炭素吸収装置及び差圧計を設け、待機場所には、可搬型陽圧化空調機、陽圧化装置（空気ポンプ）及び差圧計を設ける。</p> <p>対策本部の可搬型陽圧化空調機は、仮設ダクトを用いて高気密室を陽圧化し、放射性物質の侵入を低減できる設計とする。また、陽圧化装置（空気ポンプ）は、放射性雲通過時において、高気密室を陽圧化し、希ガスを含む放射性物質の侵入を防止できる設計とする。差圧計は、高気密室が陽圧化された状態であることを監視できる設計とする。</p> <p>二酸化炭素吸収装置は、高気密室内の二酸化炭素を除去することにより、対策要員の窒息を防止する設計とする。</p> <p>可搬型外気取入送風機は、放射性雲通過後の5号炉原子炉建屋付属棟内を換気できる設計とする。</p> <p>待機場所の可搬型陽圧化空調機は、仮設ダクトを用いて待機場所を陽圧化し、放射性物質の侵入を低減できる設計とする。また、陽圧化装置（空気ポンプ）は、放射性雲通過時において、待機場所を陽圧化することにより、希ガスを含む放射性物質の侵入を防止できる設計とする。差圧計は、待機場所が陽圧化された状態であることを監視できる設計とする。</p>	<p>ための防護措置</p> <p><中略></p> <p>重大事故等が発生した場合において、5号機原子炉建屋内緊急時対策所^{チ(1)(vi)e.-①a}の居住性を確保するための設備として、5号機原子炉建屋内緊急時対策所（対策本部）遮蔽（「7号機設備、6,7号機共用」（以下同じ。）、5号機原子炉建屋内緊急時対策所（待機場所）遮蔽（「7号機設備、6,7号機共用」（以下同じ。）、5号機原子炉建屋内緊急時対策所（待機場所）室内遮蔽（「7号機設備、6,7号機共用」（以下同じ。）、二次遮蔽壁、補助遮蔽、緊急時対策所換気空調系の設備、可搬型モニタリングポスト及び^{チ(1)(vi)e.-②a}可搬型エリアモニタを設置又は保管する設計とする。</p> <p><中略></p>	<p>設計及び工事の計画の^{チ(1)(vi)e.-①a}～^{チ(1)(vi)e.-①c}は、設置変更許可申請書（本文（五号））の^{チ(1)(vi)e.-①}と同義であり、整合している。</p> <p>設計及び工事の計画の^{チ(1)(vi)e.-②a}～^{チ(1)(vi)e.-②c}は、設置変更許可申請書（本文（五号））の^{チ(1)(vi)e.-②}を具体的に記載しており、整合している。</p>	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八） 該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
	<p><中略></p> <p>b. 酸素及び二酸化炭素濃度の測定設備</p> <p>5号炉原子炉建屋内緊急時対策所は、酸素濃度及び二酸化炭素濃度が活動に支障がない範囲にあることを把握できるよう酸素濃度計及び二酸化炭素濃度計を保管する設計とする。</p> <p><中略></p> <p>c. 放射線量の測定設備</p> <p>5号炉原子炉建屋内緊急時対策所には、室内への希ガス等の放射性物質の侵入を低減又は防止するための確実な判断ができるよう放射線量を監視、測定するため、さらに5号炉原子炉建屋内緊急時対策所陽圧化装置による加圧判断のために使用する可搬型エリアモニタ及び可搬型モニタリングポストを保管する設計とする。</p> <p><中略></p> <p>(1) 居住性を確保するための設備</p>	<p>2.2 換気設備</p> <p>2.2.4 緊急時対策所換気空調系</p> <p>緊急時対策所換気空調系の設備として、5号機原子炉建屋内緊急時対策所（対策本部・高気密室）<u>チ(1)(vi)e. -①b</u>の居住性を確保するため、<u>チ(1)(vi)e. -②b</u>5号機原子炉建屋内緊急時対策所（対策本部）可搬型陽圧化空調機（ファン）、5号機原子炉建屋内緊急時対策所（対策本部）可搬型陽圧化空調機（フィルタユニット）、5号機原子炉建屋内緊急時対策所（対策本部）可搬型外気取入送風機（「7号機設備、6,7号機共用」（以下同じ。）、5号機原子炉建屋内緊急時対策所（対策本部）陽圧化装置（空気ポンプ）を保管する設計とする。</p> <p>また、5号機原子炉建屋内緊急時対策所（待機場所）の居住性を確保するため、5号機原子炉建屋内緊急時対策所（待機場所）可搬型陽圧化空調機（ファン）、5号機原子炉建屋内緊急時対策所（待機場所）可搬型陽圧化空調機（フィルタユニット）、5号機原子炉建屋内緊急時対策所（待機場所）陽圧化装置（空気ポンプ）を保管する設計とする。</p> <p><中略></p> <p>【緊急時対策所】</p>		

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八） 該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>チ(1)(vi)e. -③5号炉原子炉建屋内緊急時対策所の緊急時対策所換気空調設備は、重大事故等が発生した場合において、緊急時対策所内への希ガス等の放射性物質の</p>	<p>重大事故等が発生した場合においても、当該事故等に対処するために必要な指示を行う要員がとどまることができるよう、5号炉原子炉建屋内緊急時対策所の居住性を確保するための設備として、緊急時対策所遮蔽、緊急時対策所換気空調設備、5号炉原子炉建屋内緊急時対策所（対策本部）高気密室、差圧計、酸素濃度計、二酸化炭素濃度計、可搬型モニタリングポスト及び可搬型エリアモニタを設ける。</p> <p><中略></p> <p>a. 緊急時対策所遮蔽、緊急時対策所換気空調設備</p> <p><中略></p> <p>緊急時対策所換気空調設備として、対策本部には、可搬型陽圧化空調機、可搬型外気取入送風機、陽圧化装置（空気ポンペ）、二酸化炭素吸収装置及び差圧計を設け、待機場所には、可搬型陽圧化空調機、陽圧化装置（空気ポンペ）及び差圧計を設ける。</p> <p><中略></p> <p>8. 放射線管理施設</p> <p>8.2 換気空調設備</p> <p>8.2.4 主要設備</p> <p>(8) 緊急時対策所換気空調設備（6号及び7号炉共用）</p> <p>緊急時対策所換気空調設備は、重大事故が発生した場合において、緊急時対策所対策本部の高気密室又は待機場所の気密性、及び緊急時対策所遮蔽の機能とあいまっ</p>	<p>（基本設計方針）</p> <p>第2章 個別項目</p> <p>1. 緊急時対策所</p> <p>1.1 緊急時対策所の設置等</p> <p>1.1.2 設計方針</p> <p>(4) 緊急時対策所機能の確保</p> <p>a. 居住性の確保</p> <p><中略></p> <p>重大事故等が発生した場合において、5号機原子炉建屋内緊急時対策所チ(1)(vi)e. -①cの居住性を確保するための設備として、チ(1)(vi)e. -②c5号機原子炉建屋内緊急時対策所（対策本部）二酸化炭素吸収装置（「7号機設備、6,7号機共用、5号機に設置」（以下同じ。）、5号機原子炉建屋内緊急時対策所用差圧計（「7号機設備、6,7号機共用、5号機に保管」（以下同じ。）、酸素濃度計（「7号機設備、6,7号機共用、5号機に保管」（以下同じ。））及び二酸化炭素濃度計（「7号機設備、6,7号機共用、5号機に保管」（以下同じ。））を設置又は保管する設計とする。</p> <p>【放射線管理施設】</p> <p>（基本設計方針）</p> <p>第2章 個別項目</p> <p>2. 換気装置、生体遮蔽装置</p> <p>2.1 中央制御室及び緊急時対策所の居住性を確保するための防護措置</p> <p><中略></p> <p>5号機原子炉建屋内緊急時対策所（対策本部）遮蔽、5号機原子炉建屋内緊急時対策所（待機場所）遮蔽、5号機原子炉建屋内緊急時対策所（待機場所）室</p>	<p>設計及び工事の計画のチ(1)(vi)e. -③a～チ(1)(vi)e. -③cは、設置変更許可申請</p>	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八） 該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>侵入を低減又は防止するため適切な換気設計を行い、緊急時対策所の気密性及び緊急時対策所遮蔽の性能とあいまって、居住性に係る判断基準である緊急時対策所にとどまる要員の実効線量が事故後7日間で100mSvを超えない設計とする。なお、換気設計にあたっては、5号炉原子炉建屋内緊急時対策所の建物の気密性に対して十分な余裕を考慮した設計とする。また、5号炉原子炉建屋内緊急時対策所外の火災により発生する燃焼ガス又は有毒ガスに対する換気設備の隔離その他の適切に防護するための設備を設ける設計とする。</p>	<p>て、緊急時対策所にとどまる要員の実効線量が7日間で100mSvを超えない設計とする。</p> <p>緊急時対策所換気空調設備として、対策本部には、可搬型陽圧化空調機、可搬型外気取入送風機、陽圧化装置（空気ポンプ）、二酸化炭素吸収装置及び差圧計を設置及び保管し、待機場所には、可搬型陽圧化空調機、陽圧化装置（空気ポンプ）及び差圧計を設置及び保管する設計とする。</p> <p><中略></p>	<p>内遮蔽、二次遮蔽壁及び補助遮蔽は、<u>チ(1)(vi)e. -③</u> <u>a)5号機原子炉建屋内緊急時対策所の気密性及び緊急時対策所換気空調系の機能とあいまって、緊急時対策所にとどまる要員の実効線量が事故後7日間で100mSvを超えない設計とする。</u></p> <p><中略></p> <p>2.2 換気設備</p> <p>2.2.4 緊急時対策所換気空調系</p> <p><中略></p> <p><u>チ(1)(vi)e. -③b)緊急時対策所換気空調系は、5号機原子炉建屋内緊急時対策所の建物の気密性に対して十分な余裕を考慮した設計とする。また、5号機原子炉建屋内緊急時対策所外の火災により発生する燃焼ガス又はばい煙、有毒ガス及び降下火砕物に対する換気設備の隔離及びその他の適切に防護するための設備を設ける設計とする。</u></p> <p>緊急時対策所換気空調系は、基準地震動S_sによる地震力に対し、機能を喪失しないようにするとともに、5号機原子炉建屋内緊急時対策所の気密性とあいまって緊急時対策所の居住性に係る判断基準を満足する設計とする。</p> <p>【緊急時対策所】 （基本設計方針）</p> <p>第2章 個別項目</p> <p>1. 緊急時対策所</p> <p>1.1 緊急時対策所の設置等</p> <p>1.1.2 設計方針</p> <p>(4) 緊急時対策所機能の確保</p> <p>a. 居住性の確保</p> <p><中略></p> <p><u>チ(1)(vi)e. -③c)5号機原子炉建屋内緊急時対策所</u></p>	<p>書（本文（五号））の<u>チ(1)(vi)e. -③</u>と同義であり、整合している。</p>	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八） 該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>本設備については又、(3)、(vi)緊急時対策所に記載する。</p> <p>[常設重大事故等対処設備]</p> <p>チ(1)(vi)e. -④5号炉原子炉建屋内緊急時対策所（対策本部）二酸化炭素吸収装置（6号及び7号炉共用）</p> <p>チ(1)(vi)e. -⑤（「緊急時対策所」と兼用）</p> <p>台数 1（予備1）</p>	<p>これらの設備については、「10.9 緊急時対策所」に記載する。</p> <p>第8.2-1表 換気空調設備の主要機器仕様</p> <p>(6) 緊急時対策所換気空調設備（6号及び7号炉共用）</p> <p>d. 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所（対策本部）二酸化炭素吸収装置（6号及び7号炉共用）</p> <p>兼用する設備は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・緊急時対策所（重大事故等時） <p>台数 1（予備1）</p> <p>風量 <input type="text"/> m³/h/台</p> <p>吸収剤能力 <input type="text"/> m³/kg</p>	<p>は、重大事故等が発生した場合においても、重大事故等に対処するために必要な指示を行う要員に加え、原子炉格納容器の破損等による発電所外への放射性物質の拡散を抑制するための対策に対処するために必要な数の要員を含め、重大事故等に対処するために必要な数の要員を収容することができるとともに、重大事故等に対処するために必要な指示を行う要員がとどまることができるよう、適切な遮蔽設計及び換気設計を行い緊急時対策所の居住性を確保する。</p> <p><中略></p> <p>重大事故等が発生した場合において、5号機原子炉建屋内緊急時対策所の居住性を確保するための設備として、チ(1)(vi)e. -④5号機原子炉建屋内緊急時対策所（対策本部）二酸化炭素吸収装置（7号機設備、6,7号機共用、5号機に設置）（以下同じ。）、5号機原子炉建屋内緊急時対策所用差圧計（7号機設備、6,7号機共用、5号機に保管）（以下同じ。）、酸素濃度計（7号機設備、6,7号機共用、5号機に保管）（以下同じ。）及び二酸化炭素濃度計（7号機設備、6,7号機共用、5号機に保管）（以下同じ。）を設置又は保管する設計とする。</p> <p>5号機原子炉建屋内緊急時対策所用差圧計（個数2（予備1）、計測範囲0～200Pa）は、5号機原子炉建屋内緊急時対策所の陽圧化された室内と周辺エリアとの差圧を監視できる設計とする。</p> <p>5号機原子炉建屋内緊急時対策所（対策本部）二酸化炭素吸収装置（個数1（予備1））は、5号機原子炉建屋内緊急時対策所（対策本部・高気密室）の二酸化炭素を除去することにより、要員の窒息を防止する設計とする。</p> <p>5号機原子炉建屋内緊急時対策所には、酸素濃度及び二酸化炭素濃度が活動に支障がない範囲にあること</p>	<p>設置変更許可申請書（本文（五号））「又、(3)、(vi)緊急時対策所」に示す。</p> <p>設計及び工事の計画のチ(1)(vi)e. -④は、設置変更許可申請書（本文（五号））のチ(1)(vi)e. -④と同義であり、整合している。</p> <p>「二酸化炭素吸収装置」は、設置変更許可申請書（本文（五号））におけるチ(1)(vi)e. -⑤を設計及び工事の計画の「緊急時対策所」のうち「基本設計方針」に整理しており、整合している。</p>	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八） 該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>[可搬型重大事故等対処設備]</p> <p>チ(1)(vi)e.-⑥5号炉原子炉建屋内緊急時対策所(対策本部)可搬型陽圧化空調機(6号及び7号炉共用)</p> <p>チ(1)(vi)e.-⑦(「緊急時対策所」と兼用)</p> <p>台数 チ(1)(vi)e.-⑧1(予備1)</p> <p>容量 約600m³/h/台</p> <p>効率 高性能フィルタ 99.9%以上 活性炭フィルタ 99.9%以上</p>	<p>a. 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所(対策本部)可搬型陽圧化空調機(6号及び7号炉共用)</p> <p>兼用する設備は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・緊急時対策所(重大事故等時) <p>台数 1(予備1)</p> <p>容量 600m³/h/台</p> <p>効率 高性能フィルタ 99.9%以上 活性炭フィルタ 99.9%以上</p>	<p>を把握できるよう酸素濃度計(個数2(予備1))及び二酸化炭素濃度計(個数2(予備1))を保管する設計とする。</p> <p>5号機原子炉建屋内緊急時対策所は、重大事故等が発生し、5号機原子炉建屋内緊急時対策所の外側が放射性物質により汚染したような状況下において、要員が5号機原子炉建屋内緊急時対策所内に放射性物質による汚染を持ち込むことを防止するため、身体サーベイ及び作業服の着替え等を行うための区画を設置する設計とする。</p> <p>【放射線管理施設】 (要目表)</p> <p>2 換気設備に係る次の事項</p> <p>(4) 送風機の名称、種類、容量、主要寸法、個数及び取付箇所並びに原動機の種類、出力、個数及び取付箇所(常設及び可搬型の別に記載すること。)並びに設計上の空気の流入率</p> <ul style="list-style-type: none"> ・可搬型 <p>以下の設備は、7号機設備であり、6号機及び7号機共用(7号機で申請済)である。</p> <p>チ(1)(vi)e.-⑥a 5号機原子炉建屋内緊急時対策所(対策本部)可搬型陽圧化空調機(ファン)(7号機設備, 6,7号機共用)</p> <p>5号機原子炉建屋内緊急時対策所(待機場所)可搬型陽圧化空調機(ファン)(7号機設備, 6,7号機共用)</p> <p>5号機原子炉建屋内緊急時対策所(対策本部)可搬型外気取入送風機(7号機設備, 6,7号機共用)</p>		

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八） 該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
		<p>(6) フィルター（公衆の放射線障害の防止及び中央制御室の従事者等の放射線防護を目的として設置するものに限る。）の名称，種類，効率，主要寸法，個数及び取付箇所（常設及び可搬型の別に記載すること。）</p> <p>・可搬型 以下の設備は，7号機設備であり，6号機及び7号機共用（7号機で申請済）である。 5号機原子炉建屋内緊急時対策所（対策本部）可搬型陽圧化空調機（フィルタユニット）（7号機設備，6,7号機共用） 5号機原子炉建屋内緊急時対策所（待機場所）可搬型陽圧化空調機（フィルタユニット）（7号機設備，6,7号機共用）</p>	<p>設計及び工事の計画のチ(1) (vi)e. -⑥a及びチ(1)(vi) e. -⑥bは，設置変更許可申請書（本文（五号））のチ(1) (vi)e. -⑥を具体的に記載しており，整合している。</p> <p>「5号機原子炉建屋内緊急時対策所（対策本部）可搬型陽圧化空調機（ファン）」及び「5号機原子炉建屋内緊急時対策所（対策本部）可搬型陽圧化空調機（フィルタユニット）」は，設置変更許可申請書（本文（五号））におけるチ(1)(vi)e. -⑦を設計及び工事の計画の「放射線管理施設」のうち「換気設備」に整理しており，整合している。</p> <p>設置変更許可申請書（本文（五号））のチ(1)(vi)e. -⑧は，6,7号機共用の設計として7号機で整理しており，この内容は整合している。</p>	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八） 該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>5号炉原子炉建屋内緊急時対策所（対策本部）可搬型外気取入送風機（6号及び7号炉共用） <u>チ(1)(vi)e. -⑨</u>（「緊急時対策所」と兼用）...</p> <p>台数 <u>チ(1)(vi)e. -⑩</u>2（予備1）... 容量 約600m³/h/台</p>	<p>b. 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所（対策本部）可搬型外気取入送風機（6号及び7号炉共用） <u>兼用する設備は以下のとおり。</u>...</p> <p>・緊急時対策所（重大事故等時）...</p> <p>台数 2（予備1）... 風量 600m³/h/台</p>	<p>(4) 送風機の名称，種類，容量，主要寸法，個数及び取付箇所並びに原動機の種類，出力，個数及び取付箇所（常設及び可搬型の別に記載すること。）並びに設計上の空気の流入率</p> <p>・可搬型 以下の設備は，7号機設備であり，6号機及び7号機共用（7号機で申請済）である。 5号機原子炉建屋内緊急時対策所（対策本部）可搬型陽圧化空調機（ファン）（7号機設備，6,7号機共用） 5号機原子炉建屋内緊急時対策所（待機場所）可搬型陽圧化空調機（ファン）（7号機設備，6,7号機共用） <u>5号機原子炉建屋内緊急時対策所（対策本部）可搬型外気取入送風機</u>（7号機設備，6,7号機共用）</p>	<p>「5号機原子炉建屋内緊急時対策所（対策本部）可搬型外気取入送風機」は，設置変更許可申請書（本文（五号））における<u>チ(1)(vi)e. -⑨</u>を設計及び工事の計画の「放射線管理施設」のうち「換気設備」に整理しており，整合している。</p> <p>設置変更許可申請書（本文（五号））の<u>チ(1)(vi)e. -⑩</u>は，6,7号機共用の設計として7号機で整理しており，この内容は整合している。</p>	
<p>5号炉原子炉建屋内緊急時対策所（対策本部）陽圧化装置（空気ポンプ）（6号及び7号炉共用） <u>チ(1)(vi)e. -⑪</u>（「緊急時対策所」と兼用）...</p> <p>本数 <u>チ(1)(vi)e. -⑫</u>123 容量 約47L/本 充填圧力 約15MPa...</p>	<p>c. 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所（対策本部）陽圧化装置（空気ポンプ）（6号及び7号炉共用） <u>兼用する設備は以下のとおり。</u>...</p> <p>・緊急時対策所（重大事故等時）...</p> <p>台数 123 容量 47L/本 充填圧力 15MPa</p>	<p>2.2 緊急時対策所換気空調系</p> <p>(1) 容器（中央制御室，緊急時制御室及び緊急時対策所の加圧を目的として設置するものに限る。）の名称，種類，容量，最高使用圧力，最高使用温度，主要寸法，材料，個数及び取付箇所（常設及び可搬型の別に明記すること。）</p> <p>・可搬型 以下の設備は，7号機設備であり，6号機及び7号機共用（7号機で申請済）である。 <u>5号機原子炉建屋内緊急時対策所（対策本部）陽圧化装置（空気ポンプ）</u>（7号機設備，6,7号機共用） 5号機原子炉建屋内緊急時対策所（待機場所）陽圧化装置（空気ポンプ）（7号機設備，6,7号機共用）</p>		

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八） 該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>チ(1)(vi)e. -⑬5号炉原子炉建屋内緊急時対策所（待機場所）可搬型陽圧化空調機（6号及び7号炉共用） チ(1)(vi)e. -⑭（「緊急時対策所」と兼用）</p> <p>台数 チ(1)(vi)e. -⑮2（予備1） 容量 約600m³/h/台 効率 高性能フィルタ 99.9%以上 活性炭フィルタ 99.9%以上</p>	<p>e. 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所（待機場所）可搬型陽圧化空調機（6号及び7号炉共用） 兼用する設備は以下のとおり。 ・緊急時対策所（重大事故等時）</p> <p>台数 2（予備1^{*1}） 容量 600m³/h/台 効率 高性能フィルタ 99.9%以上 活性炭フィルタ 99.9%以上</p>	<p>チ(1)(vi)e. -⑬a 5号機原子炉建屋内緊急時対策所（待機場所）可搬型陽圧化空調機（ファン）（7号機設備，6,7号機共用） 5号機原子炉建屋内緊急時対策所（対策本部）可搬型外気取入送風機（7号機設備，6,7号機共用）</p> <p>チ(1)(vi)e. -⑬b 5号機原子炉建屋内緊急時対策所（待機場所）可搬型陽圧化空調機（フィルタユニット）（7号機設備，6,7号機共用）</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>整合性</p> <ul style="list-style-type: none"> 「5号機原子炉建屋内緊急時対策所（対策本部）陽圧化装置（空気ポンプ）」は、設置変更許可申請書（本文（五号））におけるチ(1)(vi)e. -⑪を設計及び工事の計画の「放射線管理施設」のうち「換気設備」に整理しており、整合している。 設置変更許可申請書（本文（五号））のチ(1)(vi)e. -⑫は、6,7号機共用の設計として7号機で整理しており、この内容は整合している。 </div> <p>(4) 送風機の名称，種類，容量，主要寸法，個数及び取付箇所並びに原動機の種類，出力，個数及び取付箇所（常設及び可搬型の別に記載すること。）並びに設計上の空気の流入率</p> <ul style="list-style-type: none"> 可搬型 以下の設備は，7号機設備であり，6号機及び7号機共用（7号機で申請済）である。 5号機原子炉建屋内緊急時対策所（対策本部）可搬型陽圧化空調機（ファン）（7号機設備，6,7号機共用） <p>(6) フィルター（公衆の放射線障害の防止及び中央制御室の従事者等の放射線防護を目的として設置するものに限る。）の名称，種類，効率，主要寸法，個数及び取付箇所（常設及び可搬型の別に記載すること。）</p> <ul style="list-style-type: none"> 可搬型 以下の設備は，7号機設備であり，6号機及び7号機共用（7号機で申請済）である。 5号機原子炉建屋内緊急時対策所（対策本部）可搬型陽圧化空調機（フィルタユニット）（7号機設備，6,7号機共用） 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>整合性</p> <ul style="list-style-type: none"> 設計及び工事の計画のチ(1)(vi)e. -⑬a及びチ(1)(vi)e. -⑬bは，設置変更許可申請書（本文（五号））のチ(1)(vi)e. -⑬を具体的に記載しており，整合している。 「5号機原子炉建屋内緊急時対策所（待機場所）可搬型陽圧化空調機（ファン）」及び「5号機原子炉建屋内緊急時対策所（待機場所）可搬型陽圧化空調機（フィルタユニット）」は，設置変更許可申請書（本文（五号））におけるチ(1)(vi)e. -⑭を設計及び工事の計画の「放射線管理施設」のうち「換気設備」に整理しており，整合している。 設置変更許可申請書（本文（五号））のチ(1)(vi)e. -⑮は，6,7号機共用の設計として7号機で整理しており，この内容は整合している。 </div>

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八） 該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>5号炉原子炉建屋内緊急時対策所（待機場所）陽圧化装置（空気ポンプ）（6号及び7号炉共用） <u>チ(1)(vi)e. -⑯</u>（「緊急時対策所」と兼用）...</p> <p>本数 <u>チ(1)(vi)e. -⑰</u> 1,792 容量 約47L/本 充填圧力 約15MPa</p>	<p>f. 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所（待機場所）陽圧化装置（空気ポンプ）（6号及び7号炉共用） <u>兼用する設備は以下のとおり。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・緊急時対策所（重大事故等時）... <p>台数 1,792 容量 47L/本 充填圧力 15MPa</p>	<p>2.2 緊急時対策所換気空調系</p> <p>(1) 容器（中央制御室、緊急時制御室及び緊急時対策所の加圧を目的として設置するものに限る。）の名称、種類、容量、最高使用圧力、最高使用温度、主要寸法、材料、個数及び取付箇所（常設及び可搬型の別に明記すること。）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・可搬型 以下の設備は、7号機設備であり、6号機及び7号機共用（7号機で申請済）である。 5号機原子炉建屋内緊急時対策所（対策本部）陽圧化装置（空気ポンプ） （7号機設備、6,7号機共用） <u>5号機原子炉建屋内緊急時対策所（待機場所）陽圧化装置（空気ポンプ）</u> （7号機設備、<u>6,7号機共用</u>） 	<p>整合性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「5号機原子炉建屋内緊急時対策所（待機場所）陽圧化装置（空気ポンプ）」は、設置変更許可申請書（本文（五号））における<u>チ(1)(vi)e. -⑯</u>を設計及び工事の計画の「放射線管理施設」のうち「換気設備」に整理しており、整合している。 ・設置変更許可申請書（本文（五号））の<u>チ(1)(vi)e. -⑰</u>は、6,7号機共用の設計として7号機で整理しており、この内容は整合している。 	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八） 該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>(2) 屋外管理用の主要な設備の種類</p> <p><u>チ(2)-①</u>発電用原子炉施設には、通常運転時、運転時の異常な過渡変化時及び設計基準事故時において、発電所外へ放出する放射性物質の濃度、発電所敷地内外の放射線等を監視するために<u>チ(2)-②</u>主排気筒モニタ、<u>チ(2)-③</u>周辺監視区域境界付近固定モニタ（1号、2号、3号、4号、5号、6号及び7号炉共用、既設）及び放射能観測車（1号、2号、3号、4号、5号、6号及び7号炉共用、既設）を設ける。</p>	<p>8.1 放射線管理設備</p> <p>8.1.1 通常運転時等</p> <p>8.1.1.4 主要設備</p> <p>8.1.1.4.3 放射線監視設備</p> <p>(1) プロセス放射線モニタリング設備</p> <p>プロセス放射線モニタは、連続的に放射線を測定し、放射線レベル基準設定値を超えたときは警報を発する。主なプロセス放射線モニタとして次のものがあり、その配置図を第8.1-1図に示す。</p> <p>b. 主排気筒モニタ</p> <p>主排気筒から放出される放射性ガスの監視を行い、中央制御室にて指示及び記録し警報を発する。検出器にはNaIシンチレータ及び電離箱を使用する。また、よう素用フィルタ、粒子用フィルタ及びトリチウム捕集装置を設けて放射性よう素、粒子状放射性物質及びトリチウムを連続的に捕集し、定期的に回収、測定する。</p> <p>k. 液体廃棄物処理系排水モニタ</p> <p>液体廃棄物処理系設備の放出液中の放射能監視を行い、中央制御室にて指示及び記録し警報を発する。また、5号炉廃棄物処理系制御室においても指示及び記録し警報を発する。検出器にはNaIシンチレータを使用する。</p> <p>(3) 環境モニタリング設備（1号、2号、3号、4号、5号、6号及び7号炉共用、既設）</p> <p>発電所敷地周辺の放射線監視設備として次のものを設ける。</p> <p>a. 固定モニタリング設備</p> <p>周辺監視区域境界付近に空間放射線量率の連続監視を行うためのモニタリング・ポスト9台及び空間放射線量測定のため適切な間隔でモニタリング・ポイントを設定し、蛍光ガラス線量計を配置する。</p> <p><中略></p> <p>c. 放射能観測車</p> <p>事故時等に発電所敷地周辺の空間放射線量率及び空気</p>	<p>【放射線管理施設】</p> <p>（基本設計方針）</p> <p>第2章 個別項目</p> <p>1. 放射線管理施設</p> <p>1.1 放射線管理用計測装置</p> <p><中略></p> <p><u>発電所外へ放出する放射性物質の濃度、チ(2)-①周辺監視区域境界付近の空間線量率等を監視するために、チ(2)-②プロセスモニタリング設備、固定式周辺モニタリング設備及び移動式周辺モニタリング設備を設ける設計とする。また、風向、風速その他の気象条件を測定するため、環境測定装置を設ける設計とする。</u></p> <p><中略></p> <p>1.1.3 固定式周辺モニタリング設備</p> <p>通常運転時、運転時の異常な過渡変化時及び設計基準事故時において、周辺監視区域境界付近の空間線量率を監視及び測定するための固定式周辺モニタリング設備として<u>チ(2)-③</u>モニタリングポスト（「1号機設備、1,2,3,4,5,6,7号機共用」（以下同じ。））を設け、中央制御室及び5号機原子炉建屋内緊急時対策所（対策本部・高気密室）に計測結果を表示できる設計とする。また、計測結果を記録し、及び保存することができる設計とする。</p> <p><中略></p> <p>1.1.4 移動式周辺モニタリング設備</p> <p><u>通常運転時、運転時の異常な過渡変化時及び設計基準事故時において、周辺監視区域境界付近の放射性物質の濃度を計測するための移動式周辺モニタリング設備として、空気中の放射性粒子及び放射性よう素の濃度を測定するサンブラと測定器を備えた放射能観測車（「1号機設備、1,2,3,4,5,6,7号機共用、屋外に保管」（以下同じ。））を設け、測定結果を表示し、記録し、及び保存することができる設計とする。ただし、放射能観測車による断続的な試料の分析は、従事者が</u></p>	<p>設計及び工事の計画の<u>チ(2)-①</u>は、設置変更許可申請書（本文（五号））の<u>チ(2)-①</u>と同義であり、整合している。</p> <p>設計及び工事の計画の<u>チ(2)-②</u>は、設置変更許可申請書（本文（五号））の<u>チ(2)-②</u>を全て含んでおり、整合している。</p> <p>設計及び工事の計画の<u>チ(2)-③</u>は、設置変更許可申請書（本文（五号））の<u>チ(2)-③</u>を具体的に記載しており、整合している。</p>	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八） 該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
	<p>中の放射性物質の濃度を迅速に測定するために、空間ガンマ線測定装置、GM 計数装置、よう素測定装置等を搭載した無線通話装置付の放射能観測車を備える。</p> <p>d. 気象観測設備 放射性気体廃棄物の放出管理及び発電所周辺の一般公衆の線量評価並びに一般気象データ収集のため、発電所敷地内で風向、風速、日射量、放射収支量等を測定及び記録する設備を設ける。</p> <p>6. 計測制御系統施設 6.10 制御室 6.10.1 通常運転時等 6.10.1.4 主要設備 6.10.1.4.1 中央制御室</p> <p>a. 監視カメラ 想定される自然現象等（地震、津波、風（台風）、竜巻、降水、積雪、落雷、地滑り、火山の影響、森林火災、飛来物（航空機落下等）、近隣工場等の火災、船舶の衝突）の影響について、昼夜にわたり発電所構内の状況（海側、山側）を把握することができる暗視機能等を持った監視カメラを設置する。</p> <p>b. 気象観測設備等の設置 風（台風）、竜巻、凍結、降水等による発電所構内の状況を把握するため、風向、風速、気温、降水量等を測定する気象観測設備を設置する。また、津波及び高潮については、津波監視設備として取水槽水位計を設置する。</p>	<p>測定結果を記録し、及びこれを保存し、その記録を確認することをもって、これに代えるものとする。</p> <p><中略></p> <p>1.1.5 環境測定装置 周辺監視区域境界付近の放射性物質の濃度は、試料採取設備により断続的に試料を採取し分析を行い、測定結果を記録し、及び保存する。</p> <p>放射性気体廃棄物の放出管理、発電所周辺の一般公衆の線量評価、一般気象データ収集及び発電用原子炉施設の外部の状況を把握するための気象観測設備（「7号機設備、1,2,3,4,5,6,7号機共用、1号機に設置」（以下同じ。））を設け、計測結果を中央制御室に表示できる設計とする。また、発電所敷地内における風向及び風速の計測結果を記録し、及び保存することができる設計とする。</p> <p><中略></p> <p>【計測制御系統施設】 （要目表） 発電用原子炉の運転を管理するための制御装置</p> <p>2 中央制御室機能及び中央制御室外原子炉停止機能</p> <p>1. 中央制御室機能</p> <p>1.3 外部状況把握 発電用原子炉施設の外部の状況を把握するため、津波監視カメラ（「7号機設備、6,7号機共用」（以下同じ。））（浸水防護施設の設備を計測制御系統施設の設備として兼用（以下同じ。））、風向、風速その他の気象条件を測定する気象観測設備（「7号機設備、1,2,3,4,5,6,7号機共用、1号機に設置」（以下同じ。））を設置し、津波監視カメラの映像、気象観測設備のパラメータ及び公的機関からの地震、津波、竜巻情報等の入手により中央制御室から発電用原子炉施設に影響を及ぼす可能性のある自然現象等を把握できる設計とする。</p> <p>津波監視カメラは暗視機能等を持ち、中央制御室にて遠隔操作することにより、発電所構内の周辺状況（海側及び山側）を昼夜にわたり把握できる設計とする。</p> <p>なお、津波監視カメラは、地震荷重等を考慮し必要な</p>		

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八） 該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p><u>チ(2)－④主排気筒モニタ、廃棄物処理系排水モニタ並びに周辺監視区域境界付近固定モニタのうちモニタリング・ポストについては、設計基準事故時における迅速な対応のために必要な情報を中央制御室及び5号炉原子炉建屋内緊急時対策所に表示できる設計とする。</u></p> <p><u>モニタリング・ポストは、チ(2)－⑤常用所内電源に接続しており、常用所内電源喪失時においては、電源復旧までの期間、専用の無停電電源装置により電源を供給できる設計とする。</u></p> <p><u>また、チ(2)－⑥モニタリング・ポストから中央制御室及び5号炉原子炉建屋内緊急時対策所チ(2)－⑦までのデータ伝送系は多様性を有する設計とする。</u></p>	<p>8. 放射線管理施設 8.1 放射線管理設備 8.1.1 通常運転時等 8.1.1.4 主要設備 8.1.1.4.3 放射線監視設備 (3) 環境モニタリング設備（1号、2号、3号、4号、5号、6号及び7号炉共用、既設） 発電所敷地周辺の放射線監視設備として次のものを設ける。 a. 固定モニタリング設備 周辺監視区域境界付近に空間放射線量率の連続監視を行うためのモニタリング・ポスト9台及び空間放射線量測定のため適切な間隔でモニタリング・ポイントを設定し、蛍光ガラス線量計を配置する。</p> <p><u>モニタリング・ポストは、常用所内電源に接続しており、常用所内電源喪失時においては、電源復旧までの期間、専用の無停電電源装置により電源を供給できる設計とする。</u></p> <p><u>また、モニタリング・ポストから中央制御室及び5号炉原子炉建屋内緊急時対策所までのデータ伝送系は、有線及び無線により、多様性を有し、指示値は中央制御室及び5号炉原子炉建屋内緊急時対策所で監視できる設計とする。</u></p>	<p>強度を有する設計とするとともに、7号機の非常用所内電源設備から給電できる設計とする。</p> <p>【放射線管理施設】 (基本設計方針) 第2章 個別項目 1. 放射線管理施設 1.1 放射線管理用計測装置 <中略></p> <p><u>チ(2)－④プロセスモニタリング設備、エリアモニタリング設備及び固定式周辺モニタリング設備については、設計基準事故時における迅速な対応のために必要な情報を中央制御室（「7号機設備、6,7号機共用」（以下同じ。））及び5号機原子炉建屋内緊急時対策所（対策本部・高気密室）（「7号機設備、6,7号機共用、5号機に設置」（以下同じ。））に表示できる設計とする。</u> <中略> 1.1.3 固定式周辺モニタリング設備 <中略> <u>モニタリングポストは、チ(2)－⑤5号機の常用所内電源系が使用できない場合においても、電源復旧までの期間、専用の無停電電源装置（「7号機設備、1,2,3,4,5,6,7号機共用、1号機に設置」（以下同じ。））からの電源供給により、空間線量率を計測することができる設計とする。</u>さらに、モニタリングポストは、専用の無停電電源装置により、電源切替時の短時間の停電時に電源を供給できる設計とし、重大事故等が発生した場合には、代替電源設備であるモニタリングポスト用発電機（7号機設備、6,7号機共用）から給電できる設計とする。 モニタリングポストで計測したデータの伝送系は、<u>チ(2)－⑥モニタリングポスト設置場所から5号機原子炉建屋内緊急時対策所及びチ(2)－⑦5号機原子炉建屋内緊急時対策所から中央制御室間において有線回線と衛星回線又は無線回線により多様性を有する設計とする。</u></p>	<p>設計及び工事の計画のチ(2)－④は、設置変更許可申請書（本文（五号））のチ(2)－④を全て含んでおり、整合している。</p> <p>設計及び工事の計画のチ(2)－⑤は、設置変更許可申請書（本文（五号））のチ(2)－⑤と同義であり、整合している。</p> <p>設計及び工事の計画のチ(2)－⑥は、設置変更許可申請書（本文（五号））のチ(2)－⑥と同義であり、整合している。</p>	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八） 該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p><u>モニタリング・ポストは、その測定値が設定値以上に上昇した場合、直ちに中央制御室及びチ(2)－⑧5号炉原子炉建屋内緊急時対策所に警報を発信する設計とする。</u></p> <p><u>重大事故等が発生した場合に発電所及びその周辺（発電所の周辺海域を含む。）において発電用原子炉施設から放出される放射性物質の濃度及び放射線量を監視し、及び測定し、並びにその結果を記録するためにチ(2)－⑨必要な重大事故等対処設備を保管する。重大事故等が発生した場合に発電所において風向、風速その他の気象条件を測定し、及びその結果を記録するために必要な重大事故等対処設備を保管する。</u></p> <p><u>重大事故等が発生した場合に発電所及びその周辺（発電所の周辺海域を含む。）において発電用原子炉施設から放出される放射性物質の濃度及び放射線量を監視し、チ(2)－⑩及び測定し、並びにその結果を記録するための設備として、可搬型モニタリングポスト、可搬型放射線計測器及び小型船舶（海上モニタリング用）を設ける。</u></p>	<p><u>モニタリング・ポストは、その測定値が設定値以上に上昇した場合、直ちに中央制御室及び5号炉原子炉建屋内緊急時対策所に警報を発信する設計とする。</u></p> <p>8.1.2 重大事故等時 8.1.2.1 概要 <u>重大事故等が発生した場合に発電所及びその周辺（発電所の周辺海域を含む。）において発電用原子炉施設から放出される放射性物質の濃度及び放射線量を監視し、及び測定し、並びにその結果を記録するために必要な重大事故等対処設備を保管する。重大事故等が発生した場合に発電所において風向、風速その他の気象条件を測定し、及びその結果を記録するために必要な重大事故等対処設備を保管する。</u> <中略></p> <p>8.1.2.2 設計方針 (1) 放射性物質の濃度及び放射線量の測定に用いる設備 a. 可搬型モニタリングポストによる放射線量の測定及び代替測定 主要な設備は、以下のとおりとする。 ・可搬型モニタリングポスト <中略></p> <p>c. 可搬型放射線計測器等による放射性物質の濃度及び放射線量の測定 <u>重大事故等が発生した場合に、発電所及びその周辺（発電所の周辺海域を含む。）において、発電用原子炉施設から放出される放射性物質の濃度（空气中、水中、土壤中）及び放射線量を測定するための重大事故等対処設備</u></p>	<p><u>モニタリングポストは、その測定値が設定値以上に上昇した場合、直ちに中央制御室及びチ(2)－⑧5号機原子炉建屋内緊急時対策所（対策本部・高气密室）に警報を発信する設計とする。</u></p> <p>1.1 放射線管理用計測装置 <中略> <u>重大事故等が発生した場合に発電所及びその周辺（発電所の周辺海域を含む。）において、発電用原子炉施設から放出される放射性物質の濃度及び放射線量を監視し、及び測定し、並びにその結果を記録するために、チ(2)－⑨移動式周辺モニタリング設備を保管する設計とする。</u> <u>重大事故等が発生した場合に発電所において、風向、風速その他の気象条件を測定し、及びその結果を記録するために、環境測定装置を保管する設計とする。</u></p> <p>1.1.4 移動式周辺モニタリング設備 <中略></p> <p><u>重大事故等が発生した場合に発電所及びその周辺（発電所の周辺海域を含む。）において、発電用原子炉施設から放出される放射性物質の濃度（空气中、水中、土壤中）及び放射線量を監視するためのチ(2)－⑩移動式周辺モニタリング設備として使用するNaIシンチレーションサーベイメータ（7号機設備、6,7号機共用）（以下同じ。）、GM汚染サーベイメータ（7号機設備、6,7号機共用）（以下同じ。）、ZnSシンチレーションサーベイメータ（7号機設備、6,7号機共用）及び電</u></p>	<p>設計及び工事の計画のチ(2)－⑦は、設置変更許可申請書（本文（五号））のチ(2)－⑦を具体的に記載しており、整合している。</p> <p>設計及び工事の計画のチ(2)－⑧は、設置変更許可申請書（本文（五号））のチ(2)－⑧を具体的に記載しており、整合している。</p> <p>設計及び工事の計画のチ(2)－⑨は、設置変更許可申請書（本文（五号））のチ(2)－⑨を具体的に記載しており、整合している。</p> <p>設計及び工事の計画のチ(2)－⑩は、設置変更許可申請書（本文（五号））のチ(2)－⑩を具体的に記載しており、整合している。</p>	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八） 該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>モニタリング・ポストが機能喪失した場合にその機能を代替する<u>チ(2)－⑪</u>重大事故等対処設備として、可搬型モニタリングポストは、重大事故等が発生した場合に、<u>チ(2)－⑫</u>発電所敷地境界付近において、発電用原子炉施設から放出される放射線量を監視し、及び測定し、並びにその結果を記録できる設計とし、モニタリング・ポストを代替し得る十分な個数を保管する。</p> <p>また、可搬型モニタリングポストは、重大事故等が発生した場合に、発電所海側及び5号炉原子炉建屋内緊急時対策所付近等において、発電用原子炉施設から放出される放射線量を監視し、及び測定し、並びにその結果を記録できる設計とする。</p> <p>可搬型モニタリングポストの指示値は、<u>チ(2)－⑬</u>無線により伝送し、5号炉原子炉建屋内緊急時対策所で監視できる設計とする。</p>	<p>として、<u>可搬型放射線計測器及び小型船舶（海上モニタリング用）</u>を使用する。</p> <p>モニタリング・ポストが機能喪失した場合にその機能を代替する<u>重大事故等対処設備</u>として、<u>可搬型モニタリングポスト</u>を使用する。 <u>可搬型モニタリングポストは、重大事故等が発生した場合に、発電所敷地境界付近において、発電用原子炉施設から放出される放射線量を監視し、及び測定し、並びにその結果を記録できる設計とし、モニタリング・ポストを代替し得る十分な個数を保管する。</u></p> <p>また、可搬型モニタリングポストは、重大事故等が発生した場合に、発電所海側及び5号炉原子炉建屋内緊急時対策所付近等において、発電用原子炉施設から放出される放射線量を監視し、及び測定し、並びにその結果を記録できる設計とする。</p> <p>可搬型モニタリングポストの指示値は、<u>無線</u>により伝送し、5号炉原子炉建屋内緊急時対策所で監視できる設計とする。<u>可搬型モニタリングポストで測定した放射線量は、電源喪失により保存した記録が失われないよう、</u></p>	<p>離箱サーベイメータ（7号機設備、6,7号機共用）を設け、測定結果を記録し、保存できるように測定値を表示できる設計とし、<u>可搬型ダスト・よう素サンプラ</u>（「7号機設備、6,7号機共用、5号機に保管」（以下同じ。））（個数2（予備1））<u>及び小型船舶（海上モニタリング用）</u>（7号機設備、6,7号機共用、屋外に保管）（個数1（予備1））を保管する設計とする。</p> <p><中略></p> <p>モニタリングポストが機能喪失した場合にその機能を代替する<u>チ(2)－⑪</u>移動式周辺モニタリング設備として使用する<u>可搬型モニタリングポスト</u>を設け、<u>重大事故等が発生した場合に、チ(2)－⑫</u>周辺監視区域境界付近において、発電用原子炉施設から放出される放射線量を監視し、及び測定し、並びにその結果を記録できる設計とする。<u>可搬型モニタリングポストの記録は、電磁的に記録、保存し、電源喪失により保存した記録が失われず、必要な容量を保存できる設計とする。</u></p> <p><中略></p> <p>可搬型モニタリングポストは、<u>モニタリングポストを代替し得る十分な個数を保管する設計とする。</u>また、指示値は、衛星回線により伝送し、5号機原子炉建屋内緊急時対策所でデータ処理装置（可搬型モニタリングポスト及び可搬型気象測定装置用）（「7号機設備、6,7号機共用、5号機に設置」（以下同じ。））のうち表示部にて監視できる設計とする。</p> <p><中略></p> <p>1.1.4 移動式周辺モニタリング設備</p> <p><中略></p> <p><u>可搬型モニタリングポストは、重大事故等が発生した場合に、発電所海側及び5号機原子炉建屋内緊急時対策所付近等において、発電用原子炉施設から放出される放射線量を監視し、及び測定し、並びにその結果を記録できる設計とするとともに、5号機原子炉建屋内緊急時対策所内への希ガス等の放射性物質の侵入を低減又は防止するための判断に用いる設計とする。</u></p> <p><u>可搬型モニタリングポストは、モニタリングポストを代替し得る十分な個数を保管する設計とする。</u>ま</p>	<p>設計及び工事の計画の<u>チ(2)－⑪</u>は、設置変更許可申請書（本文（五号））の<u>チ(2)－⑪</u>を具体的に記載しており、整合している。</p> <p>設計及び工事の計画の<u>チ(2)－⑫</u>は、設置変更許可申請書（本文（五号））の<u>チ(2)－⑫</u>と同義であり、整合している。</p> <p>設計及び工事の計画の<u>チ(2)－⑬</u>は、設置変更許可申請書（本文（五号））の<u>チ(2)－⑬</u>と同義であり、整合してい</p>	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八） 該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>放射能観測車のダスト・よう素サンプラ、よう素測定装置又はGM計数装置が機能喪失した場合にその機能を代替する重大事故等対処設備として、<u>チ(2)－⑭可搬型放射線計測器は、重大事故等が発生した場合に、発電所及びその周辺において、発電用原子炉施設から放出される放射性物質の濃度（空气中）を監視し、及び測定し、並びにその結果を記録できるように測定値を表示する設計とし、放射能観測車を代替し得る十分な個数を保管する。</u></p> <p>放射性物質の濃度及び放射線量を測定するための<u>チ(2)－⑮重大事故等対処設備として、可搬型放射線計測器は、重大事故等が発生した場合に、発電所及びその周辺（発電所の周辺海域を含む。）において、発電用原子炉施設から放出される放射性物質の濃度（空气中、水中、土壤中）及び放射線量を監視し、及び測定し、並びにその結果を記録できるように測定値を表示する設計とする。発電所の周辺海域においては、小型船舶（海上モニタリング用）をチ(2)－⑯用いる設計とする。</u></p>	<p>電磁的に記録、保存する設計とする。また、記録は必要な容量を保存できる設計とする。</p> <p>可搬型モニタリングポストの電源は、蓄電池を使用する設計とする。</p> <p><中略></p> <p>b. 可搬型放射線計測器による空气中の放射性物質の濃度の代替測定</p> <p><u>放射能観測車のダスト・よう素サンプラ、よう素測定装置又はGM計数装置が機能喪失した場合にその機能を代替する重大事故等対処設備として、可搬型放射線計測器（ダスト・よう素サンプラの代替として可搬型ダスト・よう素サンプラ、よう素測定装置の代替としてNaIシンチレーションサーベイメータ、GM計数装置の代替としてGM汚染サーベイメータ）を使用する。</u></p> <p><u>可搬型放射線計測器は、重大事故等が発生した場合に、発電所及びその周辺において、発電用原子炉施設から放出される放射性物質の濃度（空气中）を監視し、及び測定し、並びにその結果を記録できるように測定値を表示する設計とし、放射能観測車を代替し得る十分な個数を保管する。</u></p> <p><中略></p> <p>c. 可搬型放射線計測器等による放射性物質の濃度及び放射線量の測定</p> <p><u>可搬型放射線計測器は、重大事故等が発生した場合に、発電所及びその周辺（発電所の周辺海域を含む。）において、発電用原子炉施設から放出される放射性物質の濃度（空气中、水中、土壤中）及び放射線量を監視し、及び測定し、並びにその結果を記録できるように測定値を表示する設計とする。発電所の周辺海域においては、小型船舶（海上モニタリング用）を用いる設計とする。</u></p> <p><中略></p>	<p>た、指示値は、<u>チ(2)－⑬衛星回線により伝送し、5号機原子炉建屋内緊急時対策所でデータ処理装置（可搬型モニタリングポスト及び可搬型気象測定装置用）（7号機設備、6,7号機共用、5号機に設置）（以下同じ。）のうち表示部にて監視できる設計とする。</u></p> <p>これらの設備は、炉心の著しい損傷及び原子炉格納容器の破損が発生した場合に放出されると想定される放射性物質の濃度及び放射線量を測定できる設計とする。</p> <p>1.1.4 移動式周辺モニタリング設備</p> <p><中略></p> <p><u>放射能観測車のダスト・よう素サンプラ、よう素測定装置又はGM計数装置が機能喪失した場合にその機能を代替する重大事故等対処設備として使用するチ(2)－⑭可搬型ダスト・よう素サンプラ、NaIシンチレーションサーベイメータ、GM汚染サーベイメータを設け、重大事故等が発生した場合に、発電所及びその周辺において、発電用原子炉施設から放出される放射性物質の濃度（空气中）を監視し、及び測定し、並びにその結果を記録し、保存できるように測定値を表示できる設計とし、放射能観測車を代替し得る十分な個数を保管する設計とする。</u></p> <p><中略></p> <p>1.1 放射線管理用計測装置</p> <p><中略></p> <p><u>チ(2)－⑮a重大事故等が発生した場合に発電所及びその周辺（発電所の周辺海域を含む。）において、発電用原子炉施設から放出される放射性物質の濃度及び放射線量を監視し、及び測定し、並びにその結果を記録するために、移動式周辺モニタリング設備を保管する設計とする。</u></p> <p><中略></p> <p>1.1.4 移動式周辺モニタリング設備</p> <p><中略></p>	<p>る。</p> <p>設計及び工事の計画の<u>チ(2)－⑭</u>は、設置変更許可申請書（本文（五号））の<u>チ(2)－⑭</u>を具体的に記載しており、整合している。</p> <p>設計及び工事の計画の<u>チ(2)－⑮a</u>及び<u>チ(2)－⑮b</u>は、設置変更許可申請書（本文（五号））の<u>チ(2)－⑮</u>を具体的に記載しており、整合している。</p>	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八） 該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>これらの設備は、炉心の著しい損傷及び原子炉格納容器の破損が発生した場合に放出されると想定される放射性物質の濃度及び放射線量を測定できる設計とする。</p> <p>重大事故等が発生した場合に発電所において風向、風速その他の気象条件を測定し、及びその結果を記録するための設備として、可搬型気象観測装置を設ける。</p> <p>気象観測設備が機能喪失した場合にその機能を代替する重大事故等対処設備として、可搬型気象観測装置は、重大事故等が発生した場合に、発電所において風向、風速その他の気象条件を測定し、及びその結果を記録できる設計とする。可搬型気象観測装置の指示値は、<u>チ(2)-⑰</u>無線により伝送し、5号炉原子炉建屋内緊急時対策所で監視できる設計とする。</p>	<p>これらの設備は、炉心の著しい損傷及び原子炉格納容器の破損が発生した場合に放出されると想定される放射性物質の濃度及び放射線量を測定できる設計とする。</p> <p>(2) 風向、風速その他の気象条件の測定に用いる設備 a. 可搬型気象観測装置による気象観測項目の代替測定 気象観測設備が機能喪失した場合にその機能を代替する重大事故等対処設備として、可搬型気象観測装置を使用する。</p> <p>可搬型気象観測装置は、重大事故等が発生した場合に、発電所において風向、風速その他の気象条件を測定し、及びその結果を記録できる設計とし、気象観測設備を代替し得る十分な個数を保管する。</p> <p>可搬型気象観測装置の指示値は、無線により伝送し、5号炉原子炉建屋内緊急時対策所で監視できる設計とする。</p> <p>可搬型気象観測装置で測定した風向、風速その他の気象条件は、電源喪失により保存した記録が失われないよう、電磁的に記録、保存する設計とする。また、記録は</p>	<p>重大事故等が発生した場合に発電所及びその周辺（発電所の周辺海域を含む。）において、発電用原子炉施設から放出される放射性物質の濃度（空气中、水中、土壌中）及び放射線量を監視するための<u>チ(2)-⑱</u> <u>b</u>移動式周辺モニタリング設備として使用するNaIシンチレーションサーベイメータ（「7号機設備、6,7号機共用」（以下同じ。）、GM汚染サーベイメータ（「7号機設備、6,7号機共用」（以下同じ。）、ZnSシンチレーションサーベイメータ（7号機設備、6,7号機共用）及び電離箱サーベイメータ（7号機設備、6,7号機共用）を設け、測定結果を記録し、保存できるように測定値を表示できる設計とし、可搬型ダスト・よう素サンプラ（「7号機設備、6,7号機共用、5号機に保管」（以下同じ。）（個数2（予備1））及び小型船舶（海上モニタリング用）（7号機設備、6,7号機共用、屋外に保管）（個数1（予備1））を<u>チ(2)-⑱</u>保管する設計とする。</p> <p><中略></p> <p>これらの設備は、炉心の著しい損傷及び原子炉格納容器の破損が発生した場合に放出されると想定される放射性物質の濃度及び放射線量を測定できる設計とする。</p> <p>1.1.5 環境測定装置 <中略></p> <p>重大事故等が発生した場合に発電所において、風向、風速その他の気象条件を測定し、及びその結果を記録するための設備として、可搬型気象観測装置（「7号機設備、6,7号機共用、屋外に保管」（以下同じ。）（個数1（予備1））を設ける設計とする。</p> <p>気象観測設備が機能喪失した場合にその機能を代替する重大事故等対処設備として使用する可搬型気象観測装置は、重大事故等が発生した場合に発電所において、風向、風速その他の気象条件を測定し、及びその結果を記録できる設計とする。可搬型気象観測装置の記録は、電磁的に記録、保存し、電源喪失により保存した記録が失われず、必要な容量を保存できる設計とする。可搬型気象観測装置の指示値は、<u>チ(2)-⑰</u>衛星回線により伝送し、5号機原子炉建屋内緊急時対策所でデータ処理装置（可搬型モニタリングポスト及び可</p>	<p>設計及び工事の計画の<u>チ(2)-⑱</u>は、設置変更許可申請書（本文（五号））の<u>チ(2)-⑱</u>と同義であり、整合している。</p> <p>設計及び工事の計画の<u>チ(2)-⑰</u>は、設置変更許可申請書（本文（五号））の<u>チ(2)-⑰</u>と同義であり、整合している。</p>	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八） 該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>モニタリング・ポストは、<u>チ(2)－⑱</u>常用所内電源に接続しており、常用所内電源が喪失した場合は、<u>代替交流電源設備</u>であるモニタリング・ポスト用発電機から給電できる設計とする。</p>	<p>必要な容量を保存できる設計とする。 可搬型気象観測装置の電源は、蓄電池を使用する設計とする。 <中略> (3) モニタリング・ポストの代替交流電源設備</p> <p>モニタリング・ポストは、<u>常用所内電源に接続しており、常用所内電源が喪失した場合は、代替交流電源設備であるモニタリング・ポスト用発電機から給電できる設計とする。</u>モニタリング・ポスト用発電機は、定期的に燃料を給油することで、モニタリング・ポストでの監視、及び測定、並びに記録を継続できる設計とする。 <中略></p> <p>8.1.1 通常運転時等 8.1.1.4 主要設備 8.1.1.4.3 放射線監視設備 (1) プロセス放射線モニタリング設備</p>	<p>搬型気象測定装置用)のうち表示部にて<u>監視できる設計とする。</u></p> <p>1.1.3 固定式周辺モニタリング設備 <中略> モニタリングポストは、<u>チ(2)－⑱</u>5号機の常用所内電源系が使用できない場合においても、電源復旧までの期間、専用の無停電電源装置（「7号機設備、1,2,3,4,5,6,7号機共用、1号機に設置」（以下同じ。））からの電源供給により、空間線量率を計測することができる設計とする。さらに、モニタリングポストは、専用の無停電電源装置により、電源切替時の短時間の停電時に電源を供給できる設計とし、重大事故等が発生した場合には、<u>代替電源設備であるモニタリングポスト用発電機（7号機設備、6,7号機共用）から給電できる設計とする。</u> <中略> 【非常用電源設備】 (基本設計方針) 第2章 個別項目 2. 交流電源設備 2.4 負荷に直接接続する電源設備 2.4.1 監視測定設備用電源設備 モニタリングポスト用発電機（「7号機設備、6,7号機共用」（以下同じ。））は、<u>モニタリングポスト用発電機1台により、3台のモニタリングポストに給電できる設計とする。</u></p>	<p>設計及び工事の計画の<u>チ(2)－⑱</u>は、設置変更許可申請書（本文（五号））の<u>チ(2)－⑱</u>と同義であり、整合している。</p>	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八） 該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>主排気筒モニタ 一式</p> <p>廃棄物処理系排水モニタ 一式</p> <p>気象観測設備 <u>（1号，2号，3号，4号，5号，6号及び7号炉共用，既設）</u> <u>チ(2)-⑱</u>一式</p>	<p>b. <u>主排気筒モニタ</u> 主排気筒から放出される放射性ガスの監視を行い，中央制御室にて指示及び記録し警報を発する。検出器にはNaIシンチレータ及び電離箱を使用する。また，よう素用フィルタ，粒子用フィルタ及びトリチウム捕集装置を設けて放射性よう素，粒子状放射性物質及びトリチウムを連続的に捕集し，定期的に回収，測定する。</p> <p>i. <u>気体廃棄物処理設備エリア排気モニタ</u> 気体廃棄物処理設備エリア排気中の放射性ガスを監視し，中央制御室にて指示及び記録し警報を発する。検出器には半導体検出器を使用する。</p> <p>k. <u>液体廃棄物処理系排水モニタ</u> 液体廃棄物処理系設備の放出液中の放射能監視を行い，中央制御室にて指示及び記録し警報を発する。また，5号炉廃棄物処理系制御室においても指示及び記録し警報を発する。検出器にはNaIシンチレータを使用する。</p> <p><u>(3) 環境モニタリング設備（1号，2号，3号，4号，5号，6号及び7号炉共用，既設）</u></p> <p>d. <u>気象観測設備</u> 放射性気体廃棄物の放出管理及び発電所周辺の一般公衆の線量評価並びに一般気象データ収集のため，発電所敷地内で風向，風速，日射量，放射収支量等を測定及び記録する設備を設ける。</p>	<p>【計測制御系統施設】 （要目表） 発電用原子炉の運転を管理するための制御装置</p> <p>1. 中央制御室機能</p> <p>1.3 外部状況把握 発電用原子炉施設の外部の状況を把握するため，津波監視カメラ（「7号機設備，6,7号機共用」（以下同じ。））（浸水防護施設の設備を計測制御系統施設の設備として兼用（以下同じ。）），風向，風速その他の気象条件を測定する<u>気象観測設備</u>（「7号機設備，<u>1,2,3,4,5,6,7号機共用</u>，1号機に設置」（以下同じ。））<u>チ(2)-⑱</u>を設置し，津波監視カメラの映像，気象観測設備のパラメータ及び公的機関からの地震，津波，竜巻情報等の入手により中央制御室から発電用原子炉施設に影響を及ぼす可能性のある自然現象等を把握できる設計とする。</p> <p>津波監視カメラは暗視機能等を持ち，中央制御室にて遠隔操作することにより，発電所構内の周辺状況（海側及び山側）を昼夜にわたり把握できる設計とする。</p>	<p>設置変更許可申請書（本文（五号））において許可を受けた「主排気筒モニタ」は，新規制基準対応設備を申請範囲としている本設工認の対象外である。</p> <p>設置変更許可申請書（本文（五号））において許可を受けた「廃棄物処理系排水モニタ」は，新規制基準対応設備を申請範囲としている本設工認の対象外である。</p> <p>設計及び工事の計画の<u>チ(2)-⑱</u>は，設置変更許可申請書（本文（五号））の<u>チ(2)-⑱</u>と同義であり，整合している。</p>	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八） 該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>チ(2)-⑳ 周辺監視区域境界付近固定モニタ (1号, 2号, 3号, 4号, 5号, 6号及び7号炉共用, 既設) チ(2)-㉑ 一式</p> <p>放射能観測車 (1号, 2号, 3号, 4号, 5号, 6号及び7号炉共用, 既設) チ(2)-㉒ 一式</p>	<p>a. 固定モニタリング設備 周辺監視区域境界付近に空間放射線量率の連続監視を行うためのモニタリング・ポスト9台及び空間放射線量測定のため適切な間隔でモニタリング・ポイントを設定し、蛍光ガラス線量計を配置する。 モニタリング・ポストは、常用所内電源に接続しており、常用所内電源喪失時においては、電源復旧までの期間、専用の無停電電源装置により電源を供給できる設計とする。また、モニタリング・ポストから中央制御室及び5号炉原子炉建屋内緊急時対策所までのデータ伝送系は、有線及び無線により、多様性を有し、指示値は中央制御室及び5号炉原子炉建屋内緊急時対策所で監視できる設計とする。モニタリング・ポストは、その測定値が設定値以上に上昇した場合、直ちに中央制御室及び5号炉原子炉建屋内緊急時対策所に警報を発信する設計とする。</p> <p>c. 放射能観測車 事故時等に発電所敷地周辺の空間放射線量率及び空気中の放射性物質の濃度を迅速に測定するために、空間ガンマ線測定装置、GM計数装置、よう素測定装置等を搭載した無線通話装置付の放射能観測車を備える。</p>	<p>なお、津波監視カメラは、地震荷重等を考慮し必要な強度を有する設計とするとともに、7号機の非常用所内電源設備から給電できる設計とする。</p> <p>【放射線管理施設】 (要目表)</p> <p>(3) 固定式周辺モニタリング設備の名称、検出器の種類、計測範囲、取付箇所（監視・記録の場所を付記すること。）及び個数</p> <p>以下の設備は、1号機設備であり、1号機、2号機、3号機、4号機、5号機、6号機及び7号機共用（1号機で申請済）である。 モニタリングポスト（1号機設備、1,2,3,4,5,6,7号機共用）</p> <p>チ(2)-㉑</p> <p>【放射線管理施設】 (基本設計方針)</p> <p>第2章 個別項目</p> <p>1. 放射線管理施設</p> <p>1.1 放射線管理用計測装置</p> <p>1.1.4 移動式周辺モニタリング設備 通常運転時、運転時の異常な過渡変化時及び設計基準事故時において、周辺監視区域境界付近の放射性物質の濃度を計測するための移動式周辺モニタリング設備として、空気中の放射性粒子及び放射性よう素の濃度を測定するサンブラと測定器を備えた放射能観測車（「1号機設備、1,2,3,4,5,6,7号機共用、屋外に保管」（以下同じ。））チ(2)-㉒を設け、測定結果を表示し、記録し、及び保存することができる設計とする。ただし、放射能観測車による断続的な試料の分析は、従事者が測定結果を記録し、及びこれを保存し、その</p>	<p>設計及び工事の計画のチ(2)-㉑は、設置変更許可申請書（本文（五号））のチ(2)-㉑を具体的に記載しており、整合している。</p> <p>設置変更許可申請書（本文（五号））のチ(2)-㉑は、1,2,3,4,5,6,7号機共用の設計として7号機で整理しており、この内容は整合している。</p> <p>設計及び工事の計画のチ(2)-㉒は、設置変更許可申請書（本文（五号））のチ(2)-㉒と同義であり、整合している。</p>	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八） 該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>[常設重大事故等対処設備]</p> <p>チ(2)-②③ <u>モニタリング・ポスト用発電機 (6号及び7号炉共用)</u></p> <p>個数 <u>チ(2)-②④</u>3</p>	<p>第8.1-2表 放射線管理設備（重大事故等時）の主要機器仕様</p> <p>(1) 環境モニタリング設備</p> <p>a. 固定式モニタリング設備</p> <p>(a) <u>モニタリング・ポスト用発電機 (6号及び7号炉共用)</u></p> <p>ディーゼルエンジン</p> <p>個数 <u>3</u></p> <p>使用燃料 軽油</p> <p>発電機</p> <p>種類 3相同期発電機</p> <p>容量 約40kVA/台</p> <p>力率 0.8</p> <p>電圧 460V</p> <p>周波数 50Hz</p>	<p>記録を確認することをもって、これに代えるものとする。</p> <p><中略></p> <p>【非常用電源設備】</p> <p>(要目表)</p> <p>2 非常用発電装置に係る次の事項</p> <p>2.4 監視測定設備用電源設備</p> <p>(2) 内燃機関に係る次の事項</p> <p>イ 機関の名称、種類、出力、回転速度、燃料の種類及び使用量、個数並びに取付箇所並びに過給機の種類、出口の圧力、回転速度、個数及び取付箇所（常設及び可搬型の別に記載すること。）</p> <p>・常設 以下の設備は、7号機設備であり、6号機及び7号機共用（7号機で申請済）である。</p> <p><u>チ(2)-②④a</u> <u>モニタリングポスト用発電機用内燃機関 (7号機設備, 6,7号機共用)</u></p> <p>(5) 発電機に係る次の事項</p> <p>イ 発電機の名称、種類、容量、主要寸法、力率、電圧、相、周波数、回転速度、結線法、冷却方法、個数及び取付箇所（常設及び可搬型の別に記載すること。）</p> <p>・常設 以下の設備は、7号機設備であり、6号機及び7号機共用（7号機で申請済）である。</p> <p><u>チ(2)-②④b</u> <u>モニタリングポスト用発電機 (7号機設備, 6,7号機共用)</u></p>	<p>設計及び工事の計画の<u>チ(2)-②④a</u>及び<u>チ(2)-②④b</u>は、設置変更許可申請書（本文（五号））の<u>チ(2)-②③</u>と同義であり、整合している。</p> <p>設置変更許可申請書（本文（五号））の<u>チ(2)-②④</u>は、6,7号機共用の設計として7号機で整理しており、この内容は整合している。</p>	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八） 該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>[可搬型重大事故等対処設備]</p> <p>可搬型モニタリングポスト（6号及び7号炉共用）</p> <p>チ(2)-⑳ (「緊急時対策所」と兼用)...</p> <p>個数 チ(2)-㉑15 (予備1)...</p> <p>チ(2)-㉒可搬型放射線計測器（6号及び7号炉共用）</p> <p>チ(2)-㉓一式（予備を含む）...</p>	<p>b. 移動式モニタリング設備</p> <p>(a) 可搬型モニタリングポスト（6号及び7号炉共用）</p> <p>兼用する設備は以下のとおり...</p> <ul style="list-style-type: none"> ・緊急時対策所（重大事故等時）... <p>種類 NaI (Tl) シンチレーション 半導体</p> <p>計測範囲 10～10⁹nGy/h</p> <p>個数 15 (予備1)...</p> <p>伝送方法 無線</p> <p>(b) 可搬型放射線計測器（6号及び7号炉共用）</p> <p>(b-1) 可搬型ダスト・よう素サンプラ</p> <p>個数 2 (予備1)...</p> <p>(b-2) NaI シンチレーションサーベイメータ</p> <p>種類 NaI (Tl) シンチレーション</p> <p>計測範囲 0.1～30 μ Gy/h</p> <p>個数 2 (予備1)...</p> <p>(b-3) GM 汚染サーベイメータ</p> <p>種類 GM 管</p> <p>計測範囲 0～100kmin⁻¹</p> <p>個数 2 (予備1)...</p> <p>(b-4) ZnS シンチレーションサーベイメータ</p>	<p>【放射線管理施設】</p> <p>（要目表）</p> <p>(4) 移動式周辺モニタリング設備の名称，検出器の種類，計測範囲，個数及び取付箇所</p> <p>以下の設備は，7号機設備であり，6号機及び7号機共用（7号機で申請済）である。</p> <p>可搬型モニタリングポスト（7号機設備，6,7号機共用） 電離箱サーベイメータ（7号機設備，6,7号機共用） GM 汚染サーベイメータ（7号機設備，6,7号機共用） ZnS シンチレーションサーベイメータ（7号機設備，6,7号機共用） NaI シンチレーションサーベイメータ（7号機設備，6,7号機共用）</p> <p>【放射線管理施設】</p> <p>（基本設計方針）</p> <p>第2章 個別項目</p> <p>1. 放射線管理施設</p> <p>1.1 放射線管理用計測装置</p> <p>1.1.4 移動式周辺モニタリング設備</p> <p><中略></p> <p>重大事故等が発生した場合に発電所及びその周辺（発電所の周辺海域を含む。）において，発電用原子炉施設から放出される放射性物質の濃度（空气中，水中，土壌中）及び放射線量を監視するための移動式周辺モニタリング設備として使用するNaI シンチレーションサーベイメータ（「7号機設備，6,7号機共用」（以下同じ。）），GM 汚染サーベイメータ（「7号機設備，6,7号機共用」（以下同じ。）），ZnS シンチレーションサーベイメータ（7号機設備，6,7号機共用）及び電離箱サーベイメータ（7号機設備，6,7号機共用）を設け，測定結果を記録し，保存できるように測定値を表示できる設計とし，チ(2)-㉒a可搬型ダスト・よう素サンプラ</p>	<p>整合性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「可搬型モニタリングポスト」は，設置変更許可申請書（本文（五号））におけるチ(2)-㉑を設計及び工事の計画の「放射線管理施設」のうち「放射線管理用計測装置」に整理しており，整合している。 ・設置変更許可申請書（本文（五号））のチ(2)-㉒は，6,7号機共用の設計として7号機で整理しており，この内容は整合している。 <p>設計及び工事の計画のチ(2)-㉒a及びチ(2)-㉒bは，設置変更許可申請書（本文（五号））のチ(2)-㉒を具体的に記載しており，整合している。</p> <p>設置変更許可申請書（本文（五号））のチ(2)-㉒は，6,7号機共用の設計として7号機で整理しており，この内容は整合している。</p>	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八） 該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>小型船舶（海上モニタリング用）（6号及び7号炉共用）</p> <p>個数 <u>1（予備1）</u></p>	<p>種類 ZnS（Ag）シンチレーション</p> <p>計測範囲 0～100kmin⁻¹</p> <p>個数 <u>1（予備1）</u></p> <p>(b-5) <u>電離箱サーベイメータ</u></p> <p>種類 電離箱</p> <p>計測範囲 0.001～1000mSv/h</p> <p>個数 <u>2（予備1）</u></p> <p>c. <u>小型船舶（海上モニタリング用）（6号及び7号炉共用）</u></p> <p>個数 <u>1（予備1）</u></p>	<p>ラ（「7号機設備，<u>6,7号機共用</u>，5号機に保管」（以下同じ。）」（個数2（予備1））及び小型船舶（海上モニタリング用）（7号機設備，6,7号機共用，屋外に保管）（個数1（予備1））を保管する設計とする。</p> <p><中略></p> <p>【放射線管理施設】 （要目表）</p> <p>1 放射線管理用計測装置に係る次の事項</p> <p>(4) 移動式周辺モニタリング設備の名称，検出器の種類，計測範囲，個数及び取付箇所</p> <p>以下の設備は，7号機設備であり，6号機及び7号機共用（7号機で申請済）である。 可搬型モニタリングポスト（7号機設備，<u>6,7号機共用</u>） <u>電離箱サーベイメータ</u>（7号機設備，<u>6,7号機共用</u>） <u>GM汚染サーベイメータ</u>（7号機設備，<u>6,7号機共用</u>） <u>ZnSシンチレーションサーベイメータ</u>（7号機設備，<u>6,7号機共用</u>） <u>NaIシンチレーションサーベイメータ</u>（7号機設備，<u>6,7号機共用</u>）</p> <p>【放射線管理施設】 （基本設計方針）</p> <p>第2章 個別項目</p> <p>1. 放射線管理施設</p> <p>1.1 放射線管理用計測装置</p> <p>1.1.4 移動式周辺モニタリング設備</p> <p><中略></p> <p>重大事故等が発生した場合に発電所及びその周辺（発電所の周辺海域を含む。）において，発電用原子炉施設から放出される放射性物質の濃度（空气中，水中，土壌中）及び放射線量を監視するための移動式周辺モニタリング設備として使用するNaIシンチレーションサーベイメータ（「7号機設備，6,7号機共用」（以下同じ。）」，GM汚染サーベイメータ（「7号機設備，6,7号機共用」（以下同じ。）」，ZnSシンチレーションサーベイメータ（7号機設備，6,7号機共用）及び電離箱サーベイメータ（7号機設備，6,7号機共用）を設け，測定結果を記録し，保存できるように測定値を表示できる設計とし，可搬型ダスト・よう素サンプラ（「7号機</p>	<p>チ(2)－㉔b</p>	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八） 該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p><u>可搬型気象観測装置（6号及び7号炉共用）</u></p> <p>個数 <u>1（予備1）</u></p>	<p>d. <u>可搬型気象観測装置（6号及び7号炉共用）</u></p> <p>観測項目 風向，風速，日射量，放射収支量，雨量</p> <p>個数 <u>1（予備1）</u></p> <p>伝送方法 無線</p>	<p>設備，6,7号機共用，5号機に保管」（以下同じ。）」（個 数2（予備1））及び<u>小型船舶（海上モニタリング用）</u> （7号機設備，<u>6,7号機共用</u>，屋外に保管）（個数<u>1</u> <u>（予備1）</u>）を保管する設計とする。</p> <p><中略></p> <p>1.1.5 環境測定装置</p> <p><中略></p> <p>重大事故等が発生した場合に発電所において，風 向，風速その他の気象条件を測定し，及びその結果を 記録するための設備として，<u>可搬型気象観測装置</u>（「7 号機設備，<u>6,7号機共用</u>，屋外に保管」（以下同じ。）」 （個数<u>1（予備1）</u>）を設ける設計とする。</p> <p><中略></p>		

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八） 該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>リ 原子炉格納施設の構造及び設備</p> <p>(1) 原子炉格納容器の構造</p> <p>原子炉格納施設は、原子炉格納容器及びリ(1)-①補助系(可燃性ガス濃度制御系、格納容器スプレイ冷却系)からなる一次格納施設</p>	<p>9. 原子炉格納施設</p> <p>9.1 原子炉格納施設</p> <p>9.1.1 通常運転時等</p> <p>9.1.1.1 概要</p> <p>原子炉格納施設は、冷却材喪失事故時に発生する放射性物質を原子炉格納容器で隔離し、所定の漏えい量以下に抑えることによりその放射性物質の大気への放出を十分低い量に抑制する機能をもち、原子炉格納容器及び補助系(格納容器内ガス濃度制御系、格納容器スプレイ冷却系)で構成する一次格納施設</p>	<p>【原子炉格納施設】 (基本設計方針)</p> <p>第2章 個別項目</p> <p>1. 原子炉格納容器</p> <p>1.1 原子炉格納容器本体等</p> <p>原子炉格納施設は、設計基準対象施設として、リ(1)-①a 原子炉冷却系統に係る発電用原子炉施設の損壊又は故障の際に漏えいする放射性物質が公衆に放射線障害を及ぼすおそれがない設計とする。</p> <p>原子炉格納容器は、鋼製ライナを内張りした鉄筋コンクリート造とし、円筒形のドライウエル及びサブプレッションチェンバからなる圧力抑制形であり、残留熱除去系(格納容器スプレイ冷却モード)とあいまって原子炉冷却材圧力バウンダリ配管の最も過酷な破断を想定し、これにより放出される原子炉冷却材のエネルギーによる原子炉冷却材喪失時の圧力、温度及び設計上想定された地震荷重に耐える設計とする。</p> <p><中略></p> <p>3. 圧力低減設備その他の安全設備</p> <p>3.4 可燃性ガス濃度制御設備</p> <p>3.4.1 可燃性ガス濃度制御系による可燃性ガス濃度の抑制</p> <p>原子炉冷却材喪失事故時に原子炉格納容器内で発生する水素及び酸素の反応を防止するため、リ(1)-①b 可燃性ガス濃度制御系を設け、不活性ガス系により原子炉格納容器内に窒素を充てんすることとあいまって、可燃限界に達しないための制限値である水素濃度 4vol%未満又は酸素濃度 5vol%未満に維持できる設計とする。</p> <p>3.2 原子炉格納容器安全設備</p> <p>3.2.1 格納容器スプレイ冷却系</p> <p>原子炉冷却系統に係る発電用原子炉施設の損壊又は故障の際に生ずる原子炉格納容器内の圧力及び温度の</p>	<p>設置変更許可申請書(本文(五号)) 第五号リ項において、設計及び工事の計画の内容は、以下のとおり満足している。</p> <p>設計及び工事の計画のリ(1)-①a～リ(1)-①cは、設置変更許可申請書(本文(五号)) リ(1)-①を具体的に記載しており、整合している。</p>	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八） 該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>並びに原子炉建屋原子炉区域及び非常用ガス処理系^リ(1)-②からなる二次格納施設で構成され、...</p>	<p>並びに原子炉建屋原子炉区域（以下 9. では「原子炉区域」という。）及び非常用ガス処理系で構成する二次格納施設がある。</p>	<p>上昇により原子炉格納容器の安全性を損なうことを防止するため、原子炉格納容器内において発生した熱を除去する設備として、^リ(1)-①c 残留熱除去系（格納容器スプレイ冷却モード）を設ける設計とする。</p> <p><中略></p> <p>2. 原子炉建屋</p> <p>2.1 原子炉建屋原子炉棟等</p> <p>^リ(1)-②原子炉冷却系統に係る発電用原子炉施設の損壊又は故障の際に原子炉格納容器から気体状の放射性物質が漏えいすることによる敷地境界外の実効線量が「発電用軽水型原子炉施設の安全評価に関する審査指針（平成 2 年 8 月 30 日原子力安全委員会）」に規定する線量を超えないよう、当該放射性物質の濃度を低減する設備として原子炉建屋原子炉区域（二次格納施設）を設置する。</p> <p>原子炉建屋原子炉区域（二次格納施設）は、原子炉格納容器を完全に囲む構造となっており、非常用ガス処理系により、内部の負圧を確保し、原子炉格納容器から放射性物質の漏えいがあっても発電所周辺に直接放出されることを防止する設計とする。</p> <p>原子炉建屋原子炉区域（二次格納施設）に開口部を設ける場合には、気密性を確保する設計とする。</p> <p>新燃料貯蔵設備及び使用済燃料貯蔵プールは、燃料体等の落下により燃料体等が破損して放射性物質の放出により公衆に放射線障害を及ぼすおそれがある場合において、放射性物質による敷地外への影響を低減するため、原子炉建屋原子炉区域（二次格納施設）内に設置する。</p> <p>原子炉建屋原子炉区域（二次格納施設）は、重大事故等時においても、非常用ガス処理系により、内部の負圧を確保することができる設計とする。原子炉建屋原子炉区域（二次格納施設）の気密バウンダリの一部として原子炉建屋原子炉区域（二次格納施設）に設置する主蒸気系トンネル室ブローアウトパネル（浸水防護施設の設備で兼用）は、閉状態の維持が可能な設計とする。</p>	<p>設計及び工事の計画の^リ(1)-②は、設置変更許可申請書（本文（五号））^リ(1)-②を具体的に記載しており、整合している。</p>	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八） 該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>基礎は岩盤で直接支持する...</p> <p>原子炉格納容器は、鋼製ライナを内張りした鉄筋コンクリート造とし、円筒形のドライウエル及びサブプレッション・チェンバからなる圧力抑制形である。</p> <p>リ(1)-③格納容器バウンダリのうち鋼製部分は、原子力規制委員会規則等に基づき最低使用温度を考慮して非延性破壊を防止するように設計する...</p>	<p>9.1.1.4 主要設備</p> <p>9.1.1.4.1 一次格納施設</p> <p>9.1.1.4.1.1 原子炉格納容器</p> <p>原子炉格納容器は、鋼製ライナを内張りした鉄筋コンクリート造であり、原子炉圧力容器等を取り囲む円筒形ドライウエル、円筒形サブプレッション・チェンバ及び基礎版等で構成する。</p> <p><中略></p> <p>9.1.1.6 評価</p> <p>(9) 原子炉格納容器バウンダリを構成する鋼製の機器については原子力規制委員会規則等に基づき、最低使用温度を考慮して、非延性破壊を防止できる設計としている。</p>	<p>1. 原子炉格納容器</p> <p>1.1 原子炉格納容器本体等</p> <p><中略></p> <p>原子炉格納容器は、鋼製ライナを内張りした鉄筋コンクリート造とし、円筒形のドライウエル及びサブプレッション・チェンバからなる圧力抑制形であり、残留熱除去系（格納容器スプレイ冷却モード）とあいまって原子炉冷却材圧力バウンダリ配管の最も過酷な破断を想定し、これにより放出される原子炉冷却材のエネルギーによる原子炉冷却材喪失時の圧力、温度及び設計上想定された地震荷重に耐える設計とする。</p> <p><中略></p> <p>通常運転時、運転時の異常な過渡変化時及び設計基準事故時において、リ(1)-③原子炉格納容器バウンダリを構成する機器は非延性破壊（脆性破壊）及び破断が生じない設計とする。</p> <p>非延性破壊（脆性破壊）に対しては、最低使用温度を考慮した破壊じん性試験を行い、規定値を満足した材料を使用する設計とする。</p> <p><中略></p>	<p>設置変更許可申請書（本文（五号））において許可を受けた「原子炉格納施設の基礎」は、設置許可のみの要求事項であり、本設工認の対象外である。</p> <p>設計及び工事の計画のリ(1)-③は、設置変更許可申請書（本文（五号））リ(1)-③を具体的に記載しており、整合している。</p>	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八） 該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考																																																																																																						
<p>形式 <u>圧力抑制形</u></p> <p>形状 <u>円筒形</u></p> <p>材料 <u>鉄筋コンクリート</u>、<u>リ(1)-④炭素鋼及びステンレス鋼</u></p> <p>寸法</p> <p>ドライウエル・ヘッド直径 <u>リ(1)-⑤</u>約10m</p> <p>内径 <u>リ(1)-⑥</u>約29m</p> <p>全高 <u>リ(1)-⑦</u>約36m</p>	<p>第9.1-1表 一次格納施設主要仕様</p> <p>(1) 原子炉格納容器</p> <p>形式 <u>圧力抑制形</u></p> <p>形状 <u>円筒形</u></p> <p>寸法</p> <p>ドライウエル・ヘッド直径 約10m</p> <p>内径 約29m</p> <p>全高 約36m</p> <p>円筒部壁厚 約2m</p> <p>鋼製ライナ厚 約6.4m</p> <p>サブプレッション・チェンバ・プール水深 約7.0m</p> <p>容積</p> <p>ドライウエル空間（ベント管とも） 約7,400m³</p> <p>サブプレッション・チェンバ空間部 約6,000m³</p> <p>サブプレッション・チェンバ・プール水量 約3,600m³</p> <p><中略></p> <p>材料</p> <p>本体 <u>鉄筋コンクリート</u></p> <p>鋼製ライナ <u>炭素鋼及びステンレス鋼</u></p> <p>ドライウエル・ヘッド <u>炭素鋼</u></p>	<p>【原子炉格納施設】</p> <p>(要目表)</p> <p>7. 原子炉格納施設</p> <p>沸騰水型発電用原子炉施設に係るものについては、次の事項</p> <p>1 原子炉格納容器に係る次の事項</p> <p>(1) 原子炉格納容器本体の名称、種類、最高使用圧力、最高使用温度、設計漏えい率、主要寸法、材料及び鋼種（ドライウエル及びサブプレッションプールの最高使用圧力、最高使用温度、主要寸法及び材料を付記すること。）</p> <p>a. 原子炉格納容器</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">名 称</th> <th>変 更 前</th> <th>変 更 後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2">原子炉格納容器*1</td> <td>原子炉格納容器</td> <td>原子炉格納容器*2</td> </tr> <tr> <td colspan="2">種 類</td> <td>圧力抑制形</td> <td>圧力抑制形</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">最高使用圧力</td> <td>内圧（ドライウエル、サブプレッションチェンバ）*3</td> <td>kPa 310**4</td> <td>変更なし 620**4</td> </tr> <tr> <td>外圧（ドライウエル、サブプレッションチェンバ）*4</td> <td>kPa 14**4</td> <td>変更なし</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">最高使用温度</td> <td>ドライウエル</td> <td>℃ 171</td> <td>変更なし 200**5</td> </tr> <tr> <td>サブプレッションチェンバ</td> <td>℃ 104</td> <td>変更なし 200**5</td> </tr> <tr> <td colspan="2">設計漏えい率 %/d**7</td> <td colspan="2">0.4以下 〔常温、空気又は窒素、最高使用圧力〕 の0.9倍に等しい圧力に</td> </tr> <tr> <td rowspan="10">主要寸法</td> <td>高 さ*8</td> <td>mm <u>リ(1)-⑦</u></td> <td rowspan="10">変更なし</td> </tr> <tr> <td>上部ドライウエルシエル部内高</td> <td>mm *10</td> </tr> <tr> <td>上部円筒部内径</td> <td>mm *10</td> </tr> <tr> <td>鋼板の形状に係る寸法</td> <td>mm *11, *12 (鋼板の中央部における内面の半径)</td> </tr> <tr> <td>フランジ厚さ</td> <td>mm *13, *14 (鋼板のすみの丸みの内半径)</td> </tr> <tr> <td>上部ドライウエルシエル部内径</td> <td>mm *15</td> </tr> <tr> <td>下部ドライウエル内径</td> <td>mm *16</td> </tr> <tr> <td>ふた板厚さ*17</td> <td>mm *17, *18</td> </tr> <tr> <td>上部円筒部板厚さ*19</td> <td>mm *19, *20</td> </tr> <tr> <td>トップスラブ部厚さ*21</td> <td>mm *21</td> </tr> <tr> <td rowspan="10">材 料</td> <td>上部ドライウエルシエル部厚さ*22</td> <td>mm *22, *23</td> <td rowspan="10">変更なし</td> </tr> <tr> <td>ライナ</td> <td>mm *24, *25</td> </tr> <tr> <td>プレート</td> <td>mm *26, *27</td> </tr> <tr> <td>厚さ</td> <td>mm *28, *29</td> </tr> <tr> <td>貫通部フランジ</td> <td>mm *30</td> </tr> <tr> <td>底 部</td> <td>mm *31, *32</td> </tr> <tr> <td>ライナプレート厚さ*33</td> <td>mm *33, *34</td> </tr> <tr> <td>下部ドライウエル</td> <td>mm *35, *36</td> </tr> <tr> <td>アクセストンネル</td> <td>mm *37, *38</td> </tr> <tr> <td>スリーブ及び鋼板</td> <td>mm *39, *40</td> </tr> <tr> <td rowspan="10">個 数</td> <td>ふ た 板</td> <td>1</td> <td rowspan="10">変更なし</td> </tr> <tr> <td>上 部 円 筒 部 板</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>ト ッ プ ス ラ ブ 部</td> <td>鉄筋コンクリート コンクリート (設計基準強度 32.4N/mm² **4) 鉄筋</td> </tr> <tr> <td>シ エ ル 部</td> <td>鉄筋コンクリート コンクリート (設計基準強度 32.4N/mm² **4) 鉄筋</td> </tr> <tr> <td>底 部</td> <td>鉄筋コンクリート コンクリート (設計基準強度 29.4N/mm² **4) 鉄筋</td> </tr> <tr> <td>ライナ</td> <td>ステンレス鋼</td> </tr> <tr> <td>プレート</td> <td>炭素鋼</td> </tr> <tr> <td>貫通部フランジ</td> <td>炭素鋼</td> </tr> <tr> <td>下部ドライウエルアクセストンネル</td> <td>炭素鋼</td> </tr> <tr> <td>スリーブ及び鋼板</td> <td>炭素鋼</td> </tr> <tr> <td>サブプレッションチェンバ</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>底 部</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>下部ドライウエルアクセストンネル</td> <td>2</td> </tr> </tbody> </table>	名 称		変 更 前	変 更 後	原子炉格納容器*1		原子炉格納容器	原子炉格納容器*2	種 類		圧力抑制形	圧力抑制形	最高使用圧力	内圧（ドライウエル、サブプレッションチェンバ）*3	kPa 310**4	変更なし 620**4	外圧（ドライウエル、サブプレッションチェンバ）*4	kPa 14**4	変更なし	最高使用温度	ドライウエル	℃ 171	変更なし 200**5	サブプレッションチェンバ	℃ 104	変更なし 200**5	設計漏えい率 %/d**7		0.4以下 〔常温、空気又は窒素、最高使用圧力〕 の0.9倍に等しい圧力に		主要寸法	高 さ*8	mm <u>リ(1)-⑦</u>	変更なし	上部ドライウエルシエル部内高	mm *10	上部円筒部内径	mm *10	鋼板の形状に係る寸法	mm *11, *12 (鋼板の中央部における内面の半径)	フランジ厚さ	mm *13, *14 (鋼板のすみの丸みの内半径)	上部ドライウエルシエル部内径	mm *15	下部ドライウエル内径	mm *16	ふた板厚さ*17	mm *17, *18	上部円筒部板厚さ*19	mm *19, *20	トップスラブ部厚さ*21	mm *21	材 料	上部ドライウエルシエル部厚さ*22	mm *22, *23	変更なし	ライナ	mm *24, *25	プレート	mm *26, *27	厚さ	mm *28, *29	貫通部フランジ	mm *30	底 部	mm *31, *32	ライナプレート厚さ*33	mm *33, *34	下部ドライウエル	mm *35, *36	アクセストンネル	mm *37, *38	スリーブ及び鋼板	mm *39, *40	個 数	ふ た 板	1	変更なし	上 部 円 筒 部 板	1	ト ッ プ ス ラ ブ 部	鉄筋コンクリート コンクリート (設計基準強度 32.4N/mm ² **4) 鉄筋	シ エ ル 部	鉄筋コンクリート コンクリート (設計基準強度 32.4N/mm ² **4) 鉄筋	底 部	鉄筋コンクリート コンクリート (設計基準強度 29.4N/mm ² **4) 鉄筋	ライナ	ステンレス鋼	プレート	炭素鋼	貫通部フランジ	炭素鋼	下部ドライウエルアクセストンネル	炭素鋼	スリーブ及び鋼板	炭素鋼	サブプレッションチェンバ	1	底 部	1	下部ドライウエルアクセストンネル	2	<p>変更なし</p> <p>リ(1)-④</p>	<p></p>
名 称		変 更 前	変 更 後																																																																																																							
原子炉格納容器*1		原子炉格納容器	原子炉格納容器*2																																																																																																							
種 類		圧力抑制形	圧力抑制形																																																																																																							
最高使用圧力	内圧（ドライウエル、サブプレッションチェンバ）*3	kPa 310**4	変更なし 620**4																																																																																																							
	外圧（ドライウエル、サブプレッションチェンバ）*4	kPa 14**4	変更なし																																																																																																							
最高使用温度	ドライウエル	℃ 171	変更なし 200**5																																																																																																							
	サブプレッションチェンバ	℃ 104	変更なし 200**5																																																																																																							
設計漏えい率 %/d**7		0.4以下 〔常温、空気又は窒素、最高使用圧力〕 の0.9倍に等しい圧力に																																																																																																								
主要寸法	高 さ*8	mm <u>リ(1)-⑦</u>	変更なし																																																																																																							
	上部ドライウエルシエル部内高	mm *10																																																																																																								
	上部円筒部内径	mm *10																																																																																																								
	鋼板の形状に係る寸法	mm *11, *12 (鋼板の中央部における内面の半径)																																																																																																								
	フランジ厚さ	mm *13, *14 (鋼板のすみの丸みの内半径)																																																																																																								
	上部ドライウエルシエル部内径	mm *15																																																																																																								
	下部ドライウエル内径	mm *16																																																																																																								
	ふた板厚さ*17	mm *17, *18																																																																																																								
	上部円筒部板厚さ*19	mm *19, *20																																																																																																								
	トップスラブ部厚さ*21	mm *21																																																																																																								
材 料	上部ドライウエルシエル部厚さ*22	mm *22, *23	変更なし																																																																																																							
	ライナ	mm *24, *25																																																																																																								
	プレート	mm *26, *27																																																																																																								
	厚さ	mm *28, *29																																																																																																								
	貫通部フランジ	mm *30																																																																																																								
	底 部	mm *31, *32																																																																																																								
	ライナプレート厚さ*33	mm *33, *34																																																																																																								
	下部ドライウエル	mm *35, *36																																																																																																								
	アクセストンネル	mm *37, *38																																																																																																								
	スリーブ及び鋼板	mm *39, *40																																																																																																								
個 数	ふ た 板	1	変更なし																																																																																																							
	上 部 円 筒 部 板	1																																																																																																								
	ト ッ プ ス ラ ブ 部	鉄筋コンクリート コンクリート (設計基準強度 32.4N/mm ² **4) 鉄筋																																																																																																								
	シ エ ル 部	鉄筋コンクリート コンクリート (設計基準強度 32.4N/mm ² **4) 鉄筋																																																																																																								
	底 部	鉄筋コンクリート コンクリート (設計基準強度 29.4N/mm ² **4) 鉄筋																																																																																																								
	ライナ	ステンレス鋼																																																																																																								
	プレート	炭素鋼																																																																																																								
	貫通部フランジ	炭素鋼																																																																																																								
	下部ドライウエルアクセストンネル	炭素鋼																																																																																																								
	スリーブ及び鋼板	炭素鋼																																																																																																								
サブプレッションチェンバ	1																																																																																																									
底 部	1																																																																																																									
下部ドライウエルアクセストンネル	2																																																																																																									

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八） 該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
		<p>【原子炉格納施設】 （基本設計方針） 第2章 個別項目 1. 原子炉格納容器 1.1 原子炉格納容器本体等 <中略> 原子炉格納容器は、鋼製ライナを内張りした鉄筋コンクリート造とし、<u>円筒形</u>のドライウエル及びサブプレッションチェンバからなる<u>圧力抑制形</u>であり、残留熱除去系（格納容器スプレイ冷却モード）とあいまって原子炉冷却材圧力バウンダリ配管の最も過酷な破断を想定し、これにより放出される原子炉冷却材のエネルギーによる原子炉冷却材喪失時の圧力、温度及び設計上想定された地震荷重に耐える設計とする。 <中略> 原子炉格納容器（サブプレッションチェンバ）は、設計基準対象施設として容量 3580m³、個数 1 個を設置する。 <中略></p>		
<p>整合性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・設計及び工事の計画の <u>リ(1)-④</u> は、設置変更許可申請書（本文（五号））の <u>リ(1)-④</u> を詳細に記載しており、整合している。 ・設計及び工事の計画の <u>リ(1)-⑤</u> は、設置変更許可申請書（本文（五号））の <u>リ(1)-⑤</u> を詳細に記載しており、整合している。 ・設計及び工事の計画の <u>リ(1)-⑥</u> は、設置変更許可申請書（本文（五号））の <u>リ(1)-⑥</u> を詳細に記載しており、整合している。 ・設計及び工事の計画の <u>リ(1)-⑦</u> は、設置変更許可申請書（本文（五号））の <u>リ(1)-⑦</u> を詳細に記載しており、整合している。 				

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八） 該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考																																																																																																																												
<p>主要貫通部 配管貫通部、電気配線貫通部、リ(1)-⑧機器搬出入用ハッチ、リ(1)-⑨所員用エア・ロックリ(1)-⑩等</p>	<p>9.1 原子炉格納施設 9.1.1 通常運転時等 9.1.1.4 主要設備 9.1.1.4.1 一次格納施設 9.1.1.4.1.1 原子炉格納容器 (4) 原子炉格納容器貫通部 a. 配管及び電気配線貫通部 配管及び電気配線貫通部は、鉄筋コンクリート造躯体部に鋼製補強板を介して直接固定する。 b. 所員用エア・ロック及び機器搬出入用ハッチ 所員用エア・ロックは、二重ドアで構成し、これらのドアは同時には開かないようにインター・ロックする。ドライウエルへの機器搬出入用ハッチ、ドライウエル・ヘッド及びサプレッション・チェンバ出入口は二重のガスケットでシールする。</p>	<p>【原子炉格納施設】 (要目表) 1 原子炉格納容器に係る次の事項</p> <p>(2) 機器搬出入口の名称、最高使用圧力、最高使用温度、主要寸法、材料及び個数 a. 上部ドライウエル機器搬入用ハッチ</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-bottom: 10px;"> <thead> <tr> <th colspan="2">名 称</th> <th colspan="2">変 更 前</th> <th colspan="2">変 更 後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2"></td> <td colspan="2" style="text-align: center;">上部ドライウエル機器搬入用ハッチ*1</td> <td colspan="2" style="text-align: center;">リ(1)-⑧a</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">最 高 使 用 圧 力</td> <td>内 圧</td> <td>kPa</td> <td>310*2</td> <td>変更なし</td> <td>変更なし</td> </tr> <tr> <td>外 圧</td> <td>kPa</td> <td>14*2</td> <td>変更なし</td> <td>620*2</td> </tr> <tr> <td colspan="2">最 高 使 用 温 度</td> <td>℃</td> <td>171*4</td> <td>変更なし</td> <td>200*2</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">主 要 寸 法</td> <td>内 径</td> <td>mm</td> <td style="text-align: center;">□*5</td> <td rowspan="4" style="vertical-align: middle;">変更なし</td> <td rowspan="4"></td> </tr> <tr> <td>胴 板 厚 さ*7</td> <td>mm</td> <td style="text-align: center;">□*1(□*6) □*1(□*6)</td> </tr> <tr> <td>ふ た 板 内 半 径</td> <td>mm</td> <td style="text-align: center;">□*6, *8</td> </tr> <tr> <td>ふ た 板 厚 さ*9</td> <td>mm</td> <td style="text-align: center;">□*1(□*6)</td> </tr> <tr> <td>法</td> <td>胴 長 さ</td> <td>mm</td> <td style="text-align: center;">□*6, *8</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>材</td> <td>料</td> <td>—</td> <td style="text-align: center;">□</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>個</td> <td>数*3</td> <td>—</td> <td style="text-align: center;">1</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注：記載の適正化を行う。既工事計画書では原子炉格納容器として記載。 注記*1：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。 *2：SI単位に換算したものである。 *3：重大事故等時における使用時の値。 *4：原子炉格納容器の最高使用温度（ドライウエル）を示す。 *5：記載の適正化を行う。既工事計画書には「主要寸法及び個数」と記載。 *6：公称値を示す。 *7：記載の適正化を行う。既工事計画書には「胴板厚」と記載。 *8：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、平成4年3月27日付け3資庁第13033号にて認可された工事計画のIV-3-4-1-7「上部ドライウエル機器搬入用ハッチの強度計算書」による。 *9：記載の適正化を行う。既工事計画書には「ふた板厚」と記載。</p> <p>b. 下部ドライウエル機器搬入用ハッチ</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="2">名 称</th> <th colspan="2">変 更 前</th> <th colspan="2">変 更 後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2"></td> <td colspan="2" style="text-align: center;">下部ドライウエル機器搬入用ハッチ*1</td> <td colspan="2" style="text-align: center;">リ(1)-⑧b</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">最 高 使 用 圧 力</td> <td>内 圧</td> <td>kPa</td> <td>310*2</td> <td>変更なし</td> <td>変更なし</td> </tr> <tr> <td>外 圧</td> <td>kPa</td> <td>14*2</td> <td>変更なし</td> <td>620*2</td> </tr> <tr> <td colspan="2">最 高 使 用 温 度</td> <td>℃</td> <td>171*4</td> <td>変更なし</td> <td>200*2</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">主 要 寸 法</td> <td>内 径</td> <td>mm</td> <td style="text-align: center;">□*6</td> <td rowspan="4" style="vertical-align: middle;">変更なし</td> <td rowspan="4"></td> </tr> <tr> <td>胴 板 厚 さ*7</td> <td>mm</td> <td style="text-align: center;">□*1(□*6)</td> </tr> <tr> <td>ふ た 板 内 半 径</td> <td>mm</td> <td style="text-align: center;">□*6, *8</td> </tr> <tr> <td>ふ た 板 厚 さ*9</td> <td>mm</td> <td style="text-align: center;">□*1(□*6)</td> </tr> <tr> <td>法</td> <td>胴 長 さ</td> <td>mm</td> <td style="text-align: center;">□*6, *8</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>材</td> <td>料</td> <td>—</td> <td style="text-align: center;">□</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>個</td> <td>数*3</td> <td>—</td> <td style="text-align: center;">1</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注：記載の適正化を行う。既工事計画書では原子炉格納容器として記載。 注記*1：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。 *2：SI単位に換算したものである。 *3：重大事故等時における使用時の値。 *4：原子炉格納容器の最高使用温度（ドライウエル）を示す。 *5：記載の適正化を行う。既工事計画書には「主要寸法及び個数」と記載。 *6：公称値を示す。 *7：記載の適正化を行う。既工事計画書には「胴板厚」と記載。 *8：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、平成4年3月27日付け3資庁第13033号にて認可された工事計画のIV-3-4-1-9「下部ドライウエル機器搬入用ハッチの強度計算書」による。 *9：記載の適正化を行う。既工事計画書には「ふた板厚」と記載。</p>	名 称		変 更 前		変 更 後				上部ドライウエル機器搬入用ハッチ*1		リ(1)-⑧a		最 高 使 用 圧 力	内 圧	kPa	310*2	変更なし	変更なし	外 圧	kPa	14*2	変更なし	620*2	最 高 使 用 温 度		℃	171*4	変更なし	200*2	主 要 寸 法	内 径	mm	□*5	変更なし		胴 板 厚 さ*7	mm	□*1(□*6) □*1(□*6)	ふ た 板 内 半 径	mm	□*6, *8	ふ た 板 厚 さ*9	mm	□*1(□*6)	法	胴 長 さ	mm	□*6, *8			材	料	—	□			個	数*3	—	1			名 称		変 更 前		変 更 後				下部ドライウエル機器搬入用ハッチ*1		リ(1)-⑧b		最 高 使 用 圧 力	内 圧	kPa	310*2	変更なし	変更なし	外 圧	kPa	14*2	変更なし	620*2	最 高 使 用 温 度		℃	171*4	変更なし	200*2	主 要 寸 法	内 径	mm	□*6	変更なし		胴 板 厚 さ*7	mm	□*1(□*6)	ふ た 板 内 半 径	mm	□*6, *8	ふ た 板 厚 さ*9	mm	□*1(□*6)	法	胴 長 さ	mm	□*6, *8			材	料	—	□			個	数*3	—	1			<p>整合性</p> <ul style="list-style-type: none"> 設計及び工事の計画のリ(1)-⑧a及びリ(1)-⑧bは、設置変更許可申請書（本文（五号））のリ(1)-⑧を具体的に記載しており、整合している。 設計及び工事の計画のリ(1)-⑨a及びリ(1)-⑨bは、設置変更許可申請書（本文（五号））のリ(1)-⑨を具体的に記載しており、整合している。 設計及び工事の計画のリ(1)-⑩は、設置変更許可申請書（本文（五号））のリ(1)-⑩を具体的に記載しており、整合している。 	
名 称		変 更 前		変 更 後																																																																																																																												
		上部ドライウエル機器搬入用ハッチ*1		リ(1)-⑧a																																																																																																																												
最 高 使 用 圧 力	内 圧	kPa	310*2	変更なし	変更なし																																																																																																																											
	外 圧	kPa	14*2	変更なし	620*2																																																																																																																											
最 高 使 用 温 度		℃	171*4	変更なし	200*2																																																																																																																											
主 要 寸 法	内 径	mm	□*5	変更なし																																																																																																																												
	胴 板 厚 さ*7	mm	□*1(□*6) □*1(□*6)																																																																																																																													
	ふ た 板 内 半 径	mm	□*6, *8																																																																																																																													
	ふ た 板 厚 さ*9	mm	□*1(□*6)																																																																																																																													
法	胴 長 さ	mm	□*6, *8																																																																																																																													
材	料	—	□																																																																																																																													
個	数*3	—	1																																																																																																																													
名 称		変 更 前		変 更 後																																																																																																																												
		下部ドライウエル機器搬入用ハッチ*1		リ(1)-⑧b																																																																																																																												
最 高 使 用 圧 力	内 圧	kPa	310*2	変更なし	変更なし																																																																																																																											
	外 圧	kPa	14*2	変更なし	620*2																																																																																																																											
最 高 使 用 温 度		℃	171*4	変更なし	200*2																																																																																																																											
主 要 寸 法	内 径	mm	□*6	変更なし																																																																																																																												
	胴 板 厚 さ*7	mm	□*1(□*6)																																																																																																																													
	ふ た 板 内 半 径	mm	□*6, *8																																																																																																																													
	ふ た 板 厚 さ*9	mm	□*1(□*6)																																																																																																																													
法	胴 長 さ	mm	□*6, *8																																																																																																																													
材	料	—	□																																																																																																																													
個	数*3	—	1																																																																																																																													

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八） 該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考																																																																																																														
		<p>c. サプレッションチェンバ出入口</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="2">名称</th> <th colspan="2">変更前</th> <th>変更後</th> </tr> <tr> <td colspan="2"></td> <td colspan="2">サプレッションチェンバ出入口**</td> <td>U(1)-⑩</td> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">最高使用圧力</td> <td>内</td> <td>圧</td> <td>kPa</td> <td>310**</td> <td>変更なし</td> </tr> <tr> <td>外</td> <td>圧</td> <td>kPa</td> <td>14**</td> <td>変更なし</td> </tr> <tr> <td>最高使用温度</td> <td></td> <td>℃</td> <td></td> <td>104**</td> <td>変更なし</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">*2 内径</td> <td>mm</td> <td></td> <td></td> <td>□**</td> <td rowspan="5">変更なし</td> </tr> <tr> <td>*7 鋼板厚さ</td> <td>mm</td> <td></td> <td>□*(□**)</td> </tr> <tr> <td>寸</td> <td>ふた板内半径</td> <td>mm</td> <td></td> <td>□**</td> </tr> <tr> <td>法</td> <td>ふた板厚さ</td> <td>mm</td> <td></td> <td>□*(□**)</td> </tr> <tr> <td>材</td> <td>鋼板長</td> <td>mm</td> <td></td> <td>□**</td> </tr> <tr> <td>個</td> <td>数**</td> <td></td> <td></td> <td>1</td> </tr> </tbody> </table> <p>注：記載の適正化を行う。既工事計画書では原子炉格納容器として記載。 注記*1：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。 *2：SI単位に換算したものである。 *3：重大事故等時における使用時の値。 *4：原子炉格納容器の最高使用温度（サプレッションチェンバ）を示す。 *5：記載の適正化を行う。既工事計画書には「主要寸法及び個数」と記載。 *6：公称値を示す。 *7：記載の適正化を行う。既工事計画書には「鋼板厚」と記載。 *8：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、平成4年3月27日付け3資庁第13033号にて認可された工事計画のIV-3-4-1-12「サプレッションチェンバ出入口の強度計算書」による。 *9：記載の適正化を行う。既工事計画書には「ふた板厚」と記載。</p> <p>(3) エアロックの名称、最高使用圧力、最高使用温度、主要寸法、材料及び個数</p> <p>a. 上部ドライウエル所員用エアロック</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="2">名称</th> <th colspan="2">変更前</th> <th>変更後</th> </tr> <tr> <td colspan="2"></td> <td colspan="2">上部ドライウエル所員用エアロック**</td> <td>U(1)-⑨a</td> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">最高使用圧力</td> <td>内</td> <td>圧</td> <td>kPa</td> <td>310**</td> <td>変更なし</td> </tr> <tr> <td>外</td> <td>圧</td> <td>kPa</td> <td>14**</td> <td>変更なし</td> </tr> <tr> <td>最高使用温度</td> <td></td> <td>℃</td> <td></td> <td>171**</td> <td>変更なし</td> </tr> <tr> <td>*2 内径</td> <td>mm</td> <td></td> <td></td> <td>□**</td> <td rowspan="5">変更なし</td> </tr> <tr> <td>寸</td> <td>鋼板厚さ</td> <td>mm</td> <td></td> <td>□*(□**)</td> </tr> <tr> <td>法</td> <td>とびら板厚さ</td> <td>mm</td> <td></td> <td>□*(□**)</td> </tr> <tr> <td>材</td> <td>鋼板長</td> <td>mm</td> <td></td> <td>□**</td> </tr> <tr> <td>個</td> <td>数**</td> <td></td> <td></td> <td>1</td> </tr> </tbody> </table> <p>注：記載の適正化を行う。既工事計画書では原子炉格納容器として記載。 注記*1：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。 *2：SI単位に換算したものである。 *3：重大事故等時における使用時の値。 *4：原子炉格納容器の最高使用温度（ドライウエル）を示す。 *5：記載の適正化を行う。既工事計画書には「主要寸法及び個数」と記載。 *6：公称値を示す。 *7：記載の適正化を行う。既工事計画書には「鋼板厚」と記載。 *8：記載の適正化を行う。既工事計画書には「とびら板厚」と記載。</p>	名称		変更前		変更後			サプレッションチェンバ出入口**		U(1)-⑩	最高使用圧力	内	圧	kPa	310**	変更なし	外	圧	kPa	14**	変更なし	最高使用温度		℃		104**	変更なし	*2 内径	mm			□**	変更なし	*7 鋼板厚さ	mm		□*(□**)	寸	ふた板内半径	mm		□**	法	ふた板厚さ	mm		□*(□**)	材	鋼板長	mm		□**	個	数**			1	名称		変更前		変更後			上部ドライウエル所員用エアロック**		U(1)-⑨a	最高使用圧力	内	圧	kPa	310**	変更なし	外	圧	kPa	14**	変更なし	最高使用温度		℃		171**	変更なし	*2 内径	mm			□**	変更なし	寸	鋼板厚さ	mm		□*(□**)	法	とびら板厚さ	mm		□*(□**)	材	鋼板長	mm		□**	個	数**			1		
名称		変更前		変更後																																																																																																														
		サプレッションチェンバ出入口**		U(1)-⑩																																																																																																														
最高使用圧力	内	圧	kPa	310**	変更なし																																																																																																													
	外	圧	kPa	14**	変更なし																																																																																																													
最高使用温度		℃		104**	変更なし																																																																																																													
*2 内径	mm			□**	変更なし																																																																																																													
	7 鋼板厚さ	mm		□(□**)																																																																																																														
寸	ふた板内半径	mm		□**																																																																																																														
法	ふた板厚さ	mm		□*(□**)																																																																																																														
材	鋼板長	mm		□**																																																																																																														
個	数**			1																																																																																																														
名称		変更前		変更後																																																																																																														
		上部ドライウエル所員用エアロック**		U(1)-⑨a																																																																																																														
最高使用圧力	内	圧	kPa	310**	変更なし																																																																																																													
	外	圧	kPa	14**	変更なし																																																																																																													
最高使用温度		℃		171**	変更なし																																																																																																													
*2 内径	mm			□**	変更なし																																																																																																													
寸	鋼板厚さ	mm		□*(□**)																																																																																																														
法	とびら板厚さ	mm		□*(□**)																																																																																																														
材	鋼板長	mm		□**																																																																																																														
個	数**			1																																																																																																														

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八） 該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考																																																																																																																																																																																																																																																									
		<p>b. 下部ドライウェル所員用エアロック</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="2">名称</th> <th colspan="2">変更前</th> <th colspan="2">変更後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">最高使用圧力</td> <td>内 圧</td> <td>kPa</td> <td>310^{*2}</td> <td>変更なし</td> <td>変更なし</td> </tr> <tr> <td>外 圧</td> <td>kPa</td> <td>14^{*2}</td> <td>変更なし</td> <td>620^{*3}</td> </tr> <tr> <td>最高使用温度</td> <td>℃</td> <td></td> <td>171^{*4}</td> <td>変更なし</td> <td>200^{*3}</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">*5 主要寸法</td> <td>内 径</td> <td>mm</td> <td>□^{*5}</td> <td rowspan="4">変更なし</td> <td rowspan="4"></td> </tr> <tr> <td>鋼板厚さ^{*7}</td> <td>mm</td> <td>□^{*1} □^{*9} □^{*1} □^{*9}</td> </tr> <tr> <td>とびら板厚さ^{*8}</td> <td>mm</td> <td>□^{*1} □^{*9}</td> </tr> <tr> <td>鋼板長さ</td> <td>mm</td> <td>□^{*1} □^{*9}</td> </tr> <tr> <td>材 質</td> <td></td> <td></td> <td>□^{*1} □^{*9}</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>個 数^{*1}</td> <td></td> <td></td> <td>1</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注：記載の適正化を行う。既工事計画書では原子伊格納容器として記載。 注記*1：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。 *2：SI単位に換算したものである。 *3：重大事故等時における使用時の値。 *4：原子伊格納容器の最高使用温度（ドライウェル）を示す。 *5：記載の適正化を行う。既工事計画書には「主要寸法及び個数」と記載。 *6：公称値を示す。 *7：記載の適正化を行う。既工事計画書には「鋼板厚」と記載。 *8：記載の適正化を行う。既工事計画書には「とびら板厚」と記載。</p> <p>(4) 原子伊格納容器配管貫通部及び電気配線貫通部の名称又は貫通部番号、種類、個数、最高使用圧力、最高使用温度、構成、主要寸法及び材料</p> <p>a. 配管貫通部</p> <p>(a) 直結型</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">種 類</th> <th rowspan="2">個 数</th> <th rowspan="2">最高使用圧力^{*1} (kPa)</th> <th rowspan="2">最高使用温度^{*1} (℃)</th> <th rowspan="2">構 成</th> <th colspan="3">変 更 前</th> <th rowspan="2">材 料</th> <th rowspan="2">貫通部番号</th> <th rowspan="2">種 類</th> <th rowspan="2">個 数</th> <th rowspan="2">最高使用圧力^{*1} (kPa)</th> <th rowspan="2">最高使用温度^{*1} (℃)</th> <th rowspan="2">構 成</th> <th colspan="3">変 更 後</th> <th rowspan="2">貫通部番号</th> </tr> <tr> <th colspan="3">主要寸法(mm)</th> <th colspan="3">主要寸法(mm)</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <th>外 径</th> <th>厚 さ^{*2}</th> <th>長 さ</th> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <th>外 径</th> <th>厚 さ</th> <th>長 さ</th> <td></td> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">貫通部</td> <td rowspan="2">4</td> <td rowspan="2">310^{*3}</td> <td rowspan="2">171</td> <td>スリーブ</td> <td>□^{*4}</td> <td>□^{*5}</td> <td>—</td> <td>□</td> <td>X-80 X-81</td> <td rowspan="2">変更なし</td> <td rowspan="2"></td> <td rowspan="2">変更なし 620^{*4}</td> <td rowspan="2">200^{*6}</td> <td rowspan="2">変更なし</td> <td rowspan="2">—</td> <td rowspan="2">—</td> <td rowspan="2">変更なし X-81^{*7} X-241^{*8}</td> </tr> <tr> <td>スリーブ</td> <td>□^{*4}</td> <td>□^{*5}</td> <td>—</td> <td>□</td> <td>X-240 X-241</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">貫通部</td> <td rowspan="2">3</td> <td rowspan="2">310^{*3}</td> <td rowspan="2">104</td> <td>スリーブ</td> <td>□^{*4}</td> <td>□^{*5}</td> <td>—</td> <td>□</td> <td>X-201 X-202 X-203</td> <td rowspan="2">変更なし</td> <td rowspan="2"></td> <td rowspan="2">変更なし 620^{*4}</td> <td rowspan="2">200^{*6}</td> <td rowspan="2">変更なし</td> <td rowspan="2">—</td> <td rowspan="2">—</td> <td rowspan="2">変更なし X-201^{*9} X-202^{*10} X-203^{*11}</td> </tr> <tr> <td>スリーブ</td> <td>□^{*4}</td> <td>□^{*5}</td> <td>—</td> <td>□</td> <td>X-90 X-93</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">*12 貫通部 (予備)</td> <td rowspan="4">8</td> <td rowspan="4">310^{*3}</td> <td rowspan="4">171</td> <td>スリーブ</td> <td>□^{*4}</td> <td>□^{*5}</td> <td>□^{*4} □^{*5} □^{*12}</td> <td>□</td> <td>X-90 X-91</td> <td rowspan="4">変更なし</td> <td rowspan="4"></td> <td rowspan="4">変更なし 620^{*4}</td> <td rowspan="4">200^{*6}</td> <td rowspan="4">変更なし</td> <td rowspan="4">—</td> <td rowspan="4">—</td> <td rowspan="4">変更なし</td> </tr> <tr> <td>端板</td> <td>□^{*4}</td> <td>□^{*5}</td> <td>—</td> <td>□</td> <td>X-92</td> </tr> <tr> <td>スリーブ</td> <td>□^{*4}</td> <td>□^{*5}</td> <td>□^{*4} □^{*5} □^{*12}</td> <td>□</td> <td>X-92</td> </tr> <tr> <td>端板</td> <td>□^{*4}</td> <td>□^{*5}</td> <td>—</td> <td>□</td> <td>X-210B X-210C</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">*12 貫通部 (予備)</td> <td rowspan="4">8</td> <td rowspan="4">310^{*3}</td> <td rowspan="4">104</td> <td>スリーブ</td> <td>□^{*4}</td> <td>□^{*5}</td> <td>□^{*4} □^{*5} □^{*12}</td> <td>□</td> <td>X-250</td> <td rowspan="4">変更なし</td> <td rowspan="4"></td> <td rowspan="4">変更なし 620^{*4}</td> <td rowspan="4">200^{*6}</td> <td rowspan="4">変更なし</td> <td rowspan="4">—</td> <td rowspan="4">—</td> <td rowspan="4">変更なし</td> </tr> <tr> <td>端板</td> <td>□^{*4}</td> <td>□^{*5}</td> <td>—</td> <td>□</td> <td>X-251</td> </tr> <tr> <td>スリーブ</td> <td>□^{*4}</td> <td>□^{*5}</td> <td>□^{*4} □^{*5} □^{*12}</td> <td>□</td> <td>X-252 X-254 X-255</td> </tr> <tr> <td>端板</td> <td>□^{*4}</td> <td>□^{*5}</td> <td>—</td> <td>□</td> <td>X-253</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">*15 貫通部 (予備)</td> <td rowspan="4">4</td> <td rowspan="4">310^{*3}</td> <td rowspan="4">104</td> <td>スリーブ</td> <td>□^{*4}</td> <td>□^{*5}</td> <td>□^{*4} □^{*5} □^{*12}</td> <td>□</td> <td>X-252 X-254 X-255</td> <td rowspan="4">変更なし</td> <td rowspan="4"></td> <td rowspan="4">変更なし 620^{*4}</td> <td rowspan="4">200^{*6}</td> <td rowspan="4">変更なし</td> <td rowspan="4">—</td> <td rowspan="4">—</td> <td rowspan="4">変更なし</td> </tr> <tr> <td>端板</td> <td>□^{*4}</td> <td>□^{*5}</td> <td>—</td> <td>□</td> <td>X-253</td> </tr> <tr> <td>スリーブ</td> <td>□^{*4}</td> <td>□^{*5}</td> <td>□^{*4} □^{*5} □^{*12}</td> <td>□</td> <td>X-253</td> </tr> <tr> <td>端板</td> <td>□^{*4}</td> <td>□^{*5}</td> <td>—</td> <td>□</td> <td>X-253</td> </tr> </tbody> </table>	名称		変更前		変更後		最高使用圧力	内 圧	kPa	310 ^{*2}	変更なし	変更なし	外 圧	kPa	14 ^{*2}	変更なし	620 ^{*3}	最高使用温度	℃		171 ^{*4}	変更なし	200 ^{*3}	*5 主要寸法	内 径	mm	□ ^{*5}	変更なし		鋼板厚さ ^{*7}	mm	□ ^{*1} □ ^{*9} □ ^{*1} □ ^{*9}	とびら板厚さ ^{*8}	mm	□ ^{*1} □ ^{*9}	鋼板長さ	mm	□ ^{*1} □ ^{*9}	材 質			□ ^{*1} □ ^{*9}			個 数 ^{*1}			1			種 類	個 数	最高使用圧力 ^{*1} (kPa)	最高使用温度 ^{*1} (℃)	構 成	変 更 前			材 料	貫通部番号	種 類	個 数	最高使用圧力 ^{*1} (kPa)	最高使用温度 ^{*1} (℃)	構 成	変 更 後			貫通部番号	主要寸法(mm)			主要寸法(mm)								外 径	厚 さ ^{*2}	長 さ							外 径	厚 さ	長 さ		貫通部	4	310 ^{*3}	171	スリーブ	□ ^{*4}	□ ^{*5}	—	□	X-80 X-81	変更なし		変更なし 620 ^{*4}	200 ^{*6}	変更なし	—	—	変更なし X-81 ^{*7} X-241 ^{*8}	スリーブ	□ ^{*4}	□ ^{*5}	—	□	X-240 X-241	貫通部	3	310 ^{*3}	104	スリーブ	□ ^{*4}	□ ^{*5}	—	□	X-201 X-202 X-203	変更なし		変更なし 620 ^{*4}	200 ^{*6}	変更なし	—	—	変更なし X-201 ^{*9} X-202 ^{*10} X-203 ^{*11}	スリーブ	□ ^{*4}	□ ^{*5}	—	□	X-90 X-93	*12 貫通部 (予備)	8	310 ^{*3}	171	スリーブ	□ ^{*4}	□ ^{*5}	□ ^{*4} □ ^{*5} □ ^{*12}	□	X-90 X-91	変更なし		変更なし 620 ^{*4}	200 ^{*6}	変更なし	—	—	変更なし	端板	□ ^{*4}	□ ^{*5}	—	□	X-92	スリーブ	□ ^{*4}	□ ^{*5}	□ ^{*4} □ ^{*5} □ ^{*12}	□	X-92	端板	□ ^{*4}	□ ^{*5}	—	□	X-210B X-210C	*12 貫通部 (予備)	8	310 ^{*3}	104	スリーブ	□ ^{*4}	□ ^{*5}	□ ^{*4} □ ^{*5} □ ^{*12}	□	X-250	変更なし		変更なし 620 ^{*4}	200 ^{*6}	変更なし	—	—	変更なし	端板	□ ^{*4}	□ ^{*5}	—	□	X-251	スリーブ	□ ^{*4}	□ ^{*5}	□ ^{*4} □ ^{*5} □ ^{*12}	□	X-252 X-254 X-255	端板	□ ^{*4}	□ ^{*5}	—	□	X-253	*15 貫通部 (予備)	4	310 ^{*3}	104	スリーブ	□ ^{*4}	□ ^{*5}	□ ^{*4} □ ^{*5} □ ^{*12}	□	X-252 X-254 X-255	変更なし		変更なし 620 ^{*4}	200 ^{*6}	変更なし	—	—	変更なし	端板	□ ^{*4}	□ ^{*5}	—	□	X-253	スリーブ	□ ^{*4}	□ ^{*5}	□ ^{*4} □ ^{*5} □ ^{*12}	□	X-253	端板	□ ^{*4}	□ ^{*5}	—	□	X-253		
名称		変更前		変更後																																																																																																																																																																																																																																																									
最高使用圧力	内 圧	kPa	310 ^{*2}	変更なし	変更なし																																																																																																																																																																																																																																																								
	外 圧	kPa	14 ^{*2}	変更なし	620 ^{*3}																																																																																																																																																																																																																																																								
最高使用温度	℃		171 ^{*4}	変更なし	200 ^{*3}																																																																																																																																																																																																																																																								
*5 主要寸法	内 径	mm	□ ^{*5}	変更なし																																																																																																																																																																																																																																																									
	鋼板厚さ ^{*7}	mm	□ ^{*1} □ ^{*9} □ ^{*1} □ ^{*9}																																																																																																																																																																																																																																																										
	とびら板厚さ ^{*8}	mm	□ ^{*1} □ ^{*9}																																																																																																																																																																																																																																																										
	鋼板長さ	mm	□ ^{*1} □ ^{*9}																																																																																																																																																																																																																																																										
材 質			□ ^{*1} □ ^{*9}																																																																																																																																																																																																																																																										
個 数 ^{*1}			1																																																																																																																																																																																																																																																										
種 類	個 数	最高使用圧力 ^{*1} (kPa)	最高使用温度 ^{*1} (℃)	構 成	変 更 前			材 料	貫通部番号	種 類	個 数	最高使用圧力 ^{*1} (kPa)	最高使用温度 ^{*1} (℃)	構 成	変 更 後			貫通部番号																																																																																																																																																																																																																																											
					主要寸法(mm)										主要寸法(mm)																																																																																																																																																																																																																																														
					外 径	厚 さ ^{*2}	長 さ							外 径	厚 さ	長 さ																																																																																																																																																																																																																																													
貫通部	4	310 ^{*3}	171	スリーブ	□ ^{*4}	□ ^{*5}	—	□	X-80 X-81	変更なし		変更なし 620 ^{*4}	200 ^{*6}	変更なし	—	—	変更なし X-81 ^{*7} X-241 ^{*8}																																																																																																																																																																																																																																												
				スリーブ	□ ^{*4}	□ ^{*5}	—	□	X-240 X-241																																																																																																																																																																																																																																																				
貫通部	3	310 ^{*3}	104	スリーブ	□ ^{*4}	□ ^{*5}	—	□	X-201 X-202 X-203	変更なし		変更なし 620 ^{*4}	200 ^{*6}	変更なし	—	—	変更なし X-201 ^{*9} X-202 ^{*10} X-203 ^{*11}																																																																																																																																																																																																																																												
				スリーブ	□ ^{*4}	□ ^{*5}	—	□	X-90 X-93																																																																																																																																																																																																																																																				
*12 貫通部 (予備)	8	310 ^{*3}	171	スリーブ	□ ^{*4}	□ ^{*5}	□ ^{*4} □ ^{*5} □ ^{*12}	□	X-90 X-91	変更なし		変更なし 620 ^{*4}	200 ^{*6}	変更なし	—	—	変更なし																																																																																																																																																																																																																																												
				端板	□ ^{*4}	□ ^{*5}	—	□	X-92																																																																																																																																																																																																																																																				
				スリーブ	□ ^{*4}	□ ^{*5}	□ ^{*4} □ ^{*5} □ ^{*12}	□	X-92																																																																																																																																																																																																																																																				
				端板	□ ^{*4}	□ ^{*5}	—	□	X-210B X-210C																																																																																																																																																																																																																																																				
*12 貫通部 (予備)	8	310 ^{*3}	104	スリーブ	□ ^{*4}	□ ^{*5}	□ ^{*4} □ ^{*5} □ ^{*12}	□	X-250	変更なし		変更なし 620 ^{*4}	200 ^{*6}	変更なし	—	—	変更なし																																																																																																																																																																																																																																												
				端板	□ ^{*4}	□ ^{*5}	—	□	X-251																																																																																																																																																																																																																																																				
				スリーブ	□ ^{*4}	□ ^{*5}	□ ^{*4} □ ^{*5} □ ^{*12}	□	X-252 X-254 X-255																																																																																																																																																																																																																																																				
				端板	□ ^{*4}	□ ^{*5}	—	□	X-253																																																																																																																																																																																																																																																				
*15 貫通部 (予備)	4	310 ^{*3}	104	スリーブ	□ ^{*4}	□ ^{*5}	□ ^{*4} □ ^{*5} □ ^{*12}	□	X-252 X-254 X-255	変更なし		変更なし 620 ^{*4}	200 ^{*6}	変更なし	—	—	変更なし																																																																																																																																																																																																																																												
				端板	□ ^{*4}	□ ^{*5}	—	□	X-253																																																																																																																																																																																																																																																				
				スリーブ	□ ^{*4}	□ ^{*5}	□ ^{*4} □ ^{*5} □ ^{*12}	□	X-253																																																																																																																																																																																																																																																				
				端板	□ ^{*4}	□ ^{*5}	—	□	X-253																																																																																																																																																																																																																																																				

設置変更許可申請書（本文（五号））		設置変更許可申請書（添付書類八） 該当事項		設計及び工事の計画 該当事項				整合性				備考	
種別	個数	最高使用圧力	最高使用温度	変更前				変更後				備考	
				構成	外径	厚さ*	長さ	構成	外径	厚さ*	長さ		
貫通部	4	310** (kPa)	104	スリーブ			—	X-204 X-205 X-206 X-222	変更なし	変更なし 620** (kPa)	変更なし 200** (°C)	変更なし	X-204** X-205** X-206** 変更なし
貫通部	9	310** (kPa)	171	スリーブ			—	X-3	変更なし	変更なし 620** (kPa)	変更なし 200** (°C)	変更なし	変更なし
				端板			—						
		3.43** (MPa)	171	スリーブ			—	X-30B X-30C	変更なし	変更なし 200** (°C)	変更なし		X-30B** X-30C**
		1.37** (MPa)	171	スリーブ			—	X-61 X-62 X-63 X-64	変更なし	変更なし 200** (°C)	変更なし		変更なし
貫通部	2	310** (kPa)	171	スリーブ			—	X-82	変更なし	変更なし 620** (kPa)	変更なし 200** (°C)	変更なし	変更なし
				104	スリーブ								
貫通部	3	3.43** (MPa)	104	スリーブ			—	X-200B X-200C	変更なし	変更なし 200** (°C)	変更なし	変更なし	X-200B** X-200C**
				171	スリーブ								
貫通部	1	0.86** (MPa)	171	スリーブ			—	X-69	変更なし	変更なし	変更なし 200** (°C)	変更なし	
貫通部	1	0.98** (MPa)	171	スリーブ			—	X-620	変更なし	変更なし	変更なし 200** (°C)	変更なし	
貫通部	205	18.6** (MPa)	171	スリーブ			—	X-610 X-710	変更なし	変更なし	変更なし 200** (°C)	変更なし	X-610** X-710**
貫通部	10	8.62** (MPa)	302	スリーブ			—	X-700A X-700B X-700C X-700D X-700E X-700F X-700G X-700H X-700I X-700J X-700K	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし	

- 注記*1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「最高使用圧力 (kg/cm²)」と記載。
 *2：記載の適正化を行う。既工事計画書には「呼び厚さ」と記載。
 *3：SI単位に換算したものである。
 *4：公称値を示す。
 *5：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。
 *6：重大事故等時における使用時の値。
 *7：原子炉冷却系統施設のうち残留熱除去設備（耐圧強化ベント系、格納容器圧力逃がし装置）並びに圧力低減設備その他の安全設備のうち放射性物質濃度制御設備及び可燃性ガス濃度制御設備並びに格納容器再循環設備（格納容器圧力逃がし装置）及び圧力低減設備その他の安全設備のうち圧力逃がし装置（格納容器圧力逃がし装置）と兼用。
 *8：原子炉冷却系統施設のうち残留熱除去設備（耐圧強化ベント系、格納容器圧力逃がし装置）並びに圧力低減設備その他の安全設備のうち放射性物質濃度制御設備及び可燃性ガス濃度制御設備並びに格納容器再循環設備（耐圧強化ベント系、格納容器圧力逃がし装置）及び圧力低減設備その他の安全設備のうち圧力逃がし装置（格納容器圧力逃がし装置）と兼用。
 *9：原子炉冷却系統施設のうち残留熱除去設備（残留熱除去系）及び非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備（低圧注水系）並びに圧力低減設備その他の安全設備のうち原子炉格納容器安全設備（サブプレッションチェンバール水冷却系）と兼用。
 *10：原子炉冷却系統施設のうち残留熱除去設備（残留熱除去系）及び非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備（低圧注水系）並びに圧力低減設備その他の安全設備のうち原子炉格納容器安全設備（格納容器スプレイ冷却系、サブプレッションチェンバール水冷却系、代替循環冷却系）と兼用。
 *11：原子炉冷却系統施設のうち残留熱除去設備（残留熱除去系）及び非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備（低圧注水系）並びに圧力低減設備その他の安全設備のうち原子炉格納容器安全設備（格納容器スプレイ冷却系、サブプレッションチェンバール水冷却系）と兼用。
 *12：記載の適正化を行う。既工事計画書には「貫通部」と記載。記載内容は、設計図書による。
 *13：端板含むスリーブ長さを示す。
 *14：原子炉冷却系統施設のうち非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備（高圧炉心注水系）と兼用。
 *15：記載の適正化を行う。既工事計画書には「貫通部」と記載。記載内容は、設計図書による。
 *16：原子炉冷却系統施設のうち残留熱除去設備（残留熱除去系）及び圧力低減設備その他の安全設備のうち原子炉格納容器安全設備（サブプレッションチェンバール水冷却系）と兼用。
 *17：フランジ含むスリーブ長さを示す。
 *18：原子炉冷却系統施設のうち残留熱除去設備（残留熱除去系）及び圧力低減設備その他の安全設備のうち原子炉格納容器安全設備（格納容器スプレイ冷却系、代替格納容器スプレイ冷却系、代替循環冷却系）と兼用。
 *19：原子炉冷却系統施設のうち残留熱除去設備（残留熱除去系）及び圧力低減設備その他の安全設備のうち原子炉格納容器安全設備（格納容器スプレイ冷却系）と兼用。
 *20：原子炉冷却系統施設のうち非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備（原子炉隔離時冷却系）と兼用。
 *21：原子炉冷却系統施設のうち残留熱除去設備（格納容器圧力逃がし装置）並びに圧力低減設備その他の安全設備のうち放射性物質濃度制御設備及び可燃性ガス濃度制御設備並びに格納容器再循環設備（格納容器圧力逃がし装置）及び圧力低減設備その他の安全設備のうち圧力逃がし装置（格納容器圧力逃がし装置）と兼用。
 *22：原子炉冷却系統施設のうち残留熱除去設備（残留熱除去系）及び圧力低減設備その他の安全設備のうち原子炉格納容器安全設備（格納容器スプレイ冷却系、代替格納容器スプレイ冷却系）と兼用。
 *23：圧力低減設備その他の安全設備のうち原子炉格納容器安全設備（格納容器下部注水系、代替循環冷却系）と兼用。
 *24：計測制御系統施設のうち制御材駆動装置（制御材駆動系）と兼用。

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八） 該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考																																																																																																																																																																																																																																																																					
		<p>(b) 二重管型</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="10">変更前</th> <th colspan="10">変更後</th> </tr> <tr> <th rowspan="2">種別</th> <th rowspan="2">個数</th> <th rowspan="2">最高使用圧力 (MPa)</th> <th rowspan="2">最高使用温度 (°C)</th> <th rowspan="2">構成</th> <th colspan="3">主要寸法 (mm)</th> <th rowspan="2">材料</th> <th rowspan="2">貫通部番号</th> <th rowspan="2">種別</th> <th rowspan="2">個数</th> <th rowspan="2">最高使用圧力 (MPa)</th> <th rowspan="2">最高使用温度 (°C)</th> <th rowspan="2">構成</th> <th colspan="3">主要寸法 (mm)</th> <th rowspan="2">材料</th> <th rowspan="2">貫通部番号</th> </tr> <tr> <th>外径</th> <th>厚さ</th> <th>長さ</th> <th>外径</th> <th>厚さ</th> <th>長さ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">貫通部</td> <td rowspan="2">2</td> <td>310^{*3} (kPa)</td> <td>171</td> <td>スリーブ</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td rowspan="2">X-10A</td> <td rowspan="2">X-10D</td> <td rowspan="4">変更なし</td> <td rowspan="4">2</td> <td>620^{*7} (kPa)</td> <td>200^{*7}</td> <td rowspan="2">スリーブ</td> <td rowspan="2"></td> <td rowspan="2"></td> <td rowspan="2"></td> <td rowspan="2">X-10B</td> <td rowspan="2">X-10C</td> </tr> <tr> <td>8.62^{*3} (MPa)</td> <td>302</td> <td>端板</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>620^{*7} (kPa)</td> <td>200^{*7}</td> <td>端板</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>310^{*3} (kPa)</td> <td>171</td> <td>スリーブ</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td rowspan="2">X-12A</td> <td rowspan="2">X-12B</td> <td>620^{*7} (kPa)</td> <td>200^{*7}</td> <td rowspan="2">スリーブ</td> <td rowspan="2"></td> <td rowspan="2"></td> <td rowspan="2"></td> <td rowspan="2">X-12A</td> <td rowspan="2">X-12B</td> </tr> <tr> <td>8.62^{*3} (MPa)</td> <td>302</td> <td>端板</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>9.22^{*7} (MPa)</td> <td>306^{*7}</td> <td>端板</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="6">貫通部</td> <td rowspan="2">1</td> <td>310^{*3} (kPa)</td> <td>171</td> <td>スリーブ</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td rowspan="2">X-33A</td> <td rowspan="6">変更なし</td> <td rowspan="6">1</td> <td>620^{*7} (kPa)</td> <td>200^{*7}</td> <td rowspan="2">スリーブ</td> <td rowspan="2"></td> <td rowspan="2"></td> <td rowspan="2"></td> <td rowspan="2">X-33A</td> <td rowspan="2">X-33A</td> </tr> <tr> <td>8.62^{*3} (MPa)</td> <td>302</td> <td>端板</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>9.22^{*7} (MPa)</td> <td>306^{*7}</td> <td>端板</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>310^{*3} (kPa)</td> <td>171</td> <td>スリーブ</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td rowspan="2">X-33B</td> <td rowspan="6">変更なし</td> <td rowspan="6">1</td> <td>620^{*7} (kPa)</td> <td>200^{*7}</td> <td rowspan="2">スリーブ</td> <td rowspan="2"></td> <td rowspan="2"></td> <td rowspan="2"></td> <td rowspan="2">X-33B</td> <td rowspan="2">X-33B</td> </tr> <tr> <td>8.62^{*3} (MPa)</td> <td>302</td> <td>端板</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>9.22^{*7} (MPa)</td> <td>306^{*7}</td> <td>端板</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>310^{*3} (kPa)</td> <td>171</td> <td>スリーブ</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td rowspan="2">X-33C</td> <td rowspan="6">変更なし</td> <td rowspan="6">1</td> <td>620^{*7} (kPa)</td> <td>200^{*7}</td> <td rowspan="2">スリーブ</td> <td rowspan="2"></td> <td rowspan="2"></td> <td rowspan="2"></td> <td rowspan="2">X-33C</td> <td rowspan="2">X-33C</td> </tr> <tr> <td>8.62^{*3} (MPa)</td> <td>302</td> <td>端板</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>9.22^{*7} (MPa)</td> <td>306^{*7}</td> <td>端板</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	変更前										変更後										種別	個数	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (°C)	構成	主要寸法 (mm)			材料	貫通部番号	種別	個数	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (°C)	構成	主要寸法 (mm)			材料	貫通部番号	外径	厚さ	長さ	外径	厚さ	長さ	貫通部	2	310 ^{*3} (kPa)	171	スリーブ				X-10A	X-10D	変更なし	2	620 ^{*7} (kPa)	200 ^{*7}	スリーブ				X-10B	X-10C	8.62 ^{*3} (MPa)	302	端板				620 ^{*7} (kPa)	200 ^{*7}	端板				310 ^{*3} (kPa)	171	スリーブ				X-12A	X-12B	620 ^{*7} (kPa)	200 ^{*7}	スリーブ				X-12A	X-12B	8.62 ^{*3} (MPa)	302	端板				9.22 ^{*7} (MPa)	306 ^{*7}	端板				貫通部	1	310 ^{*3} (kPa)	171	スリーブ				X-33A	変更なし	1	620 ^{*7} (kPa)	200 ^{*7}	スリーブ				X-33A	X-33A	8.62 ^{*3} (MPa)	302	端板				9.22 ^{*7} (MPa)	306 ^{*7}	端板				310 ^{*3} (kPa)	171	スリーブ				X-33B	変更なし	1	620 ^{*7} (kPa)	200 ^{*7}	スリーブ				X-33B	X-33B	8.62 ^{*3} (MPa)	302	端板				9.22 ^{*7} (MPa)	306 ^{*7}	端板				310 ^{*3} (kPa)	171	スリーブ				X-33C	変更なし	1	620 ^{*7} (kPa)	200 ^{*7}	スリーブ				X-33C	X-33C	8.62 ^{*3} (MPa)	302	端板				9.22 ^{*7} (MPa)	306 ^{*7}	端板				変更なし																																																																			
変更前										変更後																																																																																																																																																																																																																																																															
種別	個数	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (°C)	構成	主要寸法 (mm)			材料	貫通部番号	種別	個数	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (°C)	構成	主要寸法 (mm)			材料	貫通部番号																																																																																																																																																																																																																																																						
					外径	厚さ	長さ								外径	厚さ	長さ																																																																																																																																																																																																																																																								
貫通部	2	310 ^{*3} (kPa)	171	スリーブ				X-10A	X-10D	変更なし	2	620 ^{*7} (kPa)	200 ^{*7}	スリーブ				X-10B	X-10C																																																																																																																																																																																																																																																						
		8.62 ^{*3} (MPa)	302	端板								620 ^{*7} (kPa)	200 ^{*7}							端板																																																																																																																																																																																																																																																					
	310 ^{*3} (kPa)	171	スリーブ				X-12A	X-12B	620 ^{*7} (kPa)			200 ^{*7}	スリーブ				X-12A	X-12B																																																																																																																																																																																																																																																							
	8.62 ^{*3} (MPa)	302	端板						9.22 ^{*7} (MPa)			306 ^{*7}							端板																																																																																																																																																																																																																																																						
貫通部	1	310 ^{*3} (kPa)	171	スリーブ				X-33A	変更なし	1	620 ^{*7} (kPa)	200 ^{*7}	スリーブ				X-33A	X-33A																																																																																																																																																																																																																																																							
		8.62 ^{*3} (MPa)	302	端板							9.22 ^{*7} (MPa)	306 ^{*7}							端板																																																																																																																																																																																																																																																						
	310 ^{*3} (kPa)	171	スリーブ				X-33B	変更なし			1	620 ^{*7} (kPa)	200 ^{*7}	スリーブ				X-33B	X-33B																																																																																																																																																																																																																																																						
	8.62 ^{*3} (MPa)	302	端板									9.22 ^{*7} (MPa)	306 ^{*7}							端板																																																																																																																																																																																																																																																					
	310 ^{*3} (kPa)	171	スリーブ				X-33C					変更なし	1	620 ^{*7} (kPa)	200 ^{*7}	スリーブ				X-33C	X-33C																																																																																																																																																																																																																																																				
	8.62 ^{*3} (MPa)	302	端板											9.22 ^{*7} (MPa)	306 ^{*7}							端板																																																																																																																																																																																																																																																			
		<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="10">変更前</th> <th colspan="10">変更後</th> </tr> <tr> <th rowspan="2">種別</th> <th rowspan="2">個数</th> <th rowspan="2">最高使用圧力 (MPa)</th> <th rowspan="2">最高使用温度 (°C)</th> <th rowspan="2">構成</th> <th colspan="3">主要寸法 (mm)</th> <th rowspan="2">材料</th> <th rowspan="2">貫通部番号</th> <th rowspan="2">種別</th> <th rowspan="2">個数</th> <th rowspan="2">最高使用圧力 (MPa)</th> <th rowspan="2">最高使用温度 (°C)</th> <th rowspan="2">構成</th> <th colspan="3">主要寸法 (mm)</th> <th rowspan="2">材料</th> <th rowspan="2">貫通部番号</th> </tr> <tr> <th>外径</th> <th>厚さ</th> <th>長さ</th> <th>外径</th> <th>厚さ</th> <th>長さ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">貫通部</td> <td rowspan="2">1</td> <td>310^{*3} (kPa)</td> <td>171</td> <td>スリーブ</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td rowspan="2">X-31B</td> <td rowspan="4">変更なし</td> <td rowspan="4">1</td> <td>620^{*7} (kPa)</td> <td>200^{*7}</td> <td rowspan="2">スリーブ</td> <td rowspan="2"></td> <td rowspan="2"></td> <td rowspan="2"></td> <td rowspan="2">X-31B</td> <td rowspan="2">X-31B</td> </tr> <tr> <td>8.62^{*3} (MPa)</td> <td>302</td> <td>端板</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>9.22^{*7} (MPa)</td> <td>306^{*7}</td> <td>端板</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>310^{*3} (kPa)</td> <td>171</td> <td>スリーブ</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td rowspan="2">X-31C</td> <td rowspan="4">変更なし</td> <td rowspan="4">1</td> <td>620^{*7} (kPa)</td> <td>200^{*7}</td> <td rowspan="2">スリーブ</td> <td rowspan="2"></td> <td rowspan="2"></td> <td rowspan="2"></td> <td rowspan="2">X-31C</td> <td rowspan="2">X-31C</td> </tr> <tr> <td>8.62^{*3} (MPa)</td> <td>302</td> <td>端板</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>9.22^{*7} (MPa)</td> <td>306^{*7}</td> <td>端板</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">貫通部</td> <td rowspan="2">2</td> <td>310^{*3} (kPa)</td> <td>171</td> <td>スリーブ</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td rowspan="2">X-35B</td> <td rowspan="4">変更なし</td> <td rowspan="4">2</td> <td>620^{*7} (kPa)</td> <td>200^{*7}</td> <td rowspan="2">スリーブ</td> <td rowspan="2"></td> <td rowspan="2"></td> <td rowspan="2"></td> <td rowspan="2">X-35B</td> <td rowspan="2">X-35C</td> </tr> <tr> <td>8.62^{*3} (MPa)</td> <td>302</td> <td>端板</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>9.22^{*7} (MPa)</td> <td>306^{*7}</td> <td>端板</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">貫通部</td> <td rowspan="2">1</td> <td>310^{*3} (kPa)</td> <td>171</td> <td>スリーブ</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td rowspan="2">X-50</td> <td rowspan="4">変更なし</td> <td rowspan="4">1</td> <td>620^{*7} (kPa)</td> <td>200^{*7}</td> <td rowspan="2">スリーブ</td> <td rowspan="2"></td> <td rowspan="2"></td> <td rowspan="2"></td> <td rowspan="2">X-50</td> <td rowspan="2">X-50</td> </tr> <tr> <td>8.62^{*3} (MPa)</td> <td>302</td> <td>端板</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>9.22^{*7} (MPa)</td> <td>306^{*7}</td> <td>端板</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="6">貫通部</td> <td rowspan="2">1</td> <td>310^{*3} (kPa)</td> <td>171</td> <td>スリーブ</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td rowspan="2">X-37</td> <td rowspan="6">変更なし</td> <td rowspan="6">1</td> <td>620^{*7} (kPa)</td> <td>200^{*7}</td> <td rowspan="2">スリーブ</td> <td rowspan="2"></td> <td rowspan="2"></td> <td rowspan="2"></td> <td rowspan="2">X-37</td> <td rowspan="2">X-37</td> </tr> <tr> <td>8.62^{*3} (MPa)</td> <td>302</td> <td>端板</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>9.22^{*7} (MPa)</td> <td>306^{*7}</td> <td>端板</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>310^{*3} (kPa)</td> <td>171</td> <td>スリーブ</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td rowspan="2">X-38</td> <td rowspan="6">変更なし</td> <td rowspan="6">1</td> <td>620^{*7} (kPa)</td> <td>200^{*7}</td> <td rowspan="2">スリーブ</td> <td rowspan="2"></td> <td rowspan="2"></td> <td rowspan="2"></td> <td rowspan="2">X-38</td> <td rowspan="2">変更なし</td> </tr> <tr> <td>8.62^{*3} (MPa)</td> <td>302</td> <td>端板</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>9.22^{*7} (MPa)</td> <td>306^{*7}</td> <td>端板</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>310^{*3} (kPa)</td> <td>104</td> <td>スリーブ</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td rowspan="2">X-213</td> <td rowspan="6">変更なし</td> <td rowspan="6">1</td> <td>620^{*7} (kPa)</td> <td>200^{*7}</td> <td rowspan="2">スリーブ</td> <td rowspan="2"></td> <td rowspan="2"></td> <td rowspan="2"></td> <td rowspan="2">X-213</td> <td rowspan="2">X-213</td> </tr> <tr> <td>0.98^{*3} (MPa)</td> <td>184</td> <td>端板</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>9.22^{*7} (MPa)</td> <td>200^{*7}</td> <td>端板</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	変更前											変更後										種別	個数	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (°C)	構成	主要寸法 (mm)			材料	貫通部番号	種別	個数	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (°C)	構成	主要寸法 (mm)			材料	貫通部番号	外径	厚さ	長さ	外径	厚さ	長さ	貫通部	1	310 ^{*3} (kPa)	171	スリーブ				X-31B	変更なし	1	620 ^{*7} (kPa)	200 ^{*7}	スリーブ				X-31B	X-31B	8.62 ^{*3} (MPa)	302	端板				9.22 ^{*7} (MPa)	306 ^{*7}	端板				310 ^{*3} (kPa)	171	スリーブ				X-31C	変更なし	1	620 ^{*7} (kPa)	200 ^{*7}	スリーブ				X-31C	X-31C	8.62 ^{*3} (MPa)	302	端板				9.22 ^{*7} (MPa)	306 ^{*7}	端板				貫通部	2	310 ^{*3} (kPa)	171	スリーブ				X-35B	変更なし	2	620 ^{*7} (kPa)	200 ^{*7}	スリーブ				X-35B	X-35C	8.62 ^{*3} (MPa)	302	端板				9.22 ^{*7} (MPa)	306 ^{*7}	端板				貫通部	1	310 ^{*3} (kPa)	171	スリーブ				X-50	変更なし	1	620 ^{*7} (kPa)	200 ^{*7}	スリーブ				X-50	X-50	8.62 ^{*3} (MPa)	302	端板				9.22 ^{*7} (MPa)	306 ^{*7}	端板				貫通部	1	310 ^{*3} (kPa)	171	スリーブ				X-37	変更なし	1	620 ^{*7} (kPa)	200 ^{*7}	スリーブ				X-37	X-37	8.62 ^{*3} (MPa)	302	端板				9.22 ^{*7} (MPa)	306 ^{*7}	端板				310 ^{*3} (kPa)	171	スリーブ				X-38	変更なし	1	620 ^{*7} (kPa)	200 ^{*7}	スリーブ				X-38	変更なし	8.62 ^{*3} (MPa)	302	端板				9.22 ^{*7} (MPa)	306 ^{*7}	端板				310 ^{*3} (kPa)	104	スリーブ				X-213	変更なし	1	620 ^{*7} (kPa)	200 ^{*7}	スリーブ				X-213	X-213	0.98 ^{*3} (MPa)	184	端板				9.22 ^{*7} (MPa)	200 ^{*7}	端板				変更なし				
変更前										変更後																																																																																																																																																																																																																																																															
種別	個数	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (°C)	構成	主要寸法 (mm)			材料	貫通部番号	種別	個数			最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (°C)	構成	主要寸法 (mm)			材料	貫通部番号																																																																																																																																																																																																																																																				
					外径	厚さ	長さ										外径	厚さ	長さ																																																																																																																																																																																																																																																						
貫通部	1	310 ^{*3} (kPa)	171	スリーブ				X-31B	変更なし	1	620 ^{*7} (kPa)	200 ^{*7}	スリーブ				X-31B	X-31B																																																																																																																																																																																																																																																							
		8.62 ^{*3} (MPa)	302	端板							9.22 ^{*7} (MPa)	306 ^{*7}							端板																																																																																																																																																																																																																																																						
	310 ^{*3} (kPa)	171	スリーブ				X-31C	変更なし			1	620 ^{*7} (kPa)	200 ^{*7}	スリーブ				X-31C	X-31C																																																																																																																																																																																																																																																						
	8.62 ^{*3} (MPa)	302	端板									9.22 ^{*7} (MPa)	306 ^{*7}							端板																																																																																																																																																																																																																																																					
貫通部	2	310 ^{*3} (kPa)	171	スリーブ					X-35B	変更なし		2	620 ^{*7} (kPa)	200 ^{*7}	スリーブ				X-35B	X-35C																																																																																																																																																																																																																																																					
		8.62 ^{*3} (MPa)	302	端板									9.22 ^{*7} (MPa)	306 ^{*7}							端板																																																																																																																																																																																																																																																				
貫通部	1	310 ^{*3} (kPa)	171	スリーブ				X-50	変更なし		1		620 ^{*7} (kPa)	200 ^{*7}	スリーブ				X-50	X-50																																																																																																																																																																																																																																																					
		8.62 ^{*3} (MPa)	302	端板									9.22 ^{*7} (MPa)	306 ^{*7}							端板																																																																																																																																																																																																																																																				
貫通部	1	310 ^{*3} (kPa)	171	スリーブ				X-37		変更なし		1	620 ^{*7} (kPa)	200 ^{*7}	スリーブ				X-37	X-37																																																																																																																																																																																																																																																					
		8.62 ^{*3} (MPa)	302	端板									9.22 ^{*7} (MPa)	306 ^{*7}							端板																																																																																																																																																																																																																																																				
	310 ^{*3} (kPa)	171	スリーブ				X-38	変更なし	1		620 ^{*7} (kPa)		200 ^{*7}	スリーブ				X-38	変更なし																																																																																																																																																																																																																																																						
	8.62 ^{*3} (MPa)	302	端板								9.22 ^{*7} (MPa)		306 ^{*7}							端板																																																																																																																																																																																																																																																					
	310 ^{*3} (kPa)	104	スリーブ				X-213				変更なし		1	620 ^{*7} (kPa)	200 ^{*7}	スリーブ				X-213	X-213																																																																																																																																																																																																																																																				
	0.98 ^{*3} (MPa)	184	端板											9.22 ^{*7} (MPa)	200 ^{*7}							端板																																																																																																																																																																																																																																																			

設置変更許可申請書 (本文 (五号))		設置変更許可申請書 (添付書類八) 該当事項		設計及び工事の計画 該当事項				整合性				備考				
種別	個数	最高使用圧 (MPa)	最高使用温度 (°C)	変更前				種別	個数	最高使用圧 (MPa)	最高使用温度 (°C)	変更後				備考
				構成	外径	厚さ	長さ					構成	外径	厚さ	長さ	
貫通部	1	310 ^{*3} (kPa)	171	スリーブ	φ4. 45. 46	—	—	X-11	変更なし	620 ^{*7} (kPa)	200 ^{*7}	変更なし				
		8.62 ^{*3} (MPa)	302	端板	φ4. 45. 46	—	—			620 ^{*7} (kPa)	200 ^{*7}	変更なし				
		管	φ4. 45. 46	—	—	620 ^{*7} (kPa)	200 ^{*7}			変更なし						
貫通部	1	310 ^{*3} (kPa)	171	スリーブ	φ4. 45. 46	—	—	X-22	変更なし	620 ^{*7} (kPa)	200 ^{*7}	変更なし				X-22 ^{*18}
		8.62 ^{*3} (MPa)	302	端板	φ4. 45. 46	—	—			620 ^{*7} (kPa)	200 ^{*7}	変更なし				
		管	φ4. 45. 46	—	—	9.22 ^{*7} (MPa)	306 ^{*7}			変更なし						
貫通部	1	310 ^{*3} (kPa)	171	スリーブ	φ4. 45. 46	—	—	X-65	変更なし	620 ^{*7} (kPa)	200 ^{*7}	変更なし				
		1.27 ^{*3} (MPa)	171	端板	φ4. 45. 46	—	—			620 ^{*7} (kPa)	200 ^{*7}	変更なし				
		管	φ4. 45. 46	—	—	620 ^{*7} (kPa)	200 ^{*7}			変更なし						
貫通部	1	310 ^{*3} (kPa)	171	スリーブ	φ4. 45. 46	—	—	X-66	変更なし	620 ^{*7} (kPa)	200 ^{*7}	変更なし				
		1.27 ^{*3} (MPa)	171	端板	φ4. 45. 46	—	—			620 ^{*7} (kPa)	200 ^{*7}	変更なし				
		管	φ4. 45. 46	—	—	620 ^{*7} (kPa)	200 ^{*7}			変更なし						
貫通部	1	310 ^{*3} (kPa)	104	スリーブ	φ4. 45. 46	—	—	X-215	変更なし	620 ^{*7} (kPa)	200 ^{*7}	変更なし				
		1.27 ^{*3} (MPa)	104	端板	φ4. 45. 46	—	—			620 ^{*7} (kPa)	200 ^{*7}	変更なし				
		管	φ4. 45. 46	—	—	620 ^{*7} (kPa)	200 ^{*7}			変更なし						
貫通部	1	310 ^{*3} (kPa)	104	スリーブ	φ4. 45. 46	—	—	X-220	変更なし	620 ^{*7} (kPa)	200 ^{*7}	変更なし				
		1.27 ^{*3} (MPa)	104	端板	φ4. 45. 46	—	—			620 ^{*7} (kPa)	200 ^{*7}	変更なし				
		管	φ4. 45. 46	—	—	620 ^{*7} (kPa)	200 ^{*7}			変更なし						
貫通部	1	310 ^{*3} (kPa)	171	スリーブ	φ4. 45. 46	—	—	X-60	変更なし	620 ^{*7} (kPa)	200 ^{*7}	変更なし				
		1.37 ^{*3} (MPa)	171	端板	φ4. 45. 46	—	—			620 ^{*7} (kPa)	200 ^{*7}	変更なし				
		管	φ4. 45. 46	—	—	620 ^{*7} (kPa)	200 ^{*7}			変更なし						
貫通部	1	310 ^{*3} (kPa)	171	スリーブ	φ4. 45. 46	—	—	X-70	変更なし	620 ^{*7} (kPa)	200 ^{*7}	変更なし				
		0.86 ^{*3} (MPa)	171	端板	φ4. 45. 46	—	—			620 ^{*7} (kPa)	200 ^{*7}	変更なし				
		管	φ4. 45. 46	—	—	620 ^{*7} (kPa)	200 ^{*7}			変更なし						
貫通部	1	310 ^{*3} (kPa)	171	スリーブ	φ4. 45. 46	—	—	X-71A	変更なし	620 ^{*7} (kPa)	200 ^{*7}	変更なし				X-71A ^{*18}
		1.77 ^{*3} (MPa)	171	端板	φ4. 45. 46	—	—			620 ^{*7} (kPa)	200 ^{*7}	変更なし				
		管	φ4. 45. 46	—	—	620 ^{*7} (kPa)	200 ^{*7}			変更なし						
貫通部	1	310 ^{*3} (kPa)	171	スリーブ	φ4. 45. 46	—	—	X-71B	変更なし	620 ^{*7} (kPa)	200 ^{*7}	変更なし				X-71B ^{*18}
		1.77 ^{*3} (MPa)	171	端板	φ4. 45. 46	—	—			620 ^{*7} (kPa)	200 ^{*7}	変更なし				
		管	φ4. 45. 46	—	—	620 ^{*7} (kPa)	200 ^{*7}			変更なし						
貫通部	1	310 ^{*3} (kPa)	171	スリーブ	φ4. 45. 46	—	—	X-72	変更なし	620 ^{*7} (kPa)	200 ^{*7}	変更なし				X-72 ^{*18}
		1.77 ^{*3} (MPa)	171	端板	φ4. 45. 46	—	—			620 ^{*7} (kPa)	200 ^{*7}	変更なし				
		管	φ4. 45. 46	—	—	620 ^{*7} (kPa)	200 ^{*7}			変更なし						
貫通部	1	310 ^{*3} (kPa)	171	スリーブ	φ4. 45. 46	—	—	X-170	変更なし	620 ^{*7} (kPa)	200 ^{*7}	変更なし				
		8.62 ^{*3} (MPa)	302	端板	φ4. 45. 46	—	—			620 ^{*7} (kPa)	200 ^{*7}	変更なし				
		管	φ4. 45. 46	—	—	620 ^{*7} (kPa)	200 ^{*7}			変更なし						
貫通部	1	310 ^{*3} (kPa)	171	スリーブ	φ4. 45. 46	—	—	X-621	変更なし	620 ^{*7} (kPa)	200 ^{*7}	変更なし				
		0.96 ^{*3} (MPa)	171	端板	φ4. 45. 46	—	—			620 ^{*7} (kPa)	200 ^{*7}	変更なし				
		管	φ4. 45. 46	—	—	620 ^{*7} (kPa)	200 ^{*7}			変更なし						

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八） 該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考																																																																																																																																																						
		<p>注記*1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「最高使用圧力 (kg/cm²)」と記載。 *2：記載の適正化を行う。既工事計画書には「呼び厚さ」と記載。 *3：SI単位に換算したものである。 *4：公称値を示す。 *5：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。 *6：端板含むスリーブ長さを示す。 *7：重大事故等時における使用時の値。 *8：原子炉冷却系統施設のうち残留熱除去設備（残留熱除去系）及び非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備（高圧代替注水系、低圧注水系、低圧代替注水系）並びに圧力低減設備その他の安全設備のうち原子炉格納容器安全設備（代替蒸発冷却系、高圧代替注水系、低圧代替注水系）と兼用。 *9：原子炉冷却系統施設のうち非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備（原子炉隔離時冷却系）と兼用。 *10：原子炉冷却系統施設のうち残留熱除去設備（残留熱除去系）と兼用。 *11：原子炉冷却系統施設のうち残留熱除去設備（残留熱除去系）及び非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備（低圧注水系、低圧代替注水系）並びに圧力低減設備その他の安全設備のうち原子炉格納容器安全設備（低圧代替注水系）と兼用。 *12：原子炉冷却系統施設のうち残留熱除去設備（残留熱除去系）及び非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備（低圧注水系）と兼用。 *13：原子炉冷却系統施設のうち非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備（高圧炉心注水系）と兼用。 *14：原子炉冷却系統施設のうち非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備（原子炉隔離時冷却系、高圧代替注水系）及び圧力低減設備その他の安全設備のうち原子炉格納容器安全設備（高圧代替注水系）と兼用。 *15：原子炉冷却系統施設のうち非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備（ほう酸水注入系）、計測制御系統施設のうちほう酸水注入設備（ほう酸水注入系）及び圧力低減設備その他の安全設備のうち原子炉格納容器安全設備（ほう酸水注入系）と兼用。 *16：計測制御系統施設のうち制御用空気設備（逃がし安全弁の作動に必要な窒素ガス喪失時の減圧設備）と兼用。</p> <p>(c) 計装用</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">種類</th> <th rowspan="2">個数</th> <th colspan="4">変更前</th> <th colspan="4">変更後</th> </tr> <tr> <th>最高使用圧力 (kPa)</th> <th>最高使用温度 (°C)</th> <th>構成</th> <th>主要寸法(mm)</th> <th>最高使用圧力 (kPa)</th> <th>最高使用温度 (°C)</th> <th>構成</th> <th>主要寸法(mm)</th> </tr> <tr> <th>種類</th> <th>個数</th> <th>最高使用圧力 (kPa)</th> <th>最高使用温度 (°C)</th> <th>構成</th> <th>外径</th> <th>厚さ</th> <th>長さ</th> <th>材料</th> <th>買通部番号</th> <th>種類</th> <th>個数</th> <th>最高使用圧力 (kPa)</th> <th>最高使用温度 (°C)</th> <th>構成</th> <th>外径</th> <th>厚さ</th> <th>長さ</th> <th>材料</th> <th>買通部番号</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">買通部</td> <td>7</td> <td rowspan="4">310** (kPa)</td> <td rowspan="4">171</td> <td>スリーブ</td> <td>□</td> <td>□</td> <td>□</td> <td rowspan="4">X-130A X-130B X-130C X-130D X-140B X-141A X-141B</td> <td rowspan="4">変更なし</td> <td rowspan="4">変更なし 620** (kPa)</td> <td rowspan="4">変更なし 200**</td> <td rowspan="4">変更なし</td> </tr> <tr> <td>端板</td> <td>□</td> <td>□</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>171</td> <td>スリーブ</td> <td>□</td> <td>□</td> <td>□</td> <td rowspan="2">X-140A</td> </tr> <tr> <td>端板</td> <td>□</td> <td>□</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td rowspan="10">買通部</td> <td>7</td> <td rowspan="10">310** (kPa)</td> <td rowspan="10">171</td> <td>スリーブ</td> <td>□</td> <td>□</td> <td>□</td> <td rowspan="10">X-146A X-146B X-146C X-146D X-160 X-162A X-162B</td> <td rowspan="10">変更なし</td> <td rowspan="10">変更なし 620** (kPa)</td> <td rowspan="10">変更なし 200**</td> <td rowspan="10">変更なし</td> </tr> <tr> <td>端板</td> <td>□</td> <td>□</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>スリーブ</td> <td>□</td> <td>□</td> <td>□</td> <td rowspan="2">X-171</td> </tr> <tr> <td>端板</td> <td>□</td> <td>□</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>スリーブ</td> <td>□</td> <td>□</td> <td>□</td> <td rowspan="2">X-177</td> </tr> <tr> <td>端板</td> <td>□</td> <td>□</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td rowspan="4">104</td> <td>スリーブ</td> <td>□</td> <td>□</td> <td>□</td> <td rowspan="2">X-321A X-321B</td> </tr> <tr> <td>端板</td> <td>□</td> <td>□</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">2</td> <td>スリーブ</td> <td>□</td> <td>□</td> <td>□</td> <td rowspan="2">X-332A X-332B</td> </tr> <tr> <td>端板</td> <td>□</td> <td>□</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">買通部</td> <td>1</td> <td rowspan="4">310** (kPa)</td> <td rowspan="4">171</td> <td>スリーブ</td> <td>□</td> <td>□</td> <td>□</td> <td rowspan="4">X-161A X-161B</td> <td rowspan="4">変更なし</td> <td rowspan="4">変更なし 620** (kPa)</td> <td rowspan="4">変更なし 200**</td> <td rowspan="4">変更なし</td> </tr> <tr> <td>端板</td> <td>□</td> <td>□</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>スリーブ</td> <td>□</td> <td>□</td> <td>□</td> </tr> <tr> <td>端板</td> <td>□</td> <td>□</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table>	種類	個数	変更前				変更後				最高使用圧力 (kPa)	最高使用温度 (°C)	構成	主要寸法(mm)	最高使用圧力 (kPa)	最高使用温度 (°C)	構成	主要寸法(mm)	種類	個数	最高使用圧力 (kPa)	最高使用温度 (°C)	構成	外径	厚さ	長さ	材料	買通部番号	種類	個数	最高使用圧力 (kPa)	最高使用温度 (°C)	構成	外径	厚さ	長さ	材料	買通部番号	買通部	7	310** (kPa)	171	スリーブ	□	□	□	X-130A X-130B X-130C X-130D X-140B X-141A X-141B	変更なし	変更なし 620** (kPa)	変更なし 200**	変更なし	端板	□	□	—	1	171	スリーブ	□	□	□	X-140A	端板	□	□	—	買通部	7	310** (kPa)	171	スリーブ	□	□	□	X-146A X-146B X-146C X-146D X-160 X-162A X-162B	変更なし	変更なし 620** (kPa)	変更なし 200**	変更なし	端板	□	□	—	1	スリーブ	□	□	□	X-171	端板	□	□	—	1	スリーブ	□	□	□	X-177	端板	□	□	—	2	104	スリーブ	□	□	□	X-321A X-321B	端板	□	□	—	2	スリーブ	□	□	□	X-332A X-332B	端板	□	□	—	買通部	1	310** (kPa)	171	スリーブ	□	□	□	X-161A X-161B	変更なし	変更なし 620** (kPa)	変更なし 200**	変更なし	端板	□	□	—	1	スリーブ	□	□	□	端板	□	□	—		
種類	個数	変更前				変更後																																																																																																																																																				
		最高使用圧力 (kPa)	最高使用温度 (°C)	構成	主要寸法(mm)	最高使用圧力 (kPa)	最高使用温度 (°C)	構成	主要寸法(mm)																																																																																																																																																	
種類	個数	最高使用圧力 (kPa)	最高使用温度 (°C)	構成	外径	厚さ	長さ	材料	買通部番号	種類	個数	最高使用圧力 (kPa)	最高使用温度 (°C)	構成	外径	厚さ	長さ	材料	買通部番号																																																																																																																																							
買通部	7	310** (kPa)	171	スリーブ	□	□	□	X-130A X-130B X-130C X-130D X-140B X-141A X-141B	変更なし	変更なし 620** (kPa)	変更なし 200**	変更なし																																																																																																																																														
	端板			□	□	—																																																																																																																																																				
	1			171	スリーブ	□	□						□	X-140A																																																																																																																																												
	端板			□	□	—																																																																																																																																																				
買通部	7	310** (kPa)	171	スリーブ	□	□	□	X-146A X-146B X-146C X-146D X-160 X-162A X-162B	変更なし	変更なし 620** (kPa)	変更なし 200**	変更なし																																																																																																																																														
	端板			□	□	—																																																																																																																																																				
	1			スリーブ	□	□	□						X-171																																																																																																																																													
	端板			□	□	—																																																																																																																																																				
	1			スリーブ	□	□	□						X-177																																																																																																																																													
	端板			□	□	—																																																																																																																																																				
	2			104	スリーブ	□	□						□	X-321A X-321B																																																																																																																																												
	端板				□	□	—																																																																																																																																																			
	2				スリーブ	□	□						□	X-332A X-332B																																																																																																																																												
					端板	□	□						—																																																																																																																																													
買通部	1	310** (kPa)	171	スリーブ	□	□	□	X-161A X-161B	変更なし	変更なし 620** (kPa)	変更なし 200**	変更なし																																																																																																																																														
	端板			□	□	—																																																																																																																																																				
	1			スリーブ	□	□	□																																																																																																																																																			
	端板			□	□	—																																																																																																																																																				

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八） 該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考																																																																																																																																																																																																																																																																		
		<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; font-size: 8px;"> <thead> <tr> <th colspan="10">変更前</th> <th colspan="10">変更後</th> </tr> <tr> <th rowspan="2">種</th> <th rowspan="2">類</th> <th rowspan="2">個</th> <th rowspan="2">数</th> <th rowspan="2">最高使用圧力 (kPa)</th> <th rowspan="2">最高使用温度 (°C)</th> <th rowspan="2">構成</th> <th colspan="3">主要寸法(mm)</th> <th rowspan="2">材料</th> <th rowspan="2">貫通部番号</th> <th rowspan="2">種</th> <th rowspan="2">類</th> <th rowspan="2">個</th> <th rowspan="2">数</th> <th rowspan="2">最高使用圧力 (kPa)</th> <th rowspan="2">最高使用温度 (°C)</th> <th rowspan="2">構成</th> <th colspan="3">主要寸法(mm)</th> <th rowspan="2">材料</th> <th rowspan="2">貫通部番号</th> </tr> <tr> <th>外径</th> <th>厚さ</th> <th>長さ</th> <th>外径</th> <th>厚さ</th> <th>長さ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">貫通部</td> <td rowspan="2">□</td> <td rowspan="2">2</td> <td rowspan="2"></td> <td rowspan="2">310^{*3}</td> <td rowspan="2">104</td> <td>スリーブ</td> <td>□^{*4}</td> <td>□^{*5}</td> <td>□^{*4, *5, *6}</td> <td rowspan="2">X-331A X-331B</td> <td rowspan="2">変更なし</td> <td rowspan="2">□</td> <td rowspan="2"></td> <td rowspan="2"></td> <td rowspan="2">変更なし</td> <td rowspan="2">620^{*7}</td> <td rowspan="2">200^{*7}</td> <td>スリーブ</td> <td>□^{*4}</td> <td>□^{*5}</td> <td>□^{*4, *5, *6}</td> <td rowspan="2">X-331A X-331B</td> <td rowspan="2">変更なし</td> <td rowspan="2">□</td> <td rowspan="2"></td> <td rowspan="2"></td> <td rowspan="2">変更なし</td> </tr> <tr> <td>端板</td> <td>□^{*4}</td> <td>□^{*5}</td> <td>—</td> <td>端板</td> <td>□^{*4}</td> <td>□^{*5}</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td rowspan="12">貫通部</td> <td rowspan="12">□</td> <td rowspan="6">12</td> <td rowspan="6"></td> <td rowspan="6">310^{*3}</td> <td rowspan="6">171</td> <td>スリーブ</td> <td>□^{*4}</td> <td>□^{*5}</td> <td>□^{*4, *5, *6}</td> <td rowspan="6">X-142A X-142B X-142C X-143A X-143B X-143C X-143D X-144A X-144B X-144C X-144D X-147</td> <td rowspan="6">変更なし</td> <td rowspan="6">□</td> <td rowspan="6"></td> <td rowspan="6"></td> <td rowspan="6">変更なし</td> <td rowspan="6">620^{*7}</td> <td rowspan="6">200^{*7}</td> <td>スリーブ</td> <td>□^{*4}</td> <td>□^{*5}</td> <td>□^{*4, *5, *6}</td> <td rowspan="6">X-142A X-142B X-142C X-143A X-143B X-143C X-143D X-144A X-144B X-144C X-144D X-147</td> <td rowspan="6">変更なし</td> <td rowspan="6">□</td> <td rowspan="6"></td> <td rowspan="6"></td> <td rowspan="6">変更なし</td> </tr> <tr> <td>端板</td> <td>□^{*4}</td> <td>□^{*5}</td> <td>—</td> <td>端板</td> <td>□^{*4}</td> <td>□^{*5}</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">1</td> <td rowspan="2"></td> <td rowspan="2">310^{*3}</td> <td rowspan="2">171</td> <td>スリーブ</td> <td>□^{*4}</td> <td>□^{*5}</td> <td>□^{*4, *5, *6}</td> <td rowspan="2">X-142D</td> <td rowspan="2">変更なし</td> <td rowspan="2">□</td> <td rowspan="2"></td> <td rowspan="2"></td> <td rowspan="2">変更なし</td> <td rowspan="2">620^{*7}</td> <td rowspan="2">200^{*7}</td> <td>スリーブ</td> <td>□^{*4}</td> <td>□^{*5}</td> <td>□^{*4, *5, *6}</td> <td rowspan="2">X-142D</td> <td rowspan="2">変更なし</td> <td rowspan="2">□</td> <td rowspan="2"></td> <td rowspan="2"></td> <td rowspan="2">変更なし</td> </tr> <tr> <td>端板</td> <td>□^{*4}</td> <td>□^{*5}</td> <td>—</td> <td>端板</td> <td>□^{*4}</td> <td>□^{*5}</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">2</td> <td rowspan="2"></td> <td rowspan="2">310^{*3}</td> <td rowspan="2">104</td> <td>スリーブ</td> <td>□^{*4}</td> <td>□^{*5}</td> <td>□^{*4, *5, *6}</td> <td rowspan="2">X-320 X-342</td> <td rowspan="2">変更なし</td> <td rowspan="2">□</td> <td rowspan="2"></td> <td rowspan="2"></td> <td rowspan="2">変更なし</td> <td rowspan="2">620^{*7}</td> <td rowspan="2">200^{*7}</td> <td>スリーブ</td> <td>□^{*4}</td> <td>□^{*5}</td> <td>□^{*4, *5, *6}</td> <td rowspan="2">X-320 X-342</td> <td rowspan="2">変更なし</td> <td rowspan="2">□</td> <td rowspan="2"></td> <td rowspan="2"></td> <td rowspan="2">変更なし</td> </tr> <tr> <td>端板</td> <td>□^{*4}</td> <td>□^{*5}</td> <td>—</td> <td>端板</td> <td>□^{*4}</td> <td>□^{*5}</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td rowspan="6">12</td> <td rowspan="6"></td> <td rowspan="6">310^{*3}</td> <td rowspan="6">104</td> <td>スリーブ</td> <td>□^{*4}</td> <td>□^{*5}</td> <td>□^{*4, *5, *6}</td> <td rowspan="6">X-322A X-322B X-322C X-322D X-322E X-322F X-323A X-323B X-323C X-323D X-323E X-323F</td> <td rowspan="6">変更なし</td> <td rowspan="6">□</td> <td rowspan="6"></td> <td rowspan="6"></td> <td rowspan="6">変更なし</td> <td rowspan="6">620^{*7}</td> <td rowspan="6">200^{*7}</td> <td>スリーブ</td> <td>□^{*4}</td> <td>□^{*5}</td> <td>□^{*4, *5, *6}</td> <td rowspan="6">X-322A X-322B X-322C X-322D X-322E X-322F X-323A X-323B X-323C X-323D X-323E X-323F</td> <td rowspan="6">変更なし</td> <td rowspan="6">□</td> <td rowspan="6"></td> <td rowspan="6"></td> <td rowspan="6">変更なし</td> </tr> <tr> <td>端板</td> <td>□^{*4}</td> <td>□^{*5}</td> <td>—</td> <td>端板</td> <td>□^{*4}</td> <td>□^{*5}</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">3</td> <td rowspan="2"></td> <td rowspan="2">310^{*3}</td> <td rowspan="2">171</td> <td>スリーブ</td> <td>□^{*4}</td> <td>□^{*5}</td> <td>□^{*4, *5, *6}</td> <td rowspan="2">X-660A X-660B X-660C X-660D</td> <td rowspan="2">変更なし</td> <td rowspan="2">□</td> <td rowspan="2"></td> <td rowspan="2"></td> <td rowspan="2">変更なし</td> <td rowspan="2">620^{*7}</td> <td rowspan="2">200^{*7}</td> <td>スリーブ</td> <td>□^{*4}</td> <td>□^{*5}</td> <td>□^{*4, *5, *6}</td> <td rowspan="2">X-660A X-660B X-660C X-660D</td> <td rowspan="2">変更なし</td> <td rowspan="2">□</td> <td rowspan="2"></td> <td rowspan="2"></td> <td rowspan="2">変更なし</td> </tr> <tr> <td>端板</td> <td>□^{*4}</td> <td>□^{*5}</td> <td>—</td> <td>端板</td> <td>□^{*4}</td> <td>□^{*5}</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table>	変更前										変更後										種	類	個	数	最高使用圧力 (kPa)	最高使用温度 (°C)	構成	主要寸法(mm)			材料	貫通部番号	種	類	個	数	最高使用圧力 (kPa)	最高使用温度 (°C)	構成	主要寸法(mm)			材料	貫通部番号	外径	厚さ	長さ	外径	厚さ	長さ	貫通部	□	2		310 ^{*3}	104	スリーブ	□ ^{*4}	□ ^{*5}	□ ^{*4, *5, *6}	X-331A X-331B	変更なし	□			変更なし	620 ^{*7}	200 ^{*7}	スリーブ	□ ^{*4}	□ ^{*5}	□ ^{*4, *5, *6}	X-331A X-331B	変更なし	□			変更なし	端板	□ ^{*4}	□ ^{*5}	—	端板	□ ^{*4}	□ ^{*5}	—	貫通部	□	12		310 ^{*3}	171	スリーブ	□ ^{*4}	□ ^{*5}	□ ^{*4, *5, *6}	X-142A X-142B X-142C X-143A X-143B X-143C X-143D X-144A X-144B X-144C X-144D X-147	変更なし	□			変更なし	620 ^{*7}	200 ^{*7}	スリーブ	□ ^{*4}	□ ^{*5}	□ ^{*4, *5, *6}	X-142A X-142B X-142C X-143A X-143B X-143C X-143D X-144A X-144B X-144C X-144D X-147	変更なし	□			変更なし	端板	□ ^{*4}	□ ^{*5}	—	端板	□ ^{*4}	□ ^{*5}	—	1		310 ^{*3}	171	スリーブ	□ ^{*4}	□ ^{*5}	□ ^{*4, *5, *6}	X-142D	変更なし	□			変更なし	620 ^{*7}	200 ^{*7}	スリーブ	□ ^{*4}	□ ^{*5}	□ ^{*4, *5, *6}	X-142D	変更なし	□			変更なし	端板	□ ^{*4}	□ ^{*5}	—	端板	□ ^{*4}	□ ^{*5}	—	2		310 ^{*3}	104	スリーブ	□ ^{*4}	□ ^{*5}	□ ^{*4, *5, *6}	X-320 X-342	変更なし	□			変更なし	620 ^{*7}	200 ^{*7}	スリーブ	□ ^{*4}	□ ^{*5}	□ ^{*4, *5, *6}	X-320 X-342	変更なし	□			変更なし	端板	□ ^{*4}	□ ^{*5}	—	端板	□ ^{*4}	□ ^{*5}	—	12		310 ^{*3}	104	スリーブ	□ ^{*4}	□ ^{*5}	□ ^{*4, *5, *6}	X-322A X-322B X-322C X-322D X-322E X-322F X-323A X-323B X-323C X-323D X-323E X-323F	変更なし	□			変更なし	620 ^{*7}	200 ^{*7}	スリーブ	□ ^{*4}	□ ^{*5}	□ ^{*4, *5, *6}	X-322A X-322B X-322C X-322D X-322E X-322F X-323A X-323B X-323C X-323D X-323E X-323F	変更なし	□			変更なし	端板	□ ^{*4}	□ ^{*5}	—	端板	□ ^{*4}	□ ^{*5}	—	3		310 ^{*3}	171	スリーブ	□ ^{*4}	□ ^{*5}	□ ^{*4, *5, *6}	X-660A X-660B X-660C X-660D	変更なし	□			変更なし	620 ^{*7}	200 ^{*7}	スリーブ	□ ^{*4}	□ ^{*5}	□ ^{*4, *5, *6}	X-660A X-660B X-660C X-660D	変更なし	□			変更なし	端板	□ ^{*4}	□ ^{*5}	—	端板	□ ^{*4}	□ ^{*5}	—		
変更前										変更後																																																																																																																																																																																																																																																												
種	類	個	数	最高使用圧力 (kPa)	最高使用温度 (°C)	構成	主要寸法(mm)			材料	貫通部番号	種	類	個	数	最高使用圧力 (kPa)	最高使用温度 (°C)	構成	主要寸法(mm)			材料	貫通部番号																																																																																																																																																																																																																																															
							外径	厚さ	長さ										外径	厚さ	長さ																																																																																																																																																																																																																																																	
貫通部	□	2		310 ^{*3}	104	スリーブ	□ ^{*4}	□ ^{*5}	□ ^{*4, *5, *6}	X-331A X-331B	変更なし	□			変更なし	620 ^{*7}	200 ^{*7}	スリーブ	□ ^{*4}	□ ^{*5}	□ ^{*4, *5, *6}	X-331A X-331B	変更なし	□			変更なし																																																																																																																																																																																																																																											
						端板	□ ^{*4}	□ ^{*5}	—									端板	□ ^{*4}	□ ^{*5}	—																																																																																																																																																																																																																																																	
貫通部	□	12		310 ^{*3}	171	スリーブ	□ ^{*4}	□ ^{*5}	□ ^{*4, *5, *6}	X-142A X-142B X-142C X-143A X-143B X-143C X-143D X-144A X-144B X-144C X-144D X-147	変更なし	□			変更なし	620 ^{*7}	200 ^{*7}	スリーブ	□ ^{*4}	□ ^{*5}	□ ^{*4, *5, *6}	X-142A X-142B X-142C X-143A X-143B X-143C X-143D X-144A X-144B X-144C X-144D X-147	変更なし	□			変更なし																																																																																																																																																																																																																																											
						端板	□ ^{*4}	□ ^{*5}	—									端板	□ ^{*4}	□ ^{*5}	—																																																																																																																																																																																																																																																	
						1		310 ^{*3}	171									スリーブ	□ ^{*4}	□ ^{*5}	□ ^{*4, *5, *6}							X-142D	変更なし	□			変更なし	620 ^{*7}	200 ^{*7}	スリーブ	□ ^{*4}	□ ^{*5}	□ ^{*4, *5, *6}	X-142D	変更なし	□			変更なし																																																																																																																																																																																																																									
																		端板	□ ^{*4}	□ ^{*5}	—															端板	□ ^{*4}	□ ^{*5}	—																																																																																																																																																																																																																															
						2		310 ^{*3}	104									スリーブ	□ ^{*4}	□ ^{*5}	□ ^{*4, *5, *6}							X-320 X-342	変更なし	□			変更なし	620 ^{*7}	200 ^{*7}	スリーブ	□ ^{*4}	□ ^{*5}	□ ^{*4, *5, *6}	X-320 X-342	変更なし	□			変更なし																																																																																																																																																																																																																									
																		端板	□ ^{*4}	□ ^{*5}	—															端板	□ ^{*4}	□ ^{*5}	—																																																																																																																																																																																																																															
		12		310 ^{*3}	104	スリーブ	□ ^{*4}	□ ^{*5}	□ ^{*4, *5, *6}	X-322A X-322B X-322C X-322D X-322E X-322F X-323A X-323B X-323C X-323D X-323E X-323F	変更なし	□			変更なし	620 ^{*7}	200 ^{*7}	スリーブ	□ ^{*4}	□ ^{*5}	□ ^{*4, *5, *6}	X-322A X-322B X-322C X-322D X-322E X-322F X-323A X-323B X-323C X-323D X-323E X-323F	変更なし	□			変更なし																																																																																																																																																																																																																																											
						端板	□ ^{*4}	□ ^{*5}	—									端板	□ ^{*4}	□ ^{*5}	—																																																																																																																																																																																																																																																	
						3		310 ^{*3}	171									スリーブ	□ ^{*4}	□ ^{*5}	□ ^{*4, *5, *6}							X-660A X-660B X-660C X-660D	変更なし	□			変更なし	620 ^{*7}	200 ^{*7}	スリーブ	□ ^{*4}	□ ^{*5}	□ ^{*4, *5, *6}	X-660A X-660B X-660C X-660D	変更なし	□			変更なし																																																																																																																																																																																																																									
																		端板	□ ^{*4}	□ ^{*5}	—															端板	□ ^{*4}	□ ^{*5}	—																																																																																																																																																																																																																															
								<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; font-size: 8px;"> <thead> <tr> <th colspan="10">変更前</th> <th colspan="10">変更後</th> </tr> <tr> <th rowspan="2">種</th> <th rowspan="2">類</th> <th rowspan="2">個</th> <th rowspan="2">数</th> <th rowspan="2">最高使用圧力 (MPa)</th> <th rowspan="2">最高使用温度 (°C)</th> <th rowspan="2">構成</th> <th colspan="3">主要寸法(mm)</th> <th rowspan="2">材料</th> <th rowspan="2">貫通部番号</th> <th rowspan="2">種</th> <th rowspan="2">類</th> <th rowspan="2">個</th> <th rowspan="2">数</th> <th rowspan="2">最高使用圧力 (MPa)</th> <th rowspan="2">最高使用温度 (°C)</th> <th rowspan="2">構成</th> <th colspan="3">主要寸法(mm)</th> <th rowspan="2">材料</th> <th rowspan="2">貫通部番号</th> </tr> <tr> <th>外径</th> <th>厚さ</th> <th>長さ</th> <th>外径</th> <th>厚さ</th> <th>長さ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="8">貫通部</td> <td rowspan="8">□</td> <td rowspan="8">2</td> <td rowspan="8"></td> <td rowspan="8">8.62^{*3}</td> <td rowspan="8">302</td> <td rowspan="8">スリーブ</td> <td rowspan="8">□^{*4}</td> <td rowspan="8">□^{*5}</td> <td rowspan="8">□^{*4, *5}</td> <td rowspan="8">X-650A X-651D X-650B X-651A X-650C X-651B X-650D X-651C</td> <td rowspan="8">変更なし</td> <td rowspan="8">□</td> <td rowspan="8"></td> <td rowspan="8"></td> <td rowspan="8">変更なし</td> <td rowspan="8">750</td> <td rowspan="8">750</td> <td>スリーブ</td> <td>□^{*4}</td> <td>□^{*5}</td> <td>□^{*4, *5}</td> <td rowspan="8">X-650A X-651D X-650B X-651A X-650C X-651B X-650D X-651C</td> <td rowspan="8">変更なし</td> <td rowspan="8">□</td> <td rowspan="8"></td> <td rowspan="8"></td> <td rowspan="8">変更なし</td> </tr> <tr> <td>端板</td> <td>□^{*4}</td> <td>□^{*5}</td> <td>—</td> <td>端板</td> <td>□^{*4}</td> <td>□^{*5}</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">2</td> <td rowspan="2"></td> <td rowspan="2">310^{*3}</td> <td rowspan="2">171</td> <td>スリーブ</td> <td>□^{*4}</td> <td>□^{*5}</td> <td>□^{*4, *5, *6}</td> <td rowspan="2">X-680A X-680B</td> <td rowspan="2">変更なし</td> <td rowspan="2">□</td> <td rowspan="2"></td> <td rowspan="2"></td> <td rowspan="2">変更なし</td> <td rowspan="2">620^{*7}</td> <td rowspan="2">200^{*7}</td> <td>スリーブ</td> <td>□^{*4}</td> <td>□^{*5}</td> <td>□^{*4, *5, *6}</td> <td rowspan="2">X-680A X-680B</td> <td rowspan="2">変更なし</td> <td rowspan="2">□</td> <td rowspan="2"></td> <td rowspan="2"></td> <td rowspan="2">変更なし</td> </tr> <tr> <td>端板</td> <td>□^{*4}</td> <td>□^{*5}</td> <td>—</td> <td>端板</td> <td>□^{*4}</td> <td>□^{*5}</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table>	変更前										変更後										種	類	個	数	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (°C)	構成	主要寸法(mm)			材料	貫通部番号	種	類	個	数	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (°C)	構成	主要寸法(mm)			材料	貫通部番号	外径	厚さ	長さ	外径	厚さ	長さ	貫通部	□	2		8.62 ^{*3}	302	スリーブ	□ ^{*4}	□ ^{*5}	□ ^{*4, *5}	X-650A X-651D X-650B X-651A X-650C X-651B X-650D X-651C	変更なし	□			変更なし	750	750	スリーブ	□ ^{*4}	□ ^{*5}	□ ^{*4, *5}	X-650A X-651D X-650B X-651A X-650C X-651B X-650D X-651C	変更なし	□			変更なし	端板	□ ^{*4}	□ ^{*5}	—	端板	□ ^{*4}	□ ^{*5}	—	2		310 ^{*3}	171	スリーブ	□ ^{*4}	□ ^{*5}	□ ^{*4, *5, *6}	X-680A X-680B	変更なし	□			変更なし	620 ^{*7}	200 ^{*7}	スリーブ	□ ^{*4}	□ ^{*5}	□ ^{*4, *5, *6}	X-680A X-680B	変更なし	□			変更なし	端板	□ ^{*4}	□ ^{*5}	—	端板	□ ^{*4}	□ ^{*5}	—																																																																																																																																						
						変更前												変更後																																																																																																																																																																																																																																																				
種	類	個	数	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (°C)	構成	主要寸法(mm)			材料	貫通部番号	種	類	個	数	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (°C)	構成	主要寸法(mm)			材料	貫通部番号																																																																																																																																																																																																																																															
							外径	厚さ	長さ										外径	厚さ	長さ																																																																																																																																																																																																																																																	
貫通部	□	2		8.62 ^{*3}	302	スリーブ	□ ^{*4}	□ ^{*5}	□ ^{*4, *5}	X-650A X-651D X-650B X-651A X-650C X-651B X-650D X-651C	変更なし	□			変更なし	750	750	スリーブ	□ ^{*4}	□ ^{*5}	□ ^{*4, *5}	X-650A X-651D X-650B X-651A X-650C X-651B X-650D X-651C	変更なし	□			変更なし																																																																																																																																																																																																																																											
																		端板	□ ^{*4}	□ ^{*5}	—							端板	□ ^{*4}	□ ^{*5}	—																																																																																																																																																																																																																																							
																		2		310 ^{*3}	171							スリーブ	□ ^{*4}	□ ^{*5}	□ ^{*4, *5, *6}	X-680A X-680B	変更なし	□			変更なし	620 ^{*7}	200 ^{*7}	スリーブ	□ ^{*4}	□ ^{*5}	□ ^{*4, *5, *6}	X-680A X-680B	変更なし	□			変更なし																																																																																																																																																																																																																					
																												端板	□ ^{*4}	□ ^{*5}	—									端板	□ ^{*4}	□ ^{*5}	—																																																																																																																																																																																																																											

注記*1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「最高使用圧力 (kg/cm²)」と記載。
 *2：記載の適正化を行う。既工事計画書には「呼び厚さ」と記載。
 *3：SI単位に換算したものである。
 *4：公称値を示す。
 *5：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。
 *6：端板含むスリーブ長さを示す。
 *7：重大事故等時における使用時の値。
 *8：外圧を示す。
 *9：フランジ含むスリーブ長さを示す。
 *10：記載の適正化を行う。既工事計画書には「貫通部」と記載。記載内容は、設計図書による。

設置変更許可申請書 (本文 (五号))	設置変更許可申請書 (添付書類八) 該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考																																																																																																																																																																																																																						
		<p>h. 電気配線貫通部</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="3">種類</th> <th rowspan="3">個数</th> <th rowspan="3">最高使用圧 (kPa)</th> <th rowspan="3">*1 最高使用力 (N)</th> <th rowspan="3">最高使用温度 (°C)</th> <th colspan="4">変更前</th> <th colspan="4">変更後</th> </tr> <tr> <th rowspan="2">構成</th> <th colspan="3">主要寸法(mm)</th> <th rowspan="2">貫通部番号</th> <th rowspan="2">種類</th> <th rowspan="2">個数</th> <th rowspan="2">最高使用圧 (kPa)</th> <th rowspan="2">*1 最高使用力 (N)</th> <th rowspan="2">最高使用温度 (°C)</th> <th rowspan="2">構成</th> <th colspan="3">主要寸法(mm)</th> </tr> <tr> <th>外径</th> <th>厚さ</th> <th>長さ</th> <th>外径</th> <th>厚さ</th> <th>長さ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">貫通部</td> <td rowspan="4">1</td> <td rowspan="4">310*2</td> <td rowspan="4">171</td> <td>スリーブ</td> <td>□</td> <td>φ3.04</td> <td>□</td> <td>φ3.05</td> <td>□</td> <td>φ3.05</td> <td rowspan="4">X-100A</td> <td rowspan="4">変更なし</td> <td rowspan="4">変更なし</td> <td rowspan="4">620*4</td> <td rowspan="4">200*4</td> <td rowspan="4">変更なし</td> </tr> <tr> <td>アダプタ</td> <td>□</td> <td>φ3.05</td> <td>□</td> <td>φ3.05</td> <td>□</td> <td>φ3.05</td> </tr> <tr> <td>ヘッド</td> <td>□</td> <td>φ3.05</td> <td>□</td> <td>φ3.05</td> <td>□</td> <td>φ3.05</td> </tr> <tr> <td>モジュール (ボディ)</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">2</td> <td rowspan="4">310*2</td> <td rowspan="4">171</td> <td>スリーブ</td> <td>□</td> <td>φ3.04</td> <td>□</td> <td>φ3.05</td> <td>□</td> <td>φ3.05</td> <td rowspan="4">X-100B X-100E</td> <td rowspan="4">変更なし</td> <td rowspan="4">変更なし</td> <td rowspan="4">620*4</td> <td rowspan="4">200*4</td> <td rowspan="4">変更なし</td> </tr> <tr> <td>アダプタ</td> <td>□</td> <td>φ3.05</td> <td>□</td> <td>φ3.05</td> <td>□</td> <td>φ3.05</td> </tr> <tr> <td>ヘッド</td> <td>□</td> <td>φ3.05</td> <td>□</td> <td>φ3.05</td> <td>□</td> <td>φ3.05</td> </tr> <tr> <td>モジュール (ボディ)</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">1</td> <td rowspan="4">310*2</td> <td rowspan="4">171</td> <td>スリーブ</td> <td>□</td> <td>φ3.04</td> <td>□</td> <td>φ3.05</td> <td>□</td> <td>φ3.05</td> <td rowspan="4">X-100C</td> <td rowspan="4">変更なし</td> <td rowspan="4">変更なし</td> <td rowspan="4">620*4</td> <td rowspan="4">200*4</td> <td rowspan="4">変更なし</td> </tr> <tr> <td>アダプタ</td> <td>□</td> <td>φ3.05</td> <td>□</td> <td>φ3.05</td> <td>□</td> <td>φ3.05</td> </tr> <tr> <td>ヘッド</td> <td>□</td> <td>φ3.05</td> <td>□</td> <td>φ3.05</td> <td>□</td> <td>φ3.05</td> </tr> <tr> <td>モジュール (ボディ)</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">1</td> <td rowspan="4">310*2</td> <td rowspan="4">171</td> <td>スリーブ</td> <td>□</td> <td>φ3.04</td> <td>□</td> <td>φ3.05</td> <td>□</td> <td>φ3.05</td> <td rowspan="4">X-100D</td> <td rowspan="4">変更なし</td> <td rowspan="4">変更なし</td> <td rowspan="4">620*4</td> <td rowspan="4">200*4</td> <td rowspan="4">変更なし</td> </tr> <tr> <td>アダプタ</td> <td>□</td> <td>φ3.05</td> <td>□</td> <td>φ3.05</td> <td>□</td> <td>φ3.05</td> </tr> <tr> <td>ヘッド</td> <td>□</td> <td>φ3.05</td> <td>□</td> <td>φ3.05</td> <td>□</td> <td>φ3.05</td> </tr> <tr> <td>モジュール (ボディ)</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table>	種類	個数	最高使用圧 (kPa)	*1 最高使用力 (N)	最高使用温度 (°C)	変更前				変更後				構成	主要寸法(mm)			貫通部番号	種類	個数	最高使用圧 (kPa)	*1 最高使用力 (N)	最高使用温度 (°C)	構成	主要寸法(mm)			外径	厚さ	長さ	外径	厚さ	長さ	貫通部	1	310*2	171	スリーブ	□	φ3.04	□	φ3.05	□	φ3.05	X-100A	変更なし	変更なし	620*4	200*4	変更なし	アダプタ	□	φ3.05	□	φ3.05	□	φ3.05	ヘッド	□	φ3.05	□	φ3.05	□	φ3.05	モジュール (ボディ)	—	—	—	—	—	2	310*2	171	スリーブ	□	φ3.04	□	φ3.05	□	φ3.05	X-100B X-100E	変更なし	変更なし	620*4	200*4	変更なし	アダプタ	□	φ3.05	□	φ3.05	□	φ3.05	ヘッド	□	φ3.05	□	φ3.05	□	φ3.05	モジュール (ボディ)	—	—	—	—	—	1	310*2	171	スリーブ	□	φ3.04	□	φ3.05	□	φ3.05	X-100C	変更なし	変更なし	620*4	200*4	変更なし	アダプタ	□	φ3.05	□	φ3.05	□	φ3.05	ヘッド	□	φ3.05	□	φ3.05	□	φ3.05	モジュール (ボディ)	—	—	—	—	—	1	310*2	171	スリーブ	□	φ3.04	□	φ3.05	□	φ3.05	X-100D	変更なし	変更なし	620*4	200*4	変更なし	アダプタ	□	φ3.05	□	φ3.05	□	φ3.05	ヘッド	□	φ3.05	□	φ3.05	□	φ3.05	モジュール (ボディ)	—	—	—	—	—																																						
種類	個数	最高使用圧 (kPa)						*1 最高使用力 (N)	最高使用温度 (°C)	変更前				変更後																																																																																																																																																																																																												
										構成	主要寸法(mm)			貫通部番号	種類	個数	最高使用圧 (kPa)	*1 最高使用力 (N)	最高使用温度 (°C)	構成	主要寸法(mm)																																																																																																																																																																																																					
			外径	厚さ	長さ	外径	厚さ				長さ																																																																																																																																																																																																															
貫通部	1	310*2	171	スリーブ	□	φ3.04	□	φ3.05	□	φ3.05	X-100A	変更なし	変更なし	620*4	200*4	変更なし																																																																																																																																																																																																										
				アダプタ	□	φ3.05	□	φ3.05	□	φ3.05																																																																																																																																																																																																																
				ヘッド	□	φ3.05	□	φ3.05	□	φ3.05																																																																																																																																																																																																																
				モジュール (ボディ)	—	—	—	—	—																																																																																																																																																																																																																	
2	310*2	171	スリーブ	□	φ3.04	□	φ3.05	□	φ3.05	X-100B X-100E	変更なし	変更なし	620*4	200*4	変更なし																																																																																																																																																																																																											
			アダプタ	□	φ3.05	□	φ3.05	□	φ3.05																																																																																																																																																																																																																	
			ヘッド	□	φ3.05	□	φ3.05	□	φ3.05																																																																																																																																																																																																																	
			モジュール (ボディ)	—	—	—	—	—																																																																																																																																																																																																																		
1	310*2	171	スリーブ	□	φ3.04	□	φ3.05	□	φ3.05	X-100C	変更なし	変更なし	620*4	200*4	変更なし																																																																																																																																																																																																											
			アダプタ	□	φ3.05	□	φ3.05	□	φ3.05																																																																																																																																																																																																																	
			ヘッド	□	φ3.05	□	φ3.05	□	φ3.05																																																																																																																																																																																																																	
			モジュール (ボディ)	—	—	—	—	—																																																																																																																																																																																																																		
1	310*2	171	スリーブ	□	φ3.04	□	φ3.05	□	φ3.05	X-100D	変更なし	変更なし	620*4	200*4	変更なし																																																																																																																																																																																																											
			アダプタ	□	φ3.05	□	φ3.05	□	φ3.05																																																																																																																																																																																																																	
			ヘッド	□	φ3.05	□	φ3.05	□	φ3.05																																																																																																																																																																																																																	
			モジュール (ボディ)	—	—	—	—	—																																																																																																																																																																																																																		
		<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="3">種類</th> <th rowspan="3">個数</th> <th rowspan="3">最高使用圧 (kPa)</th> <th rowspan="3">*1 最高使用力 (N)</th> <th rowspan="3">最高使用温度 (°C)</th> <th colspan="4">変更前</th> <th colspan="4">変更後</th> </tr> <tr> <th rowspan="2">構成</th> <th colspan="3">主要寸法(mm)</th> <th rowspan="2">貫通部番号</th> <th rowspan="2">種類</th> <th rowspan="2">個数</th> <th rowspan="2">最高使用圧 (kPa)</th> <th rowspan="2">*1 最高使用力 (N)</th> <th rowspan="2">最高使用温度 (°C)</th> <th rowspan="2">構成</th> <th colspan="3">主要寸法(mm)</th> </tr> <tr> <th>外径</th> <th>厚さ</th> <th>長さ</th> <th>外径</th> <th>厚さ</th> <th>長さ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="13">貫通部</td> <td rowspan="4">7</td> <td rowspan="13">310*2</td> <td rowspan="13">171</td> <td>スリーブ</td> <td>□</td> <td>φ3.04</td> <td>□</td> <td>φ3.05</td> <td>□</td> <td>φ3.05</td> <td rowspan="4">X-101A X-101B X-103B X-104A X-104B X-104G X-104H</td> <td rowspan="13">変更なし</td> <td rowspan="13">変更なし</td> <td rowspan="13">620*4</td> <td rowspan="13">200*4</td> <td rowspan="13">変更なし</td> </tr> <tr> <td>アダプタ</td> <td>□</td> <td>φ3.05</td> <td>□</td> <td>φ3.05</td> <td>□</td> <td>φ3.05</td> </tr> <tr> <td>ヘッド</td> <td>□</td> <td>φ3.05</td> <td>□</td> <td>φ3.05</td> <td>□</td> <td>φ3.05</td> </tr> <tr> <td>モジュール (ボディ)</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">3</td> <td rowspan="4">310*2</td> <td rowspan="13">171</td> <td>スリーブ</td> <td>□</td> <td>φ3.04</td> <td>□</td> <td>φ3.05</td> <td>□</td> <td>φ3.05</td> <td rowspan="4">X-101C X-101H X-102B</td> <td rowspan="13">変更なし</td> <td rowspan="13">変更なし</td> <td rowspan="13">620*4</td> <td rowspan="13">200*4</td> <td rowspan="13">変更なし</td> </tr> <tr> <td>アダプタ</td> <td>□</td> <td>φ3.05</td> <td>□</td> <td>φ3.05</td> <td>□</td> <td>φ3.05</td> </tr> <tr> <td>ヘッド</td> <td>□</td> <td>φ3.05</td> <td>□</td> <td>φ3.05</td> <td>□</td> <td>φ3.05</td> </tr> <tr> <td>モジュール (ボディ)</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">13</td> <td rowspan="4">310*2</td> <td rowspan="13">171</td> <td>スリーブ</td> <td>□</td> <td>φ3.04</td> <td>□</td> <td>φ3.05</td> <td>□</td> <td>φ3.05</td> <td rowspan="4">X-101D X-101E X-101F X-101G X-101I X-102A X-102D X-102E X-102F X-103A X-103C X-104C X-104D X-104E X-104F</td> <td rowspan="13">変更なし</td> <td rowspan="13">変更なし</td> <td rowspan="13">620*4</td> <td rowspan="13">200*4</td> <td rowspan="13">変更なし</td> </tr> <tr> <td>アダプタ</td> <td>□</td> <td>φ3.05</td> <td>□</td> <td>φ3.05</td> <td>□</td> <td>φ3.05</td> </tr> <tr> <td>ヘッド</td> <td>□</td> <td>φ3.05</td> <td>□</td> <td>φ3.05</td> <td>□</td> <td>φ3.05</td> </tr> <tr> <td>モジュール (ボディ)</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">2</td> <td rowspan="4">310*2</td> <td rowspan="13">171</td> <td>スリーブ</td> <td>□</td> <td>φ3.04</td> <td>□</td> <td>φ3.05</td> <td>□</td> <td>φ3.05</td> <td rowspan="4">X-102C X-103D</td> <td rowspan="13">変更なし</td> <td rowspan="13">変更なし</td> <td rowspan="13">620*4</td> <td rowspan="13">200*4</td> <td rowspan="13">変更なし</td> </tr> <tr> <td>アダプタ</td> <td>□</td> <td>φ3.05</td> <td>□</td> <td>φ3.05</td> <td>□</td> <td>φ3.05</td> </tr> <tr> <td>ヘッド</td> <td>□</td> <td>φ3.05</td> <td>□</td> <td>φ3.05</td> <td>□</td> <td>φ3.05</td> </tr> <tr> <td>モジュール (ボディ)</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">1</td> <td rowspan="4">310*2</td> <td rowspan="13">171</td> <td>スリーブ</td> <td>□</td> <td>φ3.04</td> <td>□</td> <td>φ3.05</td> <td>□</td> <td>φ3.05</td> <td rowspan="4">X-102G</td> <td rowspan="13">変更なし</td> <td rowspan="13">変更なし</td> <td rowspan="13">620*4</td> <td rowspan="13">200*4</td> <td rowspan="13">変更なし</td> </tr> <tr> <td>アダプタ</td> <td>□</td> <td>φ3.05</td> <td>□</td> <td>φ3.05</td> <td>□</td> <td>φ3.05</td> </tr> <tr> <td>ヘッド</td> <td>□</td> <td>φ3.05</td> <td>□</td> <td>φ3.05</td> <td>□</td> <td>φ3.05</td> </tr> <tr> <td>モジュール (ボディ)</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table>	種類	個数	最高使用圧 (kPa)	*1 最高使用力 (N)	最高使用温度 (°C)	変更前				変更後				構成	主要寸法(mm)			貫通部番号	種類	個数	最高使用圧 (kPa)	*1 最高使用力 (N)	最高使用温度 (°C)	構成	主要寸法(mm)			外径	厚さ	長さ	外径	厚さ	長さ	貫通部	7	310*2	171	スリーブ	□	φ3.04	□	φ3.05	□	φ3.05	X-101A X-101B X-103B X-104A X-104B X-104G X-104H	変更なし	変更なし	620*4	200*4	変更なし	アダプタ	□	φ3.05	□	φ3.05	□	φ3.05	ヘッド	□	φ3.05	□	φ3.05	□	φ3.05	モジュール (ボディ)	—	—	—	—	—	3	310*2	171	スリーブ	□	φ3.04	□	φ3.05	□	φ3.05	X-101C X-101H X-102B	変更なし	変更なし	620*4	200*4	変更なし	アダプタ	□	φ3.05	□	φ3.05	□	φ3.05	ヘッド	□	φ3.05	□	φ3.05	□	φ3.05	モジュール (ボディ)	—	—	—	—	—	13	310*2	171	スリーブ	□	φ3.04	□	φ3.05	□	φ3.05	X-101D X-101E X-101F X-101G X-101I X-102A X-102D X-102E X-102F X-103A X-103C X-104C X-104D X-104E X-104F	変更なし	変更なし	620*4	200*4	変更なし	アダプタ	□	φ3.05	□	φ3.05	□	φ3.05	ヘッド	□	φ3.05	□	φ3.05	□	φ3.05	モジュール (ボディ)	—	—	—	—	—	2	310*2	171	スリーブ	□	φ3.04	□	φ3.05	□	φ3.05	X-102C X-103D	変更なし	変更なし	620*4	200*4	変更なし	アダプタ	□	φ3.05	□	φ3.05	□	φ3.05	ヘッド	□	φ3.05	□	φ3.05	□	φ3.05	モジュール (ボディ)	—	—	—	—	—	1	310*2	171	スリーブ	□	φ3.04	□	φ3.05	□	φ3.05	X-102G	変更なし	変更なし	620*4	200*4	変更なし	アダプタ	□	φ3.05	□	φ3.05	□	φ3.05	ヘッド	□	φ3.05	□	φ3.05	□	φ3.05	モジュール (ボディ)	—	—	—	—	—		
種類	個数	最高使用圧 (kPa)						*1 最高使用力 (N)	最高使用温度 (°C)	変更前				変更後																																																																																																																																																																																																												
										構成	主要寸法(mm)			貫通部番号	種類	個数	最高使用圧 (kPa)	*1 最高使用力 (N)	最高使用温度 (°C)	構成	主要寸法(mm)																																																																																																																																																																																																					
			外径	厚さ	長さ	外径	厚さ				長さ																																																																																																																																																																																																															
貫通部	7	310*2	171	スリーブ	□	φ3.04	□	φ3.05	□	φ3.05	X-101A X-101B X-103B X-104A X-104B X-104G X-104H	変更なし	変更なし	620*4	200*4	変更なし																																																																																																																																																																																																										
				アダプタ	□	φ3.05	□	φ3.05	□	φ3.05																																																																																																																																																																																																																
				ヘッド	□	φ3.05	□	φ3.05	□	φ3.05																																																																																																																																																																																																																
				モジュール (ボディ)	—	—	—	—	—																																																																																																																																																																																																																	
	3			310*2	171	スリーブ	□	φ3.04	□	φ3.05	□						φ3.05	X-101C X-101H X-102B	変更なし	変更なし	620*4	200*4	変更なし																																																																																																																																																																																																			
						アダプタ	□	φ3.05	□	φ3.05	□						φ3.05																																																																																																																																																																																																									
						ヘッド	□	φ3.05	□	φ3.05	□						φ3.05																																																																																																																																																																																																									
						モジュール (ボディ)	—	—	—	—	—																																																																																																																																																																																																															
	13			310*2		171	スリーブ	□	φ3.04	□	φ3.05						□	φ3.05						X-101D X-101E X-101F X-101G X-101I X-102A X-102D X-102E X-102F X-103A X-103C X-104C X-104D X-104E X-104F	変更なし	変更なし	620*4	200*4	変更なし																																																																																																																																																																																													
							アダプタ	□	φ3.05	□	φ3.05						□	φ3.05																																																																																																																																																																																																								
							ヘッド	□	φ3.05	□	φ3.05						□	φ3.05																																																																																																																																																																																																								
							モジュール (ボディ)	—	—	—	—						—																																																																																																																																																																																																									
	2			310*2			171	スリーブ	□	φ3.04	□						φ3.05	□						φ3.05						X-102C X-103D	変更なし	変更なし	620*4	200*4	変更なし																																																																																																																																																																																							
アダプタ		□	φ3.05					□	φ3.05	□	φ3.05																																																																																																																																																																																																															
ヘッド		□	φ3.05					□	φ3.05	□	φ3.05																																																																																																																																																																																																															
モジュール (ボディ)		—	—					—	—	—																																																																																																																																																																																																																
1	310*2	171	スリーブ	□				φ3.04	□	φ3.05	□	φ3.05	X-102G	変更なし	変更なし	620*4	200*4	変更なし																																																																																																																																																																																																								
			アダプタ	□	φ3.05			□	φ3.05	□	φ3.05																																																																																																																																																																																																															
			ヘッド	□	φ3.05			□	φ3.05	□	φ3.05																																																																																																																																																																																																															
			モジュール (ボディ)	—	—			—	—	—																																																																																																																																																																																																																

設置変更許可申請書 (本文 (五号))		設置変更許可申請書 (添付書類八) 該当事項		設計及び工事の計画 該当事項				整合性				備考										
		310** (kPa)	171	変更前				変更後				変更なし										
				種類	個数	最高使用圧力 (kPa)	最高使用温度 (°C)	構成	主要寸法(mm)	材料	貫通部番号		種類	個数	最高使用圧力 (kPa)	最高使用温度 (°C)	構成	主要寸法(mm)	材料	貫通部番号		
					1			スリーブ	外径 *3, *4 壁厚 *5 長さ *6, *5		X-103C											
								アダプタ	外径 *3, *5 壁厚 *5 長さ *6, *5													
								ヘッド	外径 *3, *5 壁厚 *5 長さ *6, *5													
								モジュール (ボディ)	—	—												
					1			スリーブ	外径 *3, *4 壁厚 *5 長さ *6, *5		X-103E											
								アダプタ	外径 *3, *5 壁厚 *5 長さ *6, *5													
								ヘッド	外径 *3, *5 壁厚 *5 長さ *6, *5													
								モジュール (ボディ)	—	—												
					4			スリーブ	外径 *3, *4 壁厚 *5 長さ *6, *5		X-105A											
								アダプタ	外径 *3, *5 壁厚 *5 長さ *6, *5		X-105B											
								ヘッド	外径 *3, *5 壁厚 *5 長さ *6, *5		X-105C											
								モジュール (ボディ/プラグ)	—	—	X-105D											
					1			スリーブ	外径 *3, *4 壁厚 *5 長さ *6, *5, *8		X-110											
								端板	外径 *3, *5 壁厚 *5 長さ *6, *5													
					1			スリーブ	外径 *3, *4 壁厚 *5 長さ *6, *5, *8		X-111											
								端板	外径 *3, *5 壁厚 *5 長さ *6, *5													
					1			スリーブ	外径 *3, *4 壁厚 *5 長さ *6, *5, *8		X-112											
								端板	外径 *3, *5 壁厚 *5 長さ *6, *5													
	2		104	スリーブ	外径 *3, *4 壁厚 *5 長さ *6, *5		X-300A															
				アダプタ	外径 *3, *5 壁厚 *5 長さ *6, *5		X-300B															
				ヘッド	外径 *3, *5 壁厚 *5 長さ *6, *5																	
				モジュール (ボディ)	—	—																

注記*1 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「最高使用圧力 (kg/cm²)」と記載。
 *2 : SI 単位に換算したものである。
 *3 : 公称値を示す。
 *4 : 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、平成 4 年 3 月 27 日付け 3 資庁第 13033 号にて認可された工事計画の IV-3-4-2-1「原子炉格納容器貫通部の基本板厚の強度計算書」による。
 *5 : 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。
 *6 : 重大事故等時における使用時の値。
 *7 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「貫通部」と記載。記載内容は、設計図書による。
 *8 : 端板含むスリーブ長さを示す。

設置変更許可申請書 (本文 (五号))	設置変更許可申請書 (添付書類八) 該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考																																																																																																																																																																			
<p>本文 (十号)</p> <p>リ(1)-⑩原子炉格納容器等の形状に関する条件は、設計値を用いるものとする。</p> <p>・記載箇所</p> <p>ハ(2)(ii)a.(b)(b-1)(b-1-1)(b-1-1-1), ハ(2)(ii)a.(b)(b-1)(b-1-1)(b-1-1-2), ハ(2)(ii)a.(b)(b-2)(b-2-1)</p>		<p>7. 原子炉格納施設</p> <p>沸騰水型発電用原子炉施設に係るものにあつては、次の事項</p> <p>1 原子炉格納容器に係る次の事項</p> <p>(1) 原子炉格納容器本体の名称、種類、最高使用圧力、最高使用温度、設計漏えい率、主要寸法、材料及び鋼数(ドライウエル及びサブプレッションプールの最高使用圧力、最高使用温度、主要寸法及び材料を付記すること。)</p> <p>2. 原子炉格納容器</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">名 称</th> <th>変 更 前</th> <th>変 更 後</th> </tr> <tr> <th colspan="2"></th> <th>原子炉格納容器*1</th> <th>原子炉格納容器*2</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>種</td> <td>類</td> <td>圧力抑制形</td> <td>変更なし</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">最高使用圧力</td> <td>内圧(ドライウエル、サブプレッションチェンバ)*3</td> <td>kPa 310**</td> <td>変更なし 620**</td> </tr> <tr> <td>外圧(ドライウエル、サブプレッションチェンバ)*6</td> <td>kPa 14**</td> <td>変更なし</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">最高使用温度</td> <td>ド ラ イ ウ エ ル</td> <td>℃ 171</td> <td>変更なし 200**</td> </tr> <tr> <td>サブプレッションチェンバ</td> <td>℃ 104</td> <td>変更なし 200**</td> </tr> <tr> <td>設 計 漏 え い 率</td> <td>%/d*7</td> <td colspan="2">0.4以下 [常温、空気又は窒素、最高使用圧力の0.9倍に等しい圧力において]</td> </tr> <tr> <td rowspan="15">主 要 寸 法</td> <td>高 さ*9</td> <td>mm</td> <td>[]**11</td> </tr> <tr> <td>上部ドライウエルシエル部内高</td> <td>mm</td> <td>[]**12</td> </tr> <tr> <td>上部円筒部内径</td> <td>mm</td> <td>[]**13</td> </tr> <tr> <td>鏡板の形状に係る寸法</td> <td>mm</td> <td>[]**14 (鏡板の中央部における内面の半径)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>mm</td> <td>[]**15 (鏡板のすみの丸みの内半径)</td> </tr> <tr> <td>フ ラ ン ジ 厚 さ</td> <td>mm</td> <td>[]**16</td> </tr> <tr> <td>上部ドライウエルシエル部内径</td> <td>mm</td> <td>[]**17</td> </tr> <tr> <td>下部ドライウエル内径</td> <td>mm</td> <td>[]**18</td> </tr> <tr> <td>ふ た 板 厚 さ*12</td> <td>mm</td> <td>[]**19 ([]**20)</td> </tr> <tr> <td>上部円筒部板厚さ*12</td> <td>mm</td> <td>[]**21 ([]**22)</td> </tr> <tr> <td>ト ッ プ ス ラ ブ 部 厚 さ*14</td> <td>mm</td> <td>[]**23</td> </tr> <tr> <td>上部ドライウエルシエル部厚さ*15</td> <td>mm</td> <td>[]**24 ([]**25)</td> </tr> <tr> <td>ト ッ プ ス ラ ブ 部</td> <td>mm</td> <td>[]**26 ([]**27)</td> </tr> <tr> <td>ライナシエルの部</td> <td>mm</td> <td>[]**28 ([]**29)</td> </tr> <tr> <td>厚 さ</td> <td>貫 通 部 フ ラ ン ジ プ レ ー ト</td> <td>mm</td> <td>[]**30</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th>変 更 前</th> <th>変 更 後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="10">主 要 寸 法</td> <td>シエルの部内高</td> <td>mm</td> <td>[]**31</td> </tr> <tr> <td>シエルの部内径</td> <td>mm</td> <td>[]**32</td> </tr> <tr> <td>シエルの部厚さ*17</td> <td>mm</td> <td>[]**33</td> </tr> <tr> <td>内 筒 部 厚 さ</td> <td>mm</td> <td>[]**34 ([]**35)</td> </tr> <tr> <td>ライナシエルの部</td> <td>mm</td> <td>[]**36 ([]**37)</td> </tr> <tr> <td>貫 通 部 フ ラ ン ジ プ レ ー ト 厚 さ</td> <td>mm</td> <td>[]**38</td> </tr> <tr> <td>底 部 ラ イ ナ プ レ ー ト 厚 さ*18</td> <td>mm</td> <td>[]**39 ([]**40)</td> </tr> <tr> <td>底 部 ラ イ ナ プ レ ー ト 厚 さ*18</td> <td>mm</td> <td>[]**41 ([]**42)</td> </tr> <tr> <td>下部ドライウエル内径</td> <td>mm</td> <td>[]**43</td> </tr> <tr> <td>アクセスシエルスリーブ及び鏡板</td> <td>ス リ ー ブ 厚 さ*20</td> <td>mm</td> <td>[]**44 ([]**45)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>鏡 板 厚 さ*20</td> <td>mm</td> <td>[]**46 ([]**47)</td> </tr> <tr> <td>ふ た 板</td> <td></td> <td></td> <td>[]**48</td> </tr> <tr> <td>上 部 円 筒 部 板</td> <td></td> <td></td> <td>[]**49</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">材 料</td> <td>ト ッ プ ス ラ ブ 部</td> <td>鉄筋コンクリート</td> <td>コンクリート (設計基準強度 32.4N/mm² **4) 鉄筋</td> </tr> <tr> <td>シ エ ル 部</td> <td>鉄筋コンクリート</td> <td>コンクリート (設計基準強度 32.4N/mm² **4) 鉄筋</td> </tr> <tr> <td>底 部</td> <td>鉄筋コンクリート</td> <td>コンクリート (設計基準強度 29.4N/mm² **4) 鉄筋</td> </tr> <tr> <td>ライナシエルの部</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="4">鋼 数</td> <td>ト ッ プ ス ラ ブ 部、シエル部</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>底 部</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>貫 通 部 フ ラ ン ジ プ レ ー ト</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>下部ドライウエルアクセスシエルスリーブ及び鏡板</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>ド ラ イ ウ エ ル</td> <td></td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>サ ブ プ レ ッ シ ョ ン チ ェ ン バ</td> <td></td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>底 部</td> <td></td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>下 部 ド ラ イ ウ エ ル ア ク セ ス ト ン ネ ル ス リ ー ブ 及 び 鏡 板</td> <td></td> <td>2</td> </tr> </tbody> </table>	名 称		変 更 前	変 更 後			原子炉格納容器*1	原子炉格納容器*2	種	類	圧力抑制形	変更なし	最高使用圧力	内圧(ドライウエル、サブプレッションチェンバ)*3	kPa 310**	変更なし 620**	外圧(ドライウエル、サブプレッションチェンバ)*6	kPa 14**	変更なし	最高使用温度	ド ラ イ ウ エ ル	℃ 171	変更なし 200**	サブプレッションチェンバ	℃ 104	変更なし 200**	設 計 漏 え い 率	%/d*7	0.4以下 [常温、空気又は窒素、最高使用圧力の0.9倍に等しい圧力において]		主 要 寸 法	高 さ*9	mm	[]**11	上部ドライウエルシエル部内高	mm	[]**12	上部円筒部内径	mm	[]**13	鏡板の形状に係る寸法	mm	[]**14 (鏡板の中央部における内面の半径)		mm	[]**15 (鏡板のすみの丸みの内半径)	フ ラ ン ジ 厚 さ	mm	[]**16	上部ドライウエルシエル部内径	mm	[]**17	下部ドライウエル内径	mm	[]**18	ふ た 板 厚 さ*12	mm	[]**19 ([]**20)	上部円筒部板厚さ*12	mm	[]**21 ([]**22)	ト ッ プ ス ラ ブ 部 厚 さ*14	mm	[]**23	上部ドライウエルシエル部厚さ*15	mm	[]**24 ([]**25)	ト ッ プ ス ラ ブ 部	mm	[]**26 ([]**27)	ライナシエルの部	mm	[]**28 ([]**29)	厚 さ	貫 通 部 フ ラ ン ジ プ レ ー ト	mm	[]**30			変 更 前	変 更 後	主 要 寸 法	シエルの部内高	mm	[]**31	シエルの部内径	mm	[]**32	シエルの部厚さ*17	mm	[]**33	内 筒 部 厚 さ	mm	[]**34 ([]**35)	ライナシエルの部	mm	[]**36 ([]**37)	貫 通 部 フ ラ ン ジ プ レ ー ト 厚 さ	mm	[]**38	底 部 ラ イ ナ プ レ ー ト 厚 さ*18	mm	[]**39 ([]**40)	底 部 ラ イ ナ プ レ ー ト 厚 さ*18	mm	[]**41 ([]**42)	下部ドライウエル内径	mm	[]**43	アクセスシエルスリーブ及び鏡板	ス リ ー ブ 厚 さ*20	mm	[]**44 ([]**45)		鏡 板 厚 さ*20	mm	[]**46 ([]**47)	ふ た 板			[]**48	上 部 円 筒 部 板			[]**49	材 料	ト ッ プ ス ラ ブ 部	鉄筋コンクリート	コンクリート (設計基準強度 32.4N/mm ² **4) 鉄筋	シ エ ル 部	鉄筋コンクリート	コンクリート (設計基準強度 32.4N/mm ² **4) 鉄筋	底 部	鉄筋コンクリート	コンクリート (設計基準強度 29.4N/mm ² **4) 鉄筋	ライナシエルの部			鋼 数	ト ッ プ ス ラ ブ 部、シエル部			底 部			貫 通 部 フ ラ ン ジ プ レ ー ト			下部ドライウエルアクセスシエルスリーブ及び鏡板			ド ラ イ ウ エ ル		1	サ ブ プ レ ッ シ ョ ン チ ェ ン バ		1	底 部		1	下 部 ド ラ イ ウ エ ル ア ク セ ス ト ン ネ ル ス リ ー ブ 及 び 鏡 板		2	<p>変更なし</p> <p>変更なし</p> <p>変更なし</p>	
名 称		変 更 前	変 更 後																																																																																																																																																																				
		原子炉格納容器*1	原子炉格納容器*2																																																																																																																																																																				
種	類	圧力抑制形	変更なし																																																																																																																																																																				
最高使用圧力	内圧(ドライウエル、サブプレッションチェンバ)*3	kPa 310**	変更なし 620**																																																																																																																																																																				
	外圧(ドライウエル、サブプレッションチェンバ)*6	kPa 14**	変更なし																																																																																																																																																																				
最高使用温度	ド ラ イ ウ エ ル	℃ 171	変更なし 200**																																																																																																																																																																				
	サブプレッションチェンバ	℃ 104	変更なし 200**																																																																																																																																																																				
設 計 漏 え い 率	%/d*7	0.4以下 [常温、空気又は窒素、最高使用圧力の0.9倍に等しい圧力において]																																																																																																																																																																					
主 要 寸 法	高 さ*9	mm	[]**11																																																																																																																																																																				
	上部ドライウエルシエル部内高	mm	[]**12																																																																																																																																																																				
	上部円筒部内径	mm	[]**13																																																																																																																																																																				
	鏡板の形状に係る寸法	mm	[]**14 (鏡板の中央部における内面の半径)																																																																																																																																																																				
		mm	[]**15 (鏡板のすみの丸みの内半径)																																																																																																																																																																				
	フ ラ ン ジ 厚 さ	mm	[]**16																																																																																																																																																																				
	上部ドライウエルシエル部内径	mm	[]**17																																																																																																																																																																				
	下部ドライウエル内径	mm	[]**18																																																																																																																																																																				
	ふ た 板 厚 さ*12	mm	[]**19 ([]**20)																																																																																																																																																																				
	上部円筒部板厚さ*12	mm	[]**21 ([]**22)																																																																																																																																																																				
	ト ッ プ ス ラ ブ 部 厚 さ*14	mm	[]**23																																																																																																																																																																				
	上部ドライウエルシエル部厚さ*15	mm	[]**24 ([]**25)																																																																																																																																																																				
	ト ッ プ ス ラ ブ 部	mm	[]**26 ([]**27)																																																																																																																																																																				
	ライナシエルの部	mm	[]**28 ([]**29)																																																																																																																																																																				
	厚 さ	貫 通 部 フ ラ ン ジ プ レ ー ト	mm	[]**30																																																																																																																																																																			
		変 更 前	変 更 後																																																																																																																																																																				
主 要 寸 法	シエルの部内高	mm	[]**31																																																																																																																																																																				
	シエルの部内径	mm	[]**32																																																																																																																																																																				
	シエルの部厚さ*17	mm	[]**33																																																																																																																																																																				
	内 筒 部 厚 さ	mm	[]**34 ([]**35)																																																																																																																																																																				
	ライナシエルの部	mm	[]**36 ([]**37)																																																																																																																																																																				
	貫 通 部 フ ラ ン ジ プ レ ー ト 厚 さ	mm	[]**38																																																																																																																																																																				
	底 部 ラ イ ナ プ レ ー ト 厚 さ*18	mm	[]**39 ([]**40)																																																																																																																																																																				
	底 部 ラ イ ナ プ レ ー ト 厚 さ*18	mm	[]**41 ([]**42)																																																																																																																																																																				
	下部ドライウエル内径	mm	[]**43																																																																																																																																																																				
	アクセスシエルスリーブ及び鏡板	ス リ ー ブ 厚 さ*20	mm	[]**44 ([]**45)																																																																																																																																																																			
	鏡 板 厚 さ*20	mm	[]**46 ([]**47)																																																																																																																																																																				
ふ た 板			[]**48																																																																																																																																																																				
上 部 円 筒 部 板			[]**49																																																																																																																																																																				
材 料	ト ッ プ ス ラ ブ 部	鉄筋コンクリート	コンクリート (設計基準強度 32.4N/mm ² **4) 鉄筋																																																																																																																																																																				
	シ エ ル 部	鉄筋コンクリート	コンクリート (設計基準強度 32.4N/mm ² **4) 鉄筋																																																																																																																																																																				
	底 部	鉄筋コンクリート	コンクリート (設計基準強度 29.4N/mm ² **4) 鉄筋																																																																																																																																																																				
	ライナシエルの部																																																																																																																																																																						
鋼 数	ト ッ プ ス ラ ブ 部、シエル部																																																																																																																																																																						
	底 部																																																																																																																																																																						
	貫 通 部 フ ラ ン ジ プ レ ー ト																																																																																																																																																																						
	下部ドライウエルアクセスシエルスリーブ及び鏡板																																																																																																																																																																						
ド ラ イ ウ エ ル		1																																																																																																																																																																					
サ ブ プ レ ッ シ ョ ン チ ェ ン バ		1																																																																																																																																																																					
底 部		1																																																																																																																																																																					
下 部 ド ラ イ ウ エ ル ア ク セ ス ト ン ネ ル ス リ ー ブ 及 び 鏡 板		2																																																																																																																																																																					

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八） 該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考																																																																														
<p>(2) 原子炉格納容器の設計圧力及び設計温度並びに漏えい率</p> <p>原子炉格納容器</p> <p>最高使用圧力^{*1} <u>310 kPa[gage]</u></p> <p>最高使用温度^{*1} <u>ドライウエル 171℃</u> <u>サプレッション・チェンバ 104℃</u></p> <p>漏えい率 <u>リ(2)-①原子炉格納容器内空間部容積の0.4%/d以下</u> <u>(常温, 最高使用圧力の0.9倍の圧力, 空気において)</u></p> <p>※1 <u>設計基準対象施設としての値</u></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>本文（十号）</p> <p><u>リ(2)-②原子炉格納容器からの漏えい量は、格納容器圧力に応じた設計漏えい率をもとに評価する。</u></p> <p>・記載箇所</p> <p>ハ(2)(ii)c.(a)(a-1)(a-1-11)(a-1-11-4)(a-1-11-4-1),</p> <p>ハ(2)(ii)c.(a)(a-2)(a-2-10)(a-2-10-6)(a-2-10-6-1), ハ(2)(ii)c.(b)(b-13)(b-13-1)</p> </div>	<p>第9.1-1表 一次格納施設主要仕様</p> <p>(1) 原子炉格納容器</p> <p><中略></p> <p>最高使用圧力</p> <p>(内圧) 3.16kg/cm²g</p> <p>(外圧) 0.14kg/cm²g</p> <p>最高使用温度</p> <p><u>ドライウエル 171℃</u></p> <p><u>サプレッション・チェンバ 104℃</u></p> <p>最低使用温度</p> <p>ドライウエル 10℃</p> <p>サプレッション・チェンバ 10℃</p> <p>漏えい率</p> <p><u>原子炉格納容器内空間部容積の0.4%/d以下(常温, 最高使用圧力の0.9倍の圧力, 空気において)</u></p> <p><中略></p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>整合性</p> <p>・設置変更許可申請書（本文（十号））の<u>リ(1)-①</u>で使用している条件は、設計値を用いていることから、設計及び工事の計画の原子炉格納容器等の設計と整合している。</p> </div> <p>7. 原子炉格納施設</p> <p>沸騰水型発電用原子炉施設に係るものについては、次の事項</p> <p>1 原子炉格納容器に係る次の事項</p> <p>(1) 原子炉格納容器本体の名称、種類、最高使用圧力、最高使用温度、設計漏えい率、主要寸法、材料及び個数（ドライウエル及びサプレッションプールの最高使用圧力、最高使用温度、主要寸法及び材料を付記すること。）</p> <p>a. 原子炉格納容器</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="2">名称</th> <th>変更前</th> <th>変更後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>種</td> <td>原子炉格納容器^{*1}</td> <td>原子炉格納容器^{*2}</td> <td>原子炉格納容器^{*2}</td> </tr> <tr> <td colspan="4" style="text-align: center;">圧力抑制形</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">最高使用圧力</td> <td>内圧（ドライウエル、サプレッションチェンバ）^{*3}</td> <td>310^{*4}</td> <td>変更なし 620^{*5}</td> </tr> <tr> <td>外圧（ドライウエル、サプレッションチェンバ）^{*4}</td> <td>14^{*4}</td> <td>変更なし</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">最高使用温度</td> <td>ドライウエル</td> <td>171</td> <td>変更なし 200^{*5}</td> </tr> <tr> <td>サプレッションチェンバ</td> <td>104</td> <td>変更なし 200^{*5}</td> </tr> <tr> <td>設計漏えい率</td> <td>%/d^{*7}</td> <td><u>リ(2)-①</u> 0.4以下 [常温、空気又は窒素、最高使用圧力の0.9倍に等しい圧力において]</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="14">主 要 寸 法</td> <td>高さ^{*9}</td> <td>mm</td> <td>*10、*11</td> </tr> <tr> <td>上部ドライウエルシェル部内径</td> <td>mm</td> <td>*10</td> </tr> <tr> <td>上部円筒部内径</td> <td>mm</td> <td>*10</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">ド ン ド ン</td> <td>縦板の形状に係る寸法</td> <td>mm</td> <td>*1、*10 (縦板の中央部における内面の半径) *1、*10 (縦板のすみの丸みの内半径)</td> </tr> <tr> <td>フランジ厚さ</td> <td>mm</td> <td>*10</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">イ ン ゲ ル</td> <td>上部ドライウエルシェル部内径</td> <td>mm</td> <td>*10</td> </tr> <tr> <td>下部ドライウエル内径</td> <td>mm</td> <td>*10</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">ウ エ ル</td> <td>ふた板厚さ^{*12}</td> <td>mm</td> <td>*11、*10、*11、*10</td> </tr> <tr> <td>上部円筒部板厚さ^{*13}</td> <td>mm</td> <td>*1、*10</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">プ ール</td> <td>トップスラブ部厚さ^{*14}</td> <td>mm</td> <td>*10</td> </tr> <tr> <td>上部ドライウエルシェル部厚さ^{*15}</td> <td>mm</td> <td>*1、*10</td> </tr> <tr> <td>トップスラブ部厚さ^{*16}</td> <td>mm</td> <td>*1、*10</td> </tr> <tr> <td>上部ドライウエルプレート厚さ</td> <td>mm</td> <td>*1、*10</td> </tr> <tr> <td>厚さ</td> <td>貫通部フランジプレート</td> <td>mm</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	名称		変更前	変更後	種	原子炉格納容器 ^{*1}	原子炉格納容器 ^{*2}	原子炉格納容器 ^{*2}	圧力抑制形				最高使用圧力	内圧（ドライウエル、サプレッションチェンバ） ^{*3}	310 ^{*4}	変更なし 620 ^{*5}	外圧（ドライウエル、サプレッションチェンバ） ^{*4}	14 ^{*4}	変更なし	最高使用温度	ドライウエル	171	変更なし 200 ^{*5}	サプレッションチェンバ	104	変更なし 200 ^{*5}	設計漏えい率	%/d ^{*7}	<u>リ(2)-①</u> 0.4以下 [常温、空気又は窒素、最高使用圧力の0.9倍に等しい圧力において]		主 要 寸 法	高さ ^{*9}	mm	*10、*11	上部ドライウエルシェル部内径	mm	*10	上部円筒部内径	mm	*10	ド ン ド ン	縦板の形状に係る寸法	mm	*1、*10 (縦板の中央部における内面の半径) *1、*10 (縦板のすみの丸みの内半径)	フランジ厚さ	mm	*10	イ ン ゲ ル	上部ドライウエルシェル部内径	mm	*10	下部ドライウエル内径	mm	*10	ウ エ ル	ふた板厚さ ^{*12}	mm	*11、*10、*11、*10	上部円筒部板厚さ ^{*13}	mm	*1、*10	プ ール	トップスラブ部厚さ ^{*14}	mm	*10	上部ドライウエルシェル部厚さ ^{*15}	mm	*1、*10	トップスラブ部厚さ ^{*16}	mm	*1、*10	上部ドライウエルプレート厚さ	mm	*1、*10	厚さ	貫通部フランジプレート	mm		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>整合性</p> <p>・設計及び工事の計画の<u>リ(2)-①</u>は、設置変更許可申請書（本文（五号））の<u>リ(2)-①</u>と同義であり、整合している。</p> <p>・設置変更許可申請書（本文（十号））の<u>リ(2)-②</u>で使用している条件は、設計漏えい率を用いていることから、設計及び工事の計画の設計漏えい率と整合している。</p> </div>	
名称		変更前	変更後																																																																															
種	原子炉格納容器 ^{*1}	原子炉格納容器 ^{*2}	原子炉格納容器 ^{*2}																																																																															
圧力抑制形																																																																																		
最高使用圧力	内圧（ドライウエル、サプレッションチェンバ） ^{*3}	310 ^{*4}	変更なし 620 ^{*5}																																																																															
	外圧（ドライウエル、サプレッションチェンバ） ^{*4}	14 ^{*4}	変更なし																																																																															
最高使用温度	ドライウエル	171	変更なし 200 ^{*5}																																																																															
	サプレッションチェンバ	104	変更なし 200 ^{*5}																																																																															
設計漏えい率	%/d ^{*7}	<u>リ(2)-①</u> 0.4以下 [常温、空気又は窒素、最高使用圧力の0.9倍に等しい圧力において]																																																																																
主 要 寸 法	高さ ^{*9}	mm	*10、*11																																																																															
	上部ドライウエルシェル部内径	mm	*10																																																																															
	上部円筒部内径	mm	*10																																																																															
	ド ン ド ン	縦板の形状に係る寸法	mm	*1、*10 (縦板の中央部における内面の半径) *1、*10 (縦板のすみの丸みの内半径)																																																																														
		フランジ厚さ	mm	*10																																																																														
	イ ン ゲ ル	上部ドライウエルシェル部内径	mm	*10																																																																														
		下部ドライウエル内径	mm	*10																																																																														
	ウ エ ル	ふた板厚さ ^{*12}	mm	*11、*10、*11、*10																																																																														
		上部円筒部板厚さ ^{*13}	mm	*1、*10																																																																														
	プ ール	トップスラブ部厚さ ^{*14}	mm	*10																																																																														
		上部ドライウエルシェル部厚さ ^{*15}	mm	*1、*10																																																																														
		トップスラブ部厚さ ^{*16}	mm	*1、*10																																																																														
		上部ドライウエルプレート厚さ	mm	*1、*10																																																																														
	厚さ	貫通部フランジプレート	mm																																																																															

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八） 該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>原子炉格納容器は、重大事故等時において、設計基準対象施設としての最高使用圧力及び最高使用温度を超える <u>リ(2)-②</u>ことが想定されるが、重大事故等時においては設計基準対象施設としての最高使用圧力の2倍の圧力及び200℃の温度以下で閉じ込め機能を損なわない設計とする。</p>	<p>9.1 原子炉格納施設 9.1.2 重大事故等時 9.1.2.1 原子炉格納容器 9.1.2.1.1 概要</p> <p>原子炉格納容器は、<u>想定される重大事故等時において、設計基準対象施設としての最高使用圧力及び最高使用温度を超える可能性があるが、設計基準対象施設としての最高使用圧力の2倍の圧力及び200℃の温度以下で閉じ込め機能を損なわない設計とする。</u></p> <p>9.1.1 通常運転時等 9.1.1.4 主要設備 9.1.1.4.1 一次格納施設 9.1.1.4.1.1 原子炉格納容器 (3) 真空破壊装置</p> <p>真空破壊装置は、冷却材喪失事故後ドライウエル内蒸気の凝縮がすすみ、ドライウエル圧力がサブプレッション・チェンバ圧力より低下した場合に圧力差により自動的に働き、サブプレッション・チェンバのプール水のドライウエルへの逆流、あるいはドライウエルとサブプレッション・チェンバの差圧によるダイヤフラム・フロア及び原子炉圧力容器基礎の破損を防止するために設ける。</p>	<p>【原子炉格納施設】 （基本設計方針） 第2章 個別項目 1. 原子炉格納容器 1.1 原子炉格納容器本体等 <中略></p> <p>原子炉格納容器は、<u>リ(2)-②</u>想定される重大事故等時において、設計基準対象施設としての最高使用圧力及び最高使用温度を超える可能性があるが、設計基準対象施設としての最高使用圧力の2倍の圧力及び200℃の温度で閉じ込め機能を損なわない設計とする。</p> <p>3. 圧力低減設備その他の安全設備 3.1 真空破壊装置</p> <p>原子炉冷却材喪失事故後、ドライウエル圧力がサブプレッションチェンバ圧力より低下した場合に、ドライウエルとサブプレッションチェンバ間に設置された8個の真空破壊弁が、圧力差により自動的に働き、サブプレッションチェンバのプール水の逆流並びにドライウエルとサブプレッションチェンバの差圧によるダイヤフラムフロア及び原子炉圧力容器基礎の破損を防止できる設計とする。</p> <p>なお、発電用原子炉の運転時に原子炉格納容器に窒素を充てんしていることなどから、原子炉格納容器外面に受ける圧力が設計を超えることはない。</p> <p>想定される重大事故等時において、ドライウエル圧力がサブプレッションチェンバ圧力より低下した場合に、ドライウエルとサブプレッションチェンバ間に設置された8個の真空破壊弁が、圧力差により自動的に働き、サブプレッションチェンバのプール水の逆流並びにドライウエルとサブプレッションチェンバの差圧によるダイヤフラムフロア及び原子炉圧力容器基礎の破損を防止できる設計とする。</p>	<p>設計及び工事の計画の <u>リ(2)-②</u>は、設置変更許可申請書（本文（五号））の <u>リ(2)-②</u>と同義であり、整合している。</p>	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八） 該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>(3) 非常用格納容器保護設備の構造</p> <p>(i) 格納容器内ガス濃度制御系</p> <p>原子炉冷却材喪失事故時に原子炉格納容器内で発生するリ(3)(i)-①おそれのある水素及び酸素の燃焼反応を防止するため、格納容器内ガス濃度制御系を設け、リ(3)(i)-②水素及び酸素濃度を制御する。また、リ(3)(i)-③通常運転時に不活性ガス系により、原子炉格納容器内に窒素ガスを充てんしておく。</p>	<p>9.1.1.4.1.2 格納容器内ガス濃度制御系</p> <p>(1) 可燃性ガス濃度制御系</p> <p>本系統は、1基が100%処理容量をもつ、2基の再結合装置等からなる。本系統は、ブロワ、加熱器、熱反応式再結合器、冷却器、配管・弁類及び計測制御装置で構成する。第9.1-2図に系統概要を示す。</p> <p>本系統は、中央制御室から手動操作により再結合器の加熱を開始し、加熱開始後3時間以内に暖機運転が完了し系統機能を発揮する。</p> <p>すなわち、ドライウエルのガスをブロワによって吸気し、電気加熱器で加熱し、再結合器でガス中の水素と酸素を再結合させる。再結合器内のガスは加熱器からの入熱及び再結合器内の水素及び酸素の反応熱を受けることにより加熱され、718℃(1,325°F)に制御される。再結合器を出たガス及び再結合反応により生じた水蒸気は、冷却器で冷却凝縮した後、サブプレッション・チェンバに戻すように設計する。</p> <p>本系統の作動により、ドライウエルのガスがサブプレッション・チェンバに移行することとなるが、サブプレッション・チェンバの圧力が上昇すると真空破壊装置が自動的に作動し、再びドライウエルにガスが戻るようになっている。</p> <p><中略></p> <p>(2) 不活性ガス系</p> <p>本系統は、通常運転中、原子炉格納容器内の酸素濃度を3.5vol%以下に保つために、原子炉格納容器内の空気を窒素ガスで置換しておく設備であって、窒素ガス充てん及びその後運転中の漏えい分の補給は、液体窒素貯蔵タンクに貯蔵した窒素ガスにより行なう。</p> <p>なお、本系統は、工学的安全施設ではない。</p>	<p>3.4 可燃性ガス濃度制御設備</p> <p>3.4.1 可燃性ガス濃度制御系による可燃性ガス濃度の抑制</p> <p>原子炉冷却材喪失事故時に原子炉格納容器内で発生する水素及び酸素のリ(3)(i)-①反応を防止するため、可燃性ガス濃度制御系を設け、不活性ガス系により原子炉格納容器内にリ(3)(i)-③a窒素を充てんすることとあいまって、リ(3)(i)-②可燃限界に達しないための制限値である水素濃度4vol%未満又は酸素濃度5vol%未満に維持できる設計とする。</p> <p>3.5 原子炉格納容器調気設備</p> <p>3.5.1 不活性ガス系</p> <p>不活性ガス系は、水素及び酸素の反応を防止するため、リ(3)(i)-③bあらかじめ原子炉格納容器内に窒素を充てんすることにより、水素濃度及び酸素濃度を可燃限界未満に保つ設計とする。</p> <p>炉心の著しい損傷が発生した場合において原子炉格納容器内における水素爆発による破損を防止できるように、発電用原子炉の運転中は、原子炉格納容器内を不活性ガス系により常時不活性化する設計とする。</p>	<p>設計及び工事の計画のリ(3)(i)-①は、設置変更許可申請書(本文(五号))のリ(3)(i)-①と同義であり、整合している。</p> <p>設計及び工事の計画のリ(3)(i)-②は、設置変更許可申請書(本文(五号))のリ(3)(i)-②を具体的に記載しており、整合している。</p> <p>設計及び工事の計画のリ(3)(i)-③a及びリ(3)(i)-③bは、設置変更許可申請書(本文(五号))のリ(3)(i)-③と同義であり、整合している。</p>	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八） 該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考																																																																					
<p>a. <u>可燃性ガス濃度制御系</u> 再結合装置 基数 <u>2</u> 容量 <u>約 255Nm³/h/基</u></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>本文（十号） ドライウエルから可燃性ガス濃度制御系への吸込み流量は 153m³/h[normal]とし、再循環流量 102m³/h[normal]と合せ、合計 255m³/h[normal] (1系列当たり)のガスが可燃性ガス濃度制御系で処理されるものとする。 リ(3)(i)a.-①可燃性ガス濃度制御系で処理されたガスは、再循環するものを除き、すべてサブプレッション・チェンバに戻るものとする。</p> <p>・記載箇所 口(2)(iv)b.(h)</p> </div>	<p>第9.1-2表 原子炉格納容器内ガス濃度制御系主要仕様</p> <p>(1) <u>可燃性ガス濃度制御系</u> 再結合装置 基数 <u>2</u> 系統設計流量 <u>約 255Nm³/h/基</u> <中略></p>	<p>【原子炉格納施設】 (要目表) 3 圧力低減設備その他の安全設備に係る次の事項</p> <p style="font-size: small;">ワ 再結合装置の名称、種類、容量、最高使用圧力、最高使用温度、再結合効率、主要寸法、材料、個数及び取付箇所並びに電熱器の名称、種類、容量及び個数及び取付箇所（常設及び可搬型の別に記載すること。） ・常設 a. 可燃性ガス濃度制御系再結合装置</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th>変更前</th> <th colspan="2">変更後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="10" style="writing-mode: vertical-rl; transform: rotate(180deg);">再結合装置</td> <td>名称</td> <td>可燃性ガス濃度制御系可搬式再結合装置</td> <td colspan="2">可燃性ガス濃度制御系再結合装置*1</td> </tr> <tr> <td>種類</td> <td>熱反応式</td> <td colspan="2"></td> </tr> <tr> <td>容量</td> <td>255以上(255*2) <small>m³/h/個[normal]</small></td> <td colspan="2"></td> </tr> <tr> <td>最高使用圧力</td> <td>310 <small>kPa</small></td> <td colspan="2"></td> </tr> <tr> <td>最高使用温度</td> <td>171 / 777 <small>℃</small></td> <td colspan="2"></td> </tr> <tr> <td>再結合効率</td> <td>95 <small>%</small> (入口可燃性ガス濃度 2vol%において)</td> <td colspan="2">変更なし</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">主要寸法</td> <td>たて</td> <td>4550*2 <small>mm</small></td> <td colspan="2"></td> </tr> <tr> <td>横</td> <td>2450*2 <small>mm</small></td> <td colspan="2"></td> </tr> <tr> <td>高さ</td> <td>1731*2 <small>mm</small></td> <td colspan="2"></td> </tr> <tr> <td>材料</td> <td>SUS304TP</td> <td colspan="2"></td> </tr> <tr> <td>個数</td> <td>1</td> <td colspan="2">2</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">取付箇所</td> <td>系統名</td> <td>可燃性ガス濃度制御系可搬式再結合装置 A 可燃性ガス濃度制御系 A系</td> <td>可燃性ガス濃度制御系再結合装置 A 可燃性ガス濃度制御系 A系</td> <td>可燃性ガス濃度制御系再結合装置 B 可燃性ガス濃度制御系 B系</td> </tr> <tr> <td>設置床</td> <td>原子炉建屋 T.M.S.L.12300mm</td> <td colspan="2">変更なし</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">取付箇所</td> <td>溢水防護上の区画番号</td> <td></td> <td>R-1F-12</td> <td>R-1F-12</td> </tr> <tr> <td>溢水防護上の配慮が必要な高さ</td> <td></td> <td>EL0.14m以上</td> <td>EL0.14m以上</td> </tr> </tbody> </table> <p style="font-size: x-small;">注記*1：可燃性ガス濃度制御系可搬式再結合装置は、常設の設備とし、常設の可燃性ガス濃度制御系再結合装置を可燃性ガス濃度制御系 B系に新たに1個設置する。 *2：公称値を示す。 *3：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。</p>			変更前	変更後		再結合装置	名称	可燃性ガス濃度制御系可搬式再結合装置	可燃性ガス濃度制御系再結合装置*1		種類	熱反応式			容量	255以上(255*2) <small>m³/h/個[normal]</small>			最高使用圧力	310 <small>kPa</small>			最高使用温度	171 / 777 <small>℃</small>			再結合効率	95 <small>%</small> (入口可燃性ガス濃度 2vol%において)	変更なし		主要寸法	たて	4550*2 <small>mm</small>			横	2450*2 <small>mm</small>			高さ	1731*2 <small>mm</small>			材料	SUS304TP			個数	1	2		取付箇所	系統名	可燃性ガス濃度制御系可搬式再結合装置 A 可燃性ガス濃度制御系 A系	可燃性ガス濃度制御系再結合装置 A 可燃性ガス濃度制御系 A系	可燃性ガス濃度制御系再結合装置 B 可燃性ガス濃度制御系 B系	設置床	原子炉建屋 T.M.S.L.12300mm	変更なし		取付箇所	溢水防護上の区画番号		R-1F-12	R-1F-12	溢水防護上の配慮が必要な高さ		EL0.14m以上	EL0.14m以上	<p>設置変更許可申請書（本文（十号））の <u>リ(3)(i)a.-①</u> は、設計及び工事の計画の「第 8-3-5-2-3-1 図 原子炉格納施設のうち圧力低減設備その他の安全設備のうち放射性物質濃度制御設備及び可燃性ガス濃度制御設備並びに格納容器再循環設備（可燃性ガス濃度制御系）の系統図（設計基準対象施設）」の記載と同義であり、整合している。</p>	
		変更前	変更後																																																																						
再結合装置	名称	可燃性ガス濃度制御系可搬式再結合装置	可燃性ガス濃度制御系再結合装置*1																																																																						
	種類	熱反応式																																																																							
	容量	255以上(255*2) <small>m³/h/個[normal]</small>																																																																							
	最高使用圧力	310 <small>kPa</small>																																																																							
	最高使用温度	171 / 777 <small>℃</small>																																																																							
	再結合効率	95 <small>%</small> (入口可燃性ガス濃度 2vol%において)	変更なし																																																																						
	主要寸法	たて	4550*2 <small>mm</small>																																																																						
		横	2450*2 <small>mm</small>																																																																						
		高さ	1731*2 <small>mm</small>																																																																						
	材料	SUS304TP																																																																							
個数	1	2																																																																							
取付箇所	系統名	可燃性ガス濃度制御系可搬式再結合装置 A 可燃性ガス濃度制御系 A系	可燃性ガス濃度制御系再結合装置 A 可燃性ガス濃度制御系 A系	可燃性ガス濃度制御系再結合装置 B 可燃性ガス濃度制御系 B系																																																																					
	設置床	原子炉建屋 T.M.S.L.12300mm	変更なし																																																																						
取付箇所	溢水防護上の区画番号		R-1F-12	R-1F-12																																																																					
	溢水防護上の配慮が必要な高さ		EL0.14m以上	EL0.14m以上																																																																					

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八） 該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>b. 不活性ガス系 液体窒素貯蔵タンク 基数 1 (5号, 6号及び7号炉共用, 既設)</p> <p>(ii) 格納容器スプレイ冷却系</p> <p>原子炉冷却材喪失事故時に, サプレッション・チェンバのプール水をリ(3)(ii)-①残留熱除去系熱交換器で冷却し, ドライウエル及びサプレッション・チェンバ内にスプレイすることによって原子炉格納容器内リ(3)(ii)-②の温度及び圧力を低下させる。</p> <p>リ(3)(ii)-③この系は, 残留熱除去系のうち2系統が格納容器スプレイ冷却モードとしての機能を有するものであり,...</p>	<p>(2) 不活性ガス系 液体窒素貯蔵タンク 基数 1 (5号, 6号及び7号炉共用, 既設)</p> <p>9.1 原子炉格納施設 9.1.1 通常運転時等 9.1.1.4 主要設備 9.1.1.4.1 一次格納施設 9.1.1.4.1.3 格納容器スプレイ冷却系</p> <p>冷却材喪失事故後, サプレッション・チェンバ内のプール水は, 本システムによってドライウエル内及びサプレッション・チェンバ内にスプレイされる。</p> <p>ドライウエル内にスプレイされた水は, ベント管を通じて, サプレッション・チェンバ内にもどり, サプレッション・チェンバ内にスプレイされた水とともに残留熱除去系の熱交換器で冷却された後, 再びスプレイされる。</p> <p>この系統は, 第5.2-4図に示すように, 独立な2系統で構成し, 低圧注水系と連携して, 1系統で給水配管破断による冷却材流出のエネルギー, 崩壊熱及び燃料の過熱に伴う燃料被覆管(ジルカロイ)と水との反応による発生熱を除去し原子炉格納容器内圧力及び温度が原子炉格納容器の最高使用圧力及び最高使用温度を超えるのを防ぐことができるようにする。</p> <p><中略></p>	<p>【原子炉格納施設】 (基本設計方針)</p> <p>第2章 個別項目</p> <p>3. 圧力低減設備その他の安全設備</p> <p>3.2 原子炉格納容器安全設備</p> <p>3.2.1 格納容器スプレイ冷却系(残留熱除去系(格納容器スプレイ冷却モード))</p> <p>原子炉冷却系統に係る発電用原子炉施設の損壊又は故障の際に生ずる原子炉格納容器内の圧力及び温度の上昇により原子炉格納容器の安全性を損なうことを防止するため, リ(3)(ii)-①原子炉格納容器内において発生した熱を除去する設備として, 残留熱除去系(格納容器スプレイ冷却モード)を設ける設計とする。</p> <p>残留熱除去系(格納容器スプレイ冷却モード)は, 原子炉冷却材圧力バウンダリ配管の最も過酷な破断を想定した場合でも, 放出されるエネルギーによる設計基準事故時の原子炉格納容器内リ(3)(ii)-②圧力, 温度が最高使用圧力, 最高使用温度を超えないようにし, かつ, 原子炉格納容器の内圧を速やかに下げて低く維持することにより, 放射性物質の外部への漏えいを少なくする設計とする。</p> <p>原子炉冷却系統に係る発電用原子炉施設の損壊又は故障の際に原子炉格納容器から気体状の放射性物質が漏えいすることによる敷地境界外の実効線量が「発電用軽水型原子炉施設の安全評価に関する審査指針(平成2年8月30日原子力安全委員会)」に規定する線量を超えないよう, 当該放射性物質の濃度を低減する設備として残留熱除去系(格納容器スプレイ冷却モード)を設置する。</p> <p>残留熱除去系(格納容器スプレイ冷却モード)は, 原子炉冷却材喪失事故時に, サプレッションチェンバのプ</p>	<p>設置変更許可申請書(本文(五号))の「液体窒素貯蔵タンク」は, 新規制基準対応設備を申請範囲としている本設工認の対象外である。</p> <p>設計及び工事の計画のリ(3)(ii)-①は, 設置変更許可申請書(本文(五号))のリ(3)(ii)-①と同義であり, 整合している。</p> <p>設計及び工事の計画のリ(3)(ii)-②は, 設置変更許可申請書(本文(五号))のリ(3)(ii)-②を具体的に記載しており, 整合している。</p>	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八） 該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
		<p><u>ール水をドライウエル内及びサプレッションチェンバ内にスプレイすることにより、環境に放出される放射性物質の濃度を減少させる設計とする。</u></p> <p>原子炉格納容器安全設備のうち、サプレッションチェンバのプール水を水源として原子炉格納容器除熱のために運転するポンプは、原子炉格納容器内の圧力及び温度並びに冷却材中の異物の影響について「非常用炉心冷却設備又は格納容器熱除去設備に係るろ過装置の性能評価等について（内規）」（平成 20・02・12 原院第 5 号（平成 20 年 2 月 27 日原子力安全・保安院制定））によるろ過装置の性能評価により、設計基準事故時及び重大事故等時に想定される最も小さい有効吸込水頭においても、正常に機能する能力を有する設計とする。</p> <p>残留熱除去系（格納容器スプレイ冷却モード）の仕様は、設置（変更）許可を受けた設計基準事故の評価の条件を満足する設計とする。</p> <p>残留熱除去系（格納容器スプレイ冷却モード）は、テストラインを構成することにより、発電用原子炉の運転中に試験ができる設計とする。また、設計基準事故時に動作する弁については、残留熱除去系ポンプが停止中に開閉試験ができる設計とする。</p> <p>【原子炉格納施設】 （要目表）</p> <p>3 圧力低減設備その他の安全設備に係る次の事項 (6) 原子炉格納容器安全設備に係る次の事項 (6.1) 格納容器スプレイ冷却系</p> <p>ロ 熱交換器の名称、種類、容量、最高使用圧力（管側及び胴側の別に記載すること。）、最高使用温度（管側及び胴側の別に記載すること。）、伝熱面積、主要寸法、材料、個数及び取付箇所（常設及び可搬型の別に記載すること。)</p> <p>・常設</p> <p>以下の設備は、既存の原子炉冷却系統施設のうち残留熱除去設備（残留熱除去系）であり、圧力低減設備その他の安全設備のうち原子炉格納容器安全設備（格納容器スプレイ冷却系）として本工事計画で兼用とする。</p> <p>リ (3) (ii)-③a <u>残留熱除去系熱交換器*</u></p> <p>注記*：残留熱除去系熱交換器(B),(C)が対象。</p>		

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八） 該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>主要設備については、ホ、(4)、(i)残留熱除去系に記述する。</p> <p>(iii) 重大事故等対処設備</p> <p>a. 原子炉格納容器内の冷却等のための設備</p> <p>設計基準事故対処設備が有する原子炉格納容器内の冷却機能が喪失した場合において炉心の著しい損傷を防止するため、原子炉格納容器内の圧力及び温度を低下させるためリ(3)(iii)a.-①に必要な重大事故等対処設備を設置及び保管する。</p> <p>炉心の著しい損傷が発生した場合において原子炉格納容器の破損を防止するため、原子炉格納容器内の圧力及び温度並びに放射性物質の濃度を低下させるために必要</p>	<p>格納容器スプレイ冷却系の主要な機器仕様については、「5.2 残留熱除去系」で記述する。</p> <p><中略></p> <p>9.2 原子炉格納容器内の冷却等のための設備</p> <p>9.2.1 概要</p> <p>設計基準事故対処設備が有する原子炉格納容器内の冷却機能が喪失した場合において炉心の著しい損傷を防止するため、原子炉格納容器内の圧力及び温度を低下させるため、原子炉格納容器内の圧力及び温度を低下させるため、原子炉格納容器内の圧力及び温度並びに放射性物質の濃度を低下させるために必要</p>	<p>ハ ポンプの名称、種類、容量、揚程又は吐出圧力、最高使用圧力、最高使用温度、主要寸法、材料、個数及び取付箇所並びに原動機の種類、出力、個数及び取付箇所（常設及び可搬型の別に記載すること。）</p> <p>・常設</p> <p>以下の設備は、既存の原子炉冷却系統施設のうち残留熱除去設備（残留熱除去系）であり、圧力低減設備その他の安全設備のうち原子炉格納容器安全設備（格納容器スプレイ冷却系）として本工事計画で兼用とする。</p> <p>残留熱除去系ポンプ*</p> <p>リ(3)(ii)-③b</p> <p>注記*：残留熱除去系ポンプ(B)、(C)が対象。</p> <p>【原子炉格納施設】 （基本設計方針）</p> <p>第2章 個別項目</p> <p>3. 圧力低減設備その他の安全設備</p> <p>3.2 原子炉格納容器安全設備</p> <p>3.2.3 代替格納容器スプレイ冷却系による原子炉格納容器の冷却</p> <p>原子炉格納容器内の冷却等のための設備のうち、設計基準事故対処設備が有する原子炉格納容器内の冷却機能が喪失した場合において炉心の著しい損傷を防止するために原子炉格納容器内の圧力及び温度を低下させるため、また、炉心の著しい損傷が発生した場合において原子炉格納容器の破損を防止するために原子炉格納容器内の圧力及び温度並びに放射性物質の濃度を低下させるためリ(3)(iii)a.-①の重大事故等対処設備とし</p>	<p>設計及び工事の計画のリ(3)(ii)-③a及びリ(3)(ii)-③bは、設置変更許可申請書（本文（五号））のリ(3)(ii)-③を具体的に記載しており、整合している。</p> <p>設置変更許可申請書（本文（五号））「ホ、(4)、(i)残留熱除去系」に示す。</p> <p>設計及び工事の計画のリ(3)(iii)a.-①は、設置変更許可申請書（本文（五号））のリ(3)(iii)a.-①を具体的に記載しており、整合している。</p>	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八） 該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>な重大事故等対処設備を設置及び保管する...</p> <p>原子炉格納容器内の冷却等のための設備のうち、設計基準事故対処設備が有する原子炉格納容器内の冷却機能が喪失した場合において炉心の著しい損傷を防止するために原子炉格納容器内の圧力及び温度を低下させるため、また、炉心の著しい損傷が発生した場合において原子炉格納容器の破損を防止するために原子炉格納容器内の圧力及び温度並びに放射性物質の濃度を低下させるためのリ(3)(iii)a.-②設備として、代替格納容器スプレイ冷却系（常設）及び代替格納容器スプレイ冷却系（可搬型）を設ける。</p> <p>(a) 炉心の著しい損傷を防止するための原子炉格納容器内冷却に用いる設備 (a-1) フロントライン系故障時に用いる設備 (a-1-1) 代替格納容器スプレイ冷却系（常設）による原子炉格納容器の冷却</p> <p>残留熱除去系（格納容器スプレイ冷却モード）が機能喪失した場合の重大事故等対処設備として、代替格納容器スプレイ冷却系（常設）は、復水移送ポンプにより、復水貯蔵槽の水を残留熱除去系等を経由してリ(3)(iii)a.(a)(a-1)(a-1-1)-①格納容器スプレイ・ヘッドからドライウエル内及びサブプレッション・チェンバ内にスプレイすることで、原子炉格納容器内の圧力及び温度を低下させることができる設計とする。</p> <p>代替格納容器スプレイ冷却系（常設）は、リ(3)(iii)a.(a)(a-1)(a-1-1)-②非常用交流電源設備に加えて、代替所内電気設備を経由した常設代替交流電源設備又は可搬型代替交流電源設備からの給電が可能な設計とする。</p>	<p>な重大事故等対処設備を設置及び保管する...</p> <p><中略></p> <p>9.2.2 設計方針</p> <p>原子炉格納容器内の冷却等のための設備のうち、設計基準事故対処設備が有する原子炉格納容器内の冷却機能が喪失した場合において炉心の著しい損傷を防止するために原子炉格納容器内の圧力及び温度を低下させるため、また、炉心の著しい損傷が発生した場合において原子炉格納容器の破損を防止するために原子炉格納容器内の圧力及び温度並びに放射性物質の濃度を低下させるための設備として、代替格納容器スプレイ冷却系（常設）及び代替格納容器スプレイ冷却系（可搬型）を設ける。</p> <p>(1) 炉心の著しい損傷を防止するための原子炉格納容器内冷却に用いる設備 a. フロントライン系故障時に用いる設備 (a) 代替格納容器スプレイ冷却系（常設）による原子炉格納容器の冷却</p> <p>残留熱除去系（格納容器スプレイ冷却モード）が機能喪失した場合の重大事故等対処設備として、代替格納容器スプレイ冷却系（常設）を使用する。</p> <p>代替格納容器スプレイ冷却系（常設）は、復水移送ポンプ、配管・弁類、計測制御装置等で構成し、復水移送ポンプにより、復水貯蔵槽の水を残留熱除去系等を経由して格納容器スプレイ・ヘッドからドライウエル内及びサブプレッション・チェンバ内にスプレイすることで、原子炉格納容器内の圧力及び温度を低下させることができる設計とする。</p> <p>代替格納容器スプレイ冷却系（常設）は、非常用交流電源設備に加えて、代替所内電気設備を経由した常設代替交流電源設備又は可搬型代替交流電源設備からの給電が可能な設計とする。</p> <p><中略></p>	<p>て、代替格納容器スプレイ冷却系（常設）及び代替格納容器スプレイ冷却系（可搬型）を設ける設計とする。</p> <p>3.2.3 代替格納容器スプレイ冷却系による原子炉格納容器の冷却</p> <p>原子炉格納容器内の冷却等のための設備のうち、設計基準事故対処設備が有する原子炉格納容器内の冷却機能が喪失した場合において炉心の著しい損傷を防止するために原子炉格納容器内の圧力及び温度を低下させるためのリ(3)(iii)a.-②重大事故等対処設備として、代替格納容器スプレイ冷却系（常設）及び代替格納容器スプレイ冷却系（可搬型）を設ける設計とする。</p> <p>(1) 代替格納容器スプレイ冷却系（常設）による原子炉格納容器の冷却</p> <p>炉心の著しい損傷防止のための原子炉格納容器内冷却に用いる設備のうち、残留熱除去系（格納容器スプレイ冷却モード）が機能喪失した場合及び全交流動力電源喪失により、残留熱除去系（格納容器スプレイ冷却モード）が起動できない場合の重大事故等対処設備として使用する代替格納容器スプレイ冷却系（常設）は、復水移送ポンプにより、復水貯蔵槽の水を残留熱除去系等を経由してリ(3)(iii)a.(a)(a-1)(a-1-1)-①原子炉格納容器スプレイ管からドライウエル内及びサブプレッションチェンバ内にスプレイすることで、原子炉格納容器内の圧力及び温度を低下させることができる設計とする。</p> <p><中略></p> <p>代替格納容器スプレイ冷却系（常設）は、リ(3)(iii)a.(a)(a-1)(a-1-1)-②非常用ディーゼル発電設備に加えて、代替所内電気設備を経由した常設代替交流電源設備又は可搬型代替交流電源設備からの給電が可能な設計とする。</p>	<p>設計及び工事の計画のリ(3)(iii)a.-②は、設置変更許可申請書（本文（五号））のリ(3)(iii)a.-②と同義であり、整合している。</p> <p>設計及び工事の計画のリ(3)(iii)a.(a)(a-1)(a-1-1)-①は、設置変更許可申請書（本文（五号））のリ(3)(iii)a.(a)(a-1)(a-1-1)-①と同義であり、整合している。</p> <p>設計及び工事の計画のリ(3)(iii)a.(a)(a-1)(a-1-1)-②は、設置変更許可申請書（本文（五号））のリ(3)(iii)a.(a)(a-1)(a-1-1)-②と同義であり、整合している。</p>	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八） 該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>(a-1-2) 代替格納容器スプレイ冷却系（可搬型）による原子炉格納容器の冷却</p> <p><u>残留熱除去系（格納容器スプレイ冷却モード）の機能が喪失した場合の重大事故等対処設備として、代替格納容器スプレイ冷却系（可搬型）は、可搬型代替注水ポンプ（A-2級）により、代替淡水源の水を残留熱除去系等を経由してリ(3)(iii)a.(a)(a-1)(a-1-2)-①格納容器スプレイ・ヘッドからドライウエル内及びサブプレッション・チェンバ内にスプレイすることで、原子炉格納容器内の圧力及び温度を低下させることができる設計とする。</u></p> <p><u>代替格納容器スプレイ冷却系（可搬型）は、リ(3)(iii)a.(a)(a-1)(a-1-2)-②代替淡水源が枯渇した場合において、重大事故等の収束に必要な水の供給設備である大容量送水車（海水取水用）により海を利用できる設計とする。</u></p> <p><u>代替格納容器スプレイ冷却系（可搬型）は、リ(3)(iii)a.(a)(a-1)(a-1-2)-③非常用交流電源設備に加えて、代替所内電気設備を経由した常設代替交流電源設備又は可搬型代替交流電源設備からの給電が可能な設計とする。また、可搬型代替注水ポンプ（A-2級）は、ディーゼルエンジンにより駆動できる設計とする。</u></p>	<p>(b) 代替格納容器スプレイ冷却系（可搬型）による原子炉格納容器の冷却</p> <p><u>残留熱除去系（格納容器スプレイ冷却モード）の機能が喪失した場合の重大事故等対処設備として、代替格納容器スプレイ冷却系（可搬型）を使用する。</u></p> <p><u>代替格納容器スプレイ冷却系（可搬型）は、可搬型代替注水ポンプ（A-2級）、配管・ホース・弁類、計測制御装置等で構成し、可搬型代替注水ポンプ（A-2級）により、代替淡水源の水を残留熱除去系等を経由して格納容器スプレイ・ヘッドからドライウエル内及びサブプレッション・チェンバ内にスプレイすることで、原子炉格納容器内の圧力及び温度を低下させることができる設計とする。</u></p> <p><u>代替格納容器スプレイ冷却系（可搬型）は、代替淡水源が枯渇した場合において、重大事故等の収束に必要な水の供給設備である大容量送水車（海水取水用）により海を利用できる設計とする。</u></p> <p><u>代替格納容器スプレイ冷却系（可搬型）は、非常用交流電源設備に加えて、代替所内電気設備を経由した常設代替交流電源設備又は可搬型代替交流電源設備からの給電が可能な設計とする。また、可搬型代替注水ポンプ（A-2級）は、ディーゼルエンジンにより駆動できる設計とする。燃料は、燃料補給設備である軽油タンク及びタンクローリ（4kL）により補給できる設計とする。</u></p> <p><中略></p> <p>5. 原子炉冷却系統施設</p> <p>5.7 重大事故等の収束に必要な水の供給設備</p> <p>5.7.2 設計方針</p> <p><u>重大事故等の収束に必要な水の供給設備のうち、</u></p>	<p>とする。</p> <p><中略></p> <p>(2) 代替格納容器スプレイ冷却系（可搬型）による原子炉格納容器の冷却</p> <p>炉心の著しい損傷防止のための原子炉格納容器内冷却に用いる設備のうち、<u>残留熱除去系（格納容器スプレイ冷却モード）の機能が喪失した場合及び全交流動力電源喪失により、残留熱除去系（格納容器スプレイ冷却モード）が起動できない場合の重大事故等対処設備として使用する代替格納容器スプレイ冷却系（可搬型）は、可搬型代替注水ポンプ（A-2級）（「7号機設備、6,7号機共用」（以下同じ。））により、代替淡水源の水を残留熱除去系等を経由してリ(3)(iii)a.(a)(a-1)(a-1-2)-①原子炉格納容器スプレイ管からドライウエル内及びサブプレッションチェンバ内にスプレイすることで、原子炉格納容器内の圧力及び温度を低下させることができる設計とする。</u></p> <p><中略></p> <p><u>代替格納容器スプレイ冷却系（可搬型）は、リ(3)(iii)a.(a)(a-1)(a-1-2)-③非常用ディーゼル発電設備に加えて、代替所内電気設備を経由した常設代替交流電源設備又は可搬型代替交流電源設備からの給電が可能な設計とする。また、可搬型代替注水ポンプ（A-2級）は、ディーゼルエンジンにより駆動できる設計とする。</u></p> <p><中略></p> <p>【原子炉冷却系統施設（蒸気タービンを除く。）】 （基本設計方針）</p> <p>第2章 個別項目</p> <p>5.5 水の供給設備</p> <p>5.5.1 重大事故等の収束に必要な水源</p> <p>設計基準事故の収束に必要な水源とは別に、重大事故</p>	<p>設計及び工事の計画の <u>リ(3)(iii)a.(a)(a-1)(a-1-2)-①</u> は、設置変更許可申請書（本文（五号））の <u>リ(3)(iii)a.(a)(a-1)(a-1-2)-①</u> と同義であり、整合している。</p> <p>設計及び工事の計画の <u>リ(3)(iii)a.(a)(a-1)(a-1-2)-②a</u> 及び <u>リ(3)(iii)a.(a)(a-1)(a-1-2)-②b</u> は、設置変更許可申請書（本文（五号））の <u>リ(3)(iii)a.(a)(a-1)(a-1-2)-②</u> と同義であり、整合している。</p> <p>設計及び工事の計画の <u>リ(3)(iii)a.(a)(a-1)(a-1-2)-③</u> は、設置変更許可申請書（本文（五号））の <u>リ(3)(iii)a.(a)(a-1)(a-1-2)-③</u> と同義であり、整合している。</p>	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八） 該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
	<p>重大事故等の収束に必要な水源として、復水貯蔵槽、サプレッション・チェンバ及びほう酸水注入系貯蔵タンクを設ける。これら重大事故等の収束に必要な水源とは別に、代替淡水源として防火水槽及び淡水貯水池を設ける。また、淡水が枯渇した場合に、海を水源として利用できる設計とする。</p> <p>e. 海を水源とした場合に用いる設備</p> <p>想定される重大事故等時において、<u>淡水が枯渇した場合に、復水貯蔵槽へ水を供給するための水源であるとともに、原子炉圧力容器及び原子炉格納容器への注水に使用する設計基準事故対処設備が機能喪失した場合の代替手段である低圧代替注水系（可搬型）、代替格納容器スプレイ冷却系（可搬型）及び格納容器下部注水系（可搬型）の水源として、また、使用済燃料プールの冷却又は注水に使用する設計基準事故対処設備が機能喪失した場合の代替手段である燃料プール代替注水系の水源として海を利用するための重大事故等対処設備として、大容量送水車（海水取水用）を使用する。</u></p> <p><u>大容量送水車（海水取水用）は、海水を各系統へ供給できる設計とする。</u></p> <p>また、代替原子炉補機冷却系の大容量送水車（熱交換器ユニット用）及び原子炉建屋放水設備の大容量送水車（原子炉建屋放水設備用）の水源として、海を使用する。</p> <p>重大事故等の収束に必要な水の供給設備のうち、設計基準事故対処設備及び重大事故等対処設備に対して、重大事故等の収束に必要な量の水を供給するために必要な設備として、可搬型代替注水ポンプ（A-2級）を設ける。また、海を利用するために必要な設備として、<u>大容量送水車（海水取水用）</u>を設ける。</p>	<p>等の収束に必要な十分な量の水を有する水源を確保することに加えて、設計基準事故対処設備及び重大事故等対処設備に対して重大事故等の収束に必要な十分な量の水を供給するために必要な重大事故等対処設備として、復水貯蔵槽、サプレッションチェンバ及びほう酸水注入系貯蔵タンクを重大事故等の収束に必要な水源として設ける設計とする。</p> <p>これら重大事故等の収束に必要な水源とは別に、代替淡水源として防火水槽及び淡水貯水池を設ける設計とする。</p> <p>また、淡水が枯渇した場合に、海を水源として利用できる設計とする。</p> <p><中略></p> <p>(5) 海からの水の供給</p> <p>海は、想定される重大事故等時において、<u>リ(3)(iii)a.(a)(a-1)(a-1-2)-②a</u>淡水が枯渇した場合に、復水貯蔵槽へ水を供給するための水源であるとともに、原子炉圧力容器への注水及び原子炉格納容器へのスプレイに使用する設計基準事故対処設備が機能喪失した場合の代替手段である低圧代替注水系（可搬型）、代替格納容器スプレイ冷却系（可搬型）及び格納容器下部注水系（可搬型）の水源として、また、使用済燃料貯蔵プールの冷却又は注水に使用する設計基準事故対処設備が機能喪失した場合の代替手段である燃料プール代替注水系の水源として、さらに、代替原子炉補機冷却系及び原子炉建屋放水設備の水源として利用できる設計とする。</p> <p><u>大容量送水車（海水取水用）（「7号機設備、6,7号機共用」（以下同じ。））は、海水を各系統へ供給できる設計とする。</u></p> <p>5.5.2 水源へ水を供給するための設備</p> <p>設計基準事故対処設備及び重大事故等対処設備に対して、<u>重大事故等の収束に必要な量の</u>リ(3)(iii)a.(a)(a-1)(a-1-2)-②b<u>水を供給するために必要な設備として、可搬型代替注水ポンプ（A-2級）を設ける設計とする。</u></p> <p>また、海を利用するために必要な設備として、<u>大容量</u></p>		

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八） 該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>(a-2) サポート系故障時に用いる設備 (a-2-1) 代替格納容器スプレイ冷却系（常設）による原子炉格納容器の冷却</p> <p><u>全交流動力電源喪失により、残留熱除去系（格納容器スプレイ冷却モード）が起動できない場合の重大事故等対処設備として使用する代替格納容器スプレイ冷却系（常設）は、リ(3)(iii)a.(a)(a-2)(a-2-1)-①(a-1-1)代替格納容器スプレイ冷却系(常設)による原子炉格納容器の冷却と同じである。</u></p>	<p>代替水源からの移送ルートを確認し、移送ホース及びポンプについては、複数箇所に分散して保管する。</p> <p>9. 原子炉格納施設 9.2 原子炉格納容器内の冷却等のための設備 9.2.2 設計方針 (1) 炉心の著しい損傷を防止するための原子炉格納容器内冷却に用いる設備 b. サポート系故障時に用いる設備 (a) 代替格納容器スプレイ冷却系（常設）による原子炉格納容器の冷却</p> <p><u>全交流動力電源喪失により、残留熱除去系（格納容器スプレイ冷却モード）が起動できない場合の重大事故等対処設備として使用する代替格納容器スプレイ冷却系（常設）は、「(1)a.(a)代替格納容器スプレイ冷却系（常設）による原子炉格納容器の冷却」と同じである。</u></p>	<p><u>送水車（海水取水用）</u>を設ける設計とする。</p> <p>代替水源からの移送ルートを確認するとともに、可搬型のホース、可搬型代替注水ポンプ（A-2級）及び大容量送水車（海水取水用）については、複数箇所に分散して保管する。</p> <p>【原子炉格納施設】 （基本設計方針） 第2章 個別項目 3. 圧力低減設備その他の安全設備 3.2 原子炉格納容器安全設備 3.2.3 代替格納容器スプレイ冷却系による原子炉格納容器の冷却 (1) 代替格納容器スプレイ冷却系（常設）による原子炉格納容器の冷却 <中略> 炉心の著しい損傷が発生した場合において、残留熱除去系（格納容器スプレイ冷却モード）が機能喪失した場合及び全交流動力電源喪失により、残留熱除去系（格納容器スプレイ冷却モード）が起動できない場合の重大事故等対処設備として使用する代替格納容器スプレイ冷却系（常設）は、<u>リ(3)(iii)a.(a)(a-2)(a-2-1)-①復水移送ポンプにより、復水貯蔵槽の水を残留熱除去系等を經由して原子炉格納容器スプレイ管からドライウエル内及びサプレッションチェンバ内にスプレイすることで、原子炉格納容器内の圧力及び温度並びに放射性物質の濃度を低下させることができる設計とする。</u></p> <p><u>代替格納容器スプレイ冷却系（常設）は、非常用ディーゼル発電設備に加えて、代替所内電気設備を經由した常設代替交流電源設備又は可搬型代替交流電源設備からの給電が可能な設計とする。</u></p> <p>代替格納容器スプレイ冷却系（常設）の流路として、設計基準対象施設である原子炉格納容器及び配管貫通部を重大事故等対処設備として使用することから、流路に係る機能について重大事故等対処設備としての設計を行う。</p> <p><中略></p>	<p>設計及び工事の計画の<u>リ(3)(iii)a.(a)(a-2)(a-2-1)-①</u>は、設置変更許可申請書（本文（五号））の<u>リ(3)(iii)a.(a)(a-2)(a-2-1)-①</u>を具体的に記載しており、整合している。</p>	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八） 該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>(a-2-2) 代替格納容器スプレイ冷却系（可搬型）による原子炉格納容器の冷却</p> <p><u>全交流動力電源喪失により、残留熱除去系（格納容器スプレイ冷却モード）が起動できない場合の重大事故等対処設備として使用する代替格納容器スプレイ冷却系（可搬型）は、リ(3)(iii)a.(a)(a-2)(a-2-2)-①(a-1-2)代替格納容器スプレイ冷却系(可搬型)による原子炉格納容器の冷却と同じである。</u></p>	<p>(b) 代替格納容器スプレイ冷却系（可搬型）による原子炉格納容器の冷却</p> <p><u>全交流動力電源喪失により、残留熱除去系（格納容器スプレイ冷却モード）が起動できない場合の重大事故等対処設備として使用する代替格納容器スプレイ冷却系（可搬型）は、リ(1)a.(b)代替格納容器スプレイ冷却系(可搬型)による原子炉格納容器の冷却と同じである。</u></p>	<p>(2) 代替格納容器スプレイ冷却系（可搬型）による原子炉格納容器の冷却</p> <p>炉心の著しい損傷防止のための原子炉格納容器内冷却に用いる設備のうち、残留熱除去系（格納容器スプレイ冷却モード）の機能が喪失した場合及び全交流動力電源喪失により、残留熱除去系（格納容器スプレイ冷却モード）が起動できない場合の重大事故等対処設備として使用する代替格納容器スプレイ冷却系（可搬型）は、リ(3)(iii)a.(a)(a-2)(a-2-2)-①可搬型代替注水ポンプ(A-2級)（「7号機設備、6,7号機共用」（以下同じ。））により、代替淡水源の水を残留熱除去系等を経由して原子炉格納容器スプレイ管からドライウエル内及びサブレッションチェンバ内にスプレイすることで、原子炉格納容器内の圧力及び温度を低下させることができる設計とする。</p> <p><中略></p> <p><u>代替格納容器スプレイ冷却系（可搬型）は、非常用ディーゼル発電設備に加えて、代替所内電気設備を経由した常設代替交流電源設備又は可搬型代替交流電源設備からの給電が可能な設計とする。また、可搬型代替注水ポンプ（A-2級）は、ディーゼルエンジンにより駆動できる設計とする。</u></p> <p>代替格納容器スプレイ冷却系（可搬型）の流路として、設計基準対象施設である原子炉格納容器及び配管貫通部を重大事故等対処設備として使用することから、流路に係る機能について重大事故等対処設備としての設計を行う。</p> <p><中略></p>	<p>設計及び工事の計画の <u>リ(3)</u> <u>(iii)a.(a)(a-2)(a-2-2)-①</u>は、設置変更許可申請書（本文（五号））の <u>リ(3)(iii)a.(a)(a-2)(a-2-2)-①</u>を具体的に記載しており、整合している。</p>	
<p>(a-2-3) 常設代替交流電源設備による残留熱除去系（格納容器スプレイ冷却モード）の復旧</p> <p><u>全交流動力電源喪失により、残留熱除去系（格納容器スプレイ冷却モード）が起動できない場合の重大事故等対処設備として、常設代替交流電源設備 <u>リ(3)(iii)a.(a)(a-2)(a-2-3)-①</u> を使用し、残留熱除去系（格納容器スプレイ冷却モード）を復旧する。</u></p> <p><u>残留熱除去系（格納容器スプレイ冷却モード）は、常設</u></p>	<p>(c) 常設代替交流電源設備による残留熱除去系（格納容器スプレイ冷却モード）の復旧</p> <p><u>全交流動力電源喪失により、残留熱除去系（格納容器スプレイ冷却モード）が起動できない場合の重大事故等対処設備として、常設代替交流電源設備を使用し、残留熱除去系（格納容器スプレイ冷却モード）を復旧する。</u></p> <p><u>残留熱除去系（格納容器スプレイ冷却モード）は、常設代替交流電源設備からの給電により機能を復旧し、残留</u></p>	<p>3.2.1 格納容器スプレイ冷却系（残留熱除去系（格納容器スプレイ冷却モード））</p> <p><中略></p> <p>原子炉格納容器内の冷却等のための設備として、想定される重大事故等時において、設計基準事故対処設備である残留熱除去系（格納容器スプレイ冷却モード）が使用できる場合は重大事故等対処設備（設計基準拡張）として使用できる設計とする。</p> <p>炉心の著しい損傷防止のための原子炉格納容器内冷</p>	<p>設計及び工事の計画の <u>リ(3)</u> <u>(iii)a.(a)(a-2)(a-2-3)-①</u>は、設置変更許可申請書（本文（五号））の <u>リ(3)(iii)a.</u></p>	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八） 該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p><u>代替交流電源設備からの給電により機能を復旧し、残留熱除去系ポンプによりサブプレッション・チェンバのプール水をドライウエル内及びサブプレッション・チェンバ内にスプレーすることで原子炉格納容器を冷却できる設計とする。</u></p> <p>本系統に使用する冷却水は <u>リ(3)(iii)a.(a)(a-2)(a-2-3)-②</u> 原子炉補機冷却系又は代替原子炉補機冷却系から供給できる設計とする。</p> <p>(a-2-4) 常設代替交流電源設備による残留熱除去系（サブプレッション・チェンバ・プール水冷却モード）の復旧 <u>全交流動力電源喪失により、残留熱除去系（サブプレッション・チェンバ・プール水冷却モード）が起動できない場合の重大事故等対処設備として、常設代替交流電源設備 <u>リ(3)(iii)a.(a)(a-2)(a-2-4)-①</u> を使用し、残留熱除去系（サブプレッション・チェンバ・プール水冷却モード）を復</u></p>	<p><u>熱除去系ポンプによりサブプレッション・チェンバのプール水をドライウエル内及びサブプレッション・チェンバ内にスプレーすることで原子炉格納容器を冷却できる設計とする。</u></p> <p>本系統に使用する冷却水は原子炉補機冷却系又は代替原子炉補機冷却系から供給できる設計とする。</p> <p><中略></p> <p>(d) 常設代替交流電源設備による残留熱除去系（サブプレッション・チェンバ・プール水冷却モード）の復旧 <u>全交流動力電源喪失により、残留熱除去系（サブプレッション・チェンバ・プール水冷却モード）が起動できない場合の重大事故等対処設備として、常設代替交流電源設備を使用し、残留熱除去系（サブプレッション・チェンバ・プール水冷却モード）を復旧する。</u></p>	<p>却に用いる設備のうち、<u>残留熱除去系（格納容器スプレー冷却モード）が、全交流動力電源喪失により起動できない場合の重大事故等対処設備として <u>リ(3)(iii)a.(a)(a-2)(a-2-3)-①</u> 使用する残留熱除去系（格納容器スプレー冷却モード）は、常設代替交流電源設備からの給電により復旧できる設計とする。</u></p> <p>炉心の著しい損傷が発生した場合において、全交流動力電源喪失により、残留熱除去系（格納容器スプレー冷却モード）が起動できない場合の重大事故等対処設備として使用する残留熱除去系（格納容器スプレー冷却モード）は、常設代替交流電源設備からの給電により復旧できる設計とする。</p> <p><u>残留熱除去系（格納容器スプレー冷却モード）は、常設代替交流電源設備からの給電により機能を復旧し、残留熱除去系ポンプによりサブプレッションチェンバのプール水をドライウエル内及びサブプレッションチェンバ内にスプレーすることで原子炉格納容器を冷却できる設計とする。</u></p> <p>本系統に使用する冷却水は <u>リ(3)(iii)a.(a)(a-2)(a-2-3)-②</u> 原子炉補機冷却水系及び原子炉補機冷却海水系又は代替原子炉補機冷却系から供給できる設計とする。</p> <p><中略></p> <p>残留熱除去系（格納容器スプレー冷却モード）は、設計基準事故対処設備であるとともに重大事故等時においても使用するため、重大事故等対処設備としての基本方針に示す設計方針を適用する。ただし、多様性及び独立性並びに位置的分散を考慮すべき対象の設計基準事故対処設備はないことから、重大事故等対処設備の基本方針のうち「5.1.2 多様性、位置的分散等」に示す設計方針は適用しない。</p> <p>3.2.2 サプレッションチェンバプール水冷却系</p> <p>原子炉格納容器内の冷却等のための設備として、想定される重大事故等時において、設計基準事故対処設備である残留熱除去系（サブプレッションチェンバプール水冷却モード）が使用できる場合は重大事故等対処設備（設計基準拡張）として使用できる設計とする。</p>	<p><u>(a)(a-2)(a-2-3)-①</u> と同義であり、整合している。</p> <p>設計及び工事の計画の <u>リ(3)(iii)a.(a)(a-2)(a-2-3)-②</u> は、設置変更許可申請書（本文（五号））の <u>リ(3)(iii)a.(a)(a-2)(a-2-3)-②</u> を具体的に記載しており、整合している。</p> <p>設計及び工事の計画の <u>リ(3)(iii)a.(a)(a-2)(a-2-4)-①</u></p>	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八） 該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>旧する...</p> <p><u>残留熱除去系（サブプレッション・チェンバ・プール水冷却モード）は、常設代替交流電源設備からの給電により機能を復旧し、残留熱除去系ポンプ及び熱交換器により、サブプレッション・チェンバのプール水を冷却することで原子炉格納容器を冷却できる設計とする。</u></p> <p>本システムに使用する冷却水は <u>リ(3)(iii)a.(a)(a-2)(a-2-4)-②原子炉補機冷却系又は代替原子炉補機冷却系から供給できる設計とする。</u></p>	<p><u>残留熱除去系（サブプレッション・チェンバ・プール水冷却モード）は、常設代替交流電源設備からの給電により機能を復旧し、残留熱除去系ポンプ及び熱交換器により、サブプレッション・チェンバのプール水を冷却することで原子炉格納容器を冷却できる設計とする。</u></p> <p>本システムに使用する冷却水は <u>原子炉補機冷却系又は代替原子炉補機冷却系から供給できる設計とする。</u></p> <p><中略></p>	<p>炉心の著しい損傷防止のための原子炉格納容器内冷却に用いる設備のうち、<u>残留熱除去系（サブプレッション・チェンバプール水冷却モード）が、全交流動力電源喪失により起動できない場合の重大事故等対処設備として</u> <u>リ(3)(iii)a.(a)(a-2)(a-2-4)-①使用する残留熱除去系（サブプレッション・チェンバプール水冷却モード）は常設代替交流電源設備からの給電により復旧できる設計とする。</u></p> <p>炉心の著しい損傷が発生した場合において、全交流動力電源喪失により、残留熱除去系（サブプレッション・チェンバプール水冷却モード）が起動できない場合の重大事故等対処設備として使用する残留熱除去系（サブプレッション・チェンバプール水冷却モード）は、常設代替交流電源設備からの給電により復旧できる設計とする。</p> <p><u>残留熱除去系（サブプレッション・チェンバプール水冷却モード）は、常設代替交流電源設備からの給電により機能を復旧し、残留熱除去系ポンプ及び残留熱除去系熱交換器により、サブプレッション・チェンバのプール水を冷却することで原子炉格納容器を冷却できる設計とする。</u></p> <p>本システムに使用する冷却水は <u>リ(3)(iii)a.(a)(a-2)(a-2-4)-②原子炉補機冷却水系及び原子炉補機冷却海水系又は代替原子炉補機冷却系から供給できる設計とする。</u></p> <p><中略></p> <p>残留熱除去系（サブプレッション・チェンバプール水冷却モード）は、設計基準事故対処設備であるとともに重大事故等時においても使用するため、重大事故等対処設備としての基本方針に示す設計方針を適用する。ただし、多様性及び独立性並びに位置的分散を考慮すべき対象の設計基準事故対処設備はないことから、重大事故等対処設備の基本方針のうち「5.1.2 多様性、位置的分散等」に示す設計方針は適用しない。</p> <p>原子炉格納容器安全設備のうち、サブプレッション・チェンバのプール水を水源として原子炉格納容器除熱のために運転するポンプは、原子炉格納容器内の圧力及び温度並びに冷却材中の異物の影響について「非常用炉心冷却設備又は格納容器熱除去設備に係るろ過装置の性能評価等について（内規）」（平成20・02・12 原院第5号</p>	<p>は、設置変更許可申請書（本文（五号））の <u>リ(3)(iii)a.(a)(a-2)(a-2-4)-①</u> と同義であり、整合している。</p> <p>設計及び工事の計画の <u>リ(3)(iii)a.(a)(a-2)(a-2-4)-②</u> は、設置変更許可申請書（本文（五号））の <u>リ(3)(iii)a.(a)(a-2)(a-2-4)-②</u> を具体的に記載しており、整合している。</p>	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八） 該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>(b) 原子炉格納容器の破損を防止するための原子炉格納容器内冷却に用いる設備</p> <p>(b-1) フロントライン系故障時に用いる設備</p> <p>(b-1-1) 代替格納容器スプレイ冷却系（常設）による原子炉格納容器の冷却</p> <p><u>炉心の著しい損傷が発生した場合において、残留熱除去系（格納容器スプレイ冷却モード）が機能喪失した場合の重大事故等対処設備として、代替格納容器スプレイ冷却系（常設）は、復水移送ポンプにより、復水貯蔵槽の水を残留熱除去系等を経由してリ(3)(iii)a.(b)(b-1)(b-1-1)-①格納容器スプレイ・ヘッドからドライウエル内及びサブプレッション・チェンバ内にスプレイすることで、原子炉格納容器内の圧力及び温度並びに放射性物質の濃度を低下させることができる設計とする。</u></p> <p><u>代替格納容器スプレイ冷却系（常設）は、リ(3)(iii)a.(b)(b-1)(b-1-1)-②非常用交流電源設備に加えて、代替所内電気設備を経由した常設代替交流電源設備又は可搬型代替交流電源設備からの給電が可能な設計とする。</u></p> <p>本系統の詳細については、(a-1-1) 代替格納容器スプレイ</p>	<p>(2) 原子炉格納容器の破損を防止するための原子炉格納容器内冷却に用いる設備</p> <p>a. フロントライン系故障時に用いる設備</p> <p>(a) 代替格納容器スプレイ冷却系（常設）による原子炉格納容器の冷却</p> <p><u>炉心の著しい損傷が発生した場合において、残留熱除去系（格納容器スプレイ冷却モード）が機能喪失した場合の重大事故等対処設備として、代替格納容器スプレイ冷却系（常設）を使用する。</u></p> <p><u>代替格納容器スプレイ冷却系（常設）は、復水移送ポンプ、配管・弁類、計測制御装置等で構成し、復水移送ポンプにより、復水貯蔵槽の水を残留熱除去系等を経由して格納容器スプレイ・ヘッドからドライウエル内及びサブプレッション・チェンバ内にスプレイすることで、原子炉格納容器内の圧力及び温度並びに放射性物質の濃度を低下させることができる設計とする。</u></p> <p><u>代替格納容器スプレイ冷却系（常設）は、非常用交流電源設備に加えて、代替所内電気設備を経由した常設代替交流電源設備又は可搬型代替交流電源設備からの給電が可能な設計とする。</u></p> <p>本系統の詳細については、(1)a.(a) 代替格納容器ス</p>	<p>（平成20年2月27日原子力安全・保安院制定）によるろ過装置の性能評価により、重大事故等時に想定される最も小さい有効吸込水頭においても、正常に機能する能力を有する設計とする。</p> <p>3. 圧力低減設備その他の安全設備</p> <p>3.2 原子炉格納容器安全設備</p> <p>3.2.3 代替格納容器スプレイ冷却系による原子炉格納容器の冷却</p> <p>(1) 代替格納容器スプレイ冷却系（常設）による原子炉格納容器の冷却</p> <p><中略></p> <p><u>炉心の著しい損傷が発生した場合において、残留熱除去系（格納容器スプレイ冷却モード）が機能喪失した場合及び全交流動力電源喪失により、残留熱除去系（格納容器スプレイ冷却モード）が起動できない場合の重大事故等対処設備として使用する代替格納容器スプレイ冷却系（常設）は、復水移送ポンプにより、復水貯蔵槽の水を残留熱除去系等を経由してリ(3)(iii)a.(b)(b-1)(b-1-1)-①原子炉格納容器スプレイ管からドライウエル内及びサブプレッションチェンバ内にスプレイすることで、原子炉格納容器内の圧力及び温度並びに放射性物質の濃度を低下させることができる設計とする。</u></p> <p><u>代替格納容器スプレイ冷却系（常設）は、リ(3)(iii)a.(b)(b-1)(b-1-1)-②非常用ディーゼル発電設備に加えて、代替所内電気設備を経由した常設代替交流電源設備又は可搬型代替交流電源設備からの給電が可能な設計とする。</u></p> <p><中略></p> <p>代替格納容器スプレイ冷却系（常設）は、炉心の著しい損傷及び原子炉格納容器の破損を防止するための設備として兼用する設計とする。</p> <p>原子炉格納容器安全設備のうち、復水貯蔵槽を水源として原子炉格納容器冷却のために運転するポンプは、復水貯蔵槽の圧力及び温度により、想定される最も小さい有効吸込水頭においても、正常に機能する能力を有する設計とする。</p>	<p>設計及び工事の計画の <u>リ(3)(iii)a.(b)(b-1)(b-1-1)-①</u> は、設置変更許可申請書（本文（五号））の <u>リ(3)(iii)a.(b)(b-1)(b-1-1)-①</u> と同義であり、整合している。</p> <p>設計及び工事の計画の <u>リ(3)(iii)a.(b)(b-1)(b-1-1)-②</u> は、設置変更許可申請書（本文（五号））の <u>リ(3)(iii)a.(b)(b-1)(b-1-1)-②</u> と同義であり、整合している。</p> <p>設置変更許可申請書（本文（五</p>	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八） 該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>レイ冷却系（常設）による原子炉格納容器の冷却に記載する。</p> <p>(b-1-2) 代替格納容器スプレイ冷却系（可搬型）による原子炉格納容器の冷却</p> <p>炉心の著しい損傷が発生した場合において、残留熱除去系（格納容器スプレイ冷却モード）の機能が喪失した場合の重大事故等対処設備として、代替格納容器スプレイ冷却系（可搬型）は、可搬型代替注水ポンプ（A-2級）により、代替淡水源の水を残留熱除去系等を経由してリ(3)(iii)a.(b)(b-1)(b-1-2)-①格納容器スプレイ・ヘッドからドライウエル内及びサブプレッション・チェンバ内にスプレイすることで、原子炉格納容器内の圧力及び温度並びに放射性物質の濃度を低下させることができる設計とする。</p> <p>代替格納容器スプレイ冷却系（可搬型）は、リ(3)(iii)a.(b)(b-1)(b-1-2)-②代替淡水源が枯渇した場合において、重大事故等の収束に必要な水の供給設備である大容量送水車（海水取水用）により海を利用できる設計とする。</p>	<p>レイ冷却系（常設）による原子炉格納容器の冷却に記載する。</p> <p>(b) 代替格納容器スプレイ冷却系（可搬型）による原子炉格納容器の冷却</p> <p>炉心の著しい損傷が発生した場合において、残留熱除去系（格納容器スプレイ冷却モード）の機能が喪失した場合の重大事故等対処設備として、代替格納容器スプレイ冷却系（可搬型）を使用する。</p> <p>代替格納容器スプレイ冷却系（可搬型）は、可搬型代替注水ポンプ（A-2級）、配管・ホース・弁類、計測制御装置等で構成し、可搬型代替注水ポンプ（A-2級）により、代替淡水源の水を残留熱除去系等を経由して格納容器スプレイ・ヘッドからドライウエル内及びサブプレッション・チェンバ内にスプレイすることで、原子炉格納容器内の圧力及び温度並びに放射性物質の濃度を低下させることができる設計とする。</p> <p>代替格納容器スプレイ冷却系（可搬型）は、代替淡水源が枯渇した場合において、重大事故等の収束に必要な水の供給設備である大容量送水車（海水取水用）により海を利用できる設計とする。</p> <p>代替格納容器スプレイ冷却系（可搬型）は、非常用交流電源設備に加えて、代替所内電気設備を経由した常設代替交流電源設備又は可搬型代替交流電源設備からの給電が可能な設計とする。また、可搬型代替注水ポンプ（A-2級）は、ディーゼルエンジンにより駆動できる設計とする。燃料は、燃料補給設備である軽油タンク及びタンクローリ（4kL）により補給できる設計とする。</p> <p>本系統の詳細については、「(1)a.(b) 代替格納容器スプレイ冷却系（可搬型）による原子炉格納容器の冷却」に記載する。</p>	<p>(2) 代替格納容器スプレイ冷却系（可搬型）による原子炉格納容器の冷却</p> <p><中略></p> <p>炉心の著しい損傷が発生した場合において、残留熱除去系（格納容器スプレイ冷却モード）の機能が喪失した場合及び全交流動力電源喪失により、残留熱除去系（格納容器スプレイ冷却モード）が起動できない場合の重大事故等対処設備として使用する代替格納容器スプレイ冷却系（可搬型）は、可搬型代替注水ポンプ（A-2級）により、代替淡水源の水を残留熱除去系等を経由してリ(3)(iii)a.(b)(b-1)(b-1-2)-①原子炉格納容器スプレイ管からドライウエル内及びサブプレッションチェンバ内にスプレイすることで、原子炉格納容器内の圧力及び温度並びに放射性物質の濃度を低下させることができる設計とする。</p> <p><中略></p>	<p>号)「(a-1-1) 代替格納容器スプレイ冷却系（常設）による原子炉格納容器の冷却」に示す。</p> <p>設計及び工事の計画のリ(3)(iii)a.(b)(b-1)(b-1-2)-①は、設置変更許可申請書（本文（五号））のリ(3)(iii)a.(b)(b-1)(b-1-2)-①と同義であり、整合している。</p> <p>設計及び工事の計画のリ(3)(iii)a.(b)(b-1)(b-1-2)-②は、設置変更許可申請書（本文（五号））のリ(3)(iii)a.(b)(b-1)(b-1-2)-②と同義であり、整合している。</p>	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八） 該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
	<p>5. 原子炉冷却系統施設</p> <p>5.7 重大事故等の収束に必要な水の供給設備</p> <p>5.7.2 設計方針</p> <p><u>重大事故等の収束に必要な水の供給設備のうち、重大事故等の収束に必要な水源として、復水貯蔵槽、サプレッション・チェンバ及びほう酸水注入系貯蔵タンクを設ける。これら重大事故等の収束に必要な水源とは別に、代替淡水源として防火水槽及び淡水貯水池を設ける。また、淡水が枯渇した場合に、海を水源として利用できる設計とする。</u></p> <p>e. 海を水源とした場合に用いる設備</p> <p>想定される重大事故等時において、<u>淡水が枯渇した場合に、復水貯蔵槽へ水を供給するための水源であるとともに、原子炉圧力容器及び原子炉格納容器への注水に使用する設計基準事故対処設備が機能喪失した場合の代替手段である低圧代替注水系（可搬型）、代替格納容器スプレイ冷却系（可搬型）及び格納容器下部注水系（可搬型）の水源として、また、使用済燃料プールの冷却又は注水に使用する設計基準事故対処設備が機能喪失した場合の代替手段である燃料プール代替注水系の水源として海を利用するための重大事故等対処設備として、大容量送水車（海水取水用）を使用する。</u></p> <p><u>大容量送水車（海水取水用）は、海水を各系統へ供給できる設計とする。</u></p> <p>また、代替原子炉補機冷却系の大容量送水車（熱交換器ユニット用）及び原子炉建屋放水設備の大容量送水車（原子炉建屋放水設備用）の水源として、海を使用する。</p>	<p>【原子炉冷却系統施設（蒸気タービンを除く。）】 （基本設計方針）</p> <p>第2章 個別項目</p> <p>5.5 水の供給設備</p> <p>5.5.1 重大事故等の収束に必要な水源</p> <p>設計基準事故の収束に必要な水源とは別に、重大事故等の収束に必要な十分な量の水を有する水源を確保することに加えて、設計基準事故対処設備及び重大事故等対処設備に対して重大事故等の収束に必要な十分な量の水を供給するために必要な重大事故等対処設備として、復水貯蔵槽、サプレッションチェンバ及びほう酸水注入系貯蔵タンクを重大事故等の収束に必要な水源として設ける設計とする。</p> <p>これら重大事故等の収束に必要な水源とは別に、代替淡水源として防火水槽及び淡水貯水池を設ける設計とする。</p> <p>また、淡水が枯渇した場合に、海を水源として利用できる設計とする。</p> <p><中略></p> <p>(5) 海からの水の供給</p> <p>海は、想定される重大事故等時において、<u>リ(3)(iii)a.(b)(b-1)(b-1-2)-②淡水が枯渇した場合に、復水貯蔵槽へ水を供給するための水源であるとともに、原子炉圧力容器への注水及び原子炉格納容器へのスプレイに使用する設計基準事故対処設備が機能喪失した場合の代替手段である低圧代替注水系（可搬型）、代替格納容器スプレイ冷却系（可搬型）及び格納容器下部注水系（可搬型）の水源として、また、使用済燃料貯蔵プールの冷却又は注水に使用する設計基準事故対処設備が機能喪失した場合の代替手段である燃料プール代替注水系の水源として、さらに、代替原子炉補機冷却系及び原子炉建屋放水設備の水源として利用できる設計とする。</u></p> <p><u>大容量送水車（海水取水用）（「7号機設備、6,7号機共用」（以下同じ。））は、海水を各系統へ供給できる設計とする。</u></p>		

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八） 該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>代替格納容器スプレイ冷却系（可搬型）は、<u>リ(3)(iii) a. (b) (b-1) (b-1-2)-③</u>非常用交流電源設備に加えて、代替所内電気設備を経由した常設代替交流電源設備又は可搬型代替交流電源設備からの給電が可能な設計とする。また、可搬型代替注水ポンプ（A-2級）は、ディーゼルエンジンにより駆動できる設計とする。</p>	<p>重大事故等の収束に必要となる水の供給設備のうち、設計基準事故対処設備及び重大事故等対処設備に対して、重大事故等の収束に必要となる十分な量の水を供給するために必要な設備として、可搬型代替注水ポンプ（A-2級）を設ける。また、海を利用するために必要な設備として、<u>大容量送水車（海水取水用）</u>を設ける。</p> <p>代替水源からの移送ルートを確認し、移送ホース及びポンプについては、複数箇所に分散して保管する。</p> <p>9. 原子炉格納施設 9.2 原子炉格納容器内の冷却等のための設備 9.2.2 設計方針 (2) 原子炉格納容器の破損を防止するための原子炉格納容器内冷却に用いる設備 a. フロントライン系故障時に用いる設備 (b) 代替格納容器スプレイ冷却系（可搬型）による原子炉格納容器の冷却 <中略></p> <p>代替格納容器スプレイ冷却系（可搬型）は、<u>非常用交流電源設備に加えて、代替所内電気設備を経由した常設代替交流電源設備又は可搬型代替交流電源設備からの給電が可能な設計とする。また、可搬型代替注水ポンプ（A-2級）は、ディーゼルエンジンにより駆動できる設計とする。</u> <中略></p>	<p>5.5.2 水源へ水を供給するための設備 設計基準事故対処設備及び重大事故等対処設備に対して、<u>重大事故等の収束に必要となる十分な量の水を供給するために必要な設備</u>として、可搬型代替注水ポンプ（A-2級）を設ける設計とする。</p> <p>また、海を利用するために必要な設備として、<u>大容量送水車（海水取水用）</u>を設ける設計とする。</p> <p>代替水源からの移送ルートを確認するとともに、可搬型のホース、可搬型代替注水ポンプ（A-2級）及び大容量送水車（海水取水用）については、複数箇所に分散して保管する。</p> <p>【原子炉格納施設】 （基本設計方針） 第2章 個別項目 3. 圧力低減設備その他の安全設備 3.2 原子炉格納容器安全設備 3.2.3 代替格納容器スプレイ冷却系による原子炉格納容器の冷却 (2) 代替格納容器スプレイ冷却系（可搬型）による原子炉格納容器の冷却 <中略></p> <p>代替格納容器スプレイ冷却系（可搬型）は、<u>リ(3)(iii) a. (b) (b-1) (b-1-2)-③</u>非常用ディーゼル発電設備に加えて、代替所内電気設備を経由した常設代替交流電源設備又は可搬型代替交流電源設備からの給電が可能な設計とする。また、可搬型代替注水ポンプ（A-2級）は、<u>ディーゼルエンジンにより駆動できる設計とする。</u> <中略></p> <p>代替格納容器スプレイ冷却系（可搬型）は、炉心の著しい損傷及び原子炉格納容器の破損を防止するための設備として兼用する設計とする。</p> <p>原子炉格納容器安全設備のうち、淡水貯水池、防火水槽、海を水源として原子炉格納容器冷却のために運転するポンプは、淡水貯水池、防火水槽、海の圧力及び温度により、想定される最も小さい有効吸込水頭においても、正常に機能する能力を有する設計とする。</p>	<p>設計及び工事の計画の<u>リ(3)(iii) a. (b) (b-1) (b-1-2)-③</u>は、設置変更許可申請書（本文（五号））の<u>リ(3)(iii) a. (b) (b-1) (b-1-2)-③</u>と同義であり、整合している。</p>	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八） 該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>本系統の詳細については、(a-1-2) 代替格納容器スプレイ冷却系(可搬型)による原子炉格納容器の冷却に記載する。</p> <p>(b-2) サポート系故障時に用いる設備 (b-2-1) 代替格納容器スプレイ冷却系（常設）による原子炉格納容器の冷却</p> <p>炉心の著しい損傷が発生した場合において、全交流動力電源喪失により、残留熱除去系（格納容器スプレイ冷却モード）が起動できない場合の重大事故等対処設備として使用する代替格納容器スプレイ冷却系（常設）は、リ(3)(iii)a.(b)(b-2)(b-2-1)-①(a-1-1) 代替格納容器スプレイ冷却系(常設)による原子炉格納容器の冷却と同じである。</p>	<p>本系統の詳細については、「(1)a.(b) 代替格納容器スプレイ冷却系（可搬型）による原子炉格納容器の冷却」に記載する。</p> <p>b. サポート系故障時に用いる設備 (a) 代替格納容器スプレイ冷却系（常設）による原子炉格納容器の冷却</p> <p>炉心の著しい損傷が発生した場合において、全交流動力電源喪失により、残留熱除去系（格納容器スプレイ冷却モード）が起動できない場合の重大事故等対処設備として使用する代替格納容器スプレイ冷却系（常設）は、「(1)b.(a) 代替格納容器スプレイ冷却系（常設）による原子炉格納容器の冷却」と同じである。</p>	<p>3. 圧力低減設備その他の安全設備 3.2 原子炉格納容器安全設備 3.2.3 代替格納容器スプレイ冷却系による原子炉格納容器の冷却 (1) 代替格納容器スプレイ冷却系（常設）による原子炉格納容器の冷却 <中略> 炉心の著しい損傷が発生した場合において、残留熱除去系（格納容器スプレイ冷却モード）が機能喪失した場合及び全交流動力電源喪失により、残留熱除去系（格納容器スプレイ冷却モード）が起動できない場合の重大事故等対処設備として使用する代替格納容器スプレイ冷却系（常設）は、リ(3)(iii)a.(b)(b-2)(b-2-1)-①復水移送ポンプにより、復水貯蔵槽の水を残留熱除去系等を經由して原子炉格納容器スプレイ管からドライウエル内及びサブプレッションチェンバ内にスプレイすることで、原子炉格納容器内の圧力及び温度並びに放射性物質の濃度を低下させることができる設計とする。</p> <p>代替格納容器スプレイ冷却系（常設）は、非常用ディーゼル発電設備に加えて、代替所内電気設備を經由した常設代替交流電源設備又は可搬型代替交流電源設備からの給電が可能な設計とする。</p> <p>代替格納容器スプレイ冷却系（常設）の流路として、設計基準対象施設である原子炉格納容器及び配管貫通部を重大事故等対処設備として使用することから、流路に係る機能について重大事故等対処設備としての設計を行う。</p> <p>代替格納容器スプレイ冷却系（常設）は、炉心の著しい損傷及び原子炉格納容器の破損を防止するための設備として兼用する設計とする。</p> <p>原子炉格納容器安全設備のうち、復水貯蔵槽を水源として原子炉格納容器冷却のために運転するポンプは、復</p>	<p>設置変更許可申請書（本文（五号））「(a-1-2) 代替格納容器スプレイ冷却系（可搬型）による原子炉格納容器の冷却」に示す。</p> <p>設計及び工事の計画のリ(3)(iii)a.(b)(b-2)(b-2-1)-①は、設置変更許可申請書（本文（五号））のリ(3)(iii)a.(b)(b-2)(b-2-1)-①を具体的に記載しており、整合している。</p>	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八） 該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>(b-2-2) 代替格納容器スプレイ冷却系（可搬型）による原子炉格納容器の冷却</p> <p><u>炉心の著しい損傷が発生した場合において、全交流動力電源喪失により、残留熱除去系（格納容器スプレイ冷却モード）が起動できない場合の重大事故等対処設備として使用する代替格納容器スプレイ冷却系（可搬型）は、リ</u> <u>(3) (iii) a. (b) (b-2) (b-2-2)-① (a-1-2) 代替格納容器スプレイ冷却系（可搬型）による原子炉格納容器の冷却と同じである。</u></p>	<p>b. サポート系故障時に用いる設備 (b) 代替格納容器スプレイ冷却系（可搬型）による原子炉格納容器の冷却</p> <p><u>炉心の著しい損傷が発生した場合において、全交流動力電源喪失により、残留熱除去系（格納容器スプレイ冷却モード）が起動できない場合の重大事故等対処設備として使用する代替格納容器スプレイ冷却系（可搬型）は、</u> <u>「(1) b. (b) 代替格納容器スプレイ冷却系（可搬型）による原子炉格納容器の冷却」と同じである。</u></p>	<p>水貯蔵槽の圧力及び温度により、想定される最も小さい有効吸込水頭においても、正常に機能する能力を有する設計とする。</p> <p>(2) 代替格納容器スプレイ冷却系（可搬型）による原子炉格納容器の冷却 <中略></p> <p><u>炉心の著しい損傷が発生した場合において、残留熱除去系（格納容器スプレイ冷却モード）の機能が喪失した場合及び全交流動力電源喪失により、残留熱除去系（格納容器スプレイ冷却モード）が起動できない場合の重大事故等対処設備として使用する代替格納容器スプレイ冷却系（可搬型）は、リ (3) (iii) a. (b) (b-2) (b-2-2)-① 可搬型代替注水ポンプ（A-2級）により、代替淡水源の水を残留熱除去系等を経由して原子炉格納容器スプレイ管からドライウエル内及びサブプレッションチェンバ内にスプレイすることで、原子炉格納容器内の圧力及び温度並びに放射性物質の濃度を低下させることができる設計とする。</u></p> <p><u>代替格納容器スプレイ冷却系（可搬型）は、非常用ディーゼル発電設備に加えて、代替所内電気設備を経由した常設代替交流電源設備又は可搬型代替交流電源設備からの給電が可能な設計とする。また、可搬型代替注水ポンプ（A-2級）は、ディーゼルエンジンにより駆動できる設計とする。</u></p> <p>代替格納容器スプレイ冷却系（可搬型）の流路として、設計基準対象施設である原子炉格納容器及び配管貫通部を重大事故等対処設備として使用することから、流路に係る機能について重大事故等対処設備としての設計を行う。</p> <p>代替格納容器スプレイ冷却系（可搬型）は、炉心の著しい損傷及び原子炉格納容器の破損を防止するための設備として兼用する設計とする。</p> <p>原子炉格納容器安全設備のうち、淡水貯水池、防火水槽、海を水源として原子炉格納容器冷却のために運転するポンプは、淡水貯水池、防火水槽、海の圧力及び温度により、想定される最も小さい有効吸込水頭においても、正常に機能する能力を有する設計とする。</p>	<p>設計及び工事の計画の <u>リ (3) (iii) a. (b) (b-2) (b-2-2)-①</u> は、設置変更許可申請書（本文（五号））の <u>リ (3) (iii) a. (b) (b-2) (b-2-2)-①</u> を具体的に記載しており、整合している。</p>	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八） 該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>(b-2-3) 常設代替交流電源設備による残留熱除去系（格納容器スプレイ冷却モード）の復旧</p> <p>炉心の著しい損傷が発生した場合において、全交流動力電源喪失により、残留熱除去系（格納容器スプレイ冷却モード）が起動できない場合の重大事故等対処設備^リ(3)(iii)a.(b)(b-2)(b-2-3)-①は、(a-2-3) 常設代替交流電源設備による残留熱除去系（格納容器スプレイ冷却モード）の復旧と同じである。</p>	<p>(c) 常設代替交流電源設備による残留熱除去系（格納容器スプレイ冷却モード）の復旧</p> <p>炉心の著しい損傷が発生した場合において、全交流動力電源喪失により、残留熱除去系（格納容器スプレイ冷却モード）が起動できない場合の重大事故等対処設備は、^リ「(1)b.(c) 常設代替交流電源設備による残留熱除去系（格納容器スプレイ冷却モード）の復旧」と同じである。</p>	<p>3.2.1 格納容器スプレイ冷却系（残留熱除去系（格納容器スプレイ冷却モード））</p> <p><中略></p> <p>炉心の著しい損傷が発生した場合において、全交流動力電源喪失により、残留熱除去系（格納容器スプレイ冷却モード）が起動できない場合の重大事故等対処設備^リ(3)(iii)a.(b)(b-2)(b-2-3)-①として使用する残留熱除去系（格納容器スプレイ冷却モード）は、常設代替交流電源設備からの給電により復旧できる設計とする。</p> <p>残留熱除去系（格納容器スプレイ冷却モード）は、常設代替交流電源設備からの給電により機能を復旧し、残留熱除去系ポンプによりサプレッションチェンバのプール水をドライウエル内及びサプレッションチェンバ内にスプレイすることで原子炉格納容器を冷却できる設計とする。本系統に使用する冷却水は原子炉補機冷却水系及び原子炉補機冷却海水系又は代替原子炉補機冷却系から供給できる設計とする。</p> <p>残留熱除去系（格納容器スプレイ冷却モード）の流路として、設計基準対象施設である原子炉格納容器、原子炉格納容器（サプレッションチェンバ）及び配管貫通部を重大事故等対処設備として使用することから、流路に係る機能について重大事故等対処設備としての設計を行う。</p> <p>残留熱除去系（格納容器スプレイ冷却モード）は、設計基準事故対処設備であるとともに重大事故等時においても使用するため、重大事故等対処設備としての基本方針に示す設計方針を適用する。ただし、多様性及び独立性並びに位置的分散を考慮すべき対象の設計基準事故対処設備はないことから、重大事故等対処設備の基本方針のうち「5.1.2 多様性、位置的分散等」に示す設計方針は適用しない。</p>	<p>設計及び工事の計画の^リ(3)(iii)a.(b)(b-2)(b-2-3)-①は、設置変更許可申請書（本文（五号））の^リ(3)(iii)a.(b)(b-2)(b-2-3)-①を具体的に記載しており、整合している。</p>	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八） 該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>(b-2-4) 常設代替交流電源設備による残留熱除去系（サプレッション・チェンバ・プール水冷却モード）の復旧</p> <p><u>炉心の著しい損傷が発生した場合において、全交流動力電源喪失により、残留熱除去系（サプレッション・チェンバ・プール水冷却モード）が起動できない場合の重大事故等対処設備</u>リ(3)(iii)a.(b)(b-2)(b-2-4)-①は、(a-2-4)常設代替交流電源設備による残留熱除去系（サプレッション・チェンバ・プール水冷却モード）の復旧と同じである。</p>	<p>(d) 常設代替交流電源設備による残留熱除去系（サプレッション・チェンバ・プール水冷却モード）の復旧</p> <p><u>炉心の著しい損傷が発生した場合において、全交流動力電源喪失により、残留熱除去系（サプレッション・チェンバ・プール水冷却モード）が起動できない場合の重大事故等対処設備は、</u>「(1)b.(d) 常設代替交流電源設備による残留熱除去系（サプレッション・チェンバ・プール水冷却モード）の復旧」と同じである。</p>	<p>3.2.2 サプレッションチェンバプール水冷却系（残留熱除去系（サプレッションチェンバプール水冷却モード））</p> <p><中略></p> <p><u>炉心の著しい損傷が発生した場合において、全交流動力電源喪失により、残留熱除去系（サプレッションチェンバプール水冷却モード）が起動できない場合の重大事故等対処設備</u>リ(3)(iii)a.(b)(b-2)(b-2-4)-①として使用する残留熱除去系（サプレッションチェンバプール水冷却モード）は、常設代替交流電源設備からの給電により復旧できる設計とする。</p> <p>残留熱除去系（サプレッションチェンバプール水冷却モード）は、常設代替交流電源設備からの給電により機能を復旧し、残留熱除去系ポンプ及び残留熱除去系熱交換器により、サプレッションチェンバのプール水を冷却することで原子炉格納容器を冷却できる設計とする。本システムに使用する冷却水は原子炉補機冷却水系及び原子炉補機冷却海水系又は代替原子炉補機冷却系から供給できる設計とする。</p> <p>残留熱除去系（サプレッションチェンバプール水冷却モード）の流路として、設計基準対象施設である原子炉格納容器、原子炉格納容器（サプレッションチェンバ）及び配管貫通部を重大事故等対処設備として使用することから、流路に係る機能について重大事故等対処設備としての設計を行う。</p> <p>残留熱除去系（サプレッションチェンバプール水冷却モード）は、設計基準事故対処設備であるとともに重大事故等時においても使用するため、重大事故等対処設備としての基本方針に示す設計方針を適用する。ただし、多様性及び独立性並びに位置的分散を考慮すべき対象の設計基準事故対処設備はないことから、重大事故等対処設備の基本方針のうち「5.1.2 多様性、位置的分散等」に示す設計方針は適用しない。</p>	<p>設計及び工事の計画の<u>リ(3)(iii)a.(b)(b-2)(b-2-4)-①</u>は、設置変更許可申請書（本文（五号））の<u>リ(3)(iii)a.(b)(b-2)(b-2-4)-①</u>を具体的に記載しており、整合している。</p>	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八） 該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p><u>代替格納容器スプレイ冷却系（常設）及び代替格納容器スプレイ冷却系（可搬型）は、炉心の著しい損傷及び原子炉格納容器の破損を防止するための設備として兼用する設計とする。</u></p> <p>常設代替交流電源設備、可搬型代替交流電源設備、代替所内電気設備については、ス、(2)、(iv) 代替電源設備に記載する。</p> <p><u>代替格納容器スプレイ冷却系（常設）は、残留熱除去系（格納容器スプレイ冷却モード）と共通要因によって同時に機能を損なわないよう、復水移送ポンプを代替所内電気設備を経由した常設代替交流電源設備又は可搬型代替交流電源設備からの給電により駆動できることで、非常用所内電気設備を経由したリ(3)(iii)a.(b)(b-2)(b-2-4)-③非常用交流電源設備からの給電により駆動する残留熱除去系ポンプを用いた残留熱除去系（格納容器スプレイ冷却モード）に対して多様性を有する設計とする。</u></p> <p><u>代替格納容器スプレイ冷却系（常設）の電動弁は、ハンドルを設けて手動操作を可能とすることで、非常用交流電源設備からの給電による遠隔操作に対して多様性を有</u></p>	<p><u>代替格納容器スプレイ冷却系（常設）及び代替格納容器スプレイ冷却系（可搬型）は、炉心の著しい損傷及び原子炉格納容器の破損を防止するための設備として兼用する設計とする。</u></p> <p><中略></p> <p>常設代替交流電源設備、可搬型代替交流電源設備、代替所内電気設備及び燃料補給設備については、「10.2 代替電源設備」に記載する。</p> <p>9.2.2.1 多様性及び独立性、位置的分散</p> <p><中略></p> <p><u>代替格納容器スプレイ冷却系（常設）は、残留熱除去系（格納容器スプレイ冷却モード）と共通要因によって同時に機能を損なわないよう、復水移送ポンプを代替所内電気設備を経由した常設代替交流電源設備又は可搬型代替交流電源設備からの給電により駆動できることで、非常用所内電気設備を経由した非常用交流電源設備からの給電により駆動する残留熱除去系ポンプを用いた残留熱除去系（格納容器スプレイ冷却モード）に対して多様性を有する設計とする。</u></p> <p><u>代替格納容器スプレイ冷却系（常設）の電動弁は、ハンドルを設けて手動操作を可能とすることで、非常用交流電源設備からの給電による遠隔操作に対して多様性を有</u></p>	<p>3.2.3 代替格納容器スプレイ冷却系による原子炉格納容器の冷却</p> <p>(1) 代替格納容器スプレイ冷却系（常設）による原子炉格納容器の冷却</p> <p><中略></p> <p><u>代替格納容器スプレイ冷却系（常設）は、炉心の著しい損傷及び原子炉格納容器の破損を防止するための設備として兼用する設計とする。</u></p> <p><中略></p> <p>(2) 代替格納容器スプレイ冷却系（可搬型）による原子炉格納容器の冷却</p> <p><中略></p> <p><u>代替格納容器スプレイ冷却系（可搬型）は、炉心の著しい損傷及び原子炉格納容器の破損を防止するための設備として兼用する設計とする。</u></p> <p><中略></p> <p>3.2.3 代替格納容器スプレイ冷却系による原子炉格納容器の冷却</p> <p>(1) 代替格納容器スプレイ冷却系（常設）による原子炉格納容器の冷却</p> <p>a. 多様性、位置的分散及び独立性</p> <p><u>代替格納容器スプレイ冷却系（常設）は、残留熱除去系（格納容器スプレイ冷却モード）と共通要因によって同時に機能を損なわないよう、復水移送ポンプを代替所内電気設備を経由した常設代替交流電源設備又は可搬型代替交流電源設備からの給電により駆動できることで、非常用所内電気設備を経由したリ(3)(iii)a.(b)(b-2)(b-2-4)-③非常用ディーゼル発電設備からの給電により駆動する残留熱除去系ポンプを用いた残留熱除去系（格納容器スプレイ冷却モード）に対して多様性を有する設計とする。代替格納容器スプレイ冷却系（常設）の電動弁は、ハンドルを設けて手動操作を可能とすることで、非常用ディーゼル発電設備からの給電による遠隔</u></p>	<p>設置変更許可申請書（本文（五号））「ス、(2)、(iv) 代替電源設備」に示す。</p> <p>設計及び工事の計画の <u>リ(3)(iii)a.(b)(b-2)(b-2-4)-③</u> は、設置変更許可申請書（本文（五号））の <u>リ(3)(iii)a.(b)(b-2)(b-2-4)-③</u> と同義であり、整合している。</p>	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八） 該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>する設計とする。また、代替格納容器スプレイ冷却系（常設）の電動弁は、代替所内電気設備を経由して給電する系統において、独立した電路で系統構成することにより、非常用所内電気設備を経由して給電する系統に対して独立性を有する設計とする。</p> <p>また、代替格納容器スプレイ冷却系（常設）は、復水貯蔵槽を水源とすることで、サブプレッション・チェンバを水源とする残留熱除去系（格納容器スプレイ冷却モード）に対して異なる水源を有する設計とする。</p> <p>復水移送ポンプ及び復水貯蔵槽は、廃棄物処理建屋内に設置することで、原子炉建屋内の残留熱除去系ポンプ及びサブプレッション・チェンバと共通要因によって同時に機能を損なわないよう位置的分散を図る設計とする。</p> <p>代替格納容器スプレイ冷却系（可搬型）は、残留熱除去系（格納容器スプレイ冷却モード）及び代替格納容器スプレイ冷却系（常設）と共通要因によって同時に機能を損なわないよう、可搬型代替注水ポンプ（A-2級）をディーゼルエンジンにより駆動することで、電動機駆動ポンプにより構成される残留熱除去系（格納容器スプレイ冷却モード）及び代替格納容器スプレイ冷却系（常設）に対して多様性を有する設計とする。</p> <p>代替格納容器スプレイ冷却系（可搬型）の電動弁は、ハンドルを設けて手動操作を可能とすることで、非常用交流電源設備からの給電による遠隔操作に対して多様性を有する設計とする。また、代替格納容器スプレイ冷却系（可搬型）の電動弁は、代替所内電気設備を経由して給電する系統において、独立した電路で系統構成することにより、非常用所内電気設備を経由して給電する系統に対して独立性を有する設計とする。</p> <p>また、代替格納容器スプレイ冷却系（可搬型）は、代替淡水源を水源とすることで、サブプレッション・チェンバを水源とする残留熱除去系（格納容器スプレイ冷却モード）及び復水貯蔵槽を水源とする代替格納容器スプレイ冷却</p>	<p>する設計とする。また、代替格納容器スプレイ冷却系（常設）の電動弁は、代替所内電気設備を経由して給電する系統において、独立した電路で系統構成することにより、非常用所内電気設備を経由して給電する系統に対して独立性を有する設計とする。</p> <p>また、代替格納容器スプレイ冷却系（常設）は、復水貯蔵槽を水源とすることで、サブプレッション・チェンバを水源とする残留熱除去系（格納容器スプレイ冷却モード）に対して異なる水源を有する設計とする。</p> <p>復水移送ポンプ及び復水貯蔵槽は、廃棄物処理建屋内に設置することで、原子炉建屋内の残留熱除去系ポンプ及びサブプレッション・チェンバと共通要因によって同時に機能を損なわないよう位置的分散を図る設計とする。</p> <p>代替格納容器スプレイ冷却系（可搬型）は、残留熱除去系（格納容器スプレイ冷却モード）及び代替格納容器スプレイ冷却系（常設）と共通要因によって同時に機能を損なわないよう、可搬型代替注水ポンプ（A-2級）をディーゼルエンジンにより駆動することで、電動機駆動ポンプにより構成される残留熱除去系（格納容器スプレイ冷却モード）及び代替格納容器スプレイ冷却系（常設）に対して多様性を有する設計とする。</p> <p>代替格納容器スプレイ冷却系（可搬型）の電動弁は、ハンドルを設けて手動操作を可能とすることで、非常用交流電源設備からの給電による遠隔操作に対して多様性を有する設計とする。また、代替格納容器スプレイ冷却系（可搬型）の電動弁は、代替所内電気設備を経由して給電する系統において、独立した電路で系統構成することにより、非常用所内電気設備を経由して給電する系統に対して独立性を有する設計とする。</p> <p>また、代替格納容器スプレイ冷却系（可搬型）は、代替淡水源を水源とすることで、サブプレッション・チェンバを水源とする残留熱除去系（格納容器スプレイ冷却モード）及び復水貯蔵槽を水源とする代替格納容器スプレイ冷却</p>	<p>操作に対して多様性を有する設計とする。また、代替格納容器スプレイ冷却系（常設）の電動弁は、代替所内電気設備を経由して給電する系統において、独立した電路で系統構成することにより、非常用所内電気設備を経由して給電する系統に対して独立性を有する設計とする。</p> <p>また、代替格納容器スプレイ冷却系（常設）は、復水貯蔵槽を水源とすることで、サブプレッション・チェンバを水源とする残留熱除去系（格納容器スプレイ冷却モード）に対して異なる水源を有する設計とする。</p> <p>復水移送ポンプ及び復水貯蔵槽は、廃棄物処理建屋内に設置することで、原子炉建屋内の残留熱除去系ポンプ及びサブプレッション・チェンバと共通要因によって同時に機能を損なわないよう位置的分散を図る設計とする。</p> <p><中略></p> <p>(2) 代替格納容器スプレイ冷却系（可搬型）による原子炉格納容器の冷却</p> <p>a. 多様性、位置的分散及び独立性</p> <p>代替格納容器スプレイ冷却系（可搬型）は、残留熱除去系（格納容器スプレイ冷却モード）及び代替格納容器スプレイ冷却系（常設）と共通要因によって同時に機能を損なわないよう、可搬型代替注水ポンプ（A-2級）をディーゼルエンジンにより駆動することで、電動機駆動ポンプにより構成される残留熱除去系（格納容器スプレイ冷却モード）及び代替格納容器スプレイ冷却系（常設）に対して多様性を有する設計とする。</p> <p>代替格納容器スプレイ冷却系（可搬型）の電動弁は、ハンドルを設けて手動操作を可能とすることで、非常用ディーゼル発電設備からの給電による遠隔操作に対して多様性を有する設計とする。また、代替格納容器スプレイ冷却系（可搬型）の電動弁は、代替所内電気設備を経由して給電する系統において、独立した電路で系統構成することにより、非常用所内電気設備を経由して給電する系統に対して独立性を有する設計とする。</p> <p>代替格納容器スプレイ冷却系（可搬型）の可搬型代替注水ポンプ（A-2級）は、代替淡水源を水源とすることで、サブプレッション・チェンバを水源とする残留熱除去系（格納容器スプレイ冷却モード）及び復水貯蔵槽を水源</p>		

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八） 該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>系（常設）に対して異なる水源を有する設計とする。</p> <p><u>可搬型代替注水ポンプ（A-2級）は、原子炉建屋及び廃棄物処理建屋から離れた屋外に分散して保管することで、原子炉建屋内の残留熱除去系ポンプ及び廃棄物処理建屋内の復水移送ポンプと共通要因によって同時に機能を損なわないよう位置的分散を図る設計とする。</u></p> <p><u>可搬型代替注水ポンプ（A-2級）の接続口は、共通要因によって接続できなくなることを防止するため、位置的分散を図った複数箇所を設置する設計とする。</u></p> <p><u>代替格納容器スプレイ冷却系（常設）及び代替格納容器スプレイ冷却系（可搬型）は、残留熱除去系と共通要因によって同時に機能を損なわないよう、水源から残留熱除去系配管との合流点までの系統について、残留熱除去系に対して独立性を有する設計とする。</u></p> <p><u>これらの多様性及び系統の独立性並びに位置的分散によって、代替格納容器スプレイ冷却系（常設）及び代替格納容器スプレイ冷却系（可搬型）は、設計基準事故対処設備である残留熱除去系（格納容器スプレイ冷却モード）に対して重大事故等対処設備としての独立性を有する設計とする。</u></p> <p>電源設備の多様性、独立性及び位置的分散については</p>	<p>系（常設）に対して異なる水源を有する設計とする。</p> <p><u>可搬型代替注水ポンプ（A-2級）は、原子炉建屋及び廃棄物処理建屋から離れた屋外に分散して保管することで、原子炉建屋内の残留熱除去系ポンプ及び廃棄物処理建屋内の復水移送ポンプと共通要因によって同時に機能を損なわないよう位置的分散を図る設計とする。</u></p> <p><u>可搬型代替注水ポンプ（A-2級）の接続口は、共通要因によって接続できなくなることを防止するため、位置的分散を図った複数箇所を設置する設計とする。</u></p> <p><u>代替格納容器スプレイ冷却系（常設）及び代替格納容器スプレイ冷却系（可搬型）は、残留熱除去系と共通要因によって同時に機能を損なわないよう、水源から残留熱除去系配管との合流点までの系統について、残留熱除去系に対して独立性を有する設計とする。</u></p> <p><u>これらの多様性及び系統の独立性並びに位置的分散によって、代替格納容器スプレイ冷却系（常設）及び代替格納容器スプレイ冷却系（可搬型）は、設計基準事故対処設備である残留熱除去系（格納容器スプレイ冷却モード）に対して重大事故等対処設備としての独立性を有する設計とする。</u></p> <p>電源設備の多様性、独立性及び位置的分散については</p>	<p>とする代替格納容器スプレイ冷却系（常設）に対して異なる水源を有する設計とする。</p> <p><u>可搬型代替注水ポンプ（A-2級）は、原子炉建屋及び廃棄物処理建屋から離れた屋外に分散して保管することで、原子炉建屋内の残留熱除去系ポンプ及び廃棄物処理建屋内の復水移送ポンプと共通要因によって同時に機能を損なわないよう位置的分散を図る設計とする。</u></p> <p><u>可搬型代替注水ポンプ（A-2級）の接続口は、共通要因によって接続できなくなることを防止するため、位置的分散を図った複数箇所を設置する設計とする。</u></p> <p><u>代替格納容器スプレイ冷却系（可搬型）は、残留熱除去系と共通要因によって同時に機能を損なわないよう、水源から残留熱除去系配管との合流点までの系統について、残留熱除去系に対して独立性を有する設計とする。</u></p> <p><u>これらの多様性及び系統の独立性並びに位置的分散によって、代替格納容器スプレイ冷却系（可搬型）は、設計基準事故対処設備である残留熱除去系（格納容器スプレイ冷却モード）に対して重大事故等対処設備としての独立性を有する設計とする。</u></p> <p>3.2.3 代替格納容器スプレイ冷却系による原子炉格納容器の冷却</p> <p>(1) 代替格納容器スプレイ冷却系（常設）による原子炉格納容器の冷却</p> <p>a. 多様性、位置的分散及び独立性</p> <p><中略></p> <p><u>代替格納容器スプレイ冷却系（常設）は、残留熱除去系と共通要因によって同時に機能を損なわないよう、水源から残留熱除去系配管との合流点までの系統について、残留熱除去系に対して独立性を有する設計とする。</u></p> <p><u>これらの多様性及び系統の独立性並びに位置的分散によって、代替格納容器スプレイ冷却系（常設）は、設計基準事故対処設備である残留熱除去系（格納容器スプレイ冷却モード）に対して重大事故等対処設備としての独立性を有する設計とする。</u></p>	<p>設置変更許可申請書（本文（五</p>	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八） 該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>ス、(2)、(iv)代替電源設備に記載する。</p> <p>[常設重大事故等対処設備]</p> <p>代替格納容器スプレイ冷却系（常設） <u>復水移送ポンプ</u> リ(3)(iii)a.-③（ホ、(3)、(ii)、b.(c)他と兼用）</p>	<p>「10.2 代替電源設備」に記載する。</p> <p>第9.2-1表 原子炉格納容器内の冷却等のための設備の主要機器仕様</p> <p>(1) 代替格納容器スプレイ冷却系（常設） a. <u>復水移送ポンプ</u> 第5.6-1表 原子炉冷却材圧力バウンダリ低圧時に発電用原子炉を冷却するための設備の主要機器仕様に記載する。</p>	<p>【原子炉格納施設】 （要目表） 3 圧力低減設備その他の安全設備に係る次の事項</p> <p>(6.4) 代替格納容器スプレイ冷却系</p> <p>ハ ポンプの名称、種類、容量、揚程又は吐出圧力、最高使用圧力、最高使用温度、主要寸法、材料、個数及び取付箇所並びに原動機の種類、出力、個数及び取付箇所（常設及び可搬型の別に記載すること。）</p> <p>・常設 リ(3)(iii)a.-③ 以下の設備は、<u>既存の原子炉冷却系統施設のうち原子炉冷却材補給設備（補給水系）であり、圧力低減設備その他の安全設備のうち原子炉格納容器安全設備（代替格納容器スプレイ冷却系）として本工事計画で兼用とする。</u> <u>復水移送ポンプ</u></p>	<p>号)「ヌ、(2)、(iv) 代替電源設備」に示す。</p> <p>設計及び工事の計画のリ(3)(iii)a.-③は、設置変更許可申請書（本文（五号））のリ(3)(iii)a.-③と同義であり、整合している。</p>	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八） 該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考																																																																																	
<p>本文（十号）</p> <p>リ(3)(iii)a.-④a)代替格納容器スプレイ冷却系(常設)は、140m³/hの流量で原子炉格納容器内にスプレイする。</p> <p>・記載箇所 ハ(2)(ii)b.(a)(a-8), ハ(2)(ii)b.(d)(d-1)(d-1-8), ハ(2)(ii)b.(d)(d-2)(d-2-9), ハ(2)(ii)b.(f)(f-7), ハ(2)(ii)c.(a)(a-1)(a-1-7), ハ(2)(ii)c.(a)(a-2)(a-2-7)</p> <p>本文（十号）</p> <p>リ(3)(iii)a.-④b)代替格納容器スプレイ冷却系(常設)は、原子炉圧力容器破損前においては70m³/hの流量で、原子炉圧力容器破損後においては130m³/h以上の流量で原子炉格納容器内にスプレイする。</p> <p>・記載箇所 ハ(2)(ii)c.(b)(b-9)</p>		<p>【原子炉冷却系統施設（蒸気タービンを除く。）】 （要目表）</p> <p>7 原子炉冷却材補給設備に係る次の事項 7.1 補給水系 (1) ポンプの名称、種類、容量、揚程又は吐出圧力、最高使用圧力、最高使用温度、主要寸法、材料、個数及び取付箇所並びに原動機の種類、出力、個数及び取付箇所</p> <p>a. 復水移送ポンプ</p> <table border="1" data-bbox="1626 510 2626 1686"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th>変更前</th> <th>変更後</th> </tr> <tr> <th colspan="2">名 称</th> <th>復水移送ポンプ*1</th> <th>復水移送ポンプ*2</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="14">ポ ン プ</td> <td>種 類</td> <td>うず巻形</td> <td>変更なし</td> </tr> <tr> <td>容 量*3</td> <td>m³/h/個 □ 以上*4(125*5) リ(3)(iii)a.-④</td> <td>変更なし □ 以上*6,*7,*8 □ 以上*6,*9 □ 以上*6,*10,*11 □ 以上*6,*12,*13</td> </tr> <tr> <td>揚 程*14</td> <td>m □ 以上*4(85*5)</td> <td>変更なし □ 以上*6,*7 □ 以上*6,*9 □ 以上*6,*10 □ 以上*6,*12</td> </tr> <tr> <td>最 高 使 用 圧 力</td> <td>MPa</td> <td>1.37*4</td> </tr> <tr> <td>最 高 使 用 温 度</td> <td>℃</td> <td>66*4</td> </tr> <tr> <td rowspan="5">主 要 寸 法</td> <td>吸 込 内 径</td> <td>mm</td> <td>150*4,*5</td> </tr> <tr> <td>吐 出 内 径</td> <td>mm</td> <td>100*4,*5</td> </tr> <tr> <td>ケーシング厚さ</td> <td>mm</td> <td>□ (14.0*5) *4</td> </tr> <tr> <td>た て</td> <td>mm</td> <td>620*4,*5</td> </tr> <tr> <td>横</td> <td>mm</td> <td>770*4,*5</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">材 料</td> <td>高 さ</td> <td>mm</td> <td>725*5,*15</td> </tr> <tr> <td>ケーシング</td> <td>—</td> <td>□ *16</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">個 取 付 箇 所</td> <td>ケーシングカバー</td> <td>—</td> <td>□ *4</td> </tr> <tr> <td>個 数</td> <td>—</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>系 統 名</td> <td>—</td> <td>補給水系*4</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">取 付 箇 所</td> <td>設 置 床</td> <td>—</td> <td>廃棄物処理建屋 T.M.S.L. -6100mm</td> </tr> <tr> <td>溢水防護上の区画番号</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">原 動 機</td> <td>溢水防護上の配慮が必要な高さ</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>種 類</td> <td>—</td> <td>誘導電動機</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">取 付 箇 所</td> <td>力</td> <td>kW/個</td> <td>55</td> </tr> <tr> <td>個 数</td> <td>—</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>取 付 箇 所</td> <td>—</td> <td>ポンプと同じ*4</td> </tr> </tbody> </table> <p>注記*1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「(1)復水移送ポンプ」と記載。 *2：非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備（低圧代替注水系）及び原子炉格納施設のうち圧力低減設備その他の安全設備のうち原子炉格納容器安全設備（格納容器下部注水系、代替格納容器スプレイ冷却系、代替循環冷却系、低圧代替注水系）と兼用。 *3：記載の適正化を行う。既工事計画書には「定格容量」と記載。 *4：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。</p>			変更前	変更後	名 称		復水移送ポンプ*1	復水移送ポンプ*2	ポ ン プ	種 類	うず巻形	変更なし	容 量*3	m ³ /h/個 □ 以上*4(125*5) リ(3)(iii)a.-④	変更なし □ 以上*6,*7,*8 □ 以上*6,*9 □ 以上*6,*10,*11 □ 以上*6,*12,*13	揚 程*14	m □ 以上*4(85*5)	変更なし □ 以上*6,*7 □ 以上*6,*9 □ 以上*6,*10 □ 以上*6,*12	最 高 使 用 圧 力	MPa	1.37*4	最 高 使 用 温 度	℃	66*4	主 要 寸 法	吸 込 内 径	mm	150*4,*5	吐 出 内 径	mm	100*4,*5	ケーシング厚さ	mm	□ (14.0*5) *4	た て	mm	620*4,*5	横	mm	770*4,*5	材 料	高 さ	mm	725*5,*15	ケーシング	—	□ *16	個 取 付 箇 所	ケーシングカバー	—	□ *4	個 数	—	3	系 統 名	—	補給水系*4	取 付 箇 所	設 置 床	—	廃棄物処理建屋 T.M.S.L. -6100mm	溢水防護上の区画番号	—	—	原 動 機	溢水防護上の配慮が必要な高さ	—	—	種 類	—	誘導電動機	取 付 箇 所	力	kW/個	55	個 数	—	3	取 付 箇 所	—	ポンプと同じ*4		
		変更前	変更後																																																																																		
名 称		復水移送ポンプ*1	復水移送ポンプ*2																																																																																		
ポ ン プ	種 類	うず巻形	変更なし																																																																																		
	容 量*3	m ³ /h/個 □ 以上*4(125*5) リ(3)(iii)a.-④	変更なし □ 以上*6,*7,*8 □ 以上*6,*9 □ 以上*6,*10,*11 □ 以上*6,*12,*13																																																																																		
	揚 程*14	m □ 以上*4(85*5)	変更なし □ 以上*6,*7 □ 以上*6,*9 □ 以上*6,*10 □ 以上*6,*12																																																																																		
	最 高 使 用 圧 力	MPa	1.37*4																																																																																		
	最 高 使 用 温 度	℃	66*4																																																																																		
	主 要 寸 法	吸 込 内 径	mm	150*4,*5																																																																																	
		吐 出 内 径	mm	100*4,*5																																																																																	
		ケーシング厚さ	mm	□ (14.0*5) *4																																																																																	
		た て	mm	620*4,*5																																																																																	
		横	mm	770*4,*5																																																																																	
	材 料	高 さ	mm	725*5,*15																																																																																	
		ケーシング	—	□ *16																																																																																	
	個 取 付 箇 所	ケーシングカバー	—	□ *4																																																																																	
		個 数	—	3																																																																																	
系 統 名		—	補給水系*4																																																																																		
取 付 箇 所	設 置 床	—	廃棄物処理建屋 T.M.S.L. -6100mm																																																																																		
	溢水防護上の区画番号	—	—																																																																																		
原 動 機	溢水防護上の配慮が必要な高さ	—	—																																																																																		
	種 類	—	誘導電動機																																																																																		
取 付 箇 所	力	kW/個	55																																																																																		
	個 数	—	3																																																																																		
	取 付 箇 所	—	ポンプと同じ*4																																																																																		

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八） 該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>[可搬型重大事故等対処設備] 代替格納容器スプレイ冷却系（可搬型）</p> <p>可搬型代替注水ポンプ（A-2級）（6号及び7号炉共用） リ(3)(iii)a.-⑤（(二),(3),(ii)他と兼用）</p>	<p>(2) 代替格納容器スプレイ冷却系（可搬型）</p> <p>a. <u>可搬型代替注水ポンプ（A-2級）（6号及び7号炉共用）</u> 第4.3-1表 使用済燃料プールの冷却等のための設備の主要機器仕様に記載する。</p>	<p>*5：公称値を示す。 *6：重大事故等時における使用時の値。 *7：非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備（低圧代替注水系）及び原子炉格納施設のうち圧力低減設備その他の安全設備のうち原子炉格納容器安全設備（低圧代替注水系）で使用する場合の値。 *8：原子炉圧力容器への注水流量を示す。 *9：原子炉格納施設のうち圧力低減設備その他の安全設備のうち原子炉格納容器安全設備（代替循環冷却系）で使用する場合の値。 *10：原子炉格納施設のうち圧力低減設備その他の安全設備のうち原子炉格納容器安全設備（代替格納容器スプレイ冷却系）で使用する場合の値。 *11：原子炉格納容器へのスプレイ流量を示す。 *12：原子炉格納施設のうち圧力低減設備その他の安全設備のうち原子炉格納容器安全設備（格納容器下部注水系）で使用する場合の値。 *13：原子炉格納容器下部への注水流量を示す。 *14：記載の適正化を行う。既工事計画書には「定格揚程」と記載。 *15：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、平成4年10月13日付け4資庁第8732号にて認可された工事計画の第5-3-4図「復水移送ポンプ構造図」による。 *16：記載の適正化を行う。既工事計画書には「 」と記載。記載内容は、設計図書による。</p> <p>【原子炉格納施設】 （要目表） 3 圧力低減設備その他の安全設備に係る次の事項</p> <p>・可搬型 リ(3)(iii)a.-⑤ 以下の設備は、<u>核燃料物質の取扱施設及び貯蔵施設のうち使用済燃料貯蔵槽冷却浄化設備（燃料プール代替注水系）</u>であり、<u>圧力低減設備その他の安全設備のうち原子炉格納容器安全設備（代替格納容器スプレイ冷却系）</u>として本工事計画で兼用とする。 <u>可搬型代替注水ポンプ（A-2級）（7号機設備、6,7号機共用）</u></p>	<p>整合性</p> <p>・設置変更許可申請書（本文（十号））のリ(3)(iii)a.-④aは、設計及び工事の計画リ(3)(iii)a.-④の容量 m³/h×2台と同義であり、整合している。また、設置変更許可申請書（本文（十号））のリ(3)(iii)a.-④bは、設計及び工事の計画リ(3)(iii)a.-④の容量 m³/h×2台に含まれており、整合している。</p> <p>設計及び工事の計画のリ(3)(iii)a.-⑤は、設置変更許可申請書（本文（五号））のリ(3)(iii)a.-⑤と同義であり、整合している。</p>	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八） 該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>本文（十号）</p> <p>リ(3)(iii)a.-⑥代替格納容器スプレイ冷却系(可搬型)は、80m³/hの流量で原子炉格納容器内にスプレイする。</p> <p>・記載箇所 ハ(2)(ii)b.(c)(c-4)(c-4-8)</p>		<p>【核燃料物質の取扱施設及び貯蔵施設】 (要目表)</p> <p>4 使用済燃料貯蔵槽冷却浄化設備に係る次の事項</p> <p>4.2 燃料プール代替注水系</p> <p>(2) ポンプの名称、種類、容量、揚程又は吐出圧力、最高使用圧力、最高使用温度、主要寸法、材料、個数及び取付箇所並びに原動機の種類、出力、個数及び取付箇所（常設及び可搬型の別に記載すること。）</p> <p>・可搬型</p> <p>以下の設備は、7号機設備であり、6号機及び7号機共用（7号機で申請済）である。 可搬型代替注水ポンプ（A-1級）（7号機設備、6,7号機共用） 可搬型代替注水ポンプ（A-2級）（7号機設備、6,7号機共用）*</p> <p>注記*：原子炉冷却系統施設のうち残留熱除去設備（格納容器圧力逃がし装置）及び非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備（低圧代替注水系、水の供給設備）並びに原子炉格納施設のうち圧力低減設備その他の安全設備のうち原子炉格納容器安全設備（格納容器下部注水系、代替格納容器スプレイ冷却系、低圧代替注水系）、圧力低減設備その他の安全設備のうち放射性物質濃度制御設備及び可燃性ガス濃度制御設備並びに格納容器再循環設備（格納容器圧力逃がし装置）及び圧力低減設備その他の安全設備のうち圧力逃がし装置（格納容器圧力逃がし装置）と兼用。</p>	<p>設置変更許可申請書（本文（十号））のリ(3)(iii)a.-⑥は、6,7号機共用の設計として7号機で整理しており、この内容は整合している。</p>	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八） 該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>b. 原子炉格納容器の過圧破損を防止するための設備</p> <p>炉心の著しい損傷が発生した場合において原子炉格納容器の過圧による破損を防止するため、原子炉格納容器内の圧力及び温度をリ(3)(iii)b.-①低下させるために必要な重大事故等対処設備を設置及び保管する...</p> <p>原子炉格納容器の過圧破損を防止するためのリ(3)(iii)b.-②設備のうち、原子炉格納容器バウンダリを維持しながら原子炉格納容器内の圧力及び温度を低下させるための設備として、代替循環冷却系を設ける。また、原子炉格納容器内の圧力を大気中に逃がすための設備として、格納容器圧力逃がし装置を設ける。</p>	<p>9.3 原子炉格納容器の過圧破損を防止するための設備</p> <p>9.3.1 概要</p> <p>炉心の著しい損傷が発生した場合において原子炉格納容器の過圧による破損を防止するため、原子炉格納容器内の圧力及び温度を低下させるために必要な重大事故等対処設備を設置及び保管する...</p> <p><中略></p> <p>9.3.2 設計方針</p> <p>原子炉格納容器の過圧破損を防止するための設備のうち、原子炉格納容器バウンダリを維持しながら原子炉格納容器内の圧力及び温度を低下させるための設備として、代替循環冷却系を設ける。また、原子炉格納容器内の圧力を大気中に逃がすための設備として、格納容器圧力逃がし装置を設ける。</p>	<p>【原子炉格納施設】 （基本設計方針）</p> <p>第2章 個別項目</p> <p>3. 圧力低減設備その他の安全設備</p> <p>3.2 原子炉格納容器安全設備</p> <p>3.2.4 代替循環冷却系による原子炉格納容器内の減圧及び除熱</p> <p>炉心の著しい損傷が発生した場合において、原子炉格納容器の過圧による破損を防止するために必要な重大事故等対処設備のうち、原子炉格納容器バウンダリを維持しながら原子炉格納容器内の圧力及び温度をリ(3)(iii)b.-①a低下させるための設備として、代替循環冷却系を設ける設計とする。</p> <p><中略></p> <p>3.6.1 格納容器圧力逃がし装置</p> <p>(1) 格納容器圧力逃がし装置による原子炉格納容器内の減圧及び除熱</p> <p>炉心の著しい損傷が発生した場合において、原子炉格納容器の過圧による破損を防止するために必要な重大事故等対処設備のうち、原子炉格納容器内の圧力をリ(3)(iii)b.-①b大気中に逃がすための設備として、格納容器圧力逃がし装置を設ける設計とする。</p> <p><中略></p> <p>3.2.4 代替循環冷却系による原子炉格納容器内の減圧及び除熱</p> <p>炉心の著しい損傷が発生した場合において、原子炉格納容器の過圧による破損を防止するためにリ(3)(iii)b.-②a必要な重大事故等対処設備のうち、原子炉格納容器バウンダリを維持しながら原子炉格納容器内の圧力及び温度を低下させるための設備として、代替循環冷却系を設ける設計とする。</p> <p><中略></p>	<p>設計及び工事の計画のリ(3)(iii)b.-①a及びリ(3)(iii)b.-①bは、設置変更許可申請書（本文(五号)）のリ(3)(iii)b.-①を具体的に記載しており、整合している。</p> <p>設計及び工事の計画のリ(3)(iii)b.-②a及びリ(3)(iii)b.-②bは、設置変更許可申請書（本文(五号)）のリ(3)(iii)b.-②と同義であり、整合している。</p>	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八） 該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>(a) 代替循環冷却系による原子炉格納容器内の減圧及び除熱</p> <p>炉心の著しい損傷が発生した場合に原子炉格納容器の過圧破損を防止するための重大事故等対処設備として、<u>代替循環冷却系は、復水移送ポンプによりサプレッション・チェンバのプール水を残留熱除去系熱交換器にて冷却し、残留熱除去系等を経由して原子炉圧力容器又は原子炉格納容器下部へ注水するとともに、原子炉格納容器内へスプレイすることで、原子炉格納容器バウンダリを維持しながら原子炉格納容器内の圧力及び温度を低下できる設計とする。</u></p> <p><u>原子炉圧力容器に注水された水は、原子炉圧力容器又は原子炉格納容器内配管の破断口等から流出し、原子炉格納容器内へスプレイされた水とともに、格納容器ベント管に設けられている連通孔を経て、サプレッション・チ</u></p>	<p>(1) 代替循環冷却系による原子炉格納容器内の減圧及び除熱</p> <p>炉心の著しい損傷が発生した場合に原子炉格納容器の過圧破損を防止するための重大事故等対処設備として、<u>代替循環冷却系を使用する。</u></p> <p><u>代替循環冷却系は、復水移送ポンプ、残留熱除去系熱交換器、配管・弁類、計測制御装置等で構成し、復水移送ポンプによりサプレッション・チェンバのプール水を残留熱除去系熱交換器にて冷却し、残留熱除去系等を経由して原子炉圧力容器又は原子炉格納容器下部へ注水するとともに、原子炉格納容器内へスプレイすることで、原子炉格納容器バウンダリを維持しながら原子炉格納容器内の圧力及び温度を低下できる設計とする。原子炉圧力容器に注水された水は、原子炉圧力容器又は原子炉格納容器内配管の破断口等から流出し、原子炉格納容器内</u></p>	<p>3.6.1 格納容器圧力逃がし装置</p> <p>(1) 格納容器圧力逃がし装置による原子炉格納容器内の減圧及び除熱</p> <p>炉心の著しい損傷が発生した場合において、<u>原子炉格納容器の過圧による破損を防止するために</u>リ(3)(iii)b. ②b <u>必要な重大事故等対処設備のうち、原子炉格納容器内の圧力を大気中に逃がすための設備として、格納容器圧力逃がし装置を設ける設計とする。</u></p> <p><中略></p> <p>3.2 原子炉格納容器安全設備</p> <p>3.2.4 代替循環冷却系による原子炉格納容器内の減圧及び除熱</p> <p><中略></p> <p>原子炉格納容器安全設備のうち、サプレッションチェンバのプール水を水源として原子炉格納容器除熱のために運転するポンプは、原子炉格納容器内の圧力及び温度並びに冷却材中の異物の影響について「非常用炉心冷却設備又は格納容器熱除去設備に係るろ過装置の性能評価等について（内規）」（平成20・02・12 原院第5号（平成20年2月27日原子力安全・保安院制定））によるろ過装置の性能評価により、重大事故等時に想定される最も小さい有効吸込水頭においても、正常に機能する能力を有する設計とする。</p> <p><中略></p> <p>炉心の著しい損傷が発生した場合において、<u>原子炉格納容器の過圧による破損を防止するために必要な重大事故等対処設備のうち、原子炉格納容器バウンダリを維持しながら原子炉格納容器内の圧力及び温度を低下させるための設備として、代替循環冷却系を設ける設計とする。</u></p> <p><u>代替循環冷却系は、復水移送ポンプによりサプレッションチェンバのプール水を残留熱除去系熱交換器にて冷却し、残留熱除去系等を経由して原子炉圧力容器又は原子炉格納容器下部へ注水するとともに、原子炉格納容器内へスプレイすることで、原子炉格納容器バウンダリを維持しながら原子炉格納容器内の圧力及び温度を低下できる設計とする。</u></p>		

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八） 該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p><u>エンバに戻ること循環する。</u></p> <p><u>代替循環冷却系は、代替所内電気設備を経由した常設代替交流電源設備又は可搬型代替交流電源設備からの給電が可能な設計とする。</u></p> <p><u>リ(3)(iii)b.(a)-①残留熱除去系熱交換器は、代替循環冷却系で使用する代替原子炉補機冷却系の熱交換器ユニット及び大容量送水車(熱交換器ユニット用)により冷却できる設計とする。</u></p> <p><u>代替原子炉補機冷却系は、熱交換器ユニットをリ(3)(iii)b.(a)-②原子炉補機冷却系に接続し、大容量送水車(熱交換器ユニット用)により熱交換器ユニットに海水を送水することで、残留熱除去系熱交換器で発生した熱を最終的な熱の逃がし場である海へ輸送できる設計とする。</u></p>	<p><u>へスプレイされた水とともに、格納容器ベント管に設けられている連通路を経て、サブプレッション・チェンバに戻ること循環する。</u></p> <p><u>代替循環冷却系は、代替所内電気設備を経由した常設代替交流電源設備又は可搬型代替交流電源設備からの給電が可能な設計とする。</u></p> <p><u>残留熱除去系熱交換器は、代替循環冷却系で使用する代替原子炉補機冷却系の熱交換器ユニット及び大容量送水車(熱交換器ユニット用)により冷却できる設計とする。</u></p> <p><中略></p> <p>5. 原子炉冷却系統施設</p> <p>5.10 最終ヒートシンクへ熱を輸送するための設備</p> <p>5.10.2 設計方針</p> <p>(2)サポート系故障時に用いる設備</p> <p>a. 代替原子炉補機冷却系による原子炉格納容器内の減圧及び除熱</p> <p>原子炉補機冷却系の故障又は全交流動力電源の喪失により、最終ヒートシンクへ熱を輸送する機能が喪失した場合の重大事故等対処設備として、代替原子炉補機冷却系を使用する。</p> <p>代替原子炉補機冷却系は、代替原子炉補機冷却水ポンプ及び熱交換器を搭載した熱交換器ユニット、大容量送水車(熱交換器ユニット用)、配管・ホース・弁類、計測</p>	<p>また、<u>リ(3)(iii)b.(a)-①本系統に使用する冷却水は、代替原子炉補機冷却系により冷却できる設計とする。</u></p> <p><u>原子炉圧力容器に注水された水は、原子炉圧力容器又は原子炉格納容器内配管の破断口等から流出し、原子炉格納容器内へスプレイされた水とともに、格納容器ベント管に設けられている連通路を経て、サブプレッションチェンバに戻ること循環できる設計とする。</u></p> <p><u>代替循環冷却系は、代替所内電気設備を経由した常設代替交流電源設備又は可搬型代替交流電源設備からの給電が可能な設計とする。</u></p> <p>代替循環冷却系の流路として、設計基準対象施設である残留熱除去系ポンプ、原子炉圧力容器、原子炉圧力容器内部構造物、原子炉格納容器、原子炉格納容器(サブプレッションチェンバ)及び配管貫通部を重大事故等対処設備として使用することから、流路に係る機能について重大事故等対処設備としての設計を行う。</p> <p>【原子炉冷却系統施設（蒸気タービンを除く。）】</p> <p>（基本設計方針）</p> <p>第2章 個別項目</p> <p>7. 原子炉補機冷却設備</p> <p>7.2 代替原子炉補機冷却系の機能</p> <p>7.2.1 代替原子炉補機冷却系による原子炉格納容器内の減圧及び除熱</p> <p>設計基準事故対処設備が有する最終ヒートシンクへ熱を輸送する機能が喪失した場合において炉心の著しい損傷及び原子炉格納容器の破損(炉心の著しい損傷が発生する前に生ずるものに限る。)を防止するため、最終ヒートシンクへ熱を輸送するために必要な重大事故等対処設備として、代替原子炉補機冷却系を設ける設計とする。</p> <p>炉心の著しい損傷が発生した場合に原子炉格納容器の過圧破損を防止するための重大事故等対処設備として使用する<u>代替原子炉補機冷却系は、熱交換器ユニットをリ(3)(iii)b.(a)-②原子炉補機冷却水系に接続し、大容量送水車(熱交換器ユニット用)により熱交換器ユニットに海水を送水することで、残留熱除去系熱交換器で除去した熱を最終的な熱の逃がし場である海へ輸送で</u></p>	<p>設計及び工事の計画の<u>リ(3)(iii)b.(a)-①</u>は、設置変更許可申請書(本文(五号))の<u>リ(3)(iii)b.(a)-①</u>と同義であり、整合している。</p> <p>設計及び工事の計画の<u>リ(3)(iii)b.(a)-②</u>は、設置変更許可申請書(本文(五号))の<u>リ(3)(iii)b.(a)-②</u>と同義であり、整合している。</p>	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八） 該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>(b) 格納容器圧力逃がし装置による原子炉格納容器内の減圧及び除熱</p> <p><u>炉心の著しい損傷が発生した場合において、原子炉格納容器の過圧破損を防止するための重大事故等対処設備として、格納容器圧力逃がし装置は、原子炉格納容器内雰囲気ガスをリ(3)(iii)b.(b)-①不活性ガス系等を経由して、フィルタ装置及びよう素フィルタへ導き、放射性物質を低減させた後に原子炉建屋屋上に設ける放出口から排出することで、排気中に含まれる放射性物質の環境への放出量を低減しつつ、原子炉格納容器内の圧力及び温度を低下できる設計とする。</u></p> <p><u>フィルタ装置は、排気中に含まれる粒子状放射性物質及びガス状の無機よう素を除去し、よう素フィルタは、排気中に含まれる有機よう素を除去できる設計とする。</u></p> <p><u>リ(3)(iii)b.(b)-②本系統はサブプレッション・チェンバ及びドライウエルと接続し、いずれからも排気できる設</u></p>	<p>制御装置等で構成し、サブプレッション・チェンバへの熱の蓄積により原子炉冷却機能が確保できる一定の期間内に、<u>熱交換器ユニットを原子炉補機冷却系に接続し、大容量送水車(熱交換器ユニット用)により熱交換器ユニットに海水を送水することで、残留熱除去系等の機器で発生した熱を最終的な熱の逃がし場である海へ輸送できる設計とする。</u></p> <p><中略></p> <p>9. 原子炉格納施設</p> <p>9.3 原子炉格納容器の過圧破損を防止するための設備</p> <p>9.3.2 設計方針</p> <p>(2) 格納容器圧力逃がし装置による原子炉格納容器内の減圧及び除熱</p> <p><u>炉心の著しい損傷が発生した場合において、原子炉格納容器の過圧破損を防止するための重大事故等対処設備として、格納容器圧力逃がし装置を使用する。</u></p> <p><u>格納容器圧力逃がし装置は、フィルタ装置、よう素フィルタ、ラプチャーディスク、配管・弁類、計測制御装置等で構成し、原子炉格納容器内雰囲気ガスを不活性ガス系等を経由して、フィルタ装置及びよう素フィルタへ導き、放射性物質を低減させた後に原子炉建屋屋上に設ける放出口から排出することで、排気中に含まれる放射性物質の環境への放出量を低減しつつ、原子炉格納容器内の圧力及び温度を低下できる設計とする。</u></p> <p><u>フィルタ装置は、排気中に含まれる粒子状放射性物質及びガス状の無機よう素を除去し、よう素フィルタは、排気中に含まれる有機よう素を除去できる設計とする。</u></p> <p><u>本系統はサブプレッション・チェンバ及びドライウエルと接続し、いずれからも排気できる設計とする。</u></p>	<p><u>きる設計とする。</u></p> <p>熱交換器ユニットは、可搬型代替交流電源設備からの給電が可能な設計とする。また、大容量送水車（熱交換器ユニット用）は、ディーゼルエンジンにより駆動できる設計とする。</p> <p>【原子炉格納施設】 （基本設計方針）</p> <p>第2章 個別項目</p> <p>3. 圧力低減設備その他の安全設備</p> <p>3.6 圧力逃がし装置</p> <p>3.6.1 格納容器圧力逃がし装置</p> <p>(1) 格納容器圧力逃がし装置による原子炉格納容器内の減圧及び除熱</p> <p><u>炉心の著しい損傷が発生した場合において、原子炉格納容器の過圧による破損を防止するために必要な重大事故等対処設備のうち、原子炉格納容器内の圧力を大気中に逃がすための設備として、格納容器圧力逃がし装置を設ける設計とする。</u></p> <p><u>格納容器圧力逃がし装置は、フィルタ装置（フィルタ容器、スクラバ水、金属フィルタ）、よう素フィルタ、ドレンタンク、ラプチャーディスク、配管・弁類、計測制御装置等で構成し、原子炉格納容器内雰囲気ガスをリ(3)(iii)b.(b)-①不活性ガス系を経由して、フィルタ装置及びよう素フィルタへ導き、放射性物質を低減させた後に原子炉建屋屋上に設ける放出口から排出（系統設計流量 31.6kg/s（2Pd において））することで、排気中に含まれる放射性物質の環境への放出量を低減しつつ、原子炉格納容器内の圧力及び温度を低下できる設計とする。</u></p> <p><u>フィルタ装置は、排気中に含まれる粒子状放射性物質及びガス状の無機よう素を除去し、よう素フィルタは、排気中に含まれる有機よう素を除去できる設計とする。</u>また、無機よう素をスクラバ水中に捕集・保持するためにアルカリ性の状態 <input type="text"/> 以上に維持する設計とす</p>	<p>設計及び工事の計画の <u>リ(3)(iii)b.(b)-①</u>は、設置変更許可申請書（本文（五号））の <u>リ(3)(iii)b.(b)-①</u>を詳細設計した結果であり、整合している。</p> <p>設計及び工事の計画の <u>リ(3)(iii)b.(b)-②a</u>及び <u>リ(3)</u></p>	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八） 該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>計とする。</p> <p><u>サブプレッション・チェンバ側からの排気ではサブプレッション・チェンバの水面からの高さを確保し、ドライウエル側からの排気では、ダイヤフラム・フロア面からの高さを確保するとともに有効燃料棒頂部よりも高い位置に接続箇所を設けることで長期的にも溶融炉心及び水没の悪影響を受けない設計とする。</u></p> <p><u>格納容器圧力逃がし装置は、排気中に含まれる可燃性ガスによるリ(3)(iii)b.(b)-③爆発を防ぐため、系統内を不活性ガス（窒素ガス）で置換した状態で待機させ、使用後においても不活性ガスで置換できる設計とするとともに、系統内に可燃性ガスが蓄積する可能性のある箇所にはバイパスラインを設け、可燃性ガスを連続して排出できる設計とすることで、系統内で水素濃度及び酸素濃度が可燃領域に達することを防止できる設計とする。</u></p>	<p><中略></p> <p><u>格納容器圧力逃がし装置は、排気中に含まれる可燃性ガスによる爆発を防ぐため、系統内を不活性ガス（窒素ガス）で置換した状態で待機させ、使用後においても不活性ガスで置換できる設計とするとともに、系統内に可燃性ガスが蓄積する可能性のある箇所にはバイパスラインを設け、可燃性ガスを連続して排出できる設計とすることで、系統内で水素濃度及び酸素濃度が可燃領域に達することを防止できる設計とする。</u></p> <p><中略></p> <p><u>サブプレッション・チェンバ側からの排気ではサブプレッション・チェンバの水面からの高さを確保し、ドライウエル側からの排気では、ダイヤフラム・フロア面からの高さを確保するとともに有効燃料棒頂部よりも高い位置に接続箇所を設けることで長期的にも溶融炉心及び水没の悪影響を受けない設計とする。</u></p> <p><中略></p> <p><u>格納容器圧力逃がし装置は、排気中に含まれる可燃性ガスによる爆発を防ぐため、系統内を不活性ガス（窒素ガス）で置換した状態で待機させ、使用後においても不活性ガスで置換できる設計とするとともに、系統内に可燃性ガスが蓄積する可能性のある箇所にはバイパスラインを設け、可燃性ガスを連続して排出できる設計とすることで、系統内で水素濃度及び酸素濃度が可燃領域に達することを防止できる設計とする。</u></p>	<p>る。</p> <p><u>リ(3)(iii)b.(b)-②a 格納容器圧力逃がし装置はサブプレッションチェンバ及びドライウエルと接続し、いずれからも排気できる設計とする。サブプレッションチェンバ側からの排気ではサブプレッションチェンバの水面からの高さを確保し、ドライウエル側からの排気では、ダイヤフラムフロア面からの高さを確保するとともに有効燃料棒頂部よりも高い位置に接続箇所を設けることで長期的にも溶融炉心及び水没の悪影響を受けない設計とする。</u></p> <p><u>炉心の著しい損傷が発生した場合において、原子炉格納容器の過圧による破損を防止するために使用する格納容器圧力逃がし装置は、排気中に含まれる可燃性ガスによるリ(3)(iii)b.(b)-③水素爆発を防止するため、系統内を不活性ガス（窒素ガス）で置換した状態で待機させ、使用後においても不活性ガスで置換できる設計とする。また、系統内に可燃性ガスが蓄積する可能性のある箇所にはバイパスラインを設け、可燃性ガスを連続して排出できる設計とすることで、系統内で水素濃度及び酸素濃度が可燃領域に達することを防止できる設計とする。</u></p> <p><中略></p> <p>【原子炉冷却系統施設（蒸気タービンを除く。）】 （基本設計方針） 第2章 個別項目 4. 残留熱除去設備 4.2 格納容器圧力逃がし装置による原子炉格納容器内の減圧及び除熱</p> <p><中略></p> <p><u>フィルタ装置は、排気中に含まれる粒子状放射性物質及びガス状の無機よう素を除去し、よう素フィルタは、排気中に含まれる有機よう素を除去できる設計とする。また、無機よう素をスクラバ水中に捕集・保持するためにアルカリ性の状態 <input type="text"/> 以上）に維持する設計とす</u></p>	<p>(iii)b.(b)-②b は、設置変更許可申請書（本文（五号））の <u>リ(3)(iii)b.(b)-②</u> と同義であり、整合している。</p> <p>設計及び工事の計画の <u>リ(3)(iii)b.(b)-③</u> は、設置変更許可申請書（本文（五号））の <u>リ(3)(iii)b.(b)-③</u> と同義であり、整合している。</p>	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八） 該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p><u>格納容器圧力逃がし装置は、他の発電用原子炉とは共用しない設計とする。また、格納容器圧力逃がし装置と他の系統・機器を隔離する弁は直列でリ(3)(iii)b.(b)-④を2弁設置し、格納容器圧力逃がし装置と他の系統・機器を確実に隔離することで、悪影響を及ぼさない設計とする。</u></p> <p><u>格納容器圧力逃がし装置の使用後に再度、代替格納容器スプレイ冷却系等により原子炉格納容器内にスプレイする場合は、原子炉格納容器が負圧とならないよう、原子炉格納容器が規定の圧力に達した場合には、スプレイを停止する運用リ(3)(iii)b.(b)-⑤とする。</u></p>	<p><u>格納容器圧力逃がし装置は、他の発電用原子炉とは共用しない設計とする。また、格納容器圧力逃がし装置と他の系統・機器を隔離する弁は直列で2弁設置し、格納容器圧力逃がし装置と他の系統・機器を確実に隔離することで、悪影響を及ぼさない設計とする。</u></p> <p><u>格納容器圧力逃がし装置の使用後に再度、代替格納容器スプレイ冷却系等により原子炉格納容器内にスプレイする場合は、原子炉格納容器が負圧とならないよう、原子炉格納容器が規定の圧力に達した場合には、スプレイを停止する運用とする。</u></p>	<p>る。</p> <p><u>リ(3)(iii)b.(b)-②b 格納容器圧力逃がし装置はサブプレッションチェンバ及びドライウエルと接続し、いずれからも排気できる設計とする。サブプレッションチェンバ側からの排気ではサブプレッションチェンバの水面からの高さを確保し、ドライウエル側からの排気では、ダイヤフラムフロア面からの高さを確保するとともに有効燃料棒頂部よりも高い位置に接続箇所を設けることで長期的にも溶融炉心及び水没の悪影響を受けない設計とする。</u></p> <p><中略></p> <p>【原子炉格納施設】 (基本設計方針)</p> <p>第2章 個別項目</p> <p>3. 圧力低減設備その他の安全設備</p> <p>3.6 圧力逃がし装置</p> <p>3.6.1 格納容器圧力逃がし装置</p> <p>(1) 格納容器圧力逃がし装置による原子炉格納容器内の減圧及び除熱</p> <p><中略></p> <p><u>格納容器圧力逃がし装置は、他の発電用原子炉施設とは共用しない設計とする。また、格納容器圧力逃がし装置と他の系統・機器を隔離する弁は直列でリ(3)(iii)b.(b)-④aを2個設置し、格納容器圧力逃がし装置と他の系統・機器を確実に隔離することで、悪影響を及ぼさない設計とする。</u></p> <p><u>格納容器圧力逃がし装置の使用後に再度、代替格納容器スプレイ冷却系等により原子炉格納容器内にスプレイする場合は、原子炉格納容器が負圧とならないよう、原子炉格納容器が規定の圧力に達した場合には、スプレイを停止する運用リ(3)(iii)b.(b)-⑤aを保安規定に定めて管理する。</u></p>	<p>設計及び工事の計画の<u>リ(3)(iii)b.(b)-④a</u>及び<u>リ(3)(iii)b.(b)-④b</u>は、設置変更許可申請書（本文（五号））の<u>リ(3)(iii)b.(b)-④</u>と同義であり、整合している。</p> <p>設計及び工事の計画の<u>リ(3)(iii)b.(b)-⑤a</u>及び<u>リ(3)(iii)b.(b)-⑤b</u>は、設置変更許可申請書（本文（五号））の<u>リ(3)(iii)b.(b)-⑤</u>を具体的に記載しており、整合している。</p>	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八） 該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p><u>格納容器圧力逃がし装置使用時の排出経路に設置される隔離弁は、遠隔手動弁操作設備によって人力による操作が可能な設計とする。</u></p>	<p><u>格納容器圧力逃がし装置使用時の排出経路に設置される隔離弁は、遠隔手動弁操作設備によって人力による操作が可能な設計とする。</u></p>	<p><u>格納容器圧力逃がし装置使用時の排出経路に設置される隔離弁は、遠隔手動弁操作設備（個数5）（原子炉冷却系統施設の設備、原子炉格納施設のうち圧力低減設備その他の安全設備のうち放射性物質濃度制御設備及び可燃性ガス濃度制御設備並びに格納容器再循環設備の設備で兼用）によって人力により容易かつ確実に操作が可能な設計とする。</u></p> <p><中略></p> <p>【原子炉冷却系統施設（蒸気タービンを除く。）】 （基本設計方針）</p> <p>第2章 個別項目</p> <p>4. 残留熱除去設備</p> <p>4.2 格納容器圧力逃がし装置による原子炉格納容器内の減圧及び除熱</p> <p><中略></p> <p><u>格納容器圧力逃がし装置は、他の発電用原子炉施設とは共用しない設計とする。また、格納容器圧力逃がし装置と他の系統・機器を隔離する弁は直列でリ(3)(iii)b.(b)-④b)2個設置し、格納容器圧力逃がし装置と他の系統・機器を確実に隔離することで、悪影響を及ぼさない設計とする。</u></p> <p><u>格納容器圧力逃がし装置の使用後に再度、代替格納容器スプレー冷却系等により原子炉格納容器内にスプレーする場合は、原子炉格納容器が負圧とならないよう、原子炉格納容器が規定の圧力に達した場合には、スプレーを停止する運用リ(3)(iii)b.(b)-⑤b)を保安規定に定めて管理する。</u></p> <p><u>格納容器圧力逃がし装置使用時の排出経路に設置される隔離弁は、遠隔手動弁操作設備（個数5）（原子炉格納施設の設備を原子炉冷却系統施設の設備として兼用）によって人力により容易かつ確実に操作が可能な設計とする。</u></p> <p><中略></p>		

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八） 該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p><u>遠隔手動弁操作設備の操作場所は、原子炉建屋内の原子炉区域外とし、リ(3)(iii)b.(b)-⑥必要に応じて遮蔽材を配置することで、放射線防護を考慮した設計とする。</u></p> <p><u>また、排出経路に設置される隔離弁のうち空気作動弁については、原子炉建屋内の原子炉区域外への遠隔空気駆動弁操作ポンベの設置に加え必要に応じて遮蔽材を設置し、離れた場所から遠隔空気駆動弁操作設備の配管を経由して高圧窒素ガスを供給することにより、容易かつ確実に操作が可能な設計とする。</u></p> <p><u>また、排出経路に設置される隔離弁のうち電動弁については、常設代替交流電源設備又は可搬型代替交流電源設備からの給電により、中央制御室から操作が可能な設</u></p>	<p><u>遠隔手動弁操作設備の操作場所は、原子炉建屋内の原子炉区域外とし、必要に応じて遮蔽材を配置することで、放射線防護を考慮した設計とする。</u></p> <p><u>また、排出経路に設置される隔離弁のうち空気作動弁については、原子炉建屋内の原子炉区域外への遠隔空気駆動弁操作ポンベの設置に加え必要に応じて遮蔽材を設置し、離れた場所から遠隔空気駆動弁操作設備の配管を経由して高圧窒素ガスを供給することにより、容易かつ確実に操作が可能な設計とする。</u></p> <p><u>また、排出経路に設置される隔離弁のうち電動弁については、常設代替交流電源設備又は可搬型代替交流電源設備からの給電により、中央制御室から操作が可能な設</u></p>	<p>【原子炉格納施設】 （基本設計方針） 第2章 個別項目 3. 圧力低減設備その他の安全設備 3.6 圧力逃がし装置 3.6.1 格納容器圧力逃がし装置 (1) 格納容器圧力逃がし装置による原子炉格納容器内の減圧及び除熱 <中略> 格納容器圧力逃がし装置使用時の排出経路に設置される隔離弁に設ける遠隔手動弁操作設備の操作場所は、原子炉建屋内の原子炉区域外とし、リ(3)(iii)b.(b)-⑥一次隔離弁（サブプレッションチェンバ側）の操作を行う原子炉建屋地下1階、一次隔離弁（ドライウエル側）の操作を行う原子炉建屋地上2階には遮蔽体（遠隔手動弁操作設備遮蔽）を設置し、放射線防護を考慮した設計とする。遠隔手動弁操作設備遮蔽は、炉心の著しい損傷時においても、格納容器圧力逃がし装置の隔離弁操作ができるよう、原子炉建屋地下1階においては格納容器圧力逃がし装置入口配管側（原子炉区域外）に の遮蔽厚さを有する設計とする。 <中略> (1) 格納容器圧力逃がし装置による原子炉格納容器内の減圧及び除熱 <中略> また、排出経路に設置される隔離弁のうち空気作動弁については、原子炉建屋内の原子炉区域外に遠隔空気駆動弁操作ポンベを設置することで、離れた場所から遠隔空気駆動弁操作設備（個数3）（原子炉冷却系統施設の設備、原子炉格納施設のうち圧力低減設備その他の安全設備のうち放射性物質濃度制御設備及び可燃性ガス濃度制御設備並びに格納容器再循環設備の設備で兼用）の配管を経由して高圧窒素ガスを供給することにより、容易かつ確実に操作が可能な設計とする。 また、排出経路に設置される隔離弁のうち電動弁については、常設代替交流電源設備又は可搬型代替交流電源設備からの給電により、中央制御室から操作が可能な設</p>	<p>設計及び工事の計画の リ(3) (iii)b.(b)-⑥ は、設置変更許可申請書（本文（五号））の リ(3)(iii)b.(b)-⑥ を具体的に記載しており、整合している。</p>	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八） 該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>計とする。</p> <p>系統内に設けるラプチャーディスクは、格納容器圧力逃がし装置の使用の妨げにならないよう、原子炉格納容器からの排気圧力と比較して十分に低い圧力で破裂する設計とする。</p>	<p>計とする。</p> <p>系統内に設けるラプチャーディスクは、格納容器圧力逃がし装置の使用の妨げにならないよう、原子炉格納容器からの排気圧力と比較して十分に低い圧力で破裂する設計とする。</p>	<p>計とする。</p> <p>系統内に設けるラプチャーディスクは、格納容器圧力逃がし装置の使用の妨げにならないよう、原子炉格納容器からの排気圧力と比較して十分に低い圧力で破裂する設計とする。</p> <p>格納容器圧力逃がし装置は、格納容器圧力逃がし装置使用時にフィルタ装置の水位が上昇した場合の水位調整のため、又は格納容器圧力逃がし装置使用後に水の放射線分解により発生する水素が系統内に蓄積することを防止するため、フィルタ装置内のスクラバ水をドレン移送ポンプによりサブプレッションチェンバへ移送できる設計とする。</p> <p>格納容器圧力逃がし装置は、代替淡水源から、可搬型代替注水ポンプ（A-2 級）、可搬型 Y 型ストレーナ等によりフィルタ装置にスクラバ水を補給できる設計とする。</p> <p>スクラバ水 pH 制御設備用ポンプは、可搬型窒素供給装置により駆動し、水酸化ナトリウム水溶液 [] (原子炉冷却系統施設の設備、原子炉格納施設のうち圧力低減設備その他の安全設備のうち放射性物質濃度制御設備及び可燃性ガス濃度制御設備並びに格納容器再循環設備の設備で兼用) をフィルタ装置に注入し、フィルタ装置内のスクラバ水の pH を [] 以上に維持できる設計とする。</p> <p>可搬型窒素供給装置は、可搬型窒素供給装置用電源設備により給電できる設計とする。</p> <p><中略></p> <p>格納容器圧力逃がし装置の流路として、設計基準対象施設である原子炉格納容器及び配管貫通部を重大事故等対処設備として使用することから、流路に係る機能について重大事故等対処設備としての設計を行う。</p>		

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八） 該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
		<p>【原子炉冷却系統施設（蒸気タービンを除く。）】 （基本設計方針）</p> <p>第2章 個別項目</p> <p>4. 残留熱除去設備</p> <p>4.2 格納容器圧力逃がし装置による原子炉格納容器内の減圧及び除熱</p> <p><中略></p> <p><u>また、排出経路に設置される隔離弁のうち空気作動弁については、原子炉建屋内の原子炉区域外に遠隔空気駆動弁操作ポンベを設置することで、離れた場所から遠隔空気駆動弁操作設備（個数3）（原子炉格納施設の設備を原子炉冷却系統施設の設備として兼用）の配管を經由して高圧窒素ガスを供給することにより、容易かつ確実に操作が可能な設計とする。</u></p> <p><u>また、排出経路に設置される隔離弁のうち電動弁については、常設代替交流電源設備又は可搬型代替交流電源設備からの給電により、中央制御室から操作が可能な設計とする。</u></p> <p><u>系統内に設けるラプチャーディスクは、格納容器圧力逃がし装置の使用の妨げにならないよう、原子炉格納容器からの排気圧力と比較して十分に低い圧力で破裂する設計とする。</u></p> <p>格納容器圧力逃がし装置は、格納容器圧力逃がし装置使用時にフィルタ装置の水位が上昇した場合の水位調整のため、又は格納容器圧力逃がし装置使用後に水の放射線分解により発生する水素が系統内に蓄積することを防止するため、フィルタ装置内のスクラバ水をドレン移送ポンプによりサブプレッションチェンバへ移送できる設計とする。</p> <p>格納容器圧力逃がし装置は、代替淡水源から、可搬型代替注水ポンプ（A-2級）（「7号機設備，6,7号機共用」（以下同じ。）、可搬型Y型ストレーナ（7号機設備，6,7号機共用）等によりフィルタ装置にスクラバ水を補給できる設計とする。</p> <p>スクラバ水 pH 制御設備用ポンプ（7号機設備，6,7号機共用）は、可搬型窒素供給装置（「7号機設備，6,7号機共用」（以下同じ。）により駆動し、水酸化ナトリウ</p>		

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八） 該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p><u>格納容器圧力逃がし装置のフィルタ装置等の周囲には遮蔽体を設け、格納容器圧力逃がし装置の使用時に本系統内に蓄積される放射性物質から放出される放射線から作業員を防護する設計とする。</u></p> <p><u>代替循環冷却系及び格納容器圧力逃がし装置は、共通要因によって同時に機能を損なわないよう、原理の異なる冷却及び原子炉格納容器内の減圧手段を用いることで多様性を有する設計とする。</u></p>	<p><u>格納容器圧力逃がし装置のフィルタ装置等の周囲には遮蔽体を設け、格納容器圧力逃がし装置の使用時に本系統内に蓄積される放射性物質から放出される放射線から作業員を防護する設計とする。</u></p> <p>9.3.2.1 多様性、位置的分散 <中略></p> <p><u>代替循環冷却系及び格納容器圧力逃がし装置は、共通要因によって同時に機能を損なわないよう、原理の異なる冷却及び原子炉格納容器内の減圧手段を用いることで多様性を有する設計とする。</u></p>	<p>ム水溶液（7号機設備，6,7号機共用） （原子炉格納施設の設備を原子炉冷却系統施設の設備として兼用）をフィルタ装置に注入し、フィルタ装置内のスクラバ水のpHを 以上に維持できる設計とする。</p> <p>可搬型窒素供給装置は、可搬型窒素供給装置用電源設備により給電できる設計とする。</p> <p>格納容器圧力逃がし装置の流路として、設計基準対象施設である原子炉格納容器及び配管貫通部を重大事故等対処設備として使用することから、流路に係る機能について重大事故等対処設備としての設計を行う。</p> <p>【放射線管理施設】 （基本設計方針） 第2章 個別項目 2. 換気設備，生体遮蔽装置 2.3 生体遮蔽装置 <中略></p> <p><u>格納容器圧力逃がし装置は、原子炉建屋近傍の屋外に設置し、格納容器圧力逃がし装置使用後に高線量となるフィルタ装置等の周囲には遮蔽体（フィルタベント遮蔽壁，配管遮蔽）を設け、格納容器圧力逃がし装置の使用時に本系統内に蓄積される放射性物質から放出される放射線から作業員を防護する設計とするとともに、中央制御室内の居住性を確保できる設計とする。</u></p> <p><中略></p> <p>【原子炉格納施設】 （基本設計方針） 第2章 個別項目 3. 圧力低減設備その他の安全設備 3.2 原子炉格納容器安全設備 3.2.4 代替循環冷却系による原子炉格納容器内の減圧及び除熱 (1) 多様性，位置的分散及び独立性</p> <p><u>代替循環冷却系及び格納容器圧力逃がし装置は、共通要因によって同時に機能を損なわないよう、原理の異なる冷却手段及び原子炉格納容器内の減圧手段を用いることで多様性を有する設計とする。</u></p>		

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八） 該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>代替循環冷却系及び格納容器圧力逃がし装置は、<u>リ(3)(iii)b.(b)-⑦</u>非常用交流電源設備に対して多様性を有する常設代替交流電源設備又は可搬型代替交流電源設備からの給電により駆動できる設計とする。また、格納容器圧力逃がし装置は、<u>人力により排出経路に設置される隔離弁を操作できる設計とすることで、代替循環冷却系に対して駆動源の多様性を有する設計とする。</u></p>	<p>代替循環冷却系及び格納容器圧力逃がし装置は、<u>非常用交流電源設備に対して多様性を有する常設代替交流電源設備又は可搬型代替交流電源設備からの給電により駆動できる設計とする。また、格納容器圧力逃がし装置は、人力により排出経路に設置される隔離弁を操作できる設計とすることで、代替循環冷却系に対して駆動源の多様性を有する設計とする。</u></p> <p><中略></p>	<p>代替循環冷却系は、<u>リ(3)(iii)b.(b)-⑦a</u>非常用ディーゼル発電設備に対して多様性を有する常設代替交流電源設備又は可搬型代替交流電源設備からの給電により駆動できる設計とする。また、格納容器圧力逃がし装置は、<u>非常用ディーゼル発電設備に対して多様性を有する常設代替交流電源設備又は可搬型代替交流電源設備からの給電により駆動できる設計とすることで、代替循環冷却系に対して駆動源の多様性を有する設計とする。</u></p> <p><中略></p> <p>3.6 圧力逃がし装置</p> <p>3.6.1 格納容器圧力逃がし装置</p> <p>(1) 格納容器圧力逃がし装置による原子炉格納容器内の減圧及び除熱</p> <p>a. 多様性、位置的分散及び独立性</p> <p><u>代替循環冷却系及び格納容器圧力逃がし装置は、共通要因によって同時に機能を損なわないよう、原理の異なる冷却手段及び原子炉格納容器内の減圧手段を用いることで多様性を有する設計とする。</u></p> <p>代替循環冷却系は、<u>リ(3)(iii)b.(b)-⑦b</u>非常用ディーゼル発電設備に対して多様性を有する常設代替交流電源設備又は可搬型代替交流電源設備からの給電により駆動できる設計とする。また、格納容器圧力逃がし装置は、<u>非常用ディーゼル発電設備に対して多様性を有する常設代替交流電源設備又は可搬型代替交流電源設備からの給電により駆動できる設計とする。格納容器圧力逃がし装置は、人力により排出経路に設置される隔離弁を操作できる設計とすることで、代替循環冷却系に対して駆動源の多様性を有する設計とする。</u></p> <p><中略></p>	<p>設計及び工事の計画の<u>リ(3)(iii)b.(b)-⑦a</u>及び<u>リ(3)(iii)b.(b)-⑦b</u>は、設置変更許可申請書（本文（五号））の<u>リ(3)(iii)b.(b)-⑦</u>と同義であり、整合している。</p>	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八） 該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p><u>代替循環冷却系に使用する代替原子炉補機冷却系の熱交換器ユニット及び大容量送水車（熱交換器ユニット用）は、格納容器圧力逃がし装置から離れた屋外に分散して保管することで、格納容器圧力逃がし装置と共通要因によって同時に機能を損なわないよう位置的分散を図る設計とする。</u></p> <p><u>熱交換器ユニットの接続口は、共通要因によって接続できなくなることを防止するため、互いに異なる複数箇所</u>に設置し、かつ格納容器圧力逃がし装置との離隔を考慮した設計とする。</p> <p><u>代替循環冷却系の復水移送ポンプは廃棄物処理建屋内に、残留熱除去系熱交換器及びサプレッション・チェンバは原子炉建屋内に設置し、格納容器圧力逃がし装置のフィルタ装置及びよう素フィルタ並びにラプチャーディスクは原子炉建屋近傍の屋外に設置することで共通要因によって同時に機能を損なわないよう位置的分散を図る設計とする。</u></p> <p><u>代替循環冷却系と格納容器圧力逃がし装置は、共通要因によって同時に機能を損なわないよう、流路を分離す</u></p>	<p><u>代替循環冷却系に使用する代替原子炉補機冷却系の熱交換器ユニット及び大容量送水車（熱交換器ユニット用）は、格納容器圧力逃がし装置から離れた屋外に分散して保管することで、格納容器圧力逃がし装置と共通要因によって同時に機能を損なわないよう位置的分散を図る設計とする。</u></p> <p><u>熱交換器ユニットの接続口は、共通要因によって接続できなくなることを防止するため、互いに異なる複数箇所</u>に設置し、かつ格納容器圧力逃がし装置との離隔を考慮した設計とする。</p> <p><u>代替循環冷却系の復水移送ポンプは廃棄物処理建屋内に、残留熱除去系熱交換器及びサプレッション・チェンバは原子炉建屋内に設置し、格納容器圧力逃がし装置のフィルタ装置及びよう素フィルタ並びにラプチャーディスクは原子炉建屋近傍の屋外に設置することで共通要因によって同時に機能を損なわないよう位置的分散を図る設計とする。</u></p> <p><u>代替循環冷却系と格納容器圧力逃がし装置は、共通要因によって同時に機能を損なわないよう、流路を分離す</u></p>	<p>【原子炉冷却系統施設（蒸気タービンを除く。）】 （基本設計方針）</p> <p>第2章 個別項目</p> <p>7. 原子炉補機冷却設備</p> <p>7.2 代替原子炉補機冷却系の機能</p> <p>7.2.3 多様性、位置的分散及び独立性</p> <p><中略></p> <p><u>代替循環冷却系に使用する代替原子炉補機冷却系の熱交換器ユニット及び大容量送水車（熱交換器ユニット用）は、格納容器圧力逃がし装置から離れた屋外に分散して保管することで、格納容器圧力逃がし装置と共通要因によって同時に機能を損なわないよう位置的分散を図る設計とする。</u></p> <p><u>熱交換器ユニットの接続口は、共通要因によって接続できなくなることを防止するため、互いに異なる複数箇所</u>に設置し、かつ格納容器圧力逃がし装置との離隔を考慮した設計とする。</p> <p><中略></p> <p>【原子炉格納施設】 （基本設計方針）</p> <p>第2章 個別項目</p> <p>3. 圧力低減設備その他の安全設備</p> <p>3.6 圧力逃がし装置</p> <p>3.6.1 格納容器圧力逃がし装置</p> <p>(1) 格納容器圧力逃がし装置による原子炉格納容器内の減圧及び除熱</p> <p>a. 多様性、位置的分散及び独立性</p> <p><中略></p> <p><u>代替循環冷却系の復水移送ポンプは廃棄物処理建屋内に、残留熱除去系熱交換器及びサプレッションチェンバは原子炉建屋内に設置し、格納容器圧力逃がし装置のフィルタ装置、よう素フィルタ及びラプチャーディスクは原子炉建屋近傍の屋外に設置することで共通要因によって同時に機能を損なわないよう位置的分散を図る設計とする。</u></p> <p><u>代替循環冷却系と格納容器圧力逃がし装置は、共通要因によって同時に機能を損なわないよう、流路を分離す</u></p>		

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八） 該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p><u>ることで独立性を有する設計とする。</u> <u>これらの多様性及び流路の独立性並びに位置的分散によって、代替循環冷却系と格納容器圧力逃がし装置は、互いに重大事故等対処設備として、可能な限りの独立性を有する設計とする。</u></p> <p>電源設備の多様性、位置的分散については、ヌ、(2)、(iv) 代替電源設備に記載する。</p>	<p><u>ることで独立性を有する設計とする。</u> <u>これらの多様性及び流路の独立性並びに位置的分散によって、代替循環冷却系と格納容器圧力逃がし装置は、互いに重大事故等対処設備として、可能な限りの独立性を有する設計とする。</u></p> <p>電源設備の多様性、位置的分散については「10.2 代替電源設備」に記載する。</p>	<p><u>ることで独立性を有する設計とする。</u> <u>これらの多様性及び流路の独立性並びに位置的分散によって、代替循環冷却系と格納容器圧力逃がし装置は、互いに重大事故等対処設備として、可能な限りの独立性を有する設計とする。</u></p> <p>3.2 原子炉格納容器安全設備 3.2.4 代替循環冷却系による原子炉格納容器内の減圧及び除熱 (1) 多様性、位置的分散及び独立性 <中略> <u>代替循環冷却系の復水移送ポンプは廃棄物処理建屋内に、残留熱除去系熱交換器及びサブプレッションチェンバは原子炉建屋内に設置し、格納容器圧力逃がし装置のフィルタ装置、よう素フィルタ及びラプチャーディスクは原子炉建屋近傍の屋外に設置することで共通要因によって同時に機能を損なわないよう位置的分散を図る設計とする。</u> <u>代替循環冷却系と格納容器圧力逃がし装置は、共通要因によって同時に機能を損なわないよう、流路を分離することで独立性を有する設計とする。</u> <u>これらの多様性及び流路の独立性並びに位置的分散によって、代替循環冷却系と格納容器圧力逃がし装置は、互いに重大事故等対処設備として、可能な限りの独立性を有する設計とする。</u></p>	<p>設置変更許可申請書（本文（五号））「ヌ、(2)、(iv) 代替電源設備」に示す。</p>	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八） 該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>本文（十号） <u>格納容器圧力逃がし装置</u> <u>リ(3)(iii)b.(b)-⑧</u>を用いた場合の環境中への総放出量の評価においては、原子炉内に内蔵されている核分裂生成物が事象進展に応じた割合で、原子炉格納容器内に放出され、サブプレッション・チェンバ又はドライウエルのベントラインを通じて格納容器圧力逃がし装置に至るものとする。格納容器圧力逃がし装置に到達した核分裂生成物は、格納容器圧力逃がし装置内のフィルタによって除去された後、格納容器圧力逃がし装置排気管から放出されるものとする。</p> <p>・記載箇所 ハ(2)(ii)c.(a)(a-2)(a-2-10)(a-2-10-2)</p>		<p>3.4 可燃性ガス濃度制御設備</p> <p>3.4.4 格納容器圧力逃がし装置による原子炉格納容器内の水素ガス及び酸素ガスの排出</p> <p><中略></p> <p>原子炉格納容器内に滞留する水素ガス及び酸素ガスを大気へ排出するための重大事故等対処設備として使用する<u>格納容器圧力逃がし装置は</u>、フィルタ装置（フィルタ容器、スクラバ水、金属フィルタ）、ドレンタンク、よう素フィルタ、ラプチャーディスク、配管・弁類、計測制御装置等で構成し、炉心の著しい損傷が発生した場合において、<u>リ(3)(iii)b.(b)-⑧a</u>原子炉格納容器内雰囲気ガスを不活性ガス系を経由して、フィルタ装置及びよう素フィルタへ導き、放射性物質を低減させた後に原子炉建屋屋上に設ける放出口から排出（系統設計流量31.6kg/s（2Pdにおいて））することで、排気中に含まれる放射性物質の環境への排出を低減しつつ、ジルコニウム-水反応、水の放射線分解等により発生する原子炉格納容器内の水素ガス及び酸素ガスを大気に排出できる設計とする。</p> <p>フィルタ装置は、排気中に含まれる粒子状放射性物質及びガス状の無機よう素を除去し、よう素フィルタは、排気中に含まれる有機よう素を除去できる設計とする。</p> <p><中略></p> <p>3.6 圧力逃がし装置</p> <p>3.6.1 格納容器圧力逃がし装置</p> <p>(1) 格納容器圧力逃がし装置による原子炉格納容器内の減圧及び除熱</p> <p><中略></p> <p><u>格納容器圧力逃がし装置は</u>、フィルタ装置（フィルタ容器、スクラバ水、金属フィルタ）、よう素フィルタ、ドレンタンク、ラプチャーディスク、配管・弁類、計測制御装置等で構成し、<u>リ(3)(iii)b.(b)-⑧b</u>原子炉格納容器内雰囲気ガスを不活性ガス系を経由して、フィルタ装置及びよう素フィルタへ導き、放射性物質を低減させた後に原子炉建屋屋上に設ける放出口から排出（系統設計流量31.6kg/s（2Pdにおいて））することで、排気中に含まれる放射性物質の環境への放出量を低減しつつ、</p>	<p>設計及び工事の計画の<u>リ(3)(iii)b.(b)-⑧a</u>及び<u>リ(3)(iii)b.(b)-⑧b</u>は、設置変更許可申請書（本文（十号））の<u>リ(3)(iii)b.(b)-⑧</u>を具体的に記載しており、整合している。</p>	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八） 該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
		<p>原子炉格納容器内の圧力及び温度を低下できる設計とする。</p> <p>フィルタ装置は、排気中に含まれる粒子状放射性物質及びガス状の無機よう素を除去し、よう素フィルタは、排気中に含まれる有機よう素を除去できる設計とする。</p> <p><中略></p> <p>格納容器圧力逃がし装置はサブプレッションチェンバ及びドライウエルと接続し、いずれからも排気できる設計とする。サブプレッションチェンバ側からの排気ではサブプレッションチェンバの水面からの高さを確保し、ドライウエル側からの排気では、ダイヤフラムフロア面からの高さを確保するとともに有効燃料棒頂部よりも高い位置に接続箇所を設けることで長期的にも熔融炉心及び水没の悪影響を受けない設計とする。</p> <p><中略></p>		

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八） 該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>[常設重大事故等対処設備]</p> <p>代替循環冷却系 復水移送ポンプ リ(3)(iii)b.-③(ホ、(3)、(ii)、b...他と兼用)...</p>	<p>第9.3-1表 原子炉格納容器の過圧破損を防止するための設備の主要機器仕様</p> <p>(1) 代替循環冷却系 a. <u>復水移送ポンプ</u> 第5.6-1表 原子炉冷却材圧力バウンダリ低圧時に発電用原子炉を冷却するための設備の主要機器仕様に記載する。</p>	<p>【原子炉格納施設】 (要目表) 3 圧力低減設備その他の安全設備に係る次の事項 (6.6) 代替循環冷却系 ハ ポンプの名称、種類、容量、揚程又は吐出圧力、最高使用圧力、最高使用温度、主要寸法、材料、個数及び取付箇所並びに原動機の種類、出力、個数及び取付箇所（常設及び可搬型の別に記載すること。）</p> <p>・常設 以下の設備は、既存の原子炉冷却系統施設のうち残留熱除去設備（残留熱除去系）であり、圧力低減設備その他の安全設備のうち原子炉格納容器安全設備（代替循環冷却系）として本工事計画で兼用とする。 残留熱除去系ポンプ*</p> <p>注記*：残留熱除去系ポンプ(B)が対象。 リ(3)(iii)b.-③</p> <p>以下の設備は、<u>既存の原子炉冷却系統施設のうち原子炉冷却材補給設備（補給水系）であり、圧力低減設備その他の安全設備のうち原子炉格納容器安全設備（代替循環冷却系）として本工事計画で兼用とする。</u> <u>復水移送ポンプ</u></p>	<p>設計及び工事の計画の <u>リ(3)(iii)b.-③</u> は、設置変更許可申請書（本文（五号））の <u>リ(3)(iii)b.-③</u> と同義であり、整合している。</p>	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八） 該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考																																																																									
<p>本文（十号）</p> <p>リ(3)(iii)b.-④代替循環冷却系の循環流量は、全体で約 190m³/h とし、ドライウエルへ約 140m³/h、原子炉格納容器下部へ約 50m³/h にて流量分配し、それぞれ連続スプレー及び連続注水を実施する。</p> <p>・記載箇所 ハ(2)(ii)c.(a)(a-1)(a-1-9), ハ(2)(ii)c.(b)(b-10)</p>		<p>【原子炉冷却系統施設（蒸気タービンを除く。）】 （要目表）</p> <p>7 原子炉冷却材補給設備に係る次の事項 7.1 補給水系 (1) ポンプの名称、種類、容量、揚程又は吐出圧力、最高使用圧力、最高使用温度、主要寸法、材料、個数及び取付箇所並びに原動機の種類、出力、個数及び取付箇所</p> <p>a. 復水移送ポンプ</p> <table border="1" data-bbox="1635 527 2629 1696"> <thead> <tr> <th colspan="2">名称</th> <th>変更前</th> <th>変更後</th> </tr> <tr> <th colspan="2">種 類</th> <th>復水移送ポンプ*1</th> <th>復水移送ポンプ*2</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>種</td> <td>類</td> <td>うず巻形</td> <td>変更なし</td> </tr> <tr> <td>容</td> <td>量*3</td> <td>m³/h/個 □ 以上*4(125*5)</td> <td>リ(3)(iii)b.-④ □ 以上*6、*7、*8 □ 以上*6、*9 □ 以上*6、*10、*11 □ 以上*6、*12、*13</td> </tr> <tr> <td>揚</td> <td>程*14</td> <td>m □ 以上*4(85*5)</td> <td>変更なし □ 以上*6、*7 □ 以上*6、*9 □ 以上*6、*10 □ 以上*6、*12</td> </tr> <tr> <td>最 高 使 用 圧 力</td> <td>MPa</td> <td>1.37*4</td> <td>変更なし 1.70*6</td> </tr> <tr> <td>最 高 使 用 温 度</td> <td>℃</td> <td>66*4</td> <td>変更なし 85*6</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">主 要 寸 法</td> <td>吸 込 内 径</td> <td>mm</td> <td>150*4、*5</td> </tr> <tr> <td>吐 出 内 径</td> <td>mm</td> <td>100*4、*5</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">法</td> <td>ケーシング厚さ</td> <td>mm</td> <td>□ (14.0*5) *4</td> </tr> <tr> <td>た 横</td> <td>mm</td> <td>620*4、*5</td> </tr> <tr> <td>高 さ</td> <td>mm</td> <td>770*4、*5 725*5、*15</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">材 料</td> <td>ケーシング</td> <td>—</td> <td>□ *16</td> </tr> <tr> <td>ケーシングカバー</td> <td>—</td> <td>□ *4</td> </tr> <tr> <td>個 数</td> <td>—</td> <td>3</td> <td rowspan="2">変更なし</td> </tr> <tr> <td>取 付 所</td> <td>系 統 名</td> <td>補給水系*4</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">原 動 機</td> <td>種 類</td> <td>—</td> <td>誘導電動機</td> </tr> <tr> <td>出 力</td> <td>kW/個</td> <td>55</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">取 付 所</td> <td>個 数</td> <td>—</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>取 付 箇 所</td> <td>—</td> <td>ポンプと同じ*4</td> </tr> </tbody> </table> <p>注記*1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「(1)復水移送ポンプ」と記載。 *2：非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備（低圧代替注水系）及び原子炉格納施設のうち圧力低減設備その他の安全設備のうち原子炉格納容器安全設備（格納容器下部注水系、代替格納容器スプレー冷却系、代替循環冷却系、低圧代替注水系）と兼用。 *3：記載の適正化を行う。既工事計画書には「定格容量」と記載。 *4：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。</p>	名称		変更前	変更後	種 類		復水移送ポンプ*1	復水移送ポンプ*2	種	類	うず巻形	変更なし	容	量*3	m ³ /h/個 □ 以上*4(125*5)	リ(3)(iii)b.-④ □ 以上*6、*7、*8 □ 以上*6、*9 □ 以上*6、*10、*11 □ 以上*6、*12、*13	揚	程*14	m □ 以上*4(85*5)	変更なし □ 以上*6、*7 □ 以上*6、*9 □ 以上*6、*10 □ 以上*6、*12	最 高 使 用 圧 力	MPa	1.37*4	変更なし 1.70*6	最 高 使 用 温 度	℃	66*4	変更なし 85*6	主 要 寸 法	吸 込 内 径	mm	150*4、*5	吐 出 内 径	mm	100*4、*5	法	ケーシング厚さ	mm	□ (14.0*5) *4	た 横	mm	620*4、*5	高 さ	mm	770*4、*5 725*5、*15	材 料	ケーシング	—	□ *16	ケーシングカバー	—	□ *4	個 数	—	3	変更なし	取 付 所	系 統 名	補給水系*4	原 動 機	種 類	—	誘導電動機	出 力	kW/個	55	取 付 所	個 数	—	3	取 付 箇 所	—	ポンプと同じ*4		
名称		変更前	変更後																																																																										
種 類		復水移送ポンプ*1	復水移送ポンプ*2																																																																										
種	類	うず巻形	変更なし																																																																										
容	量*3	m ³ /h/個 □ 以上*4(125*5)	リ(3)(iii)b.-④ □ 以上*6、*7、*8 □ 以上*6、*9 □ 以上*6、*10、*11 □ 以上*6、*12、*13																																																																										
揚	程*14	m □ 以上*4(85*5)	変更なし □ 以上*6、*7 □ 以上*6、*9 □ 以上*6、*10 □ 以上*6、*12																																																																										
最 高 使 用 圧 力	MPa	1.37*4	変更なし 1.70*6																																																																										
最 高 使 用 温 度	℃	66*4	変更なし 85*6																																																																										
主 要 寸 法	吸 込 内 径	mm	150*4、*5																																																																										
	吐 出 内 径	mm	100*4、*5																																																																										
法	ケーシング厚さ	mm	□ (14.0*5) *4																																																																										
	た 横	mm	620*4、*5																																																																										
	高 さ	mm	770*4、*5 725*5、*15																																																																										
材 料	ケーシング	—	□ *16																																																																										
	ケーシングカバー	—	□ *4																																																																										
個 数	—	3	変更なし																																																																										
取 付 所	系 統 名	補給水系*4																																																																											
原 動 機	種 類	—	誘導電動機																																																																										
	出 力	kW/個	55																																																																										
取 付 所	個 数	—	3																																																																										
	取 付 箇 所	—	ポンプと同じ*4																																																																										

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八） 該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>残留熱除去系熱交換器 リ(3)(iii)b.-⑤ (ホ, (4), (i), b. ...と兼用)... 基数 リ(3)(iii)b.-⑥]1 伝熱容量 リ(3)(iii)b.-⑦約8.1MW</p>	<p>b. 残留熱除去系熱交換器 兼用する設備は以下のとおり... ∴残留熱除去系 基数 1 伝熱容量 約8.1MW</p>	<p>【原子炉格納施設】 (要目表) 3 圧力低減設備その他の安全設備に係る次の事項 (6.6) 代替循環冷却系 ロ 熱交換器の名称, 種類, 容量, 最高使用圧力 (管側及び胴側の別に記載すること。), 最高使用温度 (管側及び胴側の別に記載すること。), 伝熱面積, 主要寸法, 材料, 個数及び取付箇所 (常設及び可搬型の別に記載すること。)</p> <p>・常設 リ(3)(iii)b.-⑤ 以下の設備は, 既存の原子炉冷却系統施設のうち残留熱除去設備 (残留熱除去系) であり, 圧力低減設備その他の安全設備のうち原子炉格納容器安全設備 (代替循環冷却系) として本工事計画で兼用とする。 <u>残留熱除去系熱交換器*</u></p>	<p>整合性 ・設置変更許可申請書（本文（十号））の リ(3)(iii)b.-④ は, 設計及び工事の計画 リ(3)(iii)b.-④ の容量 \square m³/h×2 台と同義であり, 整合している。尚, 分配については, 設計及び工事の計画の「VI-1-1-5-3 設備別記載事項の設定根拠に関する説明書 (原子炉冷却系統施設)」の記載と同義であり, 整合している。</p>	<p>設計及び工事の計画 該当事項</p> <p>*5 : 公称値を示す。 *6 : 重大事故等時における使用時の値。 *7 : 非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備 (低圧代替注水系) 及び原子炉格納施設のうち圧力低減設備その他の安全設備のうち原子炉格納容器安全設備 (低圧代替注水系) で使用する場合の値。 *8 : 原子炉圧力容器への注水流量を示す。 *9 : 原子炉格納施設のうち圧力低減設備その他の安全設備のうち原子炉格納容器安全設備 (代替循環冷却系) で使用する場合の値。 *10 : 原子炉格納施設のうち圧力低減設備その他の安全設備のうち原子炉格納容器安全設備 (代替格納容器スプレイ冷却系) で使用する場合の値。 *11 : 原子炉格納容器へのスプレイ流量を示す。 *12 : 原子炉格納施設のうち圧力低減設備その他の安全設備のうち原子炉格納容器安全設備 (格納容器下部注水系) で使用する場合の値。 *13 : 原子炉格納容器下部への注水流量を示す。 *14 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「定格揚程」と記載。 *15 : 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は, 平成4年10月13日付け4資庁第8732号にて認可された工事計画の第5-3-4図「復水移送ポンプ構造図」による。 *16 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「\square」と記載。記載内容は, 設計図書による。</p>

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八） 該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考																																																																																																																			
		<p>【原子炉冷却系統施設（蒸気タービンを除く。）】 （要目表）</p> <p>5 残留熱除去設備に係る次の事項 5.1 残留熱除去系 (2) 熱交換器の名称、種類、容量、最高使用圧力（管側及び胴側の別に記載すること。）、最高使用温度（管側及び胴側の別に記載すること。）、伝熱面積、主要寸法、材料、個数及び取付箇所（常設及び可搬型の別に記載すること。）</p> <p>・常設 a. 残留熱除去系熱交換器</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="2">名 称</th> <th>変 更 前</th> <th>変 更 後</th> </tr> <tr> <th colspan="2"></th> <th>残留熱除去系熱交換器*1</th> <th>残留熱除去系熱交換器*2</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>種 類</td> <td>—</td> <td colspan="2">横置U字管式</td> </tr> <tr> <td>容 量（設計熱交換量）</td> <td>MW/個</td> <td>□以上*3(8.15*4. *5)</td> <td>ㄱ (3) (iii) b. - ㉞</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">管 側</td> <td>最 高 使 用 圧 力</td> <td>MPa</td> <td>3.43*4</td> </tr> <tr> <td>最 高 使 用 温 度</td> <td>℃</td> <td>182</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">胴 側</td> <td>最 高 使 用 圧 力</td> <td>MPa</td> <td>1.37*4</td> </tr> <tr> <td>最 高 使 用 温 度</td> <td>℃</td> <td>70</td> </tr> <tr> <td>伝 熱 面 積</td> <td>m²/個</td> <td>□以上*3(□*5)</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="7">主 要 寸 法</td> <td rowspan="7">管 側</td> <td>水 室 内 径</td> <td>mm</td> <td>1600*5</td> </tr> <tr> <td>鏡 板 厚 さ*7</td> <td>mm</td> <td>□*8(45.0*5)</td> </tr> <tr> <td>鏡板の形状に係る寸法</td> <td>mm</td> <td>800*5. *8(鏡板の内半径)</td> </tr> <tr> <td>管台外径（管側入口）</td> <td>mm</td> <td>318.5*5. *8</td> </tr> <tr> <td>管台厚さ（管側入口）</td> <td>mm</td> <td>□(10.3*5) *8</td> </tr> <tr> <td>管台外径（管側出口）</td> <td>mm</td> <td>318.5*5. *8</td> </tr> <tr> <td>管台厚さ（管側出口）</td> <td>mm</td> <td>□(10.3*5) *8</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th>変 更 前</th> <th>変 更 後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="10">主 要 寸 法</td> <td rowspan="10">胴 側</td> <td>胴 内 径*9</td> <td>mm</td> <td>1600*5</td> </tr> <tr> <td>胴 板 厚 さ*10</td> <td>mm</td> <td>□*8(16.0*5)</td> </tr> <tr> <td>鏡 板 厚 さ*11</td> <td>mm</td> <td>□*8(16.0*5)</td> </tr> <tr> <td>鏡板の形状に係る寸法</td> <td>mm</td> <td>1600*5. *8(鏡板の内面における長径) 400*5. *8(鏡板の内面における短径の2分の1)</td> </tr> <tr> <td>管台外径（胴側入口）</td> <td>mm</td> <td>406.4*5. *8</td> </tr> <tr> <td>管台厚さ（胴側入口）</td> <td>mm</td> <td>□(9.5*5) *8</td> </tr> <tr> <td>管台外径（胴側出口）</td> <td>mm</td> <td>406.4*5. *8</td> </tr> <tr> <td>管台厚さ（胴側出口）</td> <td>mm</td> <td>□(9.5*5) *8</td> </tr> <tr> <td>管 板 厚 さ</td> <td>mm</td> <td>□*8(191.0*5. *12)</td> </tr> <tr> <td>伝 熱 管 外 径</td> <td>mm</td> <td>□*5</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">材 料</td> <td rowspan="3">管 側</td> <td>鏡 板</td> <td>—</td> <td>SGV49</td> </tr> <tr> <td>胴 板</td> <td>—</td> <td>SGV49</td> </tr> <tr> <td>鏡 板</td> <td>—</td> <td>SGV49</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">個</td> <td>管 板</td> <td>—</td> <td>SGV49</td> </tr> <tr> <td>伝 熱 管</td> <td>—</td> <td>SUS316LTB</td> </tr> <tr> <td>個 数</td> <td>—</td> <td></td> <td>3</td> </tr> </tbody> </table>	名 称		変 更 前	変 更 後			残留熱除去系熱交換器*1	残留熱除去系熱交換器*2	種 類	—	横置U字管式		容 量（設計熱交換量）	MW/個	□以上*3(8.15*4. *5)	ㄱ (3) (iii) b. - ㉞	管 側	最 高 使 用 圧 力	MPa	3.43*4	最 高 使 用 温 度	℃	182	胴 側	最 高 使 用 圧 力	MPa	1.37*4	最 高 使 用 温 度	℃	70	伝 熱 面 積	m ² /個	□以上*3(□*5)		主 要 寸 法	管 側	水 室 内 径	mm	1600*5	鏡 板 厚 さ*7	mm	□*8(45.0*5)	鏡板の形状に係る寸法	mm	800*5. *8(鏡板の内半径)	管台外径（管側入口）	mm	318.5*5. *8	管台厚さ（管側入口）	mm	□(10.3*5) *8	管台外径（管側出口）	mm	318.5*5. *8	管台厚さ（管側出口）	mm	□(10.3*5) *8			変 更 前	変 更 後	主 要 寸 法	胴 側	胴 内 径*9	mm	1600*5	胴 板 厚 さ*10	mm	□*8(16.0*5)	鏡 板 厚 さ*11	mm	□*8(16.0*5)	鏡板の形状に係る寸法	mm	1600*5. *8(鏡板の内面における長径) 400*5. *8(鏡板の内面における短径の2分の1)	管台外径（胴側入口）	mm	406.4*5. *8	管台厚さ（胴側入口）	mm	□(9.5*5) *8	管台外径（胴側出口）	mm	406.4*5. *8	管台厚さ（胴側出口）	mm	□(9.5*5) *8	管 板 厚 さ	mm	□*8(191.0*5. *12)	伝 熱 管 外 径	mm	□*5	材 料	管 側	鏡 板	—	SGV49	胴 板	—	SGV49	鏡 板	—	SGV49	個	管 板	—	SGV49	伝 熱 管	—	SUS316LTB	個 数	—		3		
名 称		変 更 前	変 更 後																																																																																																																				
		残留熱除去系熱交換器*1	残留熱除去系熱交換器*2																																																																																																																				
種 類	—	横置U字管式																																																																																																																					
容 量（設計熱交換量）	MW/個	□以上*3(8.15*4. *5)	ㄱ (3) (iii) b. - ㉞																																																																																																																				
管 側	最 高 使 用 圧 力	MPa	3.43*4																																																																																																																				
	最 高 使 用 温 度	℃	182																																																																																																																				
胴 側	最 高 使 用 圧 力	MPa	1.37*4																																																																																																																				
	最 高 使 用 温 度	℃	70																																																																																																																				
伝 熱 面 積	m ² /個	□以上*3(□*5)																																																																																																																					
主 要 寸 法	管 側	水 室 内 径	mm	1600*5																																																																																																																			
		鏡 板 厚 さ*7	mm	□*8(45.0*5)																																																																																																																			
		鏡板の形状に係る寸法	mm	800*5. *8(鏡板の内半径)																																																																																																																			
		管台外径（管側入口）	mm	318.5*5. *8																																																																																																																			
		管台厚さ（管側入口）	mm	□(10.3*5) *8																																																																																																																			
		管台外径（管側出口）	mm	318.5*5. *8																																																																																																																			
		管台厚さ（管側出口）	mm	□(10.3*5) *8																																																																																																																			
		変 更 前	変 更 後																																																																																																																				
主 要 寸 法	胴 側	胴 内 径*9	mm	1600*5																																																																																																																			
		胴 板 厚 さ*10	mm	□*8(16.0*5)																																																																																																																			
		鏡 板 厚 さ*11	mm	□*8(16.0*5)																																																																																																																			
		鏡板の形状に係る寸法	mm	1600*5. *8(鏡板の内面における長径) 400*5. *8(鏡板の内面における短径の2分の1)																																																																																																																			
		管台外径（胴側入口）	mm	406.4*5. *8																																																																																																																			
		管台厚さ（胴側入口）	mm	□(9.5*5) *8																																																																																																																			
		管台外径（胴側出口）	mm	406.4*5. *8																																																																																																																			
		管台厚さ（胴側出口）	mm	□(9.5*5) *8																																																																																																																			
		管 板 厚 さ	mm	□*8(191.0*5. *12)																																																																																																																			
		伝 熱 管 外 径	mm	□*5																																																																																																																			
材 料	管 側	鏡 板	—	SGV49																																																																																																																			
		胴 板	—	SGV49																																																																																																																			
		鏡 板	—	SGV49																																																																																																																			
個	管 板	—	SGV49																																																																																																																				
	伝 熱 管	—	SUS316LTB																																																																																																																				
個 数	—		3																																																																																																																				

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八） 該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考																														
		<table border="1" data-bbox="1626 275 2819 535"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th colspan="3">変更前</th> <th>変更後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">取 付 箇 所</td> <td>系 統 名</td> <td>—</td> <td>残留熱除去系熱交換器 A 残留熱除去系 A 系</td> <td>残留熱除去系熱交換器 B 残留熱除去系 B 系</td> <td>残留熱除去系熱交換器 C 残留熱除去系 C 系</td> <td rowspan="3">変更なし</td> </tr> <tr> <td>設 置 床</td> <td>—</td> <td>原子炉建屋 T. M. S. L. -8200mm</td> <td>原子炉建屋 T. M. S. L. -8200mm</td> <td>原子炉建屋 T. M. S. L. -8200mm</td> </tr> <tr> <td>溢水防護上の区画番号</td> <td>—</td> <td colspan="3">—</td> </tr> <tr> <td></td> <td>溢水防護上の配慮が必要な高さ</td> <td>—</td> <td colspan="3">—</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p data-bbox="1641 537 2819 934"> 注記*1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「(1)残留熱除去系熱交換器」と記載。 *2：残留熱除去系熱交換器(A), (B), (C)のうち残留熱除去系熱交換器(A), (B), (C)が非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備(低圧注水系)及び原子炉格納施設のうち圧力低減設備その他の安全設備のうち原子炉格納容器安全設備(サブプレッションチェンバール水冷却系), 残留熱除去系熱交換器(B)が原子炉格納施設のうち圧力低減設備その他の安全設備のうち原子炉格納容器安全設備(代替循環冷却系), 残留熱除去系熱交換器(B), (C)が原子炉格納施設のうち圧力低減設備その他の安全設備のうち原子炉格納容器安全設備(格納容器スプレイ冷却系)と兼用。 *3：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。 *4：SI 単位に換算したものである。 *5：公称値を示す。 *6：重大事故等時における使用時の値。 *7：記載の適正化を行う。既工事計画書には「水室鏡板厚さ」と記載。 *8：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、平成4年3月27日付け3資庁第13033号にて認可された工事計画のIV-3-1-3-1「残留熱除去系熱交換器の強度計算書」による。 *9：記載の適正化を行う。既工事計画書には「胴体内径」と記載。 *10：記載の適正化を行う。既工事計画書には「胴体厚さ」と記載。 *11：記載の適正化を行う。既工事計画書には「胴部鏡板厚さ」と記載。 *12：ステンレス鋼クラッドを含まない厚さである。 </p>			変更前			変更後	取 付 箇 所	系 統 名	—	残留熱除去系熱交換器 A 残留熱除去系 A 系	残留熱除去系熱交換器 B 残留熱除去系 B 系	残留熱除去系熱交換器 C 残留熱除去系 C 系	変更なし	設 置 床	—	原子炉建屋 T. M. S. L. -8200mm	原子炉建屋 T. M. S. L. -8200mm	原子炉建屋 T. M. S. L. -8200mm	溢水防護上の区画番号	—	—				溢水防護上の配慮が必要な高さ	—	—					
		変更前			変更後																													
取 付 箇 所	系 統 名	—	残留熱除去系熱交換器 A 残留熱除去系 A 系	残留熱除去系熱交換器 B 残留熱除去系 B 系	残留熱除去系熱交換器 C 残留熱除去系 C 系	変更なし																												
	設 置 床	—	原子炉建屋 T. M. S. L. -8200mm	原子炉建屋 T. M. S. L. -8200mm	原子炉建屋 T. M. S. L. -8200mm																													
	溢水防護上の区画番号	—	—																															
	溢水防護上の配慮が必要な高さ	—	—																															
			<p data-bbox="1641 1087 2819 1438"> 整合性 ・設計及び工事の計画の <u>リ(3)(iii)b.-⑤</u> は、設置変更許可申請書（本文（五号））の <u>リ(3)(iii)b.-⑤</u> と同義であり、整合している。 ・設計及び工事の計画の <u>リ(3)(iii)b.-⑥</u> は、代替循環冷却系においては、残留熱除去系熱交換器 B を使用することを記載しており、設置変更許可申請書（本文（五号）） <u>リ(3)(iii)b.-⑥</u> の「1」と同義であり、整合している。 ・設計及び工事の計画の <u>リ(3)(iii)b.-⑦</u> は、設置変更許可申請書（本文（五号））の <u>リ(3)(iii)b.-⑦</u> を詳細に記載しており、整合している。 </p>																															

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八） 該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考																																																																																																		
<p>格納容器圧力逃がし装置</p> <p>リ(3)(iii)b.-⑧(「最終ヒートシンクへ熱を輸送するための設備」,及び「水素爆発による原子炉格納容器の破損を防止するための設備」と兼用)</p> <p>フィルタ装置</p> <p>個数 1</p> <p>系統設計流量 約 31.6kg/s</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>本文（十号）</p> <p>格納容器圧力逃がし装置等は、格納容器圧力リ(3)(iii)b.-⑨0.62MPa[gage]における最大排出流量 31.6kg/s</p> <p>・記載箇所</p> <p>ハ(2)(ii)b.(a)(a-9),</p> <p>ハ(2)(ii)b.(c)(c-1)(c-1-10),</p> <p>ハ(2)(ii)b.(c)(c-2)(c-2-10),</p> <p>ハ(2)(ii)b.(c)(c-4)(c-4-9),</p> <p>ハ(2)(ii)b.(d)(d-2)(d-2-10),</p> <p>ハ(2)(ii)b.(f)(f-8),</p> <p>ハ(2)(ii)c.(a)(a-2)(a-2-8)</p> </div>	<p>(2) 格納容器圧力逃がし装置</p> <p>兼用する設備は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最終ヒートシンクへ熱を輸送するための設備 ・水素爆発による原子炉格納容器の破損を防止するための設備 <p>の設備</p> <p>a. フィルタ装置</p> <p>個数 1</p> <p>系統設計流量 約 31.6kg/s</p>	<p>【原子炉格納施設】</p> <p>(要目表)</p> <p>3 圧力低減設備その他の安全設備に係る次の事項</p> <p>b. フィルタ装置</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th>変更前</th> <th>変更後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2">名称</td> <td></td> <td>フィルタ装置*1,*2</td> </tr> <tr> <td>種類</td> <td>—</td> <td></td> <td>たて置円筒形</td> </tr> <tr> <td>容量</td> <td>m³</td> <td></td> <td>□以上 □³)</td> </tr> <tr> <td>最高使用圧力*4</td> <td>kPa</td> <td></td> <td>620</td> </tr> <tr> <td>最高使用温度*4</td> <td>℃</td> <td></td> <td>200</td> </tr> <tr> <td rowspan="10">主要寸法</td> <td>胴内径</td> <td>mm</td> <td>4000*3</td> </tr> <tr> <td>胴板厚さ</td> <td>mm</td> <td>30.4 (32.0*3)</td> </tr> <tr> <td>鏡板厚さ</td> <td>mm</td> <td>30.0 (38.0*3)</td> </tr> <tr> <td>鏡板の形状に係る寸法</td> <td>mm</td> <td>3994*3 (鏡板の内面における長径) 998.5*3 (鏡板の内面における短径の2分の1)</td> </tr> <tr> <td>管台外径(ガス入口)</td> <td>mm</td> <td>406.4*3</td> </tr> <tr> <td>管台厚さ(ガス入口)</td> <td>mm</td> <td>11.2 (12.7*3)</td> </tr> <tr> <td>管台外径(ガス出口)</td> <td>mm</td> <td>508.0*3</td> </tr> <tr> <td>管台厚さ(ガス出口)</td> <td>mm</td> <td>14.7 (16.0*3)</td> </tr> <tr> <td>管台外径(給水)</td> <td>mm</td> <td>76.3*3</td> </tr> <tr> <td>管台厚さ(給水)</td> <td>mm</td> <td>4.55 (5.2*3)</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">材料</td> <td>マンホール外径</td> <td>mm</td> <td>609.6*3</td> </tr> <tr> <td>マンホール厚さ</td> <td>mm</td> <td>16.5 (18.0*3)</td> </tr> <tr> <td>マンホール平板厚さ</td> <td>mm</td> <td>36.0 (36.0*3)</td> </tr> <tr> <td>高さ</td> <td>mm</td> <td>8549*3</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">個数</td> <td>胴板</td> <td>—</td> <td>SUS316L</td> </tr> <tr> <td>上部鏡板</td> <td>—</td> <td>SUS316L</td> </tr> <tr> <td>下部鏡板</td> <td>—</td> <td>SUS316L</td> </tr> <tr> <td>マンホール平板</td> <td>—</td> <td>SUSF316L</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">取付箇所</td> <td>個数</td> <td>—</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>系統名</td> <td>—</td> <td>格納容器圧力逃がし装置</td> </tr> <tr> <td>設置床</td> <td>—</td> <td>屋外 T. M. S. L. 12000mm</td> </tr> <tr> <td>溢水防護上の区画番号</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td></td> <td>溢水防護上の配慮が必要な高さ</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table> <p>注記*1 : 原子炉冷却系統施設のうち残留熱除去設備（格納容器圧力逃がし装置）及び圧力低減設備その他の安全設備のうち放射性物質濃度制御設備及び可燃性ガス濃度制御設備並びに格納容器再循環設備（格納容器圧力逃がし装置）と兼用。</p> <p>*2 : 本設備は、フィルターとして使用するフィルタ装置と同一機器である。</p> <p>*3 : 公称値を示す。</p> <p>*4 : 重大事故等時における使用時の値。</p>			変更前	変更後	名称			フィルタ装置*1,*2	種類	—		たて置円筒形	容量	m ³		□以上 □ ³)	最高使用圧力*4	kPa		620	最高使用温度*4	℃		200	主要寸法	胴内径	mm	4000*3	胴板厚さ	mm	30.4 (32.0*3)	鏡板厚さ	mm	30.0 (38.0*3)	鏡板の形状に係る寸法	mm	3994*3 (鏡板の内面における長径) 998.5*3 (鏡板の内面における短径の2分の1)	管台外径(ガス入口)	mm	406.4*3	管台厚さ(ガス入口)	mm	11.2 (12.7*3)	管台外径(ガス出口)	mm	508.0*3	管台厚さ(ガス出口)	mm	14.7 (16.0*3)	管台外径(給水)	mm	76.3*3	管台厚さ(給水)	mm	4.55 (5.2*3)	材料	マンホール外径	mm	609.6*3	マンホール厚さ	mm	16.5 (18.0*3)	マンホール平板厚さ	mm	36.0 (36.0*3)	高さ	mm	8549*3	個数	胴板	—	SUS316L	上部鏡板	—	SUS316L	下部鏡板	—	SUS316L	マンホール平板	—	SUSF316L	取付箇所	個数	—	1	系統名	—	格納容器圧力逃がし装置	設置床	—	屋外 T. M. S. L. 12000mm	溢水防護上の区画番号	—	—		溢水防護上の配慮が必要な高さ	—	—		
		変更前	変更後																																																																																																			
名称			フィルタ装置*1,*2																																																																																																			
種類	—		たて置円筒形																																																																																																			
容量	m ³		□以上 □ ³)																																																																																																			
最高使用圧力*4	kPa		620																																																																																																			
最高使用温度*4	℃		200																																																																																																			
主要寸法	胴内径	mm	4000*3																																																																																																			
	胴板厚さ	mm	30.4 (32.0*3)																																																																																																			
	鏡板厚さ	mm	30.0 (38.0*3)																																																																																																			
	鏡板の形状に係る寸法	mm	3994*3 (鏡板の内面における長径) 998.5*3 (鏡板の内面における短径の2分の1)																																																																																																			
	管台外径(ガス入口)	mm	406.4*3																																																																																																			
	管台厚さ(ガス入口)	mm	11.2 (12.7*3)																																																																																																			
	管台外径(ガス出口)	mm	508.0*3																																																																																																			
	管台厚さ(ガス出口)	mm	14.7 (16.0*3)																																																																																																			
	管台外径(給水)	mm	76.3*3																																																																																																			
	管台厚さ(給水)	mm	4.55 (5.2*3)																																																																																																			
材料	マンホール外径	mm	609.6*3																																																																																																			
	マンホール厚さ	mm	16.5 (18.0*3)																																																																																																			
	マンホール平板厚さ	mm	36.0 (36.0*3)																																																																																																			
	高さ	mm	8549*3																																																																																																			
個数	胴板	—	SUS316L																																																																																																			
	上部鏡板	—	SUS316L																																																																																																			
	下部鏡板	—	SUS316L																																																																																																			
	マンホール平板	—	SUSF316L																																																																																																			
取付箇所	個数	—	1																																																																																																			
	系統名	—	格納容器圧力逃がし装置																																																																																																			
	設置床	—	屋外 T. M. S. L. 12000mm																																																																																																			
	溢水防護上の区画番号	—	—																																																																																																			
	溢水防護上の配慮が必要な高さ	—	—																																																																																																			

リ(3)(ii)b.-⑧a

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八） 該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考																																																																																																								
<p>放射性物質除去効率 <u>99.9%以上（粒子状放射性物質及び無機よう素に対して）</u></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>本文（十号）</p> <p>リ(3)()b.- 格納容器圧力逃がし装置による粒子状放射性物質に対する除染係数は1.000とする。</p> <p>・記載箇所</p> <p>八(2)()b.(c)(c-1)(c-1-13)(c-1-13-9) , 八(2)()c.(a)(a-2)(a-2-10) (a-2-10-5)</p> </div>	<p>放射性物質除去効率 <u>99.9%以上（粒子状放射性物質及び無機よう素に対して）</u></p> <p>< 中略 ></p>	<p>へ フィルター（公衆の放射線障害の防止を目的として設置するものに限る。）の名称、種類、効率、主要寸法、個数及び取付箇所（常設及び可搬型の別に記載すること。）</p> <p>・常設</p> <p>a. フィルタ装置</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="3"></th> <th style="text-align: center;">変 更 前</th> <th style="text-align: center;">変 更 後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="3" style="text-align: center;">名 称</td> <td></td> <td style="text-align: center;"><u>フィルタ装置</u>*1, *2</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">種</td> <td style="text-align: center;">類</td> <td style="text-align: center;">—</td> <td></td> <td style="text-align: center;">スクラバ水及び金属フィルタ</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">効</td> <td style="text-align: center;">率</td> <td style="text-align: center;">%</td> <td></td> <td style="text-align: center;">99.9以上 <u>リ(3)()b.-</u> (粒子状放射性物質及び無機よう素に対して)</td> </tr> <tr> <td rowspan="14" style="text-align: center; vertical-align: middle;">主 要 寸 法</td> <td style="text-align: center;">胴</td> <td style="text-align: center;">内 径</td> <td style="text-align: center;">mm</td> <td style="text-align: center;">4000*3</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">胴</td> <td style="text-align: center;">板 厚 さ</td> <td style="text-align: center;">mm</td> <td style="text-align: center;">30.4 (32.0*3)</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">鏡</td> <td style="text-align: center;">板 厚 さ</td> <td style="text-align: center;">mm</td> <td style="text-align: center;">30.0 (38.0*3)</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">鏡板の形状に係る寸法</td> <td style="text-align: center;">mm</td> <td></td> <td style="text-align: center;">3994*3 (鏡板の内面における長径)</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">鏡板の内面における短径の2分の1</td> <td style="text-align: center;">mm</td> <td></td> <td style="text-align: center;">998.5*3</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">管台外径（ガス入口）</td> <td style="text-align: center;">mm</td> <td></td> <td style="text-align: center;">406.4*3</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">管台厚さ（ガス入口）</td> <td style="text-align: center;">mm</td> <td></td> <td style="text-align: center;">11.2 (12.7*3)</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">管台外径（ガス出口）</td> <td style="text-align: center;">mm</td> <td></td> <td style="text-align: center;">508.0*3</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">管台厚さ（ガス出口）</td> <td style="text-align: center;">mm</td> <td></td> <td style="text-align: center;">14.7 (16.0*3)</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">管台外径（給水）</td> <td style="text-align: center;">mm</td> <td></td> <td style="text-align: center;">76.3*3</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">管台厚さ（給水）</td> <td style="text-align: center;">mm</td> <td></td> <td style="text-align: center;">4.55 (5.2*3)</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">マンホール外径</td> <td style="text-align: center;">mm</td> <td></td> <td style="text-align: center;">609.6*3</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">マンホール厚さ</td> <td style="text-align: center;">mm</td> <td></td> <td style="text-align: center;">16.5 (18.0*3)</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">マンホール平板厚さ</td> <td style="text-align: center;">mm</td> <td></td> <td style="text-align: center;">36.0 (36.0*3)</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">高</td> <td style="text-align: center;">さ</td> <td style="text-align: center;">mm</td> <td></td> <td style="text-align: center;">8549*3</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">個</td> <td style="text-align: center;">数</td> <td style="text-align: center;">—</td> <td></td> <td style="text-align: center;">1</td> </tr> <tr> <td rowspan="4" style="text-align: center; vertical-align: middle;">取 付 箇 所</td> <td style="text-align: center;">系</td> <td style="text-align: center;">統 名</td> <td style="text-align: center;">—</td> <td style="text-align: center;"><u>格納容器圧力逃がし装置</u></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">設</td> <td style="text-align: center;">置 床</td> <td style="text-align: center;">—</td> <td style="text-align: center;">屋外 T. M. S. L. 1200mm</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">溢</td> <td style="text-align: center;">水 防 護 上 の 区 画 番 号</td> <td style="text-align: center;">—</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">溢</td> <td style="text-align: center;">水 防 護 上 の 配 慮 が 必 要 な 高 さ</td> <td style="text-align: center;">—</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> </tbody> </table>				変 更 前	変 更 後	名 称				<u>フィルタ装置</u> *1, *2	種	類	—		スクラバ水及び金属フィルタ	効	率	%		99.9以上 <u>リ(3)()b.-</u> (粒子状放射性物質及び無機よう素に対して)	主 要 寸 法	胴	内 径	mm	4000*3	胴	板 厚 さ	mm	30.4 (32.0*3)	鏡	板 厚 さ	mm	30.0 (38.0*3)	鏡板の形状に係る寸法	mm		3994*3 (鏡板の内面における長径)	鏡板の内面における短径の2分の1	mm		998.5*3	管台外径（ガス入口）	mm		406.4*3	管台厚さ（ガス入口）	mm		11.2 (12.7*3)	管台外径（ガス出口）	mm		508.0*3	管台厚さ（ガス出口）	mm		14.7 (16.0*3)	管台外径（給水）	mm		76.3*3	管台厚さ（給水）	mm		4.55 (5.2*3)	マンホール外径	mm		609.6*3	マンホール厚さ	mm		16.5 (18.0*3)	マンホール平板厚さ	mm		36.0 (36.0*3)	高	さ	mm		8549*3	個	数	—		1	取 付 箇 所	系	統 名	—	<u>格納容器圧力逃がし装置</u>	設	置 床	—	屋外 T. M. S. L. 1200mm	溢	水 防 護 上 の 区 画 番 号	—	—	溢	水 防 護 上 の 配 慮 が 必 要 な 高 さ	—	—		<p>注記*1：原子炉冷却系統施設のうち残留熱除去設備（格納容器圧力逃がし装置）及び圧力低減設備その他の安全設備のうち放射性物質濃度制御設備及び可燃性ガス濃度制御設備並びに格納容器再循環設備（格納容器圧力逃がし装置）と兼用。</p> <p>*2：本設備は、容器として使用するフィルタ装置と同一機器である。</p> <p>*3：公称値を示す。</p>
			変 更 前	変 更 後																																																																																																								
名 称				<u>フィルタ装置</u> *1, *2																																																																																																								
種	類	—		スクラバ水及び金属フィルタ																																																																																																								
効	率	%		99.9以上 <u>リ(3)()b.-</u> (粒子状放射性物質及び無機よう素に対して)																																																																																																								
主 要 寸 法	胴	内 径	mm	4000*3																																																																																																								
	胴	板 厚 さ	mm	30.4 (32.0*3)																																																																																																								
	鏡	板 厚 さ	mm	30.0 (38.0*3)																																																																																																								
	鏡板の形状に係る寸法	mm		3994*3 (鏡板の内面における長径)																																																																																																								
	鏡板の内面における短径の2分の1	mm		998.5*3																																																																																																								
	管台外径（ガス入口）	mm		406.4*3																																																																																																								
	管台厚さ（ガス入口）	mm		11.2 (12.7*3)																																																																																																								
	管台外径（ガス出口）	mm		508.0*3																																																																																																								
	管台厚さ（ガス出口）	mm		14.7 (16.0*3)																																																																																																								
	管台外径（給水）	mm		76.3*3																																																																																																								
	管台厚さ（給水）	mm		4.55 (5.2*3)																																																																																																								
	マンホール外径	mm		609.6*3																																																																																																								
	マンホール厚さ	mm		16.5 (18.0*3)																																																																																																								
	マンホール平板厚さ	mm		36.0 (36.0*3)																																																																																																								
高	さ	mm		8549*3																																																																																																								
個	数	—		1																																																																																																								
取 付 箇 所	系	統 名	—	<u>格納容器圧力逃がし装置</u>																																																																																																								
	設	置 床	—	屋外 T. M. S. L. 1200mm																																																																																																								
	溢	水 防 護 上 の 区 画 番 号	—	—																																																																																																								
	溢	水 防 護 上 の 配 慮 が 必 要 な 高 さ	—	—																																																																																																								

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八） 該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
		<p>【原子炉格納施設】 （基本設計方針） 第2章 個別項目 3. 圧力低減設備その他の安全設備 3.6 圧力逃がし装置 3.6.1 格納容器圧力逃がし装置 (1) 格納容器圧力逃がし装置による原子炉格納容器内の減圧及び除熱 <中略> 格納容器圧力逃がし装置は、フィルタ装置（フィルタ容器、スクラバ水、金属フィルタ）、よう素フィルタ、ドレンタンク、ラプチャーディスク、配管・弁類、計測制御装置等で構成し、原子炉格納容器内雰囲気ガスを不活性ガス系を經由して、フィルタ装置及びよう素フィルタへ導き、放射性物質を低減させた後に原子炉建屋屋上に設ける放出口から排出（系統設計流量 31.6kg/s（$\text{リ}(3)(\text{iii})\text{b.}-\text{⑨}$）において）することで、排気中に含まれる放射性物質の環境への放出量を低減しつつ、原子炉格納容器内の圧力及び温度を低下できる設計とする。 <中略></p>		
<p>整合性</p> <ul style="list-style-type: none"> 設計及び工事の計画の $\text{リ}(3)(\text{iii})\text{b.}-\text{⑧a}$～$\text{リ}(3)(\text{iii})\text{b.}-\text{⑧f}$ は、設置変更許可申請書（本文（五号））の $\text{リ}(3)(\text{iii})\text{b.}-\text{⑧}$ と同義であり、整合している。 設計及び工事の計画の $\text{リ}(3)(\text{iii})\text{b.}-\text{⑨}$ は、$2P_d=0.62\text{MPa}[\text{gage}]$ であり、設置変更許可申請書（本文（十号））の $\text{リ}(3)(\text{iii})\text{b.}-\text{⑨}$ と同義であり、整合している。 設計及び工事の計画の $\text{リ}(3)(\text{iii})\text{b.}-\text{⑩}$ は、除染係数 $=1 \div (1 - 0.999(\text{放射性物質除去効率})) = 1000$ であり、設置変更許可申請書（本文（十号））の $\text{リ}(3)(\text{iii})\text{b.}-\text{⑩}$ と同義であり、整合している。 				

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八） 該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考																																																																																																					
<p>よう素フィルタ 個数 2 系統設計流量 リ(3)()b.- 約 15.8kg/s.(1基あたり)の設計流量). 放射性物質除去効率 <u>98%以上(有機よう素に対して)</u></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>本文（十号） リ(3)()b.- 排気ガスに含まれるよう素を除去するためのよう素フィルタによる除染係数は 50 とする。 ・記載箇所 八(2)()b.(c)(c-1)(c-1-13)(c-1-13-9)</p> </div>	<p>b. よう素フィルタ 個数 2 系統設計流量 約 15.8kg/s.(1基あたりの設計流量). 放射性物質除去効率 <u>98%以上(有機よう素に対して)</u> 材料 銀ゼオライト</p>	<p>【原子炉格納施設】 （要目表） 3 圧力低減設備その他の安全設備に係る次の事項</p> <p>c. よう素フィルタ</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th style="text-align: center;">変 更 前</th> <th style="text-align: center;">変 更 後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2" style="text-align: center;">名 称</td> <td></td> <td style="text-align: center;">よう素フィルタ*1, *2</td> </tr> <tr> <td>種 類</td> <td style="text-align: center;">—</td> <td></td> <td style="text-align: center;">たて置円筒形</td> </tr> <tr> <td>容 量</td> <td style="text-align: center;">m³/個</td> <td></td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> <tr> <td>最 高 使 用 圧 力 *3</td> <td style="text-align: center;">kPa</td> <td></td> <td style="text-align: center;">250</td> </tr> <tr> <td>最 高 使 用 温 度 *3</td> <td style="text-align: center;">℃</td> <td></td> <td style="text-align: center;">200</td> </tr> <tr> <td rowspan="10" style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: mixed;">主 要 寸 法</td> <td>胴 内 径</td> <td style="text-align: center;">mm</td> <td style="text-align: center;">3000*4</td> </tr> <tr> <td>胴 板 厚 さ</td> <td style="text-align: center;">mm</td> <td style="text-align: center;">17.2 (18.0*4)</td> </tr> <tr> <td>胴 リ ン グ 内 径</td> <td style="text-align: center;">mm</td> <td style="text-align: center;">3000</td> </tr> <tr> <td>胴 リ ン グ 厚 さ</td> <td style="text-align: center;">mm</td> <td style="text-align: center;">16.4 (18.0*4)</td> </tr> <tr> <td>鏡 板 厚 さ</td> <td style="text-align: center;">mm</td> <td style="text-align: center;">14.0 (18.0*4)</td> </tr> <tr> <td>鏡板の形状に係る寸法</td> <td style="text-align: center;">mm</td> <td style="text-align: center;">3000*4 (鏡板の中央部における内面の半径) 300*4 (すみの丸みの内半径)</td> </tr> <tr> <td>管台外径 (ガス入口)</td> <td style="text-align: center;">mm</td> <td style="text-align: center;">508.0*4</td> </tr> <tr> <td>管台厚さ (ガス入口)</td> <td style="text-align: center;">mm</td> <td style="text-align: center;">15.1 (15.1*4)</td> </tr> <tr> <td>管台外径 (ガス出口)</td> <td style="text-align: center;">mm</td> <td style="text-align: center;">508.0*4</td> </tr> <tr> <td>管台厚さ (ガス出口)</td> <td style="text-align: center;">mm</td> <td style="text-align: center;">15.1 (15.1*4)</td> </tr> <tr> <td rowspan="4" style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: mixed;">材 料</td> <td>マンホール 外径</td> <td style="text-align: center;">mm</td> <td style="text-align: center;">508.0*4</td> </tr> <tr> <td>マンホール 厚さ</td> <td style="text-align: center;">mm</td> <td style="text-align: center;">15.1 (15.1*4)</td> </tr> <tr> <td>マンホール 平板厚さ</td> <td style="text-align: center;">mm</td> <td style="text-align: center;">30.0 (30.0*4)</td> </tr> <tr> <td>高 さ</td> <td style="text-align: center;">mm</td> <td style="text-align: center;">3000*4</td> </tr> <tr> <td rowspan="4" style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: mixed;">個</td> <td>胴 板</td> <td style="text-align: center;">—</td> <td style="text-align: center;">SUS316L</td> </tr> <tr> <td>胴 リ ン グ</td> <td style="text-align: center;">—</td> <td style="text-align: center;">SUSF316L</td> </tr> <tr> <td>上 部 鏡 板</td> <td style="text-align: center;">—</td> <td style="text-align: center;">SUS316L</td> </tr> <tr> <td>下 部 鏡 板</td> <td style="text-align: center;">—</td> <td style="text-align: center;">SUS316L</td> </tr> <tr> <td rowspan="4" style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: mixed;">取 付 箇 所</td> <td>マンホール 平板</td> <td style="text-align: center;">—</td> <td style="text-align: center;">SUSF316L</td> </tr> <tr> <td>個 数</td> <td style="text-align: center;">—</td> <td style="text-align: center;">2</td> </tr> <tr> <td>系 統 名</td> <td style="text-align: center;">—</td> <td style="text-align: center;"><u>格納容器圧力逃がし装置</u></td> </tr> <tr> <td>設 置 床</td> <td style="text-align: center;">—</td> <td style="text-align: center;">屋外 T. M. S. L. 12000mm</td> </tr> <tr> <td rowspan="2" style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: mixed;">溢 水 防 護 上 の 区 画 番 号</td> <td>溢 水 防 護 上 の 区 画 番 号</td> <td style="text-align: center;">—</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> <tr> <td>溢 水 防 護 上 の 配 慮 が 必 要 な 高 さ</td> <td style="text-align: center;">—</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> </tbody> </table>			変 更 前	変 更 後	名 称			よう素フィルタ*1, *2	種 類	—		たて置円筒形	容 量	m ³ /個		—	最 高 使 用 圧 力 *3	kPa		250	最 高 使 用 温 度 *3	℃		200	主 要 寸 法	胴 内 径	mm	3000*4	胴 板 厚 さ	mm	17.2 (18.0*4)	胴 リ ン グ 内 径	mm	3000	胴 リ ン グ 厚 さ	mm	16.4 (18.0*4)	鏡 板 厚 さ	mm	14.0 (18.0*4)	鏡板の形状に係る寸法	mm	3000*4 (鏡板の中央部における内面の半径) 300*4 (すみの丸みの内半径)	管台外径 (ガス入口)	mm	508.0*4	管台厚さ (ガス入口)	mm	15.1 (15.1*4)	管台外径 (ガス出口)	mm	508.0*4	管台厚さ (ガス出口)	mm	15.1 (15.1*4)	材 料	マンホール 外径	mm	508.0*4	マンホール 厚さ	mm	15.1 (15.1*4)	マンホール 平板厚さ	mm	30.0 (30.0*4)	高 さ	mm	3000*4	個	胴 板	—	SUS316L	胴 リ ン グ	—	SUSF316L	上 部 鏡 板	—	SUS316L	下 部 鏡 板	—	SUS316L	取 付 箇 所	マンホール 平板	—	SUSF316L	個 数	—	2	系 統 名	—	<u>格納容器圧力逃がし装置</u>	設 置 床	—	屋外 T. M. S. L. 12000mm	溢 水 防 護 上 の 区 画 番 号	溢 水 防 護 上 の 区 画 番 号	—	—	溢 水 防 護 上 の 配 慮 が 必 要 な 高 さ	—	—		
		変 更 前	変 更 後																																																																																																						
名 称			よう素フィルタ*1, *2																																																																																																						
種 類	—		たて置円筒形																																																																																																						
容 量	m ³ /個		—																																																																																																						
最 高 使 用 圧 力 *3	kPa		250																																																																																																						
最 高 使 用 温 度 *3	℃		200																																																																																																						
主 要 寸 法	胴 内 径	mm	3000*4																																																																																																						
	胴 板 厚 さ	mm	17.2 (18.0*4)																																																																																																						
	胴 リ ン グ 内 径	mm	3000																																																																																																						
	胴 リ ン グ 厚 さ	mm	16.4 (18.0*4)																																																																																																						
	鏡 板 厚 さ	mm	14.0 (18.0*4)																																																																																																						
	鏡板の形状に係る寸法	mm	3000*4 (鏡板の中央部における内面の半径) 300*4 (すみの丸みの内半径)																																																																																																						
	管台外径 (ガス入口)	mm	508.0*4																																																																																																						
	管台厚さ (ガス入口)	mm	15.1 (15.1*4)																																																																																																						
	管台外径 (ガス出口)	mm	508.0*4																																																																																																						
	管台厚さ (ガス出口)	mm	15.1 (15.1*4)																																																																																																						
材 料	マンホール 外径	mm	508.0*4																																																																																																						
	マンホール 厚さ	mm	15.1 (15.1*4)																																																																																																						
	マンホール 平板厚さ	mm	30.0 (30.0*4)																																																																																																						
	高 さ	mm	3000*4																																																																																																						
個	胴 板	—	SUS316L																																																																																																						
	胴 リ ン グ	—	SUSF316L																																																																																																						
	上 部 鏡 板	—	SUS316L																																																																																																						
	下 部 鏡 板	—	SUS316L																																																																																																						
取 付 箇 所	マンホール 平板	—	SUSF316L																																																																																																						
	個 数	—	2																																																																																																						
	系 統 名	—	<u>格納容器圧力逃がし装置</u>																																																																																																						
	設 置 床	—	屋外 T. M. S. L. 12000mm																																																																																																						
溢 水 防 護 上 の 区 画 番 号	溢 水 防 護 上 の 区 画 番 号	—	—																																																																																																						
	溢 水 防 護 上 の 配 慮 が 必 要 な 高 さ	—	—																																																																																																						
		<p>注記*1 : 原子炉冷却系統施設のうち残留熱除去設備(格納容器圧力逃がし装置)及び圧力低減設備(格納容器再循環設備)と兼用。 *2 : 本設備は、フィルターとして使用するよう素フィルタと同一機器である。 *3 : 重大事故等時における使用時の値。 *4 : 公称値を示す。</p>																																																																																																							

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八） 該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考																																																																																
		<p>b. よう素フィルタ</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th style="width: 10%;">変 更 前</th> <th style="width: 10%;">変 更 後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2" style="text-align: center;">名 称</td> <td></td> <td style="text-align: center;">よう素フィルタ*1, *2</td> </tr> <tr> <td>種</td> <td>類</td> <td style="text-align: center;">—</td> <td style="text-align: center;">銀ゼオライト U(3)()b.-</td> </tr> <tr> <td>効</td> <td>率</td> <td style="text-align: center;">%</td> <td style="text-align: center;">98 以上（有機よう素に対して）</td> </tr> <tr> <td rowspan="14" style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: mixed;">主 要 寸 法</td> <td>胴 内 径</td> <td style="text-align: center;">mm</td> <td style="text-align: center;">3000*3</td> </tr> <tr> <td>胴 板 厚 さ</td> <td style="text-align: center;">mm</td> <td style="text-align: center;">17.2 (18.0*3)</td> </tr> <tr> <td>胴 リ ン グ 内 径</td> <td style="text-align: center;">mm</td> <td style="text-align: center;">3000</td> </tr> <tr> <td>胴 リ ン グ 厚 さ</td> <td style="text-align: center;">mm</td> <td style="text-align: center;">16.4 (18.0*3)</td> </tr> <tr> <td>鏡 板 厚 さ</td> <td style="text-align: center;">mm</td> <td style="text-align: center;">14.0 (18.0*3)</td> </tr> <tr> <td>鏡板の形状に係る寸法</td> <td style="text-align: center;">mm</td> <td style="text-align: center;">3000*3 (鏡板の中央部における内面の半径)</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td style="text-align: center;">300*3 (すみの丸みの内半径)</td> </tr> <tr> <td>管台外径（ガス入口）</td> <td style="text-align: center;">mm</td> <td style="text-align: center;">508.0*3</td> </tr> <tr> <td>管台厚さ（ガス入口）</td> <td style="text-align: center;">mm</td> <td style="text-align: center;">15.1 (15.1*3)</td> </tr> <tr> <td>管台外径（ガス出口）</td> <td style="text-align: center;">mm</td> <td style="text-align: center;">508.0*3</td> </tr> <tr> <td>管台厚さ（ガス出口）</td> <td style="text-align: center;">mm</td> <td style="text-align: center;">15.1 (15.1*3)</td> </tr> <tr> <td>マンホール外径</td> <td style="text-align: center;">mm</td> <td style="text-align: center;">508.0*3</td> </tr> <tr> <td>マンホール厚さ</td> <td style="text-align: center;">mm</td> <td style="text-align: center;">15.1 (15.1*3)</td> </tr> <tr> <td>マンホール平板厚さ</td> <td style="text-align: center;">mm</td> <td style="text-align: center;">30.0 (30.0*3)</td> </tr> <tr> <td>高</td> <td style="text-align: center;">さ</td> <td style="text-align: center;">mm</td> <td style="text-align: center;">3000*3</td> </tr> <tr> <td>個</td> <td>数</td> <td style="text-align: center;">—</td> <td style="text-align: center;">2</td> </tr> <tr> <td rowspan="4" style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: mixed;">取 付 箇 所</td> <td>系 統 名</td> <td style="text-align: center;">—</td> <td style="text-align: center;">格納容器圧力逃がし装置</td> </tr> <tr> <td>設 置 床</td> <td style="text-align: center;">—</td> <td style="text-align: center;">屋外 T. M. S. L. 12000mm</td> </tr> <tr> <td>溢 水 防 護 上 の 区 画 番 号</td> <td style="text-align: center;">—</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> <tr> <td>溢 水 防 護 上 の 配 慮 が 必 要 な 高 さ</td> <td style="text-align: center;">—</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> </tbody> </table>			変 更 前	変 更 後	名 称			よう素フィルタ*1, *2	種	類	—	銀ゼオライト U(3)()b.-	効	率	%	98 以上（有機よう素に対して）	主 要 寸 法	胴 内 径	mm	3000*3	胴 板 厚 さ	mm	17.2 (18.0*3)	胴 リ ン グ 内 径	mm	3000	胴 リ ン グ 厚 さ	mm	16.4 (18.0*3)	鏡 板 厚 さ	mm	14.0 (18.0*3)	鏡板の形状に係る寸法	mm	3000*3 (鏡板の中央部における内面の半径)			300*3 (すみの丸みの内半径)	管台外径（ガス入口）	mm	508.0*3	管台厚さ（ガス入口）	mm	15.1 (15.1*3)	管台外径（ガス出口）	mm	508.0*3	管台厚さ（ガス出口）	mm	15.1 (15.1*3)	マンホール外径	mm	508.0*3	マンホール厚さ	mm	15.1 (15.1*3)	マンホール平板厚さ	mm	30.0 (30.0*3)	高	さ	mm	3000*3	個	数	—	2	取 付 箇 所	系 統 名	—	格納容器圧力逃がし装置	設 置 床	—	屋外 T. M. S. L. 12000mm	溢 水 防 護 上 の 区 画 番 号	—	—	溢 水 防 護 上 の 配 慮 が 必 要 な 高 さ	—	—		
		変 更 前	変 更 後																																																																																	
名 称			よう素フィルタ*1, *2																																																																																	
種	類	—	銀ゼオライト U(3)()b.-																																																																																	
効	率	%	98 以上（有機よう素に対して）																																																																																	
主 要 寸 法	胴 内 径	mm	3000*3																																																																																	
	胴 板 厚 さ	mm	17.2 (18.0*3)																																																																																	
	胴 リ ン グ 内 径	mm	3000																																																																																	
	胴 リ ン グ 厚 さ	mm	16.4 (18.0*3)																																																																																	
	鏡 板 厚 さ	mm	14.0 (18.0*3)																																																																																	
	鏡板の形状に係る寸法	mm	3000*3 (鏡板の中央部における内面の半径)																																																																																	
			300*3 (すみの丸みの内半径)																																																																																	
	管台外径（ガス入口）	mm	508.0*3																																																																																	
	管台厚さ（ガス入口）	mm	15.1 (15.1*3)																																																																																	
	管台外径（ガス出口）	mm	508.0*3																																																																																	
	管台厚さ（ガス出口）	mm	15.1 (15.1*3)																																																																																	
	マンホール外径	mm	508.0*3																																																																																	
	マンホール厚さ	mm	15.1 (15.1*3)																																																																																	
	マンホール平板厚さ	mm	30.0 (30.0*3)																																																																																	
高	さ	mm	3000*3																																																																																	
個	数	—	2																																																																																	
取 付 箇 所	系 統 名	—	格納容器圧力逃がし装置																																																																																	
	設 置 床	—	屋外 T. M. S. L. 12000mm																																																																																	
	溢 水 防 護 上 の 区 画 番 号	—	—																																																																																	
	溢 水 防 護 上 の 配 慮 が 必 要 な 高 さ	—	—																																																																																	
		<p>注記*1 : 原子炉冷却系統施設のうち残留熱除去設備（格納容器圧力逃がし装置）及び圧力低減設備その他の安全設備のうち放射性物質濃度制御設備及び可燃性ガス濃度制御設備並びに格納容器再循環設備（格納容器圧力逃がし装置）と兼用。</p> <p>*2 : 本設備は、容器として使用するよう素フィルタと同一機器である。</p> <p>*3 : 公称値を示す。</p>																																																																																		

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八） 該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
		<p>【原子炉格納施設】 （基本設計方針） 第2章 個別項目 3. 圧力低減設備その他の安全設備 3.6 圧力逃がし装置 3.6.1 格納容器圧力逃がし装置 (1) 格納容器圧力逃がし装置による原子炉格納容器内の減圧及び除熱 <中略> 格納容器圧力逃がし装置は、フィルタ装置（フィルタ容器、スクラバ水、金属フィルタ）、よう素フィルタ、ドレンタンク、ラプチャーディスク、配管・弁類、計測制御装置等で構成し、原子炉格納容器内雰囲気ガスを不活性ガス系を経由して、フィルタ装置及びよう素フィルタへ導き、放射性物質を低減させた後に原子炉建屋屋上に設ける放出口から排出（系統設計流量 リ(3)(iii)b.-⑪ 31.6kg/s (2Pdにおいて)) することで、排気中に含まれる放射性物質の環境への放出量を低減しつつ、原子炉格納容器内の圧力及び温度を低下できる設計とする。 <中略></p>		
<p>整合性</p> <ul style="list-style-type: none"> 設計及び工事の計画の リ(3)(iii)b.-⑪ は、設置変更許可申請書（本文（五号））の $\text{リ(3)(iii)b.-⑪} \times 2 \text{個} = 31.6\text{kg/s}$ と同義であり、整合している。 設計及び工事の計画の リ(3)(iii)b.-⑫ は、除染係数 $= 1 \div (1 - 0.98(\text{放射性物質除去効率})) = 50$ となり、設置変更許可申請書（本文（十号））の リ(3)(iii)b.-⑫ と同義であり、整合している。 				

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八） 該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考																																																																										
<p>ラプチャーディスク 個数 リ(3)(iii)b.-⑬² 設定破裂圧力 リ(3)(iii)b.-⑭¹約100kPa[gage].</p>	<p>c. <u>ラプチャーディスク</u> 個数 2 設定破裂圧力 約100kPa[gage].</p>	<p>【原子炉格納施設】 (要目表) 3 圧力低減設備その他の安全設備に係る次の事項 ハ 圧力開放板の設定破裂圧力、主要寸法、材料、個数及び取付箇所 a. ラプチャーディスク（フィルタ装置出口側）</p> <table border="1" data-bbox="1626 478 2706 1045"> <thead> <tr> <th colspan="2">名称</th> <th>変更前</th> <th>変更後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2">名称</td> <td></td> <td>ラプチャーディスク* (フィルタ装置出口側)</td> </tr> <tr> <td>設定破裂圧力</td> <td>MPa</td> <td></td> <td>0.1 リ(3)(iii)b.-⑭^a</td> </tr> <tr> <td>主要寸法</td> <td>呼び径</td> <td>—</td> <td>500A</td> </tr> <tr> <td>材料</td> <td>スリット ディスク</td> <td>—</td> <td>SUS316L</td> </tr> <tr> <td>個数</td> <td></td> <td>—</td> <td>1 リ(3)(iii)b.-⑬^a</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">取付箇所</td> <td>系統名</td> <td>—</td> <td>格納容器圧力逃がし装置</td> </tr> <tr> <td>設置床</td> <td>—</td> <td>屋外 T. M. S. L. 12000mm</td> </tr> <tr> <td>溢水防護上の 区画番号</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>溢水防護上の 配慮が必要な高さ</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table> <p>注記*：原子炉冷却系統施設のうち残留熱除去設備（格納容器圧力逃がし装置）及び圧力低減設備その他の安全設備のうち放射性物質濃度制御設備及び可燃性ガス濃度制御設備並びに格納容器再循環設備（格納容器圧力逃がし装置）と兼用。</p> <p>b. ラプチャーディスク（よう素フィルタ出口側）</p> <table border="1" data-bbox="1626 1213 2706 1780"> <thead> <tr> <th colspan="2">名称</th> <th>変更前</th> <th>変更後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2">名称</td> <td></td> <td>ラプチャーディスク* (よう素フィルタ出口側)</td> </tr> <tr> <td>設定破裂圧力</td> <td>MPa</td> <td></td> <td>0.1 リ(3)(iii)b.-⑭^b</td> </tr> <tr> <td>主要寸法</td> <td>呼び径</td> <td>—</td> <td>500A</td> </tr> <tr> <td>材料</td> <td>スリット ディスク</td> <td>—</td> <td>SUS316L</td> </tr> <tr> <td>個数</td> <td></td> <td>—</td> <td>1 リ(3)(iii)b.-⑬^b</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">取付箇所</td> <td>系統名</td> <td>—</td> <td>格納容器圧力逃がし装置</td> </tr> <tr> <td>設置床</td> <td>—</td> <td>屋外 T. M. S. L. 12000mm</td> </tr> <tr> <td>溢水防護上の 区画番号</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>溢水防護上の 配慮が必要な高さ</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table> <p>注記*：原子炉冷却系統施設のうち残留熱除去設備（格納容器圧力逃がし装置）及び圧力低減設備その他の安全設備のうち放射性物質濃度制御設備及び可燃性ガス濃度制御設備並びに格納容器再循環設備（格納容器圧力逃がし装置）と兼用。</p>	名称		変更前	変更後	名称			ラプチャーディスク* (フィルタ装置出口側)	設定破裂圧力	MPa		0.1 リ(3)(iii)b.-⑭ ^a	主要寸法	呼び径	—	500A	材料	スリット ディスク	—	SUS316L	個数		—	1 リ(3)(iii)b.-⑬ ^a	取付箇所	系統名	—	格納容器圧力逃がし装置	設置床	—	屋外 T. M. S. L. 12000mm	溢水防護上の 区画番号	—	—	溢水防護上の 配慮が必要な高さ	—	—	名称		変更前	変更後	名称			ラプチャーディスク* (よう素フィルタ出口側)	設定破裂圧力	MPa		0.1 リ(3)(iii)b.-⑭ ^b	主要寸法	呼び径	—	500A	材料	スリット ディスク	—	SUS316L	個数		—	1 リ(3)(iii)b.-⑬ ^b	取付箇所	系統名	—	格納容器圧力逃がし装置	設置床	—	屋外 T. M. S. L. 12000mm	溢水防護上の 区画番号	—	—	溢水防護上の 配慮が必要な高さ	—	—		<p>リ(3)(iii)b.-⑧^e</p> <p>リ(3)(iii)b.-⑧^f</p>
名称		変更前	変更後																																																																											
名称			ラプチャーディスク* (フィルタ装置出口側)																																																																											
設定破裂圧力	MPa		0.1 リ(3)(iii)b.-⑭ ^a																																																																											
主要寸法	呼び径	—	500A																																																																											
材料	スリット ディスク	—	SUS316L																																																																											
個数		—	1 リ(3)(iii)b.-⑬ ^a																																																																											
取付箇所	系統名	—	格納容器圧力逃がし装置																																																																											
	設置床	—	屋外 T. M. S. L. 12000mm																																																																											
	溢水防護上の 区画番号	—	—																																																																											
	溢水防護上の 配慮が必要な高さ	—	—																																																																											
名称		変更前	変更後																																																																											
名称			ラプチャーディスク* (よう素フィルタ出口側)																																																																											
設定破裂圧力	MPa		0.1 リ(3)(iii)b.-⑭ ^b																																																																											
主要寸法	呼び径	—	500A																																																																											
材料	スリット ディスク	—	SUS316L																																																																											
個数		—	1 リ(3)(iii)b.-⑬ ^b																																																																											
取付箇所	系統名	—	格納容器圧力逃がし装置																																																																											
	設置床	—	屋外 T. M. S. L. 12000mm																																																																											
	溢水防護上の 区画番号	—	—																																																																											
	溢水防護上の 配慮が必要な高さ	—	—																																																																											

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八） 該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>[可搬型重大事故等対処設備]</p> <p>リ(3)(iii)b.-⑮熱交換器ユニット(6号及び7号炉共用)</p> <p>リ(3)(iii)b.-⑯(ホ.(4).(v).b.他と兼用)</p>	<p>(1) 代替循環冷却系</p> <p>c. 熱交換器ユニット(6号及び7号炉共用)</p> <p>第5.10-1表 最終ヒートシンクへ熱を輸送するための設備の主要機器仕様に記載する。</p>	<p>【原子炉冷却系統施設】</p> <p>(要目表)</p> <p>8 原子炉補機冷却設備に係る次の事項</p> <p>8.2 代替原子炉補機冷却系</p> <p>(2) 熱交換器の名称、種類、容量、最高使用圧力(管側及び胴側の別に記載すること。), 最高使用温度(管側及び胴側の別に記載すること。), 伝熱面積、主要寸法、材料、個数及び取付箇所(常設及び可搬型の別に記載すること。)</p> <p>・可搬型</p> <p>以下の設備は、7号機設備であり、6号機及び7号機共用(7号機で申請済)である。</p> <p>熱交換器ユニット 代替原子炉補機冷却系熱交換器(7号機設備、6,7号機共用)</p> <p>リ(3)(iii)b.-⑮a</p>	<p>整合性</p> <p>・設計及び工事の計画のリ(3)(iii)b.-⑬a及びリ(3)(iii)b.-⑬bは、設置変更許可申請書(本文(五号))のリ(3)(iii)b.-⑬と同義であり、整合している。</p> <p>・設計及び工事の計画のリ(3)(iii)b.-⑭a及びリ(3)(iii)b.-⑭bは、0.1MPa=100kPaとなり、設置変更許可申請書(本文(五号))のリ(3)(iii)b.-⑭と同義であり、整合している。</p>	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八） 該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考																																																																																																																																																								
		<p>(3) ポンプの名称、種類、容量、揚程又は吐出圧力、最高使用圧力、最高使用温度、主要寸法、材料、個数及び取付箇所並びに原動機の種類、出力、個数及び取付箇所（常設及び可搬型の別に記載すること。）</p> <p>・可搬型</p> <p>a. 熱交換器ユニット 代替原子炉補機冷却水ポンプ（7号機設備、6,7号機共用）</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">名称</th> <th colspan="5">変更前</th> <th colspan="2">変更後</th> </tr> <tr> <th>P27-D2000</th> <th>P27-D3000</th> <th>P27-D4000</th> <th>P27-D1000</th> <th>P27-D5000</th> <th colspan="2">変更なし</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>種類</td> <td colspan="5">うず巻形</td> <td colspan="2"></td> </tr> <tr> <td>容量^{*1}</td> <td colspan="5">325以上^{*2} 350以上^{*3} 340以上^{*4} (300^{*5})</td> <td colspan="2"> <input type="checkbox"/>以上^{*2} <input type="checkbox"/>以上^{*3} <input type="checkbox"/>以上^{*4} <input type="checkbox"/>^{*5} </td> </tr> <tr> <td>揚程^{*1}</td> <td colspan="5">65以上^{*2} 53以上^{*3} 56以上^{*4} (75^{*5})</td> <td colspan="2"> <input type="checkbox"/>以上^{*2} <input type="checkbox"/>以上^{*3} <input type="checkbox"/>以上^{*4} <input type="checkbox"/>^{*5} </td> </tr> <tr> <td>最高使用圧力^{*1}</td> <td colspan="5">MPa</td> <td colspan="2">1.37</td> </tr> <tr> <td>最高使用温度^{*1}</td> <td colspan="5">℃</td> <td colspan="2">70</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">主要寸法</td> <td>吸込内径</td> <td colspan="5">mm</td> <td colspan="2">200^{*3}</td> </tr> <tr> <td>吐出内径</td> <td colspan="5">mm</td> <td colspan="2">150^{*3}</td> </tr> <tr> <td>たて</td> <td colspan="5">mm</td> <td colspan="2">750^{*3}</td> </tr> <tr> <td>横</td> <td colspan="5">mm</td> <td colspan="2">180^{*3}</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">材料</td> <td>ケーシング</td> <td colspan="5">—</td> <td colspan="2">SCS14</td> </tr> <tr> <td>個数</td> <td colspan="5">—</td> <td colspan="2">2^{*9} 2^{*9} 2^{*9} 1^{*10} 1^{*10}</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">取付箇所</th> <th colspan="5">変更前</th> <th colspan="2">変更後</th> </tr> <tr> <th colspan="5">保管場所： 荒浜側高台保管場所 T.M.S.L.約37000mm 及び 大浜側高台保管場所 T.M.S.L.約35000mm 上記2箇所にそれぞれ車両2台ずつ保管するとともに、予備の車両1台を上記2箇所のうちいずれかに保管する。 取付箇所： 【6号機】2台 6号機タービン建屋付近 T.M.S.L.約12000mm 【7号機】2台 7号機タービン建屋付近 T.M.S.L.約12000mm</th> <th colspan="2">変更なし</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>原動機の種類</td> <td colspan="5">誘導電動機</td> <td colspan="2">誘導電動機</td> </tr> <tr> <td>出力</td> <td colspan="5">kW/個</td> <td colspan="2">110</td> </tr> <tr> <td>個数</td> <td colspan="5">—</td> <td colspan="2">2^{*9} 2^{*9} 2^{*9} 1^{*10} 1^{*10}</td> </tr> <tr> <td>取付箇所</td> <td colspan="5">—</td> <td colspan="2">ポンプと同じ ポンプと同じ ポンプと同じ ポンプと同じ ポンプと同じ</td> </tr> </tbody> </table> <p>注記*1：重大事故等時における使用時の値。 *2：「7号機 代替原子炉補機冷却系接続口A系（西）」で使用する場合の値を示す。 *3：「7号機 代替原子炉補機冷却系接続口B系（南）」で使用する場合の値を示す。 *4：「7号機 代替原子炉補機冷却系接続口B系（西）」で使用する場合の値を示す。 *5：公称値を示す。 *6：「6号機 代替原子炉補機冷却系接続口A系（北）」で使用する場合の値を示す。 *7：「6号機 代替原子炉補機冷却系接続口B系（南）」で使用する場合の値を示す。 *8：「6号機 代替原子炉補機冷却系接続口B系（北）」で使用する場合の値を示す。 *9：P27-D2000、P27-D3000、P27-D4000は、車両1台につき2個設置する。 *10：P27-D1000、P27-D5000は、車両1台につき1個設置する。</p>	名称	変更前					変更後		P27-D2000	P27-D3000	P27-D4000	P27-D1000	P27-D5000	変更なし		種類	うず巻形							容量 ^{*1}	325以上 ^{*2} 350以上 ^{*3} 340以上 ^{*4} (300 ^{*5})					<input type="checkbox"/> 以上 ^{*2} <input type="checkbox"/> 以上 ^{*3} <input type="checkbox"/> 以上 ^{*4} <input type="checkbox"/> ^{*5}		揚程 ^{*1}	65以上 ^{*2} 53以上 ^{*3} 56以上 ^{*4} (75 ^{*5})					<input type="checkbox"/> 以上 ^{*2} <input type="checkbox"/> 以上 ^{*3} <input type="checkbox"/> 以上 ^{*4} <input type="checkbox"/> ^{*5}		最高使用圧力 ^{*1}	MPa					1.37		最高使用温度 ^{*1}	℃					70		主要寸法	吸込内径	mm					200 ^{*3}		吐出内径	mm					150 ^{*3}		たて	mm					750 ^{*3}		横	mm					180 ^{*3}		材料	ケーシング	—					SCS14		個数	—					2 ^{*9} 2 ^{*9} 2 ^{*9} 1 ^{*10} 1 ^{*10}		取付箇所	変更前					変更後		保管場所： 荒浜側高台保管場所 T.M.S.L.約37000mm 及び 大浜側高台保管場所 T.M.S.L.約35000mm 上記2箇所にそれぞれ車両2台ずつ保管するとともに、予備の車両1台を上記2箇所のうちいずれかに保管する。 取付箇所： 【6号機】2台 6号機タービン建屋付近 T.M.S.L.約12000mm 【7号機】2台 7号機タービン建屋付近 T.M.S.L.約12000mm					変更なし		原動機の種類	誘導電動機					誘導電動機		出力	kW/個					110		個数	—					2 ^{*9} 2 ^{*9} 2 ^{*9} 1 ^{*10} 1 ^{*10}		取付箇所	—					ポンプと同じ ポンプと同じ ポンプと同じ ポンプと同じ ポンプと同じ			
名称	変更前					変更後																																																																																																																																																						
	P27-D2000	P27-D3000	P27-D4000	P27-D1000	P27-D5000	変更なし																																																																																																																																																						
種類	うず巻形																																																																																																																																																											
容量 ^{*1}	325以上 ^{*2} 350以上 ^{*3} 340以上 ^{*4} (300 ^{*5})					<input type="checkbox"/> 以上 ^{*2} <input type="checkbox"/> 以上 ^{*3} <input type="checkbox"/> 以上 ^{*4} <input type="checkbox"/> ^{*5}																																																																																																																																																						
揚程 ^{*1}	65以上 ^{*2} 53以上 ^{*3} 56以上 ^{*4} (75 ^{*5})					<input type="checkbox"/> 以上 ^{*2} <input type="checkbox"/> 以上 ^{*3} <input type="checkbox"/> 以上 ^{*4} <input type="checkbox"/> ^{*5}																																																																																																																																																						
最高使用圧力 ^{*1}	MPa					1.37																																																																																																																																																						
最高使用温度 ^{*1}	℃					70																																																																																																																																																						
主要寸法	吸込内径	mm					200 ^{*3}																																																																																																																																																					
	吐出内径	mm					150 ^{*3}																																																																																																																																																					
	たて	mm					750 ^{*3}																																																																																																																																																					
	横	mm					180 ^{*3}																																																																																																																																																					
材料	ケーシング	—					SCS14																																																																																																																																																					
	個数	—					2 ^{*9} 2 ^{*9} 2 ^{*9} 1 ^{*10} 1 ^{*10}																																																																																																																																																					
取付箇所	変更前					変更後																																																																																																																																																						
	保管場所： 荒浜側高台保管場所 T.M.S.L.約37000mm 及び 大浜側高台保管場所 T.M.S.L.約35000mm 上記2箇所にそれぞれ車両2台ずつ保管するとともに、予備の車両1台を上記2箇所のうちいずれかに保管する。 取付箇所： 【6号機】2台 6号機タービン建屋付近 T.M.S.L.約12000mm 【7号機】2台 7号機タービン建屋付近 T.M.S.L.約12000mm					変更なし																																																																																																																																																						
原動機の種類	誘導電動機					誘導電動機																																																																																																																																																						
出力	kW/個					110																																																																																																																																																						
個数	—					2 ^{*9} 2 ^{*9} 2 ^{*9} 1 ^{*10} 1 ^{*10}																																																																																																																																																						
取付箇所	—					ポンプと同じ ポンプと同じ ポンプと同じ ポンプと同じ ポンプと同じ																																																																																																																																																						
	<p>整合性</p> <ul style="list-style-type: none"> 設計及び工事の計画の <u>リ(3)(iii)b.-⑮a</u> 及び <u>リ(3)(iii)b.-⑮b</u> は、設置変更許可申請書（本文（五号））の <u>リ(3)(iii)b.-⑮</u> と同義であり、整合している。 「熱交換器ユニット」は、設置変更許可申請書（本文（五号））における <u>リ(3)(iii)b.-⑮</u> を設計及び工事の計画の「原子炉冷却系統施設」のうち「原子炉補機冷却設備」に整理しており、整合している。 																																																																																																																																																											

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八） 該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>大容量送水車（熱交換器ユニット用）（6号及び7号炉共用）</p> <p>リ(3)(iii)b.-⑰（ホ、(4),(v),b.他と兼用）...</p>	<p>d. 大容量送水車（熱交換器ユニット用）（6号及び7号炉共用）</p> <p>第5.10-1表 最終ヒートシンクへ熱を輸送するための設備の主要機器仕様に記載する。</p>	<p>以下の設備は、7号機設備であり、6号機及び7号機共用（7号機で申請済）である。 <u>大容量送水車（熱交換器ユニット用）（7号機設備、6,7号機共用）</u></p>	<p>「大容量送水車（熱交換器ユニット用）」は、設置変更許可申請書（本文（五号））におけるリ(3)(iii)b.-⑰を設計及び工事の計画の「原子炉冷却系統施設」のうち「原子炉補機冷却設備」に整理しており、整合している。</p>	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八） 該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>c. 原子炉格納容器下部の熔融炉心を冷却するための設備</p> <p>炉心の著しい損傷が発生した場合において原子炉格納容器の破損を防止するため、熔融し、原子炉格納容器の下部に落下した炉心を冷却するために必要な重大事故等対処設備 <u>リ(3)(iii)c.-①</u> を設置及び保管する。</p> <p><u>リ(3)(iii)c.-②</u> 原子炉格納容器下部に落下した熔融炉心を冷却することで、熔融炉心・コンクリート相互作用(MCCI)を抑制し、熔融炉心が原子炉格納容器バウンダリに接触することを防止する。</p>	<p>9.4 原子炉格納容器下部の熔融炉心を冷却するための設備</p> <p>9.4.1 概要</p> <p>炉心の著しい損傷が発生した場合において原子炉格納容器の破損を防止するため、熔融し、原子炉格納容器の下部に落下した炉心を冷却するために必要な重大事故等対処設備を設置及び保管する。</p> <p>原子炉格納容器下部に落下した熔融炉心を冷却することで、熔融炉心・コンクリート相互作用(MCCI)を抑制し、熔融炉心が原子炉格納容器バウンダリに接触することを防止する。</p> <p><中略></p>	<p>【原子炉格納施設】 （基本設計方針）</p> <p>第2章 個別項目</p> <p>3. 圧力低減設備その他の安全設備</p> <p>3.2 原子炉格納容器安全設備</p> <p>3.2.5 格納容器下部注水系による原子炉格納容器下部への注水</p> <p>炉心の著しい損傷が発生した場合において原子炉格納容器の破損を防止するため、熔融し、原子炉格納容器下部に落下した炉心を冷却するために必要な重大事故等対処設備 <u>リ(3)(iii)c.-①</u> として、格納容器下部注水系（常設）及び格納容器下部注水系（可搬型）を設ける設計とする。</p> <p><中略></p> <p>(1) 格納容器下部注水系（常設）による原子炉格納容器下部への注水</p> <p><中略></p> <p>コリウムシールドは、熔融炉心が原子炉格納容器下部へと落下した場合において、ドライウェル高電導度廃液サンプル及びドライウェル低電導度廃液サンプルへの熔融炉心の流入を抑制する設計とする。さらに <u>リ(3)(iii)c.-②a</u> 格納容器下部注水系（常設）を使用することにより、ドライウェル高電導度廃液サンプル及びドライウェル低電導度廃液サンプルのコンクリートの侵食を抑制し、熔融炉心が原子炉格納容器バウンダリに接触することを防止できる設計とする。コリウムシールドは、寸法が高さ0.85m、厚さ0.13m、材料がジルコニア (ZrO₂)、個数が1個の設計とする。</p> <p><中略></p> <p>(2) 格納容器下部注水系（可搬型）による原子炉格納容器下部への注水</p> <p><中略></p> <p>コリウムシールドは、熔融炉心が原子炉格納容器下部へと落下した場合において、ドライウェル高電導度廃液サンプル及びドライウェル低電導度廃液サンプルへの熔融炉心の流入を抑制する設計とする。さらに <u>リ(3)(iii)c.-</u></p>	<p>設計及び工事の計画の <u>リ(3)(iii)c.-①</u> は、設置変更許可申請書（本文（五号））の <u>リ(3)(iii)c.-①</u> を具体的に記載しており、整合している。</p> <p>設計及び工事の計画の <u>リ(3)(iii)c.-②a</u> ～ <u>リ(3)(iii)c.-②c</u> は、設置変更許可申請書（本文（五号））の <u>リ(3)(iii)c.-②</u> を具体的に記載しており、整合している。</p>	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八） 該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p><u>リ(3)(iii)c.-③</u>原子炉格納容器下部の熔融炉心を冷却するための設備のうち、炉心の著しい損傷が発生した場合において原子炉格納容器の破損を防止できるよう、<u>原子炉格納容器下部に落下した熔融炉心の冷却を行うための設備として、格納容器下部注水系（常設）及び格納容器下部注水系（可搬型）を設ける。</u></p> <p>また、<u>熔融炉心が原子炉格納容器下部へと落下した場合に、ドライウエル高電導度廃液サンプ及びドライウエル低電導度廃液サンプへの熔融炉心の流入を抑制するための設備として、コリウムシールドを設ける。</u></p> <p>(a) 原子炉格納容器下部に落下した熔融炉心の冷却に用いる設備 (a-1) 格納容器下部注水系（常設）による原子炉格納容器下部への注水</p> <p><u>原子炉格納容器下部に落下した熔融炉心の冷却を行うための重大事故等対処設備として、格納容器下部注水系</u></p>	<p>9.4.2 設計方針</p> <p>原子炉格納容器下部の熔融炉心を冷却するための設備のうち、<u>炉心の著しい損傷が発生した場合において原子炉格納容器の破損を防止できるよう、原子炉格納容器下部に落下した熔融炉心の冷却を行うための設備として、格納容器下部注水系（常設）及び格納容器下部注水系（可搬型）を設ける。</u></p> <p>また、<u>熔融炉心が原子炉格納容器下部へと落下した場合に、ドライウエル高電導度廃液サンプ及びドライウエル低電導度廃液サンプへの熔融炉心の流入を抑制するための設備として、コリウムシールドを設ける。</u></p> <p>(1) 原子炉格納容器下部に落下した熔融炉心の冷却に用いる設備 a. 格納容器下部注水系（常設）による原子炉格納容器下部への注水</p> <p><u>原子炉格納容器下部に落下した熔融炉心の冷却を行うための重大事故等対処設備として、格納容器下部注水系</u></p>	<p><u>②b</u>格納容器下部注水系（可搬型）を使用することにより、<u>ドライウエル高電導度廃液サンプ及びドライウエル低電導度廃液サンプのコンクリートの侵食を抑制し、熔融炉心が原子炉格納容器バウンダリに接触することを防止できる設計とする。</u>コリウムシールドは、寸法が高さ0.85m、厚さ0.13m、材料がジルコニア（ZrO₂）、個数が1個の設計とする。</p> <p><中略></p> <p>3.2.5 格納容器下部注水系による原子炉格納容器下部への注水</p> <p><中略></p> <p>また、<u>リ(3)(iii)c.-②c</u>熔融炉心が原子炉格納容器下部に落下するまでに、<u>原子炉格納容器下部にあらかじめ十分な水位を確保し、落下した熔融炉心の冷却が可能な設計とする。</u></p> <p><中略></p> <p>3.2.5 格納容器下部注水系による原子炉格納容器下部への注水</p> <p><u>炉心の著しい損傷が発生した場合において原子炉格納容器の破損を防止</u><u>リ(3)(iii)c.-③</u>するため、<u>熔融し、原子炉格納容器下部に落下した炉心を冷却するために必要な重大事故等対処設備として、格納容器下部注水系（常設）及び格納容器下部注水系（可搬型）を設ける設計とする。</u></p> <p>また、<u>熔融炉心が原子炉格納容器下部に落下するまでに、原子炉格納容器下部にあらかじめ十分な水位を確保し、落下した熔融炉心の冷却が可能な設計とする。</u></p> <p>なお、<u>熔融炉心が原子炉格納容器下部へと落下した場合に、ドライウエル高電導度廃液サンプ及びドライウエル低電導度廃液サンプへの熔融炉心の流入を抑制するため、コリウムシールドを設ける設計とする。</u></p> <p>(1) 格納容器下部注水系（常設）による原子炉格納容器下部への注水</p> <p><u>原子炉格納容器下部に落下した熔融炉心の冷却を行うための重大事故等対処設備として使用する格納容器</u></p>	<p>設計及び工事の計画の<u>リ(3)(iii)c.-③</u>は、設置変更許可申請書（本文（五号））の<u>リ(3)(iii)c.-③</u>と同義であり、整合している。</p>	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八） 該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p><u>（常設）は、復水移送ポンプにより、復水貯蔵槽の水を復水補給水系等を経由して原子炉格納容器下部へ注水し、溶融炉心が落下するまでに原子炉格納容器下部にあらかじめ十分な水位を確保するとともに、落下した溶融炉心を冷却できる設計とする。</u></p> <p><u>格納容器下部注水系（常設）は、代替所内電気設備を経由した常設代替交流電源設備又は可搬型代替交流電源設備からの給電が可能な設計とする。</u></p> <p><u>また、コリウムシールドは、溶融炉心が原子炉格納容器下部へと落下した場合において、ドライウェル高電導度廃液サンプ及びドライウェル低電導度廃液サンプへの溶融炉心の流入を抑制する設計とする。更に格納容器下部注水系（常設）を使用することにより、ドライウェル高電導度廃液サンプ及びドライウェル低電導度廃液サンプのコンクリートの侵食を抑制し、溶融炉心が原子炉格納容器バウンダリに接触することを防止できる設計とする。</u></p> <p>(a-2) 格納容器下部注水系（可搬型）による原子炉格納容器下部への注水</p> <p><u>原子炉格納容器下部に落下した溶融炉心の冷却を行うための重大事故等対処設備として、格納容器下部注水系（可搬型）は、可搬型代替注水ポンプ（A-2級）により、代替淡水源の水を復水補給水系を経由して原子炉格納容器下部へ注水し、溶融炉心が落下するまでに原子炉格納容器下部にあらかじめ十分な水位を確保するとともに、落下した溶融炉心を冷却できる設計とする。</u></p>	<p>（常設）を使用する。</p> <p><u>格納容器下部注水系（常設）は、復水移送ポンプ、配管・弁類、計測制御装置等で構成し、復水移送ポンプにより、復水貯蔵槽の水を復水補給水系等を経由して原子炉格納容器下部へ注水し、溶融炉心が落下するまでに原子炉格納容器下部にあらかじめ十分な水位を確保するとともに、落下した溶融炉心を冷却できる設計とする。</u></p> <p><u>格納容器下部注水系（常設）は、代替所内電気設備を経由した常設代替交流電源設備又は可搬型代替交流電源設備からの給電が可能な設計とする。</u></p> <p><u>また、コリウムシールドは、溶融炉心が原子炉格納容器下部へと落下した場合において、ドライウェル高電導度廃液サンプ及びドライウェル低電導度廃液サンプへの溶融炉心の流入を抑制する設計とする。更に格納容器下部注水系（常設）を使用することにより、ドライウェル高電導度廃液サンプ及びドライウェル低電導度廃液サンプのコンクリートの侵食を抑制し、溶融炉心が原子炉格納容器バウンダリに接触することを防止できる設計とする。</u></p> <p><中略></p> <p>b. 格納容器下部注水系（可搬型）による原子炉格納容器下部への注水</p> <p><u>原子炉格納容器下部に落下した溶融炉心の冷却を行うための重大事故等対処設備として、格納容器下部注水系（可搬型）を使用する。</u></p> <p><u>格納容器下部注水系（可搬型）は、可搬型代替注水ポンプ（A-2級）、配管・ホース・弁類、計測制御装置等で構成し、可搬型代替注水ポンプ（A-2級）により、代替淡水源の水を復水補給水系を経由して原子炉格納容器下部</u></p>	<p><u>下部注水系（常設）は、復水移送ポンプにより、復水貯蔵槽の水を復水補給水系等を経由して原子炉格納容器下部へ注水し、溶融炉心が落下するまでに原子炉格納容器下部にあらかじめ十分な水位を確保するとともに、落下した溶融炉心を冷却できる設計とする。</u></p> <p><u>格納容器下部注水系（常設）は、代替所内電気設備を経由した常設代替交流電源設備又は可搬型代替交流電源設備からの給電が可能な設計とする。</u></p> <p>格納容器下部注水系（常設）の流路として、設計基準対象施設である原子炉格納容器及び配管貫通部を重大事故等対処設備として使用することから、流路に係る機能について重大事故等対処設備としての設計を行う。</p> <p><u>コリウムシールドは、溶融炉心が原子炉格納容器下部へと落下した場合において、ドライウェル高電導度廃液サンプ及びドライウェル低電導度廃液サンプへの溶融炉心の流入を抑制する設計とする。さらに格納容器下部注水系（常設）を使用することにより、ドライウェル高電導度廃液サンプ及びドライウェル低電導度廃液サンプのコンクリートの侵食を抑制し、溶融炉心が原子炉格納容器バウンダリに接触することを防止できる設計とする。コリウムシールドは、寸法が高さ 0.85m、厚さ 0.13m、材料がジルコニア（ZrO₂）、個数が1個の設計とする。</u></p> <p>原子炉格納容器安全設備のうち、復水貯蔵槽を水源として原子炉格納容器冷却のために運転するポンプは、復水貯蔵槽の圧力及び温度により、想定される最も小さい有効吸込水頭においても、正常に機能する能力を有する設計とする。</p> <p>(2) 格納容器下部注水系（可搬型）による原子炉格納容器下部への注水</p> <p><u>原子炉格納容器下部に落下した溶融炉心の冷却を行うための重大事故等対処設備として使用する格納容器下部注水系（可搬型）は、可搬型代替注水ポンプ（A-2級）により、代替淡水源の水を復水補給水系を経由して原子炉格納容器下部へ注水し、溶融炉心が落下するまでに原子炉格納容器下部にあらかじめ十分な水位を確保するとともに、落下した溶融炉心を冷却できる設計とす</u></p>		

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八） 該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p><u>格納容器下部注水系（可搬型）は、リ(3)(iii)c.(a)(a-2)-①代替淡水源が枯渇した場合において、重大事故等の収束に必要な水の供給設備である大容量送水車（海水取水用）により海を利用できる設計とする。</u></p> <p><u>格納容器下部注水系（可搬型）は、代替所内電気設備を経由した常設代替交流電源設備又は可搬型代替交流電源設備からの給電が可能な設計とする。また、可搬型代替注水ポンプ（A-2級）は、ディーゼルエンジンにより駆動できる設計とする。</u></p> <p><u>また、コリウムシールドは、溶融炉心が原子炉格納容器下部へと落下した場合において、ドライウェル高電導度廃液サンプ及びドライウェル低電導度廃液サンプへの溶融炉心の流入を抑制する設計とする。更に格納容器下部注水系（可搬型）を使用することにより、ドライウェル高電導度廃液サンプ及びドライウェル低電導度廃液サンプのコンクリートの侵食を抑制し、溶融炉心が原子炉格納容器バウンダリに接触することを防止できる設計とする。</u></p>	<p><u>へ注水し、溶融炉心が落下するまでに原子炉格納容器下部にあらかじめ十分な水位を確保するとともに、落下した溶融炉心を冷却できる設計とする。</u></p> <p><u>格納容器下部注水系（可搬型）は、代替淡水源が枯渇した場合において、重大事故等の収束に必要な水の供給設備である大容量送水車（海水取水用）により海を利用できる設計とする。</u></p> <p><中略></p> <p><u>格納容器下部注水系（可搬型）は、代替所内電気設備を経由した常設代替交流電源設備又は可搬型代替交流電源設備からの給電が可能な設計とする。また、可搬型代替注水ポンプ（A-2級）は、ディーゼルエンジンにより駆動できる設計とする。燃料は、燃料補給設備である軽油タンク及びタンクローリ（4kL）により補給できる設計とする。</u></p> <p><u>また、コリウムシールドは、溶融炉心が原子炉格納容器下部へと落下した場合において、ドライウェル高電導度廃液サンプ及びドライウェル低電導度廃液サンプへの溶融炉心の流入を抑制する設計とする。更に格納容器下部注水系（可搬型）を使用することにより、ドライウェル高電導度廃液サンプ及びドライウェル低電導度廃液サンプのコンクリートの侵食を抑制し、溶融炉心が原子炉格納容器バウンダリに接触することを防止できる設計とする。</u></p> <p><中略></p>	<p><u>る。</u></p> <p><u>格納容器下部注水系（可搬型）は、代替所内電気設備を経由した常設代替交流電源設備又は可搬型代替交流電源設備からの給電が可能な設計とする。また、可搬型代替注水ポンプ（A-2級）は、ディーゼルエンジンにより駆動できる設計とする。</u></p> <p><u>格納容器下部注水系（可搬型）の流路として、設計基準対象施設である原子炉格納容器及び配管貫通部を重大事故等対処設備として使用することから、流路に係る機能について重大事故等対処設備としての設計を行う。</u></p> <p><u>コリウムシールドは、溶融炉心が原子炉格納容器下部へと落下した場合において、ドライウェル高電導度廃液サンプ及びドライウェル低電導度廃液サンプへの溶融炉心の流入を抑制する設計とする。さらに格納容器下部注水系（可搬型）を使用することにより、ドライウェル高電導度廃液サンプ及びドライウェル低電導度廃液サンプのコンクリートの侵食を抑制し、溶融炉心が原子炉格納容器バウンダリに接触することを防止できる設計とする。コリウムシールドは、寸法が高さ0.85m、厚さ0.13m、材料がジルコニア（ZrO₂）、個数が1個の設計とする。</u></p> <p><u>原子炉格納容器安全設備のうち、淡水貯水池、防火水槽、海を水源として原子炉格納容器冷却のために運転するポンプは、淡水貯水池、防火水槽、海の圧力及び温度により、想定される最も小さい有効吸込水頭においても、正常に機能する能力を有する設計とする。</u></p>	<p>設計及び工事の計画の<u>リ(3)(iii)c.(a)(a-2)-①a</u>及び<u>リ(3)(iii)c.(a)(a-2)-①b</u>は、設置変更許可申請書（本文（五号））の<u>リ(3)(iii)c.(a)(a-2)-①</u>と同義であり、整合している。</p>	